The pLATEX $2_{\mathcal{E}}$ Sources

Ken Nakano & Japanese $T_{\!E\!}X$ Development Community

 $2021\text{-}06\text{-}01 \text{ Patch level } 2 \\ \text{(last updated: } 2021/06/27)$

Contents

a	plvers.dtx	1
1	$\mathrm{pIPT}_{\mathrm{E}}\mathrm{X}\ 2_{arepsilon}$ のバージョンの設定	1
2	起動時に実行するコード $2.1 \text{IAT}_{EX} \ 2_{\varepsilon} \ \text{起動時の実行コードの取得} \ $	2 2 2 3
3	latexrelease パッケージへの対応	3
	plexpl3.dtx ⊐−ド	6
	pT _E X 系列の条件文	7
c	plfonts.dtx	8
6	概要	8
	6.1 DOCSTRIP プログラムのためのオプション	8
	6.2 拡張コマンド	9

7	コー	ド		10
	7.1	準備		10
		7.1.1	和文フォント属性	10
		7.1.2	長さ変数	11
		7.1.3	一時コマンド	12
		7.1.4	フォントリスト	12
		7.1.5	支柱	14
	7.2	NFSS:	2 の拡張コマンド	16
		7.2.1	エンコードの宣言	17
		7.2.2	ファミリの宣言	21
		7.2.3	数式用フォント	30
		7.2.4	従属書体の宣言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
		7.2.5	フォントの選択	34
		7.2.6	エンコードの指定	43
		7.2.7	ファミリの指定	45
		7.2.8	シリーズの指定(新 NFSS 対応)	47
		7.2.9	シェイプの指定(新 NFSS 対応)	52
		7.2.10	書体の切り替え(新 NFSS 対応)	58
	7.3	強調書	青体	73
	7.4	下線マ	マクロ	74
	7.5	合成文	文字	75
	7.6	イタリ	リック補正と \xkanjiskip	82
	7.7	デフォ	+ルト設定ファイルの読み込み	84
8	デフ	オルト討	殳定ファイル	84
	8.1	テキス	くトフォント	85
	8.2	プリロ	1ードフォント	86
	8.3	組版バ	ペラメータ	87
9	フォ	ント定義	遠ファイル	87
\mathbf{d}	plo	$\operatorname{core.d}$	$\mathbf{t}\mathbf{x}$	90
10	概要			90

11	コード		90
	11.1	プリアンブルコマンド	90
	11.2	直前の JFM 由来スペースの削除【コミュニティ版独自】	91
	11.3	改ページ	92
	11.4	改行	93
	11.5	オブジェクトの出力順序	96
	11.6	トンボ	103
	11.7	出力ルーチン	109
	11.8	脚注マクロ	117
	11.9	相互参照	122
		疑似タイプ入力	123
	11.11	tabbing 環境	125
			125
		時分を示すカウンタ	
	11.14	tabular 環境	126
		年以降の新しい pT _E X 対応 _E X での FAM256 パッチの利用	130 133
14	IAT _E X	$X \ 2_arepsilon$ と $\mathrm{pIPT}_\mathrm{E} \! X \ 2_arepsilon$ の更新タイミングずれ対策	135
\mathbf{e}	plex	xt.dtx	136
15	概要		136
16	組方向	ョ オプションについて	136
17	コード		137
	17.1	表組環境	137
	17.2	フロートとキャプションの出力位置	142
	17.3	段落ボックス環境	147
	17.4	作図環境	153
	17.5	連数字/漢数字/傍点/下線	155
	17.6	参照番号	157
f	pl20	$09.\mathrm{dtx}$	159

18	B DOCSTRIP 用モジュール 159		
19	2.09 7	互換マクロ	159
20	スタイ	゚ルファイル	161
g	kins	soku.dtx	163
2 1	禁則		163
	21.1	半角文字に対する禁則	163
	21.2	全角文字に対する禁則	164
22	文字間	う のスペース	165
	22.1	ある英字と前後の漢字の間の制御	165
	22.2	ある漢字と前後の英字の間の制御	168
h	jcla	$\operatorname{sses.dtx}$	170
23	オプシ	/ ョンスイッチ	170
24	オプシ	ョンの宣言	171
24		/ョンの宣言 用紙オプション	
24			
24	24.1 24.2	用紙オプション	172
24	24.1 24.2	用紙オプション サイズオプション	172 172
24	24.1 24.2 24.3	用紙オプション	172 172 173
24	24.1 24.2 24.3 24.4 24.5	用紙オプション	172 172 173 173
24	24.1 24.2 24.3 24.4 24.5	用紙オプション サイズオプション 横置きオプション	172 172 173 173 173
24	24.1 24.2 24.3 24.4 24.5 24.6 24.7	用紙オプション サイズオプション 横置きオプション ・ トンボオプション ・ 面付けオプション ・ 組方向オプション ・	172 172 173 173 173 174 174
24	24.1 24.2 24.3 24.4 24.5 24.6 24.7 24.8	用紙オプション サイズオプション 横置きオプション トンボオプション 面付けオプション 組方向オプション 両面、片面オプション	172 172 173 173 173 174 174 174
24	24.1 24.2 24.3 24.4 24.5 24.6 24.7 24.8 24.9	用紙オプション サイズオプション 横置きオプション *** トンボオプション *** 面付けオプション *** 組方向オプション *** 両面、片面オプション *** 二段組オプション ***	172 172 173 173 173 174 174 174 174
24	24.1 24.2 24.3 24.4 24.5 24.6 24.7 24.8 24.9 24.10	用紙オプション サイズオプション 横置きオプション トンボオプション 面付けオプション 組方向オプション 両面、片面オプション 二段組オプション 表題ページオプション	172 172 173 173 173 174 174 174 174
24	24.1 24.2 24.3 24.4 24.5 24.6 24.7 24.8 24.9 24.10 24.11 24.12	用紙オプション サイズオプション 横置きオプション トンボオプション 面付けオプション 組方向オプション 一両面、片面オプション 二段組オプション 表題ページオプション 右左起こしオプション 参考文献のオプション	172 172 173 173 173 174 174 174 174 174 175
24	24.1 24.2 24.3 24.4 24.5 24.6 24.7 24.8 24.9 24.10 24.11 24.12	用紙オプション サイズオプション 横置きオプション トンボオプション 面付けオプション 組方向オプション 一面、片面オプション 二段組オプション 表題ページオプション 右左起こしオプション	172 172 173 173 173 174 174 174 174 174 175
24	24.1 24.2 24.3 24.4 24.5 24.6 24.7 24.8 24.9 24.10 24.11 24.12 24.13	用紙オプション サイズオプション 横置きオプション トンボオプション 面付けオプション 組方向オプション 一両面、片面オプション 二段組オプション 表題ページオプション 右左起こしオプション 参考文献のオプション	172 172 173 173 173 174 174 174 174 174 175
24	24.1 24.2 24.3 24.4 24.5 24.6 24.7 24.8 24.9 24.10 24.11 24.12 24.13 24.14	用紙オプション サイズオプション 横置きオプション トンボオプション 面付けオプション 組方向オプション 両面、片面オプション 二段組オプション 表題ページオプション 右左起こしオプション 数式のオプション 参考文献のオプション 日本語ファミリ宣言の抑制、和欧文両対応の数式文字	172 172 173 173 173 174 174 174 174 174 175 175

26 レイアウト	180
26.1 用紙サイズの決定	180
26.2 段落の形	181
26.3 ページレイアウト	181
26.3.1 縦方向のスペース	181
26.3.2 本文領域	182
26.3.3 マージン	188
26.4 脚注	191
26.5 フロート	192
26.5.1 フロートパラメータ	192
26.5.2 フロートオブジェクトの上限値	194
27 みゃージ (日本語 エン 問終コミューニッドのよ)	105
27 改ページ(日本語 $T_{ m E}$ X 開発コミュニティ版のみ)	195
28 ページスタイル	196
28.1 マークについて	197
28.2 plain ページスタイル	197
28.3 jpl@in ページスタイル	197
28.4 headnombre ページスタイル	198
28.5 footnombre ページスタイル	198
28.6 headings スタイル	198
28.7 bothstyle スタイル	199
28.8 myheading スタイル	201
29 文書コマンド	201
29.1 表題	
29.2 概要	_
29.3 章見出し	
29.3.1 マークコマンド	
29.3.2 カウンタの定義	
29.3.3 前付け、本文、後付け	
29.3.4 ボックスの組み立て	
29.3.5 part レベル	
29.3.6 chapter レベル	
29.3.7 下位レベルの見出し	
29.3.8 付録	216
29.4 リスト環境	216

		29.4.1	enumerate 環境	 	219
		29.4.2	itemize 環境	 	220
		29.4.3	description 環境	 	221
		29.4.4	verse 環境	 	221
		29.4.5	quotation 環境	 	222
		29.4.6	quote 環境	 	222
	29.5	フロー	- ト	 	222
		29.5.1	figure 環境	 	222
		29.5.2	table 環境	 	223
	29.6	キャフ	プション	 	224
	29.7	コマン	ノドパラメータの設定	 	225
		29.7.1	array と tabular 環境	 	225
		29.7.2	tabbing 環境	 	225
		29.7.3	minipage 環境	 	225
		29.7.4	framebox 環境	 	225
		29.7.5	equation と eqnarray 環境	 	225
		_			
30	フォ	ントコマ	マンド		226
31	相互	参照			227
	31.1	目次		 	227
		31.1.1	本文目次	 	230
		31.1.2	図目次と表目次	 	232
	31.2	参考文	文献	 	233
	31.3	索引		 	234
	31.4	脚注		 	234
32	今日	の日付			235
33	初期	設定			236
	•14_	. 1 1	L		000
i	jitx	doc.d	ltx		238
変	更履	歴			241
李	引				257
水	JI				⊿ ∪ (

File a

plvers.dtx

$1 \quad \mathrm{p} ot\hspace{-0.1cm}P \mathrm{T}_{\mathrm{E}}\!\mathrm{X}\ 2_{arepsilon}$ のバージョンの設定

```
現在の pIATeX 2_{\varepsilon} がベースとした IATeX 2_{\varepsilon} のバージョンは、下記のとおりです。
                                                                 1 (*2ekernel)
                                                                2 %\def\fmtname{LaTeX2e}
                                                                3 %\edef\fmtversion
                                                                4 (/2ekernel)
                                                                5 (latexrelease)\edef\latexreleaseversion
                                                                6 \(\rangle platexrelease \rangle \rangle def \rangle platexrelease \rangle response \rangle platexrelease \rangle response \
                                                                 7 (*2ekernel | latexrelease | platexrelease)
                                                                                  {2021-06-01}
                                                                9 (/2ekernel | latexrelease | platexrelease)
                                                                    また、現在の pIAT_{	extsf{FX}}\,2_{arepsilon} は最低でも IAT_{	extsf{FX}}\,2_{arepsilon}\,2017-04-15 以降(バージョン番号す
                                                           なわち日付が YYYY/MM/DD 形式から YYYY-MM-DD 形式に変更された版)を前提とし
                                                           ます。なお、\mathbb{P}T_{F}X 2_{\varepsilon} 2017/01/01 以降は e-\mathbb{T}FX 必須になっています。
                                                              10 (*plcore)
                                                              11 \ifx\fmtversion\@undefined
                                                              12
                                                                                      \errhelp{Please reinstall LaTeX.}%
                                                                                       \errmessage{This cannot happen!^^JYour file 'latex.ltx'
                                                             13
                                                             14
                                                                                                                                     might be broken}\@@end
                                                             15 \else
                                                                              \verb|\colored| \colored| \c
                                                             16
                                                                                      \errhelp{Please update your TeX installation; if not available,
                                                             17
                                                                                                                          obtain it^^Jmanually from CTAN
                                                             18
                                                                                                                           (https://ctan.org/pkg/latex-base) or from^^JGitHub
                                                              19
                                                                                                                          (https://github.com/latex3/latex2e).}%
                                                             20
                                                                                      \errmessage{This version of pLaTeX2e requires LaTeX2e 2017-04-15
                                                                                                                                      or newer!^^JObtain a newer version of 'latex',
                                                             23
                                                                                                                                     otherwise pLaTeX2e setup will^^Jnever succeed}\@@end
                                                             24 \fi
                                                             25 \fi
                                                             26 (/plcore)
               \pfmtname pIPT_FX 2_{\varepsilon} のフォーマットファイル名とバージョンを定義します。
   \pfmtversion
                                                             27 (*plcore)
                                                             28 \def\pfmtname{pLaTeX2e}
\ppatch@level
                                                             29 \def\pfmtversion
                                                             30 (/plcore)
                                                             31 (platexrelease)\edef\platexreleaseversion
                                                             32 (*plcore | platexrelease)
                                                                                   {2021-06-01}
                                                             34 (/plcore | platexrelease)
```

```
35 \ensuremath{\langle *plcore \rangle}\xspace 36 \ensuremath{\langle def \rangle ppatch@level{2}}\xspace 37 \ensuremath{\langle /plcore \rangle}\xspace
```

コミュニティ版 pIFT_EX 2ε ではパッチファイルを使用しないので、パッチファイルをロードするコードは削除しました。

2 起動時に実行するコード

2.1 IAT_FX 2_{ε} 起動時の実行コードの取得

このファイルの直前で \LaTeX 2_{ε} の latex.ltx が読み込まれているはずなので、その起動時の実行コード(\everyjob トークンの内容)を保存します。

 $ext{LT} ext{EX} ext{2} ext{$arepsilon$} ext{2018-04-01 patch level 1 までは、\everyjob が$

\typeout{LaTeX2e version}\typeout{Babel version}

だけでしたが、patch level 2 以降ではいくつかのコードが \everyjob で遅延実行されるようになっています。それらのコードを抽出するため、最初と最後に区切りトークン(それぞれ \platexNILa と \platexNILb)を付けておきます。

```
38 \end{array} $$ \end{array} $$\end{array} $$ \end{array} $$ \end{array} $$\en
```

2.2 $\mathrm{pIPT}_\mathrm{F}\mathrm{X}~2_arepsilon$ 起動時に実行するコードの構築

\everyjob $ext{IMT}_{FX} 2_{\varepsilon}$ 起動時の実行コードを元に、 $ext{pMT}_{FX} 2_{\varepsilon}$ 用の調整を加えます。

42 \begingroup

pIATeX 2_{ε} のバージョン表示を作ります。

- 43 \ifnum\ppatch@level=0
- 44 \toks2={\pfmtname\space<\pfmtversion>\space}%
- 45 \else\ifnum\ppatch@level>0
- 46 \toks2={\pfmtname\space<\pfmtversion>+\ppatch@level\space}%
- 47 \else
- 48 \toks2={\pfmtname\space<\pfmtversion>-pre\ppatch@level\space}%
- 49 \fi\fi

\everyjob の内容をパースして

- LATEX 2_{ε} のバージョン表示の中身(\typeout{}の引数)を #2
- バージョン表示の前に実行されるコードがあれば#1
- バージョン表示の後に残っているコードがあれば #3

File a: plvers.dtx Date: 2021/06/27 Version v1.1y

- 50 \edef\platexNILa#1\typeout#2#3\platexNILb{%
- #1\noexpand\typeout{\the\toks2 (based on #2)}#3}
- 52 \global\everyjob\expandafter\expandafter\expandafter{\platexBANNER}%

不要になったマクロ定義は削除しておきます。

- 53 \endgroup
- $54 \left| \text{DatexBANNER} \right|$
- 55 (/plcore)

2.3 フックシステムが利用可能かどうか

\pltx@newhook@avail

フォーマット作成時(latex.ltx の読込後すぐ)と、platexrelease パッケージ内 (latexrelease パッケージ読込後すぐ) でそれぞれ判定する必要があります。

- $56 \langle *plcore \mid plhookrelease \rangle$
- 57 \chardef\pltx@newhook@avail=\z@
- 59 (/plcore | plhookrelease)

3 latexrelease パッケージへの対応

最後に、latexrelease パッケージへの対応です。

\plIncludeInRelease

platexrelease パッケージでは \plIncludeInRelease...\plEndIncludeInRelease のブロックを使います。

- 60 (*plcore | platexrelease)
- 61 \newif\if@plincludeinrelease
- 62 \@plincludeinreleasefalse
- 63 \def\plIncludeInRelease#1{%
- 64 \if@plincludeinrelease
- 65 \PackageError{platexrelease}
- $\begin{tabular}{ll} \bf 66 & \bf \{mis-matched \t string\plIncludeInRelease\}\% \end{tabular}$
- 67 {There is an \string\plEndIncludeRelease\space missing}\%
- 68 \Oplincludeinreleasefalse
- 69 \fi
- 70 \kernel@ifnextchar[%
- 71 {\@plIncludeInRelease{#1}}
- 72 {\@plIncludeInRelease{#1}[#1]}}
- 73 \def\@plIncludeInRelease#1[#2]{\@plIncludeInRele@se{#2}}
- 74 \def\@plIncludeInRele@se#1#2#3{%
- 75 \toks@{[#1] #3}%
- 76 \expandafter\ifx\csname\string#2+\@currname+plIIR\endcsname\relax

File a: plvers.dtx Date: 2021/06/27 Version v1.1y

```
\ifnum\expandafter\@parse@version#1//00\@nil
  77
                                      >\expandafter\@parse@version\pfmtversion//00\@nil
  78
                           \GenericInfo{}{Skipping: \the\toks@}%
  79
                        \expandafter\expandafter\expandafter\@gobble@plIncludeInRelease
  80
  81
                           \label{lem:condition} $$\operatorname{Info{}{Applying: <caption> } \theta}% $$ \operatorname{Constant}(Applying: \the\toks@}% $$ $$ \end{the}% $$ $$ $$ \end{the}% $$ $$ \end{the}% $$ \end{the}% $$ $$ \end{the}% $$ \end{
  82
  83
                           \@plincludeinreleasetrue
                           \expandafter\let\csname\string#2+\@currname+plIIR\endcsname\@empty
  84
  85
  86
               \else
                     \GenericInfo{}{Already applied: \the\toks@}%
  87
                     \expandafter\@gobble@plIncludeInRelease
  88
  89
  90 }
  91 \def\plEndIncludeInRelease{%
              \if@plincludeinrelease
                     \@plincludeinreleasefalse
  93
              \else
  94
                     \PackageError{platexrelease}
  95
                           {mis-matched \string\plEndIncludeInRelease}{}%
  96
  97
  98 \long\def\@gobble@plIncludeInRelease#1\plEndIncludeInRelease{%
               \@plincludeinreleasefalse
               \@check@plIncludeInRelease#1\plIncludeInRelease
100
                     \@check@plIncludeInRelease\@end@check@plIncludeInRelease}
101
102 \long\def\@check@plIncludeInRelease#1\plIncludeInRelease
               #2#3\@end@check@plIncludeInRelease{%
               \ifx\@check@plIncludeInRelease#2\else
105
                     \PackageError{platexrelease}
                           {skipped \string\plIncludeInRelease\space for tag \string#2}{}%
106
              \fi}
107
108 \langle /plcore \mid platexrelease \rangle
```

IATeX 2_ε が提供する latexrelease パッケージが読み込まれていて、かつ pIATeX 2_ε が提供する platexrelease パッケージが読み込まれていない場合は、巻き戻し機能に よって pIATeX 2_ε のコマンドが IATeX 2_ε のコマンドで上書きされ、動作が壊れてしまいますので、警告を出します。

当初は\AtBeginDocumentを使って\@begindocumenthookの末尾に警告文を入れていましたが、 $\mbox{Lattentering}$ 2 $_{\epsilon}$ 2020-02-02 以降に付属の latexrelease パッケージで巻き戻すとフックの実行より早い段階(具体的には\process@table 内の\kanjiprocess@table 実行中)で「\series@maybe@drop@one@m が未定義」というエラーが出てしまうので、\process@table の先頭に警告文を入れます。万が一\process@table も巻き戻し対象とされてしまった場合のため、\@begindocumenthookの先頭にも入れておきます。

 \LaTeX 2ε 2020-10-01 以降では \process@table より早く実行されるフックが用意されたので、これを利用します。

```
109 \langle *plfinal \rangle
110 \ifnum\pltx@newhook@avail=\z@
111 % for LaTeX2e 2020-02-02 PL5 or older
112 \expandafter\def\expandafter\process@table\expandafter{%
113 \expandafter\p@warn@latexrelease\process@table}
114 \begingroup
115 \toks@\expandafter{\expandafter\p@warn@latexrelease\@begindocumenthook}
116 \xdef\@begindocumenthook{\the\toks@}
117 \endgroup
118 \else
119 % for LaTeX2e 2020-10-01 or later
120 \AddToHook{begindocument/before}{\p@warn@latexrelease}
121 \fi
122 %
123 \def\p@warn@latexrelease{%
    \ifx\latexreleaseversion\@undefined\else
125
       \ifx\platexreleaseversion\@undefined
126
         \@latex@warning@no@line{%
           Package latexrelease is loaded.\MessageBreak
127
           Some patches in pLaTeX2e core may be overwritten.
\MessageBreak
128
           Consider using platexrelease.\MessageBreak
129
           See platex.pdf for detail}%
130
131
       \fi
     \fi
132
     \let\p@warn@latexrelease\relax
133
134 }
135 (/plfinal)
```

File b

plexpl3.dtx

IFTEX3 (expl3) で用意されていない「pTEX 系列の独自機能」を expl3 の文法で使えるようにするコードです。pIFTEX 2 ε 2020-10-01 で新設しました。

4 コード

パッケージとして宣言します。これで、pIATEX 2ε 2020-04-12 以前でも plexpl3.sty と plexpl3.1tx だけ入手すれば同等の機能が使えます。

```
1 (*package)
    2 \NeedsTeXFormat{pLaTeX2e}
    3 \RequirePackage{expl3}
    4 \ProvidesExplPackage{plexpl3}{2020-09-28}{1.0}
    5 {pTeX/upTeX-specific additions to expl3}
    6 (/package)
     IATeX 2_{\epsilon} 2020-02-02 以降では expl3 が標準でフォーマットに読み込まれていま
す。この場合は plexpl3 の機能をフォーマットに取り込みます。
    7 ⟨plcore⟩\ifdefined\ExplSyntaxOn %--- expl3 available BEGIN
    8 (plcore)\ExplSyntaxOn
    9 (*plcore | package)
  10 \input plexpl3.ltx
  11 (/plcore | package)
  12 \(\rangle plcore \)\ExplSyntaxOff
                                                                                                %--- expl3 available END
  13 (plcore)\fi
     platexrelease の roll-forward にも登録します。
  14 \langle platexrelease \rangle \plincludeInRelease {2020/10/01}%
  15 (platexrelease)
                                                                                                  {plexpl3}{Pre-load plexpl3}%
  16 \(\rangle place \) \(\rangle 
  17 \( platexrelease \)\\\plEndIncludeInRelease
  18 \langle platexrelease \rangle \plincludeInRelease \{0000/00/00\}\%
  19 (platexrelease)
                                                                                                  {plexpl3}{Not loading plexpl3}%
  20 \langle platexrelease \rangle \% Nothing to do
  21 \langle platexrelease \rangle \setminus plEndIncludeInRelease
     以下のコードは plexpl3.ltx に書き出します。フォーマットとパッケージからの
重複読み込みは禁止します。
  22 (*code)
  23 \cs_if_exist:NT \__platex_expl_loaded:
  25
                    \GenericInfo{}
                          {Skipping: plexpl3 code already part of the format}%
  26
  27
                    \endinput
```

```
28 }
29 \cs_new:Npn \__platex_expl_loaded: { }
```

5 pTeX系列の条件文

pT_FX 系列の条件文を expl3 の文法にします。

```
30 %% additions to 13box.dtx: writing directions (pTeX/upTeX-specific)
31 \cs_set_eq:NN \platex_direction_yoko: \tex_yoko:D
32 \cs_set_eq:NN \platex_direction_tate: \tex_tate:D
33 \cs_set_eq:NN \platex_direction_dtou: \tex_dtou:D
34 %
35 \prg_new_conditional:Npnn \platex_if_direction_yoko: { p, T, F, TF }
36 { \tex_ifydir:D \prg_return_true: \else: \prg_return_false: \fi: }
37 \prg_new_conditional:Npnn \platex_if_direction_tate: { p, T, F, TF }
38 { \tex_iftdir:D \prg_return_true: \else: \prg_return_false: \fi: }
39 \prg_new_conditional:Npnn \platex_if_direction_dtou: { p, T, F, TF }
40 { \tex_ifddir:D \prg_return_true: \else: \prg_return_false: \fi: }
41 %
42 \prg_new_conditional:Npnn \platex_if_box_yoko:N #1 { p, T, F, TF }
43 { \tex_ifybox:D #1 \prg_return_true: \else: \prg_return_false: \fi: }
44 \prg_new_conditional:Npnn \platex_if_box_tate:N #1 { p, T, F, TF }
45 { \tex_iftbox:D #1 \prg_return_true: \else: \prg_return_false: \fi: }
46 \prg_new_conditional:Npnn \platex_if_box_dtou:N #1 { p, T, F, TF }
47 { \tex_ifdbox:D #1 \prg_return_true: \else: \prg_return_false: \fi: }
 以上です。
48 \langle /code \rangle
```

File c

plfonts.dtx

6 概要

ここでは、和文書体を NFSS2 のインターフェイスで選択するためのコマンドやマクロ について説明をしています。また、フォント定義ファイルや初期設定ファイルなどの 説明もしています。新しいフォント選択コマンドの使い方については、fntguide.tex や usrguide.tex を参照してください。

第6節 この節です。このファイルの概要と DOCSTRIP プログラムのためのオプションを示しています。

第7節 実際のコードの部分です。

第8節 プリロードフォントやエラーフォントなどの初期設定について説明をしています。

第9節 フォント定義ファイルについて説明をしています。

6.1 DOCSTRIP プログラムのためのオプション

DOCSTRIP プログラムのためのオプションを次に示します。

オプション	意味
plcore	plcore.ltx の断片を生成します。
trace	ptrace.sty を生成します。
JY1mc	横組用、明朝体のフォント定義ファイルを生成します。
JY1gt	横組用、ゴシック体のフォント定義ファイルを生成します。
$\rm JT1mc$	縦組用、明朝体のフォント定義ファイルを生成します。
JT1gt	縦組用、ゴシック体のフォント定義ファイルを生成します。
pldefs	pldefs.ltx を生成します。次の4つのオプションを付加
	することで、プリロードするフォントを選択することがで
	きます。デフォルトは 10pt です。
xpt	10pt プリロード
xipt	11pt プリロード
xiipt	12pt プリロード
ori	plfonts.tex に似たプリロード

6.2 拡張コマンド

 $pIAT_EX 2_{\varepsilon}$ は、以下の新しいコマンドを定義します。

コマンド	意味
\Declare{Yoko Tate}KanjiEncoding	和文エンコードの宣言
\DeclareKanjiEncodingDefaults	デフォルトの和文エンコードの宣言
\KanjiEncodingPair	和文エンコードのセット化
\DeclareKanjiFamily	ファミリの宣言
\DeclareKanjiSubstitution	和文の代用フォントの宣言
\DeclareErrorKanjiFont	和文のエラーフォントの宣言
\reDeclareMathAlphabet	和欧文を同時に切り替えるコマンド宣言
\{Declare Set}RelationFont	従属書体の宣言
\userelfont	欧文書体を従属書体にする
\adjustbaseline	ベースラインシフト量の設定
\{roman kanji}encoding	エンコードの指定
\{roman kanji}family	ファミリの指定
\{roman kanji}series[force]	シリーズの指定
\{roman kanji}shape[force]	シェイプの指定
\use{roman kanji}	書体の切り替え
\mcfamily, \gtfamily	和文書体を明朝体、ゴシック体にする

コマンド	意味
\DeclareFontEncoding	エンコードの宣言
\DeclareFontFamily	ファミリの宣言
\DeclareFixedFont	フォントの名前の宣言
\selectfont	フォントを切り替える
\set@fontsize	フォントサイズの変更
\fontencoding	エンコードの指定
\fontfamily	ファミリの指定
\fontseries[force]	シリーズの指定
\fontshape[force]	シェイプの指定
\usefont	書体の切り替え
\normalfont	デフォルト値の設定に切り替える
\bfseries, \mdseries	シリーズを太字、中字にする

7 コード

この節で、実際のコードを説明します。

7.1 準備

NFSS2 を拡張するための準備です。和文フォントの属性を格納するオブジェクトや 長さ変数、属性を切替える際の判断材料として使うリストなどを定義しています。

IFTEX の tracefnt パッケージに相当するデバッグ機能は、pIFTEX では ptrace パッケージで提供します。以前(アスキー版)では ptrace の前に tracefnt を手動で \usepackage する必要がありましたが、コミュニティ版では ptrace が自動で tracefnt を読み込むように改良してあります。

- 1 (*trace)
- 2 \NeedsTeXFormat{pLaTeX2e}
- 3 \ProvidesPackage{ptrace}
- 4 [2021/06/27 v1.7n Standard pLaTeX package (font tracing)]
- 5 \RequirePackageWithOptions{tracefnt}
- 6 (/trace)

7.1.1 和文フォント属性

ここでは、和文フォントの属性を格納するためのオブジェクトについて説明をして います。

\k@encoding 和文エンコードを示すオブジェクトです。\ck@encoding は、最後に選択された和 \ck@encoding 文エンコード名を示しています。\cy@encoding と \ct@encoding はそれぞれ、最 \cy@encoding 後に選択された、横組用と縦組用の和文エンコード名を示しています。

\ct@encoding ここでは単に「空」に初期化するだけにしています。

- $7 \langle *plcore \rangle$
- 8 \let\k@encoding\@empty
- 9 \let\ck@encoding\@empty
- 10 \let\cy@encoding\@empty
- 11 \let\ct@encoding\@empty

\k@family 和文書体のファミリを示すオブジェクトです。

12 \let\k@family\@empty

\k@series 和文書体のシリーズを示すオブジェクトです。

13 \let\k@series\@empty

\k@shape 和文書体のシェイプを示すオブジェクトです。

 $14 \left(\k@ \k@ \end{0} \right)$

\curr@kfontshape 現在の和文フォント名を示すオブジェクトです。

15 \def\curr@kfontshape{\k@encoding/\k@family/\k@series/\k@shape}

\rel@fontshape 関連付けされたフォント名を示すオブジェクトです。

16 \def\rel@fontshape{\f@encoding/\f@family/\f@series/\f@shape}

7.1.2 長さ変数

ここでは、和文フォントの幅や高さなどを格納する変数について説明をしています。 頭文字が大文字の変数は、ノーマルサイズの書体の大きさで、基準値となります。 これらは、jart10.clo などの補助クラスファイルで設定されます。

小文字だけからなる変数は、フォントが変更されたときに(\selectfont 内で) 更新されます。

- \Cht \Cht は基準となる和文フォントの文字の高さを示します。\cht は現在の和文フォン
- \cht トの文字の高さを示します。なお、この "高さ" はベースラインより上の長さです。
 - 17 \newdimen\Cht
 - 18 \newdimen\cht
- \Cdp \Cdp は基準となる和文フォントの文字の深さを示します。\cdp は現在の和文フォン
- \cdp トの文字の深さを示します。なお、この"深さ"はベースラインより下の長さです。
 - 19 \newdimen\Cdp
 - 20 \newdimen\cdp
- \Cwd \Cwd は基準となる和文フォントの文字の幅を示します。\cwd は現在の和文フォン\cwd トの文字の幅を示します。
 - 21 \newdimen\Cwd
 - 22 \newdimen\cwd
- \Cvs \Cvs は基準となる行送りを示します。ノーマルサイズの\baselineskipと同値で\cvs す。\cvs は現在の行送りを示します。
 - $23 \newdimen\Cvs$
 - $24 \newdimen \cvs$
- \Chs \Chs は基準となる字送りを示します。\Cwd と同値です。\chs は現在の字送りを示\chs します。
 - $25 \newdimen\Chs$
 - 26 \newdimen\chs
- \cHT \cHT は、現在のフォントの高さに深さを加えた長さを示します。\set@fontsize コマンド (実際は \size@update) で更新されます。
 - $27 \newdimen\cHT$

7.1.3 一時コマンド

\afont IFTEX 内部の \do@subst@correction マクロでは、\fontname\font で返される外部フォント名を用いて、IFTEX フォント名を定義しています。したがって、\font をそのまま使うと、和文フォント名に欧文の外部フォントが登録されたり、縦組フォント名に横組用の外部フォントが割り付けられたりしますので、\jfont か \tfontを用いるようにします。\afont は、\font コマンドの保存用です。

28 \let\afont\font

7.1.4 フォントリスト

ここでは、フォントのエンコードやファミリの名前を登録するリストについて説明 をしています。

 $p\text{IAT}_{\text{EX}}\,2_{\varepsilon}$ の NFSS2 では、一つのコマンドで和文か欧文のいずれか、あるいは両方を変更するため、コマンドに指定された引数が何を示すのかを判断しなくてはなりません。この判断材料として、リストを用います。

このときの具体的な判断手順については、エンコード選択コマンドやファミリ選択コマンドなどの定義を参照してください。

\inlist@ 次のコマンドは、エンコードやファミリのリスト内に第二引数で指定された文字列があるかどうかを調べるマクロです。結果は\ifin@に格納されます。第二引数はリストそのもの(リストが格納されたマクロではなく)を指定することになります。 典型的には以下のように呼び出します。

\edef\tmp@item{{\k@encoding}}%
\expandafter\expandafter
\inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\kyenc@list}

\do@subst@correction の日本語化に必要なので、pIFTEX 2_{ε} 2020-04-12 以降では比較時に引数・リストとも \detokenize によって文字列化するようにしました。

- 29 (/plcore)
- 30 $\langle platexrelease \rangle \plincludeInRelease \{2020/04/12\} \{\inlist0\}$
- 31 (platexrelease)

{Detokenize}%

- 32 (*plcore | platexrelease)
- 33 \def\inlist@#1#2{%
- 34 \edef\reserved@a{%
- 35 \unexpanded{\def\in@@##1<}%
- 36 \detokenize{#1}%
- 37 \unexpanded{>##2##3\in@6\ifx\in@##2\in@false\else\in@true\fi}\in@6}%
- 38 \detokenize{#2}%
- 39 \unexpanded{<}%
- 40 \detokenize{#1}%
- 41 \unexpanded{>\in@\in@@}}%
- 42 \reserved@a}

```
43 \( /plcore | platexrelease \)
44 \( /platexrelease \) \( \plain \)
```

\enc@elt \enc@eltと\fam@eltは、登録されているエンコードに対して、なんらかの処理を\fam@elt 逐次的に行ないたいときに使用することができます。

53 \def\fam@elt{\noexpand\fam@elt} 54 \def\enc@elt{\noexpand\enc@elt}

52 (*plcore)

\fenc@list \fenc@list には、\DeclareFontEncoding コマンドで宣言されたエンコード名が \kenc@list 格納されていきます。

\kyenc@list には、\DeclareYokoKanjiEncoding コマンドで宣言されたエン \ktenc@list コード名が格納されていきます。\ktenc@listには、\DeclareTateKanjiEncoding コマンドで宣言されたエンコード名が格納されていきます。

ここで、これらのリストに具体的な値を入れて初期化をするのは、リストにエンコードの登録をするように \DeclareFontEncoding を再定義する前に、欧文エンコードが宣言されるため、リストに登録されないからです。

 $55 \enc@elt<OML>\enc@elt<OT1>\enc@elt<OMS>\%$

56 \enc@elt<OMX>\enc@elt<TS1>\enc@elt<U>}

 $57 \ensuremath{\mbox{\sc 0}}\ensuremath{\mbox{\sc 0}}\ensuremath{\mbo$

58 \let\kyenc@list\@empty

59 \let\ktenc@list\@empty

\kfam@list \kfam@listには、\DeclareKanjiFamilyコマンドで宣言されたファミリ名が格納 \ffam@list されていきます。

\notkfam@list \ffam@list には、\DeclareFontFamily コマンドで宣言されたファミリ名が格 \notffam@list 納されていきます。

\notkfam@listには、和文ファミリではないと推測されたファミリ名が格納されていきます。このリストは\fontfamilyコマンドで作成されます。

\notffam@listには欧文ファミリではないと推測されたファミリ名が格納されていきます。このリストは \fontfamily コマンドで作成されます。

ここで、これらのリストに具体的な値を入れて初期化をするのは、リストにファミリの登録をするように、\DeclareFontFamilyが再定義される前に、このコマンドが使用されるため、リストに登録されないからです。

60 \def\kfam@list{\fam@elt<mc>\fam@elt<gt>}

```
61 \def\ffam@list{\fam@elt<cmr>\fam@elt<cmss>\fam@elt<cmtt>%
62 \fam@elt<cmm>\fam@elt<cmsy>\fam@elt<cmex>}
```

つぎの二つのリストの初期値として、上記の値を用います。これらのファミリ名は、 和文でないこと、欧文でないことがはっきりしています。

- 63 \let\notkfam@list\ffam@list
- $64 \left| \text{hotffam@list} \right|$

7.1.5 支柱

行間の調整などに用いる支柱です。支柱のもととなるボックスの大きさは、フォントサイズが変更されるたびに、\set@fontsize コマンドによって更新されます。

コミュニティ版 pl $m PIEX 2_{\it E} 2017/04/08$ での変更:従来、横組ボックス用の支柱は \strutbox で、高さと深さが 7 対 3 となっていました。これは plm PIEX 単体では問題になりませんでしたが、海外製の lm PIEX パッケージを縦組で使用した場合に、意図しない幅や高さが取得されることがありました。この不都合を回避するため、コミュニティ版 plm PIEX では次の方法をとります。

- \ystrutbox (新設):高さと深さが7対3の横組用の支柱ボックスレジスタ
- \tstrutbox: 高さと深さが5対5の縦組用の支柱ボックスレジスタ
- \zstrutbox: 高さと深さが7対3の縦組用の支柱ボックスレジスタ
- \strutbox (仕様変更): 縦横のディレクションに応じて \tstrutbox または \ystrutbox に展開される**マクロ**

すなわち、従来の pIFTEX における \strutbox と同じ挙動を示すのが、新設された \ystrutbox ということになります。

\tstrutbox \tstrutbox は高さと深さが 5 対 5、\zstrutbox は高さと深さが 7 対 3 の支柱ボッ \zstrutbox クスとなります。これらは縦組ボックスの行間の調整などに使います。

- 65 \newbox\tstrutbox
- $66 \newbox\zstrutbox$

\ystrutbox \ystrutbox は高さと深さが7対3の横組用の支柱ボックスです。

- $67 \langle /plcore \rangle$
- $68 \ \langle \texttt{platexrelease} \rangle \texttt{plIncludeInRelease} \{ 2017/04/08 \} \{ \texttt{\ystrutbox} \}$
- $69 \langle \mathsf{platexrelease} \rangle$
- {Add \ystrutbox}%
- $70 \langle *plcore \mid platexrelease \rangle$
- 71 $\newbox\ystrutbox$
- 72 (/plcore | platexrelease)
- $73 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease$
- 74 \(\rangle plane \) \(\rangle

```
{Add \ystrutbox}%
                                       75 (platexrelease)
                                       76 \(\rangle platexrelease \)\let\\ystrutbox\\@undefined
                                       \strutbox \strutbox は縦横両対応です。
                                      78 \ \langle platexrelease \rangle \ | \ lincludeInRelease \{ 2017/04/08 \} \{ \ \ trutbox \}
                                       79 (platexrelease)
                                                                                                                                                    {Macro definition of \strutbox}%
                                       80 (*plcore | platexrelease)
                                       81 \def\strutbox{\iftdir\tstrutbox\else\ystrutbox\fi}
                                       82 (/plcore | platexrelease)
                                       83 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                                       84 \partial place \
                                       85 (platexrelease)
                                                                                                                                                    {LaTeX2e original}%
                                       86 (platexrelease)\newbox\strutbox % emulation purpose only
                                       87 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
         \strut ディレクションに応じて \ystrutbox と \tstrutbox を使い分けます。オリジナル
                                    の \LaTeX では ltplain.dtx で定義されていますが、\LaTeX 2_{\varepsilon} 2019-10-01 以降では
                                     さらに ltdefns.dtx で \MakeRobust を前置されるため、robust になります。
                                       88 \(\rangle platexrelease \rangle \rangle plinclude InRelease \{ 2019/10/01 \} \\ \strut \}
                                       89 (platexrelease)
                                                                                                                                                    {Make robust}%
                                       90 (*plcore | platexrelease)
                                      91 \DeclareRobustCommand\strut{\relax
                                                   \iftdir
                                                           \ifmmode\copy\tstrutbox\else\unhcopy\tstrutbox\fi
                                      93
                                      94
                                                          \ifmmode\copy\ystrutbox\else\unhcopy\ystrutbox\fi
                                      95
                                      96
                                                    \fi}
                                      97 (/plcore | platexrelease)
                                       98 \(\rangle plant = \rangle p
                                      99 \(\rangle platexrelease \rangle \rangle plinclude InRelease \{ 2017/04/08 \} \\ \strut \}
                                     100 (platexrelease)
                                                                                                                                                    {Use \ystrutbox}%
                                    101 (platexrelease)\def\strut{\relax
                                    102 (platexrelease) \ifydir
                                                                                                  \verb|\ifnmode| copy\y strutbox \else \unhcopy\y strutbox \fi
                                    103 (platexrelease)
                                    104 (platexrelease) \else
                                    105 (platexrelease)
                                                                                                  \ifmmode\copy\tstrutbox\else\unhcopy\tstrutbox\fi
                                    106 (platexrelease) \fi}
                                    107 (platexrelease)\expandafter \let \csname strut \endcsname \@undefined
                                    108 \(\rangle platexrelease \)\(\rangle platexrelease \)
                                    109 \; \langle \texttt{platexrelease} \rangle \\ \texttt{plIncludeInRelease} \\ \{0000/00/00\} \\ \{ \texttt{\trut} \} \\
                                    110 (platexrelease)
                                                                                                                                                    {ASCII Corporation original}%
                                    111 (platexrelease)\def\strut{\relax
                                    112 (platexrelease) \ifydir
                                    113 (platexrelease)
                                                                                                   \ifmmode\copy\strutbox\else\unhcopy\strutbox\fi
                                    114 (platexrelease)
                                    115 (platexrelease)
                                                                                                   \ifmmode\copy\tstrutbox\else\unhcopy\tstrutbox\fi
                                    116 (platexrelease)
                                                                                           \fi}
```

```
117 (platexrelease)\expandafter \let \csname strut \endcsname \@undefined
                                       118 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
\tstrut
\zstrut 119 \place\plincludeInRelease{2019/10/01}{\tstrut}
                                       120 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                              {Make robust}%
                                       121 (*plcore | platexrelease)
                                       122 \verb|\DeclareRobustCommand\tstrut{\relax\hbox{\tate}}|
                                                                   \ifmmode\copy\tstrutbox\else\unhcopy\tstrutbox\fi}}
                                       124 \verb|\DeclareRobustCommand\zstrut{\relax\hbox{\tate}}|
                                                                   \ifmmode\copy\zstrutbox\else\unhcopy\zstrutbox\fi}}
                                       126 (/plcore | platexrelease)
                                       127 \ \langle {\tt platexrelease} \rangle \backslash {\tt plEndIncludeInRelease}
                                       128 \(\rangle plane \) \(\rangle
                                       129 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                              {ASCII Corporation original}%
                                       130 \langle platexrelease \rangle \langle tstrut{relax\hbox{tate}}
                                       132 \langle platexrelease \rangle \\ def \\ zstrut{relax \land hbox{\tate}}
                                       133 ⟨platexrelease⟩ \ifmmode\copy\zstrutbox\else\unhcopy\zstrutbox\fi}}
                                       134 \langle platexrelease \rangle \setminus expandafter \setminus let \setminus csname tstrut \setminus endcsname \setminus cundefined
                                       135 \langle platexrelease \rangle \cdot expandafter \ let \ csname zstrut \ endcsname \ @undefined
                                       136 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
\ystrut
                                       137 \(\rangle plane = \rangle plinclude In Release \{ 2019/10/01 \} \\ \ystrut \}
                                       138 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                              {Make robust}%
                                       139 (*plcore | platexrelease)
                                       140 \DeclareRobustCommand\ystrut{\relax\hbox{\yoko}}
                                                                       \ifmmode\copy\ystrutbox\else\unhcopy\ystrutbox\fi}}
                                       142 (/plcore | platexrelease)
                                       143 \langle platexrelease \rangle \rangle 143 \langle platexrelease \rangle
                                       144 \ \langle platexrelease \rangle \ | lincludeInRelease \{ 2017/04/08 \} \{ \ vstrut \}
                                                                                                                                                                                              {Add \ystrut}%
                                       145 (platexrelease)
                                       146 \partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{\partit{
                                                                                                                 \ifmmode\copy\ystrutbox\else\unhcopy\ystrutbox\fi}}
                                       147 (platexrelease)
                                       149 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                                        150 \(\rangle plane \) \(\rangle
                                        151 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                              {Add \ystrut}%
                                        152 (platexrelease)\let\ystrut\@undefined
                                        153 \langle platexrelease \rangle \cdot expandafter \ let \ csname \ ystrut \ endcsname \ @undefined
                                       154 \(\rangle platexrelease \rangle \rangle plEndIncludeInRelease \)
                                       155 (*plcore)
```

7.2 NFSS2 の拡張コマンド

NFSS2 の拡張コマンドを定義します。

7.2.1 エンコードの宣言

欧文エンコードを宣言するためのコマンドです。ltfssbas.dtx で定義されている \DeclareFontEncoding ものを、\fenc@listを作るように再定義をしています。 \DeclareFontEncoding@ 156 \def\DeclareFontEncoding{% \begingroup \nfss@catcodes 159 \expandafter\endgroup \DeclareFontEncoding@} 160 161 (/plcore) 162 \platexrelease\\plIncludeInRelease{2018/04/01}{\DeclareFontEncoding@} 163 (platexrelease) {UTF-8 Encoding}% 164 (*plcore | platexrelease) まず、 $ext{IAT}_{ ext{E}} ext{X} \, 2 \varepsilon \, 2017$ -04-15以前の場合のコードです。このコードは、\UseRawInputEncoding の内部でも使われます。 165 % for compatibility with LaTeX2e 2017-04-15 or earlier. 166 % this code is used if MLTeX is enabled 167 \def\DeclareFontEncoding@#1#2#3{% \expandafter 168 \ifx\csname T@#1\endcsname\relax 169 \def\cdp@elt{\noexpand\cdp@elt}% 170 171 \xdef\cdp@list{\cdp@list\cdp@elt{#1}% {\default@family}{\default@series}% 173 {\default@shape}}% \expandafter\let\csname#1-cmd\endcsname\@changed@cmd 以下の 2 行が pIAT_EX 2ε による追加部分です。 \def\enc@elt{\noexpand\enc@elt}% \xdef\fenc@list{\fenc@list\enc@elt<#1>}% 176 \else 177 \@font@info{Redeclaring font encoding #1}% 178 179 \global\@namedef{T@#1}{#2}% 180 \global\@namedef{M@#1}{\default@M#3}% \xdef\LastDeclaredEncoding{#1}% $184 \verb|\let\DeclareFontEncoding@saved\Decla$ 次に、 \LaTeX 2018-04-01 以降の場合のコードです。 $185 \ifx\IeC\Qundefined\else$ $186\;\mbox{\%}$ for LaTeX2e with UTF-8 input. 187 \def\DeclareFontEncoding@#1#2#3{% 188 \expandafter \ifx\csname T@#1\endcsname\relax 189 190 \def\cdp@elt{\noexpand\cdp@elt}% \xdef\cdp@list{\cdp@list\cdp@elt{#1}% 191

192 193 {\default@family}{\default@series}%

{\default@shape}}%

IAT_FX 2₅ 2018-04-01 で、既定の欧文入力エンコーディングが UTF-8 になりました。こ れは、latex.ltxがutf8.def (従来はLAT_FXソースに \usepackage[utf8]{inputenc} と書いたときに読み込まれていたもの)を読み込むことで実現されています。 utf8.def は \DeclareFontEncoding@ を再定義するので、これに合わせるための コードを追加します。

```
195
         \begingroup
           \wlog{Now handling font encoding #1 ...}%
196
197
           \lowercase{%
             \InputIfFileExists{#1enc.dfu}}%
198
                {\boldsymbol{\omega}}_{...} processing UTF-8 mapping file for font %
199
                            encoding #1}}%
200
201
                {\wlog{... no UTF-8 mapping file for font encoding #1}}%
202
         \endgroup
以下の 2 行が pLATEX 2_{\varepsilon} による追加部分です。
         \def\enc@elt{\noexpand\enc@elt}%
203
204
         \xdef\fenc@list{\fenc@list\enc@elt<#1>}%
205
     \else
206
        \@font@info{Redeclaring font encoding #1}%
207
208
     \left( T0#1 \right) = 1
     \global\@namedef{M@#1}{\default@M#3}%
209
     \xdef\LastDeclaredEncoding{#1}%
210
211
212 \fi
213 (/plcore | platexrelease)
215 \platexrelease\\plIncludeInRelease{0000/00/00}{\DeclareFontEncoding@}
216 (platexrelease)
                                     {ASCII Corporation original}%
217 ⟨platexrelease⟩\def\DeclareFontEncoding@#1#2#3{%
218 \langle platexrelease \rangle
                  \expandafter
219 (platexrelease)
                  \ifx\csname T@#1\endcsname\relax
220 (platexrelease)
                      \def\cdp@elt{\noexpand\cdp@elt}%
221 (platexrelease)
                      \xdef\cdp@list{\cdp@list\cdp@elt{#1}%
222 (platexrelease)
                                      {\default@family}{\default@series}%
223 (platexrelease)
                                      {\default@shape}}%
224 (platexrelease)
                      \expandafter\let\csname#1-cmd\endcsname\@changed@cmd
225 (platexrelease)
                      \def\enc@elt{\noexpand\enc@elt}%
226 (platexrelease)
                     \xdef\fenc@list{\fenc@list\enc@elt<#1>}%
227~\langle \mathsf{platexrelease} \rangle
                  \else
228 (platexrelease)
                      \@font@info{Redeclaring font encoding #1}%
229 (platexrelease)
230 (platexrelease)
                  \left( T0#1 \right) = 1
231 (platexrelease)
                  \global\@namedef{M@#1}{\default@M#3}%
232 (platexrelease)
                  \xdef\LastDeclaredEncoding{#1}%
```

```
233 (platexrelease) }
                             234 (platexrelease)\let\DeclareFontEncoding@saved\@undefined
                             235 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                             236 (*plcore)
                            和文エンコードの宣言をするコマンドです。
     \DeclareKanjiEncoding
                             237 \def\DeclareKanjiEncoding#1{%
\DeclareYokoKanjiEncoding
                                  \@latex@warning{%
\DeclareYokoKanjiEncoding@
                                     The \string\DeclareKanjiEncoding\space is obsoleted command. Please use
                             239
\DeclareTateKanjiEncoding
                            240
                                     \MessageBreak
                                     the \string\DeclareTateKanjiEncoding\space for 'Tate-kumi' encoding, and
                             241
\DeclareTateKanjiEncoding@
                                     \MessageBreak
                             242
                                     the \string\DeclareYokoKanjiEncoding\space for 'Yoko-kumi' encoding.
                             243
                             244
                                     \MessageBreak
                                     I treat the '#1' encoding as 'Yoko-kumi'.}
                             245
                                  \DeclareYokoKanjiEncoding{#1}%
                             246
                             247 }
                             248 \def\DeclareYokoKanjiEncoding{%
                             ^{249}
                                  \begingroup
                             250
                                  \nfss@catcodes
                                  \expandafter\endgroup
                             251
                                  \DeclareYokoKanjiEncoding@}
                             252
                             253 %
                             254 \def\DeclareYokoKanjiEncoding@#1#2#3{%
                             255
                                  \expandafter
                                  \ifx\csname T@#1\endcsname\relax
                             256
                                    \def\cdp@elt{\noexpand\cdp@elt}%
                             257
                                    \xdef\cdp@list{\cdp@list\cdp@elt{#1}%
                             258
                                                     {\default@k@family}{\default@k@series}%
                             259
                             260
                                                     {\default@k@shape}}%
                                    \expandafter\let\csname#1-cmd\endcsname\@changed@kcmd
                             261
                                    \def\enc@elt{\noexpand\enc@elt}%
                             262
                                    \xdef\kyenc@list{\kyenc@list\enc@elt<#1>}%
                             263
                                    \xdef\kenc@list{\kenc@list\enc@elt<#1>}\%
                             264
                             265
                                  \else
                             266
                                    \OfontOinfo{Redeclaring KANJI (yoko) font encoding #1}%
                             267
                                  \global\ensuremath{\mathchar`e}\T0#1\{\#2}\%
                                  \global\@namedef{M@#1}{\default@KM#3}%
                             270
                             271 %
                             272 \def\DeclareTateKanjiEncoding{%
                                  \begingroup
                                  \nfss@catcodes
                             274
                             275
                                  \expandafter\endgroup
                                  \DeclareTateKanjiEncoding@}
                             276
                             277 %
                             278 \def\DeclareTateKanjiEncoding@#1#2#3{%
                                  \expandafter
```

\ifx\csname T@#1\endcsname\relax

```
\xdef\cdp@list{\cdp@list\cdp@elt{#1}%
                                                                 282
                                                                                                                  {\default@k@family}{\default@k@series}%
                                                                 283
                                                                                                                  {\default@k@shape}}%
                                                                 284
                                                                                \expandafter\let\csname#1-cmd\endcsname\@changed@kcmd
                                                                 285
                                                                                \def\enc@elt{\noexpand\enc@elt}%
                                                                 286
                                                                                \xdef\ktenc@list{\ktenc@list\enc@elt<#1>}%
                                                                 287
                                                                                \xdef\kenc@list{\kenc@list\enc@elt<#1>}%
                                                                 288
                                                                 289
                                                                            \else
                                                                                \OfontOinfo{Redeclaring KANJI (tate) font encoding #1}%
                                                                 290
                                                                 291
                                                                            \global\ensuremath{\mbox{Qnamedef{T0#1}{\#2}}\%
                                                                 292
                                                                            \global\@namedef{M@#1}{\default@KM#3}%
                                                                 293
                                                                 294
                                                                 295 %
                                                                 296 \@onlypreamble\DeclareKanjiEncoding
                                                                 297 \@onlypreamble\DeclareYokoKanjiEncoding
                                                                 298 \@onlypreamble\DeclareYokoKanjiEncoding@
                                                                 {\tt 299 \ \ \ \ \ \ } \textbf{ Conlypreamble \ \ \ \ } \textbf{ DeclareTateKanjiEncoding}
                                                                 300 \@onlypreamble\DeclareTateKanjiEncoding@
                                                                和文エンコードのデフォルト値を宣言するコマンドです。\DeclareFontEncodingDefaults
\DeclareKanjiEncodingDefaults
                                                                 に相当します。
                                                                 301 \def\DeclareKanjiEncodingDefaults#1#2{%
                                                                           \ifx\relax#1\else
                                                                 302
                                                                                \ifx\default@KT\@empty\else
                                                                 303
                                                                                    \OfontOinfo{Overwriting KANJI encoding scheme text defaults}%
                                                                 304
                                                                 305
                                                                                \fi
                                                                                \gdef\default@KT{#1}%
                                                                 306
                                                                 307
                                                                            \fi
                                                                            \ifx\relax#2\else
                                                                 308
                                                                                \ifx\default@KM\@empty\else
                                                                 310
                                                                                     \@font@info{Overwriting KANJI encoding scheme math defaults}%
                                                                 311
                                                                 312
                                                                                \gdef\default@KM{#2}%
                                                                 313
                                                                            fi
                                                                 314 \let\default@KT\@empty
                                                                 315 \let\default@KM\@empty
                                                                 316 \Conlypreamble \DeclareKanjiEncodingDefaults
                                                              和文の縦横のエンコーディングはそれぞれ対にして扱うため、セット化するための
                       \KanjiEncodingPair
                                                                 コマンドを定義します。第一引数が横組用、第二引数が縦組用です。
                                                                 317 \end{figure} 17 \end{fig
                                                                横書きと縦書きのエンコーディングは必ず \KanjiEncodingPair でセット化しない
        \ensure@KanjiEncodingPair
                                                                 と使えません。もしセット化されていなければ、明快なエラーで知らせます。
                                                                 318 (/plcore)
                                                                 319 \(\rangle\) plincludeInRelease\(\rangle\) (\rangle\) (\rangle\) nsure\(\text{KanjiEncodingPair\)
                                                                 File c: plfonts.dtx Date: 2021/06/27 Version v1.7n
                                                                                                                                                                                                                           20
```

\def\cdp@elt{\noexpand\cdp@elt}%

281

```
320 (platexrelease)
                                                                                                       {Check \KanjiEncodingPair}%
321 (*plcore | platexrelease)
322 \def\ensure@KanjiEncodingPair#1{%
               \label{lem:condingendesname} $$\encoding\endsname} % $$ \operatorname{loencoding\endsname} % $$ \encoding\endsname} % $$ \encoding\
               \edef\reserved@b{\csname c#1@encoding\endcsname}%
\reserved@a は、セット化が有効ならエンコードを表す文字トークン列、無効なら
\relax と同義の制御綴に展開されるマクロです。ここで、\ifcat(展開不能トー
クンが現れるまで展開してから比較)を使います。
               \ifcat\relax\reserved@a
                     \@latex@error
                           {KANJI Encoding pair for '\k@encoding' undefined}%
327
                            {Use \string\KanjiEncodingPair, falling back to '\reserved@b'...}%
328
                     \expandafter\edef\reserved@a{\reserved@b}%
329
               fi
330
331 (/plcore | platexrelease)
332 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
334 (platexrelease)
                                                                                                       {ASCII Corporation original}%
336 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease
337 (*plcore)
```

7.2.2 ファミリの宣言

\DeclareFontFamily 欧文ファミリを宣言するためのコマンドです。\ffam@list を作るように再定義を します。

```
338 \def\DeclareFontFamily#1#2#3{%
339 \@ifundefined{T@#1}%
       {\@latex@error{Encoding scheme '#1' unknown}\@eha}%
340
       {\left(\frac{\#2}{\%}\right)}
341
342
        \expandafter\expandafter\expandafter
        \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\ffam@list}%
343
344
        \ifin@ \else
            \def\fam@elt{\noexpand\fam@elt}%
346
            \xdef\ffam@list{\ffam@list\fam@elt<#2>}%
        \fi
347
        \def\reserved@a{#3}%
348
        \global
349
350
        \expandafter\let\csname #1+#2\expandafter\endcsname
                \ifx \reserved@a\@empty
351
                  \@emptv
352
353
                \else \reserved@a
354
                \fi
355
       }%
356 }
```

\DeclareKanjiFamily 和文ファミリを宣言するためのコマンドです。

```
357 \def\DeclareKanjiFamily#1#2#3{%
                                                                           \@ifundefined{T@#1}%
                                                                                   {\@latex@error{KANJI Encoding scheme '#1' unknown}\@eha}%
                                                                 360
                                                                                    {\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\en
                                                                                      \expandafter\expandafter\expandafter
                                                                 361
                                                                                      \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\kfam@list}%
                                                                 362
                                                                 363
                                                                                      \ifin@ \else
                                                                                             \def\fam@elt{\noexpand\fam@elt}%
                                                                 364
                                                                                             \xdef\kfam@list{\kfam@list\fam@elt<#2>}%
                                                                 365
                                                                                      \fi
                                                                 366
                                                                 367
                                                                                      \def\reserved@a{#3}%
                                                                 368
                                                                                      \global
                                                                                      \expandafter\let\csname #1+#2\expandafter\endcsname
                                                                                                       \ifx \reserved@a\@empty
                                                                 370
                                                                 371
                                                                                                            \@empty
                                                                 372
                                                                                                       \else \reserved@a
                                                                 373
                                                                                                       \fi
                                                                 374
                                                                                     }%
                                                                 375 }
\DeclareKanjiSubstitution 目的の和文フォントが見つからなかったときに使う代用書体の宣言をするコマンド
                                                                 です。\DeclareFontSubstitutionに相当します。
                                                                 376 (/plcore)
                                                                 377 \langle platexrelease \rangle \plincludeInRelease \{2020/04/12\} \{\DeclareKanjiSubstitution\}
                                                                                                                                                    {Use \default@k@family etc.}%
                                                                 378 (platexrelease)
                                                                 379 (*plcore | platexrelease)
                                                                 380 \def\DeclareKanjiSubstitution#1#2#3#4{%
                                                                              \expandafter\ifx\csname T@#1\endcsname\relax
                                                                                   \@latex@error{KANJI Encoding scheme '#1' unknown}\@eha
                                                                 382
                                                                 383
                                                                              \else
                                                                                   \begingroup
                                                                 384
                                                                                          \def\reserved@a{\#1}%
                                                                 385
                                                                                          \t 0{s@{}}%
                                                                 386
                                                                                          \def\cdp@elt##1##2##3##4{%
                                                                 387
                                                                                               \def\reserved@b{##1}%
                                                                 388
                                                                                               \ifx\reserved@a\reserved@b
                                                                 389
                                                                                                    391
                                                                 392
                                                                                                    393
                                                                                               fi}%
                                                                                          \cdp@list
                                                                 394
                                                                                          \xdef\cdp@list{\theta\the\toks@}\%
                                                                 395
                                                                 396
                                                                                   \global\@namedef{D@#1}{\def\default@k@family{#2}% !!!
                                                                 397
                                                                                                                                           \def\default@k@series{#3}% !!!
                                                                 398
                                                                                                                                           \def\default@k@shape{#4}}% !!!
                                                                 399
                                                                              \fi}
                                                                 401 (/plcore | platexrelease)
```

File c: plfonts.dtx Date: 2021/06/27 Version v1.7n

```
404 (platexrelease)
                                                                                                                                                                             {ASCII Corporation original}%
                                                                       405 ⟨platexrelease⟩\def\DeclareKanjiSubstitution#1#2#3#4{%
                                                                       406 (platexrelease)
                                                                                                                          \expandafter\ifx\csname T@#1\endcsname\relax
                                                                       407 (platexrelease)
                                                                                                                                 \@latex@error{KANJI Encoding scheme '#1' unknown}\@eha
                                                                       408 (platexrelease)
                                                                                                                          \else
                                                                       409 (platexrelease)
                                                                                                                                 \begingroup
                                                                       410 \langle platexrelease \rangle
                                                                                                                                          \def\reserved@a{#1}%
                                                                                                                                          \toks@{}%
                                                                       411 (platexrelease)
                                                                       412 (platexrelease)
                                                                                                                                          \def\cdp@elt##1##2##3##4{%
                                                                       413 (platexrelease)
                                                                                                                                                \def\reserved@b{##1}%
                                                                       414 (platexrelease)
                                                                                                                                               \ifx\reserved@a\reserved@b
                                                                       415 (platexrelease)
                                                                                                                                                      416 (platexrelease)
                                                                                                                                               \else
                                                                       417 (platexrelease)
                                                                                                                                                      \addto@hook\toks@{\cdp@elt{##1}{##2}{##3}{##4}}%
                                                                       418 (platexrelease)
                                                                                                                                               fi}%
                                                                       419 (platexrelease)
                                                                                                                                          \cdp@list
                                                                       420 (platexrelease)
                                                                                                                                          \xdef\cdp@list{\the\toks@}%
                                                                       421 (platexrelease)
                                                                                                                                 \endgroup
                                                                       422 (platexrelease)
                                                                                                                                 \label{local_enamedef} $$ \left(D@#1\right)_{\def\default@family{#2}\%} $$
                                                                       423 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                                     \def\default@series{#3}%
                                                                       424 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                                     \def\default@shape{#4}}%
                                                                       425 (platexrelease) \fi}
                                                                       426 \placetalendIncludeInRelease
                                                                       427 (platexrelease)% !!! Special case BEGIN
                                                                       428 \langle platexrelease \rangle \% required for any emulation date
                                                                       429 (platexrelease)% copied from (u)pldefs.ltx
                                                                       430 \(\rangle place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\place{\proce{\place{\proce{\place{\proce{\proce{\place{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\proce{\pr
                                                                       431 \label{lem:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:l
                                                                       432 \langle platexrelease \rangle \setminus MeclareKanjiSubstitution{JT1}{mc}{m}{n}
                                                                       434 \langle platexrelease \rangle \backslash MeclareKanjiSubstitution{JY2}{mc}{m}{n}
                                                                       435 (platexrelease)\DeclareKanjiSubstitution{JT2}{mc}{m}{n}
                                                                       436 (platexrelease)\fi\fi
                                                                       437 (platexrelease)% emulate execution of \enc@update in \selectfont
                                                                       438 (platexrelease)% before (u)pldefs.ltx is loaded
                                                                       439 (platexrelease)\csname D@\f@encoding\endcsname
                                                                       440 \langle platexrelease \rangle \% emulate execution of \kenc@update in \selectfont
                                                                       441 \langle platexrelease \rangle \% inside (u)pldefs.ltx
                                                                       442 \langle platexrelease \rangle \csname D@\k@encoding\endcsname
                                                                       443 \langle platexrelease \rangle \% !!! Special case END
                                                                       444 (*plcore)
                                                                       445 \@onlypreamble\DeclareKanjiSubstitution
                                                                       \DeclareErrorFont に対応するコマンドです。代用書体で示された書体も見つから
\DeclareErrorKanjiFont
                                                                       なかったときに最後の手段として使われるエラー書体を定義します。
                                                                       446 (/plcore)
                                                                       447 \(\rangle\) plIncludeInRelease\(\rangle\) 10/01\(\rangle\) DeclareErrorKanjiFont\(\rangle\)
                                                                       448 (platexrelease)
                                                                                                                                                                             {No side effects please}%
```

403 (platexrelease)\plIncludeInRelease{0000/00/00}{\DeclareKanjiSubstitution}

```
450 \def\DeclareErrorKanjiFont#1#2#3#4#5{%
                                                                                     \xdef\error@kfontshape{%
                                                                                               \noexpand\expandafter\noexpand\split@name\noexpand\string
                                                                 452
                                                                                               \ensuremath{\texttt{vaname}}\1/\#2/\#3/\#4/\#5\endcsname
                                                                 453
                                                                 454
                                                                                               \noexpand\@nil}%
                                                                                     \gdef\default@k@family{#2}%
                                                                 455
                                                                 456
                                                                                     \gdef\default@k@series{#3}%
                                                                                     \gdef\default@k@shape{#4}%
                                                                 457
                                                                                     }
                                                                 458
                                                                 459 (/plcore | platexrelease)
                                                                 460 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                                                                 461 \(\rangle platexrelease \)\(\rangle \)\(\rangle platexrelease \)\(
                                                                 462 (platexrelease)
                                                                                                                                                                            {ASCII Corporation original}%
                                                                 463 \(\rangle platexrelease \rangle \rangle def \rangle DeclareError Kanji Font #1 #2 #3 #4 #5 \{ \( \lambda \)
                                                                 464 (platexrelease)
                                                                                                                          \xdef\error@kfontshape{%
                                                                 465 (platexrelease)
                                                                                                                                    \noexpand\expandafter\noexpand\split@name\noexpand\string
                                                                                                                                    \verb|\expandafter\\noexpand\\csname#1/#2/#3/#4/#5\\endcsname#1/#2/#3/#4/#5\\endcsname#1/#2/#3/#4/#5
                                                                 466 (platexrelease)
                                                                 467 (platexrelease)
                                                                                                                                    \noexpand\@nil}%
                                                                 468 (platexrelease)
                                                                                                                          \gdef\default@k@family{#2}%
                                                                 469 (platexrelease)
                                                                                                                          \gdef\default@k@series{#3}%
                                                                 470 (platexrelease)
                                                                                                                          \gdef\default@k@shape{#4}%
                                                                 471 (platexrelease)
                                                                                                                          \global\let\k@family\default@k@family
                                                                 472 (platexrelease)
                                                                                                                          \global\let\k@series\default@k@series
                                                                 473 (platexrelease)
                                                                                                                          \global\let\k@shape\default@k@shape
                                                                 474 (platexrelease)
                                                                                                                          \gdef\f@size{#5}%
                                                                 475 (platexrelease)
                                                                                                                          \gdef\f@baselineskip{#5pt}}
                                                                 477 \langle *plcore \rangle
                                                                 478 \@onlypreamble\DeclareErrorKanjiFont
                                                                 \wrong@fontshapeを和文対応にします。\DeclareKanjiSubstitutionで\default@k@...
        \wrong@fontshape
                                                                 を使用する改良と同時でなければなりません。
\wrong@al@fontshape
                                                                        オリジナルの LATEX の定義は、欧文用として使います。
\wrong@ja@fontshape
                                                                 479 (/plcore)
                                                                 480 \(\rangle\) \(p\lambda\) \(
                                                                 481 (platexrelease)
                                                                                                                                                                            {Japanese \wrong@fontshape}%
                                                                 482 (*plcore | platexrelease)
                                                                 483 \def\wrong@al@fontshape{%
                                                                                                                                                                                                  % install defaults if in math
                                                                 484
                                                                                        \csname D@\f@encoding\endcsname
                                                                 485
                                                                                        \edef\reserved@a{\csname\curr@fontshape\endcsname}%
                                                                                 \verb|\ifx\last@fontshape\reserved@a|
                                                                 486
                                                                                           \errmessage{Corrupted NFSS tables}%
                                                                 487
                                                                                           \error@fontshape
                                                                 488
                                                                 489
                                                                                 \else
                                                                 490
                                                                                        \let\f@shape\default@shape
                                                                                        \expandafter\ifx\csname\curr@fontshape\endcsname\relax
                                                                 491
                                                                                                  \let\f@series\default@series
                                                                 492
                                                                 493
                                                                                                     \expandafter
```

449 (*plcore | platexrelease)

```
494
                                \ifx\csname\curr@fontshape\endcsname\relax
                                  \let\f@family\default@family
495
496
                                  \begingroup
497
                                         \try@load@fontshape
498
                                  \endgroup
                          \fi \fi
499
            \fi
500
                   \@font@warning{Font shape '\expandafter\string\reserved@a'
501
                                                          \expandafter\@gobble\string\@undefined\MessageBreak
502
                                                     using '\curr@fontshape' instead\@wrong@font@char}%
503
504
                 \global\let\last@fontshape\reserved@a
                  \gdef\@defaultsubs{%
505
                      \@font@warning{Some font shapes were not available, defaults
506
                                                            substituted.\@gobbletwo}}%
507
508
                 \global\expandafter\expandafter\expandafter\let
                        \expandafter\reserved@a
509
                                  \csname\curr@fontshape\endcsname
510
                 \xdef\font@name{%
511
                      \csname\curr@fontshape/\f@size\endcsname}%
512
513
                 \pickup@font}
和文用の定義です。
514 \def\wrong@ja@fontshape{%
                                                                                                   % install defaults if in math
                 \csname D@\f@encoding\endcsname
515
                 \verb|\edg{\csname}| with the point shape \verb|\edgs| and the point shape \verb|\ed
516
            \ifx\last@fontshape\reserved@a
517
                   \errmessage{Corrupted NFSS tables}%
518
                   \error@fontshape
519
520
            \else
521
                 \let\f@shape\default@k@shape % !!!
522
                 \expandafter\ifx\csname\curr@fontshape\endcsname\relax
523
                        \let\f@series\default@k@series % !!!
524
                          \expandafter
                                \ifx\csname\curr@fontshape\endcsname\relax
525
                                  \let\f@family\default@k@family % !!!
526
527
                                  \begingroup
                                         \try@load@fontshape
528
529
                                  \endgroup
                          \fi \fi
530
531
                   \Ofont@warning{Font shape '\expandafter\string\reserved@a'
532
                                                          \expandafter\@gobble\string\@undefined\MessageBreak
533
                                                     using '\curr@fontshape' instead\@wrong@font@char}%
534
535
                 \global\let\last@fontshape\reserved@a
536
                 \gdef\@defaultsubs{%
                      \@font@warning{Some font shapes were not available, defaults
537
                                                            substituted.\@gobbletwo}}%
538
                 \global\expandafter\expandafter\expandafter\let
539
540
                        \expandafter\reserved@a
                                  \csname\curr@fontshape\endcsname
541
```

```
542
        \xdef\font@name{%
          \csname\curr@fontshape/\f@size\endcsname}%
543
        \pickup@font}
544
そして、エンコーディングに応じて欧文用と和文用を使い分けます。
545 \def\wrong@fontshape{%
     \edef\tmp@item{{\f@encoding}}%
     \expandafter\expandafter\expandafter
547
     \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\kenc@list}%
548
     \ifin@
550
        \wrong@ja@fontshape
551
     \else
        \wrong@al@fontshape
552
     \fi
553
554 }
555 (/plcore | platexrelease)
556 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
557 \ \langle platexrelease \rangle \ \ linclude In Release \{ 2015/01/01 \} \{ \ \ \ \ \ \ \ \} \} 
558 (platexrelease)
                                      {LaTeX2e original (2015)}%
559 (platexrelease)\def\wrong@fontshape{%
560 (platexrelease)
                     \csname D@\f@encoding\endcsname
                                                           % install defaults if in math
561 (platexrelease)
                     \edef\reserved@a{\csname\curr@fontshape\endcsname}%
562 (platexrelease)
                   \ifx\last@fontshape\reserved@a
563 (platexrelease)
                      \errmessage{Corrupted NFSS tables}%
564 (platexrelease)
                      \error@fontshape
565 (platexrelease)
                  \else
566 (platexrelease)
                     \let\f@shape\default@shape
567 (platexrelease)
                     \expandafter\ifx\csname\curr@fontshape\endcsname\relax
568 (platexrelease)
                        \let\f@series\default@series
569 (platexrelease)
                         \expandafter
570 (platexrelease)
                            \ifx\csname\curr@fontshape\endcsname\relax
571 (platexrelease)
                             \let\f@family\default@family
572 (platexrelease)
                             \begingroup
573 (platexrelease)
                                \try@load@fontshape
574 \; \langle \mathsf{platexrelease} \rangle
                             \endgroup
                         \fi \fi
575 (platexrelease)
                   \fi
576 (platexrelease)
577 (platexrelease)
                      \@font@warning{Font shape '\expandafter\string\reserved@a'
578 (platexrelease)
                                        \expandafter\@gobble\string\@undefined\MessageBreak
                                      using '\curr@fontshape' instead\@wrong@font@char}%
579 (platexrelease)
580 (platexrelease)
                     \global\let\last@fontshape\reserved@a
581 (platexrelease)
                     \gdef\@defaultsubs{%
582 (platexrelease)
                       \Ofont@warning{Some font shapes were not available, defaults
583 (platexrelease)
                                         substituted.\@gobbletwo}}%
584 (platexrelease)
                     \global\expandafter\expandafter\expandafter\let
585 (platexrelease)
                        \expandafter\reserved@a
586 (platexrelease)
                             \csname\curr@fontshape\endcsname
                     \xdef\font@name{%
587 (platexrelease)
588 (platexrelease)
                       \csname\curr@fontshape/\f@size\endcsname}%
```

\pickup@font}

589 (platexrelease)

```
592 \plEndIncludeInRelease
                                      593 \ \langle platexrelease \rangle \ volume In Release \{0000/00/00\} \{vrong@fontshape\} \} 
                                      594 (platexrelease)
                                                                                                            {LaTeX2e original (old)}%
                                      595 (platexrelease)\def\wrong@fontshape{%
                                      596 (platexrelease)
                                                                             \csname D@\f@encoding\endcsname
                                      597 (platexrelease)
                                                                              \edef\reserved@a{\csname\curr@fontshape\endcsname}%
                                      598 (platexrelease)
                                                                         \ifx\last@fontshape\reserved@a
                                      599 (platexrelease)
                                                                                \errmessage{Corrupted NFSS tables}%
                                      600 (platexrelease)
                                                                                \error@fontshape
                                      601 (platexrelease)
                                                                         \else
                                      602 (platexrelease)
                                                                              \let\f@shape\default@shape
                                      603 (platexrelease)
                                                                              \expandafter\ifx\csname\curr@fontshape\endcsname\relax
                                      604 (platexrelease)
                                                                                    \let\f@series\default@series
                                      605 (platexrelease)
                                                                                      \expandafter
                                                                                          \ifx\csname\curr@fontshape\endcsname\relax
                                      606 (platexrelease)
                                      607 (platexrelease)
                                                                                            \let\f@family\default@family
                                      608 (platexrelease)
                                                                                      \fi \fi
                                      609 (platexrelease)
                                                                         \fi
                                      610 (platexrelease)
                                                                                \@font@warning{Font shape
                                      611 (platexrelease)
                                                                                              '\expandafter\string\reserved@a'
                                                                                              \expandafter\@gobble\string\@undefined
                                      612 (platexrelease)
                                      613 (platexrelease)
                                                                                              \MessageBreak
                                                                                             using '\curr@fontshape' instead\@wrong@font@char}%
                                      614 (platexrelease)
                                      615 (platexrelease)
                                                                              \global\let\last@fontshape\reserved@a
                                      616 (platexrelease)
                                                                              \gdef\@defaultsubs{%
                                      617 (platexrelease)
                                                                                  \OfontOwarning{Some font shapes were not available,
                                      618 (platexrelease)
                                                                                                                    defaults substituted.\@gobbletwo}}%
                                      619 (platexrelease)
                                                                             \global\expandafter\expandafter\expandafter\let
                                      620 (platexrelease)
                                                                                    \expandafter\reserved@a
                                      621 (platexrelease)
                                                                                            \csname\curr@fontshape\endcsname
                                      622 (platexrelease)
                                                                              \xdef\font@name{%
                                      623 (platexrelease)
                                                                                  \csname\curr@fontshape/\f@size\endcsname}%
                                      624 (platexrelease)
                                                                              \pickup@font}
                                      625 (platexrelease)\let\wrong@al@fontshape\@undefined
                                      627 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease
                                      628 (*plcore)
                                      フォント名を宣言するコマンドです。エンコード/ファミリ/シリーズ/シェイプ
\DeclareFixedFont
                                       /サイズの5つの属性を一度に切り替えるためのコマンドを定義できます。
                                      629 \def\DeclareFixedFont#1#2#3#4#5#6{%
                                                   \begingroup
                                      630
                                      631
                                                          \let\afont\font
                                      632
                                                          \math@fontsfalse
                                                          \every@math@size{}%
                                      633
                                                          \int fontsize{#6}\z@
                                      634
                                      635
                                                          \egin{align*} \egin{align*}
```

590 (platexrelease)\let\wrong@al@fontshape\@undefined

```
\expandafter\expandafter\expandafter
                                                                                                                               636
                                                                                                                                                                    \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\kyenc@list}%
                                                                                                                               637
                                                                                                                               638
                                                                                                                                                                            \usekanji{#2}{#3}{#4}{#5}%
                                                                                                                               639
                                                                                                                                                                            \let\font\jfont
                                                                                                                               640
                                                                                                                               641
                                                                                                                                                                     \else
                                                                                                                                                                            \expandafter\expandafter\expandafter
                                                                                                                               642
                                                                                                                                                                            \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\ktenc@list}%
                                                                                                                               643
                                                                                                                               644
                                                                                                                                                                                     \usekanji{#2}{#3}{#4}{#5}%
                                                                                                                               645
                                                                                                                                                                                     \let\font\tfont
                                                                                                                               646
                                                                                                                               647
                                                                                                                                                                                     \useroman{#2}{#3}{#4}{#5}%
                                                                                                                               648
                                                                                                                                                                                     \let\font\afont
                                                                                                                               649
                                                                                                                               650
                                                                                                                                                                     \fi
                                                                                                                               651
                                                                                                                                                                     \global\expandafter\let\expandafter#1\the\font
                                                                                                                               652
                                                                                                                                                                    \let\font\afont
                                                                                                                               653
                                                                                                                               654
                                                                                                                                                        \endgroup
                                                                                                                               655
                                                                                                                              \font は欧文フォントを返すため、LATEX の元の \do@subst@correction は和文
                                       \do@subst@correction
                                                                                                                               フォントに対して使えませんので、和文に対応させます1。
                                                                                                                                        オリジナルの IATEX の定義は、欧文用として使います。
\pltx@do@subst@correction@tate
                                                                                                                              656 (/plcore)
                                                                                                                               657 \ \langle platexrelease \rangle \\ \ plIncludeInRelease \{2020/04/12\} \\ \ \langle platexrelease \rangle \\ \ \rho lIncludeInRelease \{2020/04/12\} \\ \ \langle platexrelease \rangle \\ \ \langle plate
                                                                                                                               658 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                                                                                                       {Japanese font substitution}%
                                                                                                                               659 (*plcore | platexrelease)
                                                                                                                               660 \def\pltx@do@subst@correction@al{%
                                                                                                                                                                        \xdef\subst@correction{%
                                                                                                                               662
                                                                                                                                                                                   \font@name
                                                                                                                               663
                                                                                                                                                                                     \global\expandafter\font
                                                                                                                               664
                                                                                                                                                                                            \csname \curr@fontshape/\f@size\endcsname
                                                                                                                               665
                                                                                                                                                                                            \noexpand\fontname\font
                                                                                                                                                                                        \relax}%
                                                                                                                               666
                                                                                                                               667
                                                                                                                                                                        \aftergroup\subst@correction
                                                                                                                               668 }
```

和文横組用と和文縦組用の定義では、それぞれ\jfontと\tfontを使います。

669 \def\pltx@do@subst@correction@yoko{% 670 \xdef\subst@correction{%

\pltx@do@subst@correction@al

\pltx@do@subst@correction@yoko

 $^{^{1}\}mathrm{pIAT_{FX}}\,2arepsilon\,2020-04-12$ で対応。元のアスキー版の文書にも第 $\,7.1.3$ 節で \do@subst@correction を日本語対応させた旨が書かれていましたが、実際にはこの命令は

^{• \}selectfont 内の \pickup@font から呼ばれる場合

^{• \}getanddefine@fonts 内の \pickup@font から呼ばれる場合

の2通りがあるようです。前者は \let\font\jfont によって対処できていましたが、後者は未対策だっ たため、例えば和文数式フォントを定義した状態で bm パッケージを使った場合に問題が起きていまし た (参考: texjporg/jsclasses#53)。

```
671
             \font@name
672
             \global\expandafter\jfont
               \csname \curr@fontshape/\f@size\endcsname
674
               \noexpand\fontname\jfont
675
              \relax}%
          \aftergroup\subst@correction
676
677 }
678 \def\pltx@do@subst@correction@tate{%
          \xdef\subst@correction{%
679
             \font@name
680
             \global\expandafter\tfont
681
               \csname \curr@fontshape/\f@size\endcsname
682
               \noexpand\fontname\tfont
              \relax}%
685
          \aftergroup\subst@correction
686 }
そして、エンコーディングに応じて3つの命令を使い分けます。
687 \def\do@subst@correction{%
     \edef\tmp@item{{\f@encoding}}%
     \expandafter\expandafter\expandafter
     \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\kyenc@list}%
690
691
     \ifin@\pltx@do@subst@correction@yoko
692
       \expandafter\expandafter\expandafter
693
       \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\ktenc@list}%
694
       \ifin@\pltx@do@subst@correction@tate\else
695
         \pltx@do@subst@correction@al
696
697
       \fi
698
     \fi
699 }
700 (/plcore | platexrelease)
701 \ \langle \texttt{platexrelease} \rangle \backslash \texttt{plEndIncludeInRelease}
703 (platexrelease)
                                  {LaTeX2e original}%
704 \langle platexrelease \rangle \def\do@subst@correction{%}
                      \xdef\subst@correction{%
705 (platexrelease)
706 (platexrelease)
                         \font@name
                         \global\expandafter\font
707 (platexrelease)
                           \csname \curr@fontshape/\f@size\endcsname
708 (platexrelease)
709 (platexrelease)
                           \noexpand\fontname\font
710 (platexrelease)
                          \relax}%
711 (platexrelease)
                      \aftergroup\subst@correction
712 (platexrelease)}
713 \langle platexrelease \rangle \ | tx@do@subst@correction@al \ @undefined
715 (platexrelease)\let\pltx@do@subst@correction@tate\@undefined
716 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
717 (*plcore)
```

7.2.3 数式用フォント

\reDeclareMathAlphabet

数式モード内で、数式文字用の和欧文フォントを同時に切り替えるコマンドです。 $pIAT_{EX} \ 2\varepsilon$ には、本来の動作モードと 2.09 互換モードの二つがあり、両モードで数式文字を変更するコマンドや動作が異なります。本来の動作モードでは、\mathrm{...} のように \math??に引数を指定して使います。このときは引数にだけ影響します。 2.09 互換モードでは、\rm のような二文字コマンドを使います。このコマンドには引数を取らず、書体はグルーピングの範囲で反映されます。二文字コマンドは、ネイティブモードでも使えるようになっていて、動作も 2.09 互換モードのコマンドと同じです。

しかし、内部的には \math??という一つのコマンドがすべての動作を受け持ち、\math??コマンドや \??コマンドから呼び出された状態に応じて、動作を変えています。したがって、欧文フォントと和文フォントの両方を一度に変更する、数式文字変更コマンドを作るとき、それぞれの状態に合った動作で動くようにフォント切り替えコマンドを実行させる必要があります。

使い方

usage: \reDeclareMathAlphabet{\mathAA}{\mathBB}{\mathCC}

欧文・和文両用の数式文字変更コマンド \mathAA を (再) 定義します。欧文用のコマンド \mathBB と、和文用の \mathCC を (p)IFTEX 標準の方法で定義しておいた後、上のように記述します。なお、{\mathBB}{\mathCC} の部分については {\@mathBB}{\@mathCC} のように @ をつけた記述をしてもかまいません (互換性のため)。上のような命令を発行すると、\mathAA が、欧文に対しては \mathBB、 和文に対しては \mathCC の意味を持つようになります。通常は、\reDeclareMathAlphabet{\mathrm}{\mathrm}{\mathrm}{\mathrm} \mathrm} o ように AA=BB として用います。また、\mathrm は IFTEX kernel において標準のコマンドとして既に定義されているので、この場合は \mathrm の再定義となります。native mode での \rm のような two letter command (old font command) に対しても同様なことが引きおこります。つまり、数式モードにおいて、新たな \rm は、IFTEX originalの \rm と \mc (正確に言えば \mathrm と \mathrm と \mathrm であるが) の意味を合わせ持つようになります。

補足

- \mathAA を再定義する他の命令 (\DeclareSymbolFontAlphabet を用いるパッケージの使用等) との衝突を避けるためには、\AtBeginDocument を併用するなどして展開位置の制御を行ってください。
- テキストモード時のエラー表示用に \mathBB のみを用いることを除いて、 \mathBB と \mathCC の順は実際には意味を持ちません。和文、欧文の順に定

義しても問題はありません。

- 第 2,3 引き数には {\@mathBB}{\@mathCC} のように @ をつけた記述も行えます。ただし、形式は統一してください。判断は第 2 引き数で行っているため、 {\@mathBB}{\mathCC} のような記述ではうまく動作しません。また、\makeatletter な状態で {\@mathBB }{\@mathCC } のような @ と余分なスペースをつけた場合には無限ループを引き起こすことがあります。このような記述は避けるようにして下さい。
- \reDeclareMathAlphabet を実行する際には、\mathBB, \mathCC が定義されている必要はありません。実際に \mathAA を用いる際にはこれらの \mathBB, \mathCC が (p)I4TFX 標準の方法で定義されている必要があります。
- 他の部分で \mathAA を全く定義しない場合を除き、\mathAA は \reDeclareMathAlphabet を実行する以前で (p)IATEX 標準の方法で定義されている必要があります (\mathrm や \mathbf の標準的なコマンドは、IATEX kernel で既に定義されています)。 \DeclareMathAlphabet の場合には、\reDeclareMathAlphabet よりも前で1度 \mathAA を定義してあれば、\reDeclareMathAlphabet の後ろで再度 \DeclareMathAlphabet を用いて \mathAA の内部の定義内容を変更することには問題ありません。 \DeclareSymbolFontAlphabet の場合、再定義においても \mathAA が直接定義されるので、\mathAA に対する最後の\DeclareSymbolFontAlphabet のさらに後で \reDeclareMathAlphabet を実行しなければ有効とはなりません。
- \documentstyle の互換モードの場合、\rm 等の two letter command (old font command) は、\reDeclareMathAlphabet とは関連することのない別個のコマンドとして定義されます。従って、この場合には \reDeclareMathAlphabet を用いても \rm 等は数式モードにおいて欧文・和文両用のものとはなりません。

```
718 \def\reDeclareMathAlphabet#1#2#3{%
    \edef#1{\noexpand\protect\expandafter\noexpand\csname%
719
      \expandafter\@gobble\string#1\space\space\endcsname}%
720
    \edef\@tempa{\expandafter\@gobble\string#2}%
721
    \edef\@tempb{\expandafter\@gobble\string#3}%
722
    \edef\@tempc{\string @\expandafter\@gobbletwo\string#2}%
723
    \ifx\@tempc\@tempa%
724
      \edef\@tempa{\expandafter\@gobbletwo\string#2}%
725
      \edef\@tempb{\expandafter\@gobbletwo\string#3}%
726
727
    \expandafter\edef\csname\expandafter\@gobble\string#1\space\space\endcsname%
728
729
      {\noexpand\DualLang@mathalph@bet%
730
        {\expandafter\noexpand\csname\@tempa\space\endcsname}%
        731
```

```
732
     }%
733 }
734 \@onlypreamble\reDeclareMathAlphabet
735 \def\DualLang@mathalph@bet#1#2{%
     \relax\ifmmode
737
       \ifx\math@bgroup\bgroup%
                                     2e normal style
                                                          (\mathrm{...})
         \bgroup\let\DualLang@Mfontsw\DLMfontsw@standard
738
       \else
739
         \ifx\math@bgroup\relax%
740
                                     2e two letter style (\rm->\mathrm)
           \let\DualLang@Mfontsw\DLMfontsw@oldstyle
741
742
           \ifx\math@bgroup\@empty% 2.09 oldlfont style ({\mathrm ...})
743
             \let\DualLang@Mfontsw\DLMfontsw@oldlfont
744
                                     panic! assume 2e normal style
             \bgroup\let\DualLang@Mfontsw\DLMfontsw@standard
746
           \fi
747
         \fi
748
       \fi
749
     \else
750
       \let\DualLang@Mfontsw\@firstoftwo
751
752
     \DualLang@Mfontsw{#1}{#2}%
753
755 \def\DLMfontsw@standard#1#2#3{#1{#2{#3}}\egroup}
756 \def\DLMfontsw@oldstyle#1#2{#1\relax\@fontswitch\relax{#2}}
757 \def\DLMfontsw@oldlfont#1#2{#1\relax#2\relax}
```

7.2.4 従属書体の宣言

\DeclareRelationFont \SetRelationFont

和文書体に対する従属書体を宣言するコマンドです。**従属書体**とは、ある和文書体とペアになる欧文書体のことです。主に多書体パッケージ skfonts を用いるための仕組みです。

\DeclareRelationFont コマンドの最初の4つの引数の組が和文書体の属性、その後の4つの引数の組が従属書体の属性です。

```
\DeclareRelationFont{JY1}{mc}{m}{n}{OT1}{cmr}{m}{n}
\DeclareRelationFont{JY1}{gt}{m}{n}{OT1}{cmr}{bx}{n}
```

上記の例は、明朝体の従属書体としてコンピュータモダンローマン、ゴシック体の従属書体としてコンピュータモダンボールドを宣言しています。カレント和文書体が\JY1/mc/m/nとなると、自動的に欧文書体が\OT1/cmr/m/nになります。また、和文書体が\JY1/gt/m/nになったときは、欧文書体が\OT1/cmr/bx/nになります。和文書体のシェイプ指定を省略するとエンコード/ファミリ/シリーズの組合せで従属書体が使われます。このときは、\selectfontが呼び出された時点でのシェイプ(\f@shape)の値が使われます。

\DeclareRelationFontの設定値はグローバルに有効です。\SetRelationFontの設定値はローカルに有効です。フォント定義ファイルで宣言をする場合は、\DeclareRelationFontを使ってください。

758 $\def\all@shape{all}%$

```
759 \def\DeclareRelationFont#1#2#3#4#5#6#7#8{%
                 \def\rel@shape{#4}%
            761
                 \ifx\rel@shape\@empty
                    \global
            762
            763
                    \expandafter\def\csname rel@#1/#2/#3/all\endcsname{%
            764
                      \romanencoding{#5}\romanfamily{#6}%
                      \romanseries{#7}}%
            765
            766
                    \global
            767
            768
                    \expandafter\def\csname rel@#1/#2/#3/#4\endcsname{%
                      \romanencoding{#5}\romanfamily{#6}%
            769
                      \romanseries{#7}\romanshape{#8}}%
            770
                 \fi
            771
            772 }
            773 \def\SetRelationFont#1#2#3#4#5#6#7#8{%
            774
                 \def\rel@shape{#4}%
                 \ifx\rel@shape\@empty
            775
                    \expandafter\def\csname rel@#1/#2/#3/all\endcsname{%
            776
                      \romanencoding{#5}\romanfamily{#6}%
            777
            778
                      \romanseries{#7}}%
            779
                \else
                    \expandafter\def\csname rel@#1/#2/#3/#4\endcsname{%
            780
                      \romanencoding{#5}\romanfamily{#6}%
            781
                      \romanseries{#7}\romanshape{#8}}%
            782
                 \fi
            783
            784 }
\if@knjcmd \if@knjcmd は欧文書体を従属書体にするかどうかのフラグです。このフラグが真
            になると、欧文書体に従属書体が使われます。
            785 \newif\if@knjcmd
           \if@knjcmd フラグは \userelfont コマンドによって、真となります。そして
\userelfont
            \selectfont 実行後には偽に初期化されます。
            786 (/plcore)
            788 (platexrelease)
                                             {Make robust}%
            789 (*plcore | platexrelease)
            790 \DeclareRobustCommand\userelfont{\@knjcmdtrue}
            791 (/plcore | platexrelease)
            792 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
            793 \ \langle platexrelease \rangle \ \ | lincludeInRelease \{0000/00/00\} \{ \ \ \ \ \ \} \}
            794 (platexrelease)
                                             {ASCII Corporation original}%
            795 (platexrelease)\def\userelfont{\@knjcmdtrue}
```

```
796 \langle platexrelease \rangle \cdot \sqrt{platexrelease} \cdot \sqrt{plat
```

7.2.5 フォントの選択

\selectfont \selectfont のオリジナルからの変更部分は、次の3点です。

- 和文書体を変更する部分
- 従属書体に変更する部分
- 和欧文のベースラインを調整する部分

```
799 (/plcore)
{Check \KanjiEncodingPair}%
801 (platexrelease | trace)
802 (*plcore | platexrelease | trace)
803 \ifx\delayed@f@adjustment\@undefined \% --- for <= 2020-10-01 BEGIN
804 %%
805 \DeclareRobustCommand\selectfont{%
    \let\tmp@error@fontshape\error@fontshape
    \let\error@fontshape\error@kfontshape
807
    \edef\tmp@item{{\k@encoding}}%
    \expandafter\expandafter\expandafter
    \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\kyenc@list}%
811
    \ifin@
      \let\cy@encoding\k@encoding
812
      \ensure@KanjiEncodingPair{t}%
813
      \edef\ct@encoding{\csname t@enc@\k@encoding\endcsname}%
814
815
      \expandafter\expandafter\expandafter
816
       \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\ktenc@list}%
817
818
         \let\ct@encoding\k@encoding
820
         \ensure@KanjiEncodingPair{y}%
         \edef\cy@encoding{\csname y@enc@\k@encoding\endcsname}%
821
822
       \else
         \@latex@error{KANJI Encoding scheme '\k@encoding' unknown}\@eha
823
      \fi
824
    \fi
825
    \let\font\tfont
826
    \let\k@encoding\ct@encoding
827
    \xdef\font@name{\csname\curr@kfontshape/\f@size\endcsname}%
828
    \pickup@font
    \font@name
    \let\font\jfont
832
    \let\k@encoding\cy@encoding
833
    \xdef\font@name{\csname\curr@kfontshape/\f@size\endcsname}%
```

```
\pickup@font
834
835
    \font@name
    \expandafter\def\expandafter\k@encoding\tmp@item
    \kenc@update
    \let\error@fontshape\tmp@error@fontshape
838
839
    \if@knjcmd \@knjcmdfalse
840
       \expandafter\ifx
       \verb|\csname rel0\k@encoding/\k@family/\k@series/\k@shape\endcsname\relax| \\
841
842
         \expandafter\ifx
            \csname rel@\k@encoding/\k@family/\k@series/all\endcsname\relax
843
         \else
844
            \csname rel@\k@encoding/\k@family/\k@series/all\endcsname
845
         \fi
846
       \else
847
          \csname rel@\k@encoding/\k@family/\k@series/\k@shape\endcsname
848
      \fi
849
    \fi
850
    \let\font\afont
851
    \xdef\font@name{\csname\curr@fontshape/\f@size\endcsname}%
852
    \pickup@font
853
854
    \font@name
          \ifnum \tracingfonts>\tw@
855 (trace)
            \OfontOinfo{Roman:Switching to \fontOname}\fi
     \enc@update
    \ifx\f@linespread\baselinestretch \else
      \set@fontsize\baselinestretch\f@size\f@baselineskip
859
860
    \fi
    \size@update}
861
862 %%
863 \ensuremath{\setminus} else
               \% --- for <= 2020-10-01 END & for >= 2021-06-01 BEGIN
864 %%
865 \DeclareRobustCommand\selectfont{%
最初に和文の処理を完了させてから、欧文(従属欧文かもしれません)の処理に入
る必要があります。それぞれで「遅らせていたシリーズ・シェイプの値更新→フォ
ントの切り替え」を行います。
  和文:遅らせていたシリーズ・シェイプの値更新。
    \% !! sync with ltfsstrc.dtx 2021/04/26 v3.0o BEGIN
867
     \ifx\delayed@k@adjustment\@empty
868
    \else
869
       \let\k@shape@saved\k@shape
870
       \let\k@series@saved\k@series
       \delayed@k@adjustment
871
       \begingroup\let\f@encoding\k@encoding\let\f@family\k@family
872
         \maybe@load@fontshape\endgroup
873
       \ifcsname \k@encoding/\k@family/\k@series/\k@shape \endcsname
874
875
         \let\k@shape\k@shape@saved
876
877
         \let\k@series\k@series@saved
```

```
\let\delayed@merge@kanji@shape\merge@kanji@shape
878
         \let\delayed@merge@kanji@series\merge@kanji@series
879
         \delayed@k@adjustment
880
         \let\delayed@merge@kanji@shape\merge@kanji@shape@without@substitution
881
882
         \let\delayed@merge@kanji@series\merge@kanji@series@without@substitution
883
       \let\delayed@k@adjustment\@empty
884
885
     \@forced@series@kanjifalse
886
     % !! sync with ltfsstrc.dtx 2021/04/26 v3.0o END
和文:フォントの切り替え。
     \let\tmp@error@fontshape\error@fontshape
     \let\error@fontshape\error@kfontshape
889
     \edef\tmp@item{{\k@encoding}}%
890
     \expandafter\expandafter\expandafter
891
892
     \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\kyenc@list}%
893
     \ifin@
       \let\cy@encoding\k@encoding
894
       \ensure@KanjiEncodingPair{t}%
       \edef\ct@encoding{\csname t@enc@\k@encoding\endcsname}%
897
       \expandafter\expandafter\expandafter
898
       \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\ktenc@list}%
899
900
         \let\ct@encoding\k@encoding
901
         \ensure@KanjiEncodingPair{y}%
902
         \edef\cy@encoding{\csname y@enc@\k@encoding\endcsname}%
903
904
905
         \@latex@error{KANJI Encoding scheme '\k@encoding' unknown}\@eha
906
       \fi
907
     \fi
908
     \let\font\tfont
909
     \let\k@encoding\ct@encoding
     \xdef\font@name{\csname\curr@kfontshape/\f@size\endcsname}%
910
     \pickup@font
911
     \font@name
912
913
    \let\font\jfont
    \let\k@encoding\cy@encoding
    \xdef\font@name{\csname\curr@kfontshape/\f@size\endcsname}%
    \pickup@font
    \font@name
    \expandafter\def\expandafter\k@encoding\tmp@item
918
919
     \kenc@update
     \let\error@fontshape\tmp@error@fontshape
```

以上で、和文の処理が完了。

従属欧文を使う(\if@knjcmdが真の)場合は、和文書体が確定したこの段階で「関連付けされた欧文書体」に値を更新します。\rel0../../.. で \romanseries

と \romanshape が実行される (すなわち \delayed@f@adjustment に追加が入る) ことに注意してください。なお、\if@knjcmd フラグは \userelfont コマンドによって真となり、以下で再び偽にリセットされます。

```
\if@knjcmd \@knjcmdfalse
922
      \expandafter\ifx
      \csname rel@\k@encoding/\k@family/\k@series/\k@shape\endcsname\relax
923
         \expandafter\ifx
924
           \csname rel@\k@encoding/\k@family/\k@series/all\endcsname\relax
925
926
        \else
927
           \csname rel@\k@encoding/\k@family/\k@series/all\endcsname
        \fi
928
      \else
929
         \csname rel@\k@encoding/\k@family/\k@series/\k@shape\endcsname
931
      \fi
    \fi
932
欧文:遅らせていたシリーズ・シェイプの値更新。
    % !! sync with ltfsstrc.dtx 2021/04/26 v3.0o BEGIN
    \ifx\delayed@f@adjustment\@empty
935
936
      \let\f@shape@saved\f@shape
937
      \let\f@series@saved\f@series
      \delayed@f@adjustment
938
      \maybe@load@fontshape
939
      940
      \else
941
        \let\f@shape\f@shape@saved
942
943
        \let\f@series\f@series@saved
944
        \let\delayed@merge@font@shape\merge@font@shape
        \let\delayed@merge@font@series\merge@font@series
946
         \delayed@f@adjustment
        \let\delayed@merge@font@shape\merge@font@shape@without@substitution
947
948
        \let\delayed@merge@font@series\merge@font@series@without@substitution
      \fi
949
      \let\delayed@f@adjustment\@empty
950
951
    \@forced@seriesfalse
952
    % !! sync with ltfsstrc.dtx 2021/04/26 v3.0o END
欧文:フォントの切り替え。
    \let\font\afont
    \xdef\font@name{\csname\curr@fontshape/\f@size\endcsname}%
955
956
    \pickup@font
    \font@name
957
    \UseHook{selectfont}% since LaTeX2e 2021-06-01
    \enc@update
```

最後に、サイズが変更されていれば、ベースラインの調整などを行ないます。英語版の \selectfont では最初に行なっていますが、 $pIAT_{PX} 2_{\varepsilon}$ ではベースラインシフト

```
の調整をするために、書体を確定しなければならないため、一番最後に行ないます
      \ifx\f@linespread\baselinestretch \else
        \set@fontsize\baselinestretch\f@size\f@baselineskip
962
      \fi
963
      \size@update}
964 %%
                   \% --- for >= 2021-06-01 END
965 \fi
966 \langle /plcore \mid platexrelease \mid trace \rangle
967 ⟨platexrelease | trace⟩\plEndIncludeInRelease
969 \langle platexrelease \mid trace \rangle
                                              {ASCII Corporation original}%
970 ⟨platexrelease | trace⟩\DeclareRobustCommand\selectfont{%
971 (platexrelease | trace) \let\tmp@error@fontshape\error@fontshape
972 \place\rmathrm{place} \text{trace} \text{let\error@fontshape\error@kfontshape}
973 (platexrelease | trace)
                          \edef\tmp@item{{\k@encoding}}%
974 (platexrelease | trace)
                          \expandafter\expandafter\expandafter
975 (platexrelease | trace)
                          \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\kyenc@list}%
976 (platexrelease | trace)
                          \ifin@
977 (platexrelease | trace)
                            \let\cy@encoding\k@encoding
978 (platexrelease | trace)
                            \edef\ct@encoding{\csname t@enc@\k@encoding\endcsname}%
979 (platexrelease | trace)
980 (platexrelease | trace)
                            \expandafter\expandafter\expandafter
981 (platexrelease | trace)
                            \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\ktenc@list}%
982 \langle platexrelease | trace \rangle
                            \ifin@
983 (platexrelease | trace)
                               \let\ct@encoding\k@encoding
984 (platexrelease | trace)
                               \edef\cy@encoding{\csname y@enc@\k@encoding\endcsname}%
985 (platexrelease | trace)
                            \else
                               \@latex@error{KANJI Encoding scheme '\k@encoding' unknown}\@eha
986 (platexrelease | trace)
987 \langle platexrelease \mid trace \rangle
                            \fi
988 \langle platexrelease \mid trace \rangle
                          \fi
989 (platexrelease | trace)
                          \let\font\tfont
990 (platexrelease | trace)
                          \let\k@encoding\ct@encoding
991 (platexrelease | trace)
                          \xdef\font@name{\csname\curr@kfontshape/\f@size\endcsname}%
992 (platexrelease | trace)
                          \pickup@font
993 (platexrelease | trace)
                          \font@name
994 (platexrelease | trace)
                          \let\font\jfont
995 (platexrelease | trace)
                          \let\k@encoding\cy@encoding
                          \xdef\font@name{\csname\curr@kfontshape/\f@size\endcsname}%
996 (platexrelease | trace)
997 (platexrelease | trace)
                          \pickup@font
998 (platexrelease | trace)
                          \font@name
999 \; \langle \mathsf{platexrelease} \; | \; \mathsf{trace} \rangle
                          \expandafter\def\expandafter\k@encoding\tmp@item
1000 (platexrelease | trace)
                          \kenc@update
1001 (platexrelease | trace)
                          \let\error@fontshape\tmp@error@fontshape
1002 (platexrelease | trace)
                          \if@knjcmd \@knjcmdfalse
1003 (platexrelease | trace)
                            \expandafter\ifx
1004 (platexrelease | trace)
                            \verb|\csname rel0\k@encoding/\k@family/\k@series/\k@shape\endcsname\\|
1005 (platexrelease | trace)
                               \expandafter\ifx
1006 (platexrelease | trace)
                                  \csname rel@\k@encoding/\k@family/\k@series/all\endcsname\relax
1007 (platexrelease | trace)
                               \else
```

```
1008 (platexrelease | trace)
                                                \csname rel@\k@encoding/\k@family/\k@series/all\endcsname
               1009 (platexrelease | trace)
                                             \fi
                                           \else
               1010 (platexrelease | trace)
               1011 (platexrelease | trace)
                                              \csname rel@\k@encoding/\k@family/\k@series/\k@shape\endcsname
                                           \fi
               1012 (platexrelease | trace)
               1013 (platexrelease | trace)
                                        \fi
               1014 (platexrelease | trace)
                                        \let\font\afont
               1015 (platexrelease | trace)
                                         \xdef\font@name{\csname\curr@fontshape/\f@size\endcsname}%
               1016 (platexrelease | trace)
                                         \pickup@font
               1017 (platexrelease | trace)
                                        \font@name
               1018 (*trace)
               1019 (platexrelease | trace)
                                         \ifnum \tracingfonts>\tw@
               1020 (platexrelease | trace)
                                           \@font@info{Roman:Switching to \font@name}\fi
               1021 (/trace)
               1022 (platexrelease | trace)
                                         \enc@update
                                         \ifx\f@linespread\baselinestretch \else
               1023 (platexrelease | trace)
               1024 (platexrelease | trace)
                                           \set@fontsize\baselinestretch\f@size\f@baselineskip
               1025 (platexrelease | trace)
                                         \fi
               1026 (platexrelease | trace)
                                        \size@update}
               1027 ⟨platexrelease | trace⟩\plEndIncludeInRelease
               1028 (*plcore)
\set@fontsize \fontsize コマンドの内部形式です。ベースラインの設定と、支柱の設定を行ない
                ます。
               1029 (/plcore)
               1030 \(\rangle platexrelease \| \text{trace} \rangle plIncludeInRelease{2017/04/08}{\set@fontsize}
               1031 (platexrelease | trace)
                                                           {Construct \ystrutbox}%
               1032 (*plcore | platexrelease | trace)
               1033 \def\set@fontsize#1#2#3{%
                        \@defaultunits\@tempdimb#2pt\relax\@nnil
               1034
                        \edef\f@size{\strip@pt\@tempdimb}%
               1035
                        \@defaultunits\@tempskipa#3pt\relax\@nnil
               1036
                        \edef\f@baselineskip{\the\@tempskipa}%
               1037
                        \edef\f@linespread{#1}%
               1038
                        \let\baselinestretch\f@linespread
               1039
                        \def\size@update{%
               1040
                          \baselineskip\f@baselineskip\relax
               1041
               1042
                          \baselineskip\f@linespread\baselineskip
               1043
                          \normalbaselineskip\baselineskip
                ここで、ベースラインシフトの調整と支柱を組み立てます。
                          \adjustbaseline
               1044
                          \setbox\ystrutbox\hbox{\yoko
               1045
                              \vrule\@width\z@
               1046
                                     \@height.7\baselineskip \@depth.3\baselineskip}%
               1047
                          \setbox\tstrutbox\hbox{\tate
               1048
               1049
                              \vrule\@width\z@
                                     \@height.5\baselineskip \@depth.5\baselineskip}%
               1050
               1051
                          \setbox\zstrutbox\hbox{\tate
```

```
1052
                \vrule\@width\z@
                       \@height.7\baselineskip \@depth.3\baselineskip}%
1053
 フォントサイズとベースラインに関する診断情報を出力します。
1054 (*trace)
         \ifnum \tracingfonts>\tw@
1055
1056
           \ifx\f@linespread\@empty
1057
              \let\reserved@a\@empty
1058
              \def\reserved@a{\f@linespread x}%
1059
1060
           \fi
           \verb|\@font@info{Changing size to}| space
1061
                   \f@size/\reserved@a \f@baselineskip}%
1062
           \aftergroup\type@restoreinfo
1063
         \fi
1064
1065 \langle / trace \rangle
1066
              \let\size@update\relax}}
1067 (/plcore | platexrelease | trace)
1068 ⟨platexrelease | trace⟩\plEndIncludeInRelease
1069 \(\rangle platexrelease \| \trace \\\rangle plIncludeInRelease \{ 0000/00/00 \} \\\set@fontsize \}
1070 (platexrelease | trace)
                                               {ASCII Corporation original}%
1071 (platexrelease | trace)\def\set@fontsize#1#2#3{%
1072 (platexrelease | trace)
                             \@defaultunits\@tempdimb#2pt\relax\@nnil
                             \edef\f@size{\strip@pt\@tempdimb}%
1073 (platexrelease | trace)
1074 \langle platexrelease \mid trace \rangle
                             \@defaultunits\@tempskipa#3pt\relax\@nnil
1075 (platexrelease | trace)
                             \edef\f@baselineskip{\the\@tempskipa}%
1076 (platexrelease | trace)
                             \edef\f@linespread{#1}%
1077 (platexrelease | trace)
                             \let\baselinestretch\f@linespread
1078 (platexrelease | trace)
                             \def\size@update{%
1079 (platexrelease | trace)
                                \baselineskip\f@baselineskip\relax
1080 (platexrelease | trace)
                                \baselineskip\f@linespread\baselineskip
1081 (platexrelease | trace)
                                \normalbaselineskip\baselineskip
1082 (platexrelease | trace)
                                \adjustbaseline
                                \setbox\strutbox\hbox{\yoko
1083 (platexrelease | trace)
1084 (platexrelease | trace)
                                    \vrule\@width\z@
1085 \langle platexrelease \mid trace \rangle
                                           \@height.7\baselineskip \@depth.3\baselineskip}%
1086 (platexrelease | trace)
                                \setbox\tstrutbox\hbox{\tate
1087 (platexrelease | trace)
                                    \vrule\@width\z@
1088 (platexrelease | trace)
                                           \@height.5\baselineskip \@depth.5\baselineskip}%
                                \setbox\zstrutbox\hbox{\tate
1089 (platexrelease | trace)
1090 (platexrelease | trace)
                                    \vrule\@width\z@
1091 (platexrelease | trace)
                                           \@height.7\baselineskip \@depth.3\baselineskip}%
1092 (*trace)
1093 (platexrelease | trace)
                              \ifnum \tracingfonts>\tw@
1094 (platexrelease | trace)
                                \ifx\f@linespread\@empty
1095 (platexrelease | trace)
                                  \let\reserved@a\@empty
1096 (platexrelease | trace)
                                \else
1097 (platexrelease | trace)
                                  \def\reserved@a{\f@linespread x}%
1098 (platexrelease | trace)
```

\@font@info{Changing size to\space

1099 (platexrelease | trace)

```
\label{limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limited_limit
```

\adjustbaseline

現在の和文フォントの空白(EUC コード 0xA1A1)の中央に現在の欧文フォントの "/" の中央がくるようにベースラインシフトを設定します。

当初はまずベースラインシフト量をゼロにしていましたが、\tbaselineshiftを連続して変更した後に鈎括弧類を使うと余計なアキがでる問題が起こるため、\tbaselineshiftをゼロクリアする処理を削除しました。

しかし、それではベースラインシフトを調整済みの欧文ボックスと比較してしまうため、計算した値が大きくなってしまいます。そこで、このボックスの中でゼロにするようにしました。また、"/"と比較していたのを"M"にしました。

全角空白(EUC コード 0xA1A1)は JFM で特殊なタイプに分類される可能性があるため、和文書体の基準を「漢」(JIS コード 0x3441)へ変更しました。

- 1107 \newbox\adjust@box
- 1108 \newdimen\adjust@dimen
- 1109 (/plcore)
- 1110 (platexrelease | trace)\plIncludeInRelease{2019/10/01}{\adjustbaseline}
- 1111 (platexrelease | trace)

{Make robust}%

- 1112 (*plcore | platexrelease | trace)
- 1113 \DeclareRobustCommand\adjustbaseline{%

和文フォントの基準値を設定します。

- $\label{lem:limit} $$1114 \qquad \ensuremath{\char\jis"3441}\%"$$
- 1115 \cht\ht\adjust@box
- 1116 \cdp\dp\adjust@box
- 1117 \cwd\wd\adjust@box
- 1118 \cvs\normalbaselineskip
- 1119 \chs\cwd
- 1120 \cHT\cht \advance\cHT\cdp

基準となる欧文フォントの文字を含んだボックスを作成し、ベースラインシフト量の計算を行ないます。計算式は次のとおりです。

ベースラインシフト量 =
$$\{(漢の深さ) - (M \ o深さ)\}$$

$$- (漢の高さ + 深さ) - (M \ o 高さ + 深さ)$$
2

1121 \iftdir

File c: plfonts.dtx Date: 2021/06/27 Version v1.7n

```
\setbox\adjust@box\hbox{\tbaselineshift\z@ M}%
1122
        \adjust@dimen\ht\adjust@box
1123
        \advance\adjust@dimen\dp\adjust@box
1124
        \advance\adjust@dimen-\cHT
1125
1126
        \divide\adjust@dimen\tw@
        \advance\adjust@dimen\cdp
1127
        \advance\adjust@dimen-\dp\adjust@box
1128
         \tbaselineshift\adjust@dimen
1129
1130 (trace)
               \ifnum \tracingfonts>\tw@
                 \typeout{baselineshift:\the\tbaselineshift}%
1131 (trace)
1132 (trace)
               \fi
1133
      fi
1134 (/plcore | platexrelease | trace)
1135 (platexrelease | trace)\plEndIncludeInRelease
1136 (platexrelease | trace)\plIncludeInRelease{2017/07/29}{\adjustbaseline}
1137 (platexrelease | trace)
                                             {Change zenkaku reference}%
1138 (platexrelease | trace)\def\adjustbaseline{%
1139 (platexrelease | trace)
                            \setbox\adjust@box\hbox{\char\jis"3441}%"
1140 (platexrelease | trace)
                            \t \t \Delta just@box
                            \cdp\dp\adjust@box
1141 (platexrelease | trace)
1142 (platexrelease | trace)
                            \cwd\wd\adjust@box
1143 (platexrelease | trace)
                            \cvs\normalbaselineskip
1144 (platexrelease | trace)
                            \chs\cwd
1145 (platexrelease | trace)
                            \cHT\cht \advance\cHT\cdp
1146 (platexrelease | trace)
                          \iftdir
                            \setbox\adjust@box\hbox{\tbaselineshift\z@ M}%
1147 (platexrelease | trace)
1148 (platexrelease | trace)
                            \adjust@dimen\ht\adjust@box
1149 (platexrelease | trace)
                            \advance\adjust@dimen\dp\adjust@box
1150 (platexrelease | trace)
                            \advance\adjust@dimen-\cHT
1151 (platexrelease | trace)
                            \divide\adjust@dimen\tw@
1152 (platexrelease | trace)
                            \advance\adjust@dimen\cdp
1153 (platexrelease | trace)
                            \advance\adjust@dimen-\dp\adjust@box
1154 (platexrelease | trace)
                            \tbaselineshift\adjust@dimen
1155 (*trace)
1156 (platexrelease | trace)
                            \ifnum \tracingfonts>\tw@
1157 (platexrelease | trace)
                              \typeout{baselineshift:\the\tbaselineshift}%
1158 (platexrelease | trace)
1159 (/trace)
1160 (platexrelease | trace) \fi}
1161 (platexrelease | trace)\expandafter \let \csname adjustbaseline \endcsname \@undefined
1162 \(\rangle platexrelease \) \(\rangle plEndIncludeInRelease \)
1164 (platexrelease | trace)
                                             {ASCII Corporation original}%
1165 (platexrelease | trace)\def\adjustbaseline{%
1166 (platexrelease | trace)
                            \setbox\adjust@box\hbox{\char\euc"A1A1}%"
1167 (platexrelease | trace)
                            \cht\ht\adjust@box
1168 (platexrelease | trace)
                            \cdp\dp\adjust@box
1169 (platexrelease | trace)
                            \cwd\wd\adjust@box
                            \cvs\normalbaselineskip
1170 (platexrelease | trace)
1171 (platexrelease | trace)
                            \chs\cwd
```

```
1172 (platexrelease | trace)
                             \cHT\cht \advance\cHT\cdp
1173 (platexrelease | trace)
                           \iftdir
1174 (platexrelease | trace)
                             \setbox\adjust@box\hbox{\tbaselineshift\z@ M}%
1175 (platexrelease | trace)
                             \adjust@dimen\ht\adjust@box
1176 (platexrelease | trace)
                             \advance\adjust@dimen\dp\adjust@box
1177 (platexrelease | trace)
                             \advance\adjust@dimen-\cHT
1178 (platexrelease | trace)
                             \divide\adjust@dimen\tw@
1179 (platexrelease | trace)
                             \advance\adjust@dimen\cdp
                             \advance\adjust@dimen-\dp\adjust@box
1180 (platexrelease | trace)
1181 (platexrelease | trace)
                             \tbaselineshift\adjust@dimen
1182 (*trace)
1183 (platexrelease | trace)
                             \ifnum \tracingfonts>\tw@
1184 (platexrelease | trace)
                                \typeout{baselineshift:\the\tbaselineshift}
1185 (platexrelease | trace)
                             \fi
1186 (/trace)
1187 (platexrelease | trace) \fi}
1188 (platexrelease | trace) \expandafter \let \csname adjustbaseline \endcsname \@undefined
1189 (platexrelease | trace)\plEndIncludeInRelease
1190 (*plcore)
```

7.2.6 エンコードの指定

\romanencoding \kanjiencoding

書体のエンコードを指定するコマンドです。\fontencoding コマンドは和欧文のど ちらかに影響します。\DeclareKanjiEncodingで指定されたエンコードは和文エ \fontencoding ンコードとして、\DeclareFontEncoding で指定されたエンコードは欧文エンコー ドとして認識されます。

> \kanjiencoding と \romanencoding は与えられた引数が、エンコードとして登 録されているかどうかだけを確認し、それが和文か欧文かのチェックは行なってい ません。そのため、高速に動作をしますが、\kanjiencodingに欧文エンコードを 指定したり、逆に \romanencoding に和文エンコードを指定した場合はエラーとな ります。

```
1191 \DeclareRobustCommand\romanencoding[1] {%
        \expandafter\ifx\csname T@#1\endcsname\relax
1193
          \@latex@error{Encoding scheme '#1' unknown}\@eha
1194
        \else
1195
          \edef\f@encoding{#1}%
          \ifx\cf@encoding\f@encoding
1196
            \let\enc@update\relax
1197
          \else
1198
            \let\enc@update\@@enc@update
1199
1200
          \fi
        \fi
1201
1202
1203 \DeclareRobustCommand\kanjiencoding[1]{%
        \expandafter\ifx\csname T@#1\endcsname\relax
1204
          \@latex@error{KANJI Encoding scheme '#1' unknown}\@eha
1205
```

```
1206
        \else
          \edef\k@encoding{#1}%
1207
          \ifx\ck@encoding\k@encoding
1208
1209
             \let\kenc@update\relax
1210
          \else
1211
              \let\kenc@update\@@kenc@update
          \fi
1212
1213
        \fi
1214 }
1215 \DeclareRobustCommand\fontencoding[1]{%
      \edef\tmp@item{{#1}}%
1216
      \expandafter\expandafter\expandafter
1217
      \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\kenc@list}%
      \ifin@ \kanjiencoding{#1}\else\romanencoding{#1}\fi}
1219
```

\@@kenc@update

\kanjiencoding コマンドのコードからもわかるように、\ck@encoding と \k@encoding が異なる場合、\kenc@update コマンドは \@@kenc@update コマンドと等しくなります。

\@@kenc@update コマンドは、そのエンコードでのデフォルト値を設定するためのコマンドです。欧文用の \@@enc@update コマンドでは、1221 行目と 1222 行目のような代入もしていますが、和文用にはコメントにしてあります。これらは \DeclareTextCommand や \ProvideTextCommand などでエンコードごとに設定されるコマンドを使うための仕組みです。しかし、和文エンコードに依存するようなコマンドやマクロを作成することは、現時点では、ないと思います。

```
1220 \def\@@kenc@update{%
1221 % \expandafter\let\csname\ck@encoding -cmd\endcsname\@changed@kcmd
1222 % \expandafter\let\csname\k@encoding-cmd\endcsname\@current@cmd
1223 \default@KT
      \csname T@\k@encoding\endcsname
1224
1225
      \csname D@\k@encoding\endcsname
1226
      \let\kenc@update\relax
1227
      \let\ck@encoding\k@encoding
      \edef\tmp@item{{\k@encoding}}%
1228
1229
      \expandafter\expandafter\expandafter
      \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\kyenc@list}%
1230
      \ifin@ \let\cy@encoding\k@encoding
1231
1232
      \else
        \expandafter\expandafter\expandafter
1233
1234
        \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\ktenc@list}%
        \ifin@ \let\ct@encoding\k@encoding
1235
        \else
1236
          \@latex@error{KANJI Encoding scheme '\k@encoding' unknown}\@eha
1237
        \fi
1238
1239
      \fi
1240 }
1241 \let\kenc@update\relax
```

```
\@changed@kcmd \@changed@cmd の和文エンコーディングバージョン。
```

```
1242 \def\@changed@kcmd#1#2{%
1243
       \ifx\protect\@typeset@protect
1244
          \@inmathwarn#1%
1245
          \expandafter\ifx\csname\ck@encoding\string#1\endcsname\relax
1246
             \expandafter\ifx\csname ?\string#1\endcsname\relax
1247
                 \expandafter\def\csname ?\string#1\endcsname{%
1248
                    \TextSymbolUnavailable#1%
                }%
1249
             \fi
1250
             \global\expandafter\let
1251
                    \csname\cf@encoding \string#1\expandafter\endcsname
1252
                    \csname ?\string#1\endcsname
1253
1254
          \fi
          \csname\ck@encoding\string#1%
1255
             \expandafter\endcsname
1256
1257
1258
          \noexpand#1%
1259
       fi
```

7.2.7 ファミリの指定

\@notkfam \fontfamily コマンド内で使用するフラグです。@notkfam フラグは和文ファミリ \@notffam でなかったことを、@notffam フラグは欧文ファミリでなかったことを示します。

```
1260 \newif\if@notkfam
1261 \newif\if@notffam
```

1262 \newif\if@tempswz

\romanfamily 書体のファミリを指定するコマンドです。

\kanjifamily

\kanjifamily と \romanfamily は与えられた引数が、和文あるいは欧文のファ \fontfamily ミリとして正しいかのチェックは行なっていません。そのため、高速に動作をします が、\kanjifamilyに欧文ファミリを指定したり、逆に\romanfamilyに和文ファミ リを指定した場合は、エラーとなり、代用フォントかエラーフォントが使われます。

```
1263 \DeclareRobustCommand\romanfamily[1]{\edef\f@family{#1}}
1264 \DeclareRobustCommand\kanjifamily[1] {\edef\k@family{#1}}
```

\fontfamily は、指定された値によって、和文ファミリか欧文ファミリ、**あるい** は両方のファミリを切り替えます。和欧文ともに無効なファミリ名が指定された場 合は、和欧文ともに代替書体が使用されます。

引数が \rmfamily のような名前で与えられる可能性があるため、まず、これを展 開したものを作ります。

また、和文ファミリと欧文ファミリのそれぞれになかったことを示すフラグを偽 にセットします。

```
1265 \DeclareRobustCommand\fontfamily[1]{%
```

- 1266 \edef\tmp@item{{#1}}%
- 1267 \@notkfamfalse
- 1268 \@notffamfalse

次に、この引数が \kfam@list に登録されているかどうかを調べます。登録されていれば、 \k@family にその値を入れます。

- 1269 \expandafter\expandafter\expandafter
- 1270 \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\kfam@list}%
- 1271 \ifin@ \edef\k@family{#1}%

そうでないときは、\notkfam@listに登録されているかどうかを調べます。登録されていれば、この引数は和文ファミリではありませんので、\@notkfam フラグを真にして、欧文ファミリのルーチンに移ります。

このとき、\ffam@listを調べるのではないことに注意をしてください。\ffam@listを調べ、これにないファミリを和文ファミリであるとすると、たとえば、欧文ナールファミリが定義されているけれども、和文ナールファミリが未定義の場合、\fontfamily{nar}という指定は、narが \ffam@listにだけ、登録されているため、和文書体をナールにすることができません。

逆に、\kfam@listに登録されていないからといって、\k@familyにnarを設定すると、cmrのようなファミリも\k@familyに設定される可能性があります。したがって、「欧文でない」を明示的に示す\notkfam@listを見る必要があります。

- 1272 \else
- 1273 \expandafter\expandafter\expandafter
- $1274 \qquad \verb|\inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\notkfam@list}| % \\$
- 1275 \ifin@ \@notkfamtrue

\notkfam@list に登録されていない場合は、フォント定義ファイルが存在するかどうかを調べます。ファイルが存在する場合は、\k@family を変更します。ファイルが存在しない場合は、\notkfam@list に登録します。

\kenc@list に登録されているエンコードと、指定された和文ファミリの組合せのフォント定義ファイルが存在する場合は、\k@family に指定された値を入れます。

- 1276 \else
- 1277 \@tempswzfalse
- 1278 \def\fam@elt{\noexpand\fam@elt}%
- 1279 \message{(I search kanjifont definition file:}%
- 1280 \def\enc@elt<##1>{\message{.}%
- 1282 \reserved@a{\@tempswztrue}{}\relax}%
- 1283 \kenc@list
- 1284 \message{)}%
- 1285 \if@tempswz
- 1286 \edef\k@family{#1}%

つぎの部分が実行されるのは、和文ファミリとして認識できなかった場合です。この場合は、\@notkfam フラグを真にして、\notkfam@list に登録します。

```
1287 \else
1288 \@notkfamtrue
1289 \xdef\notkfam@list{\notkfam@list\fam@elt<#1>}%
1290 \fi
```

\kfam@list と \notkfam@list に登録されているかどうかを調べた \ifin@を閉じます。

1291 \fi\fi

欧文ファミリの場合も、和文ファミリと同様の方法で確認をします。

```
\expandafter\expandafter\expandafter
      \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\ffam@list}%
     \ifin@ \edef\f@family{#1}\else
1294
        \expandafter\expandafter\expandafter
1296
        \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\notffam@list}%
1297
        \ifin@ \@notffamtrue \else
1298
          \@tempswzfalse
          \def\fam@elt{\noexpand\fam@elt}%
1299
          \message{(I search font definition file:}%
1300
          \def\enc@elt<##1>{\message{.}%
1301
            \edef\reserved@a{\lowercase{\noexpand\IfFileExists{##1#1.fd}}}%
1302
1303
            \reserved@a{\@tempswztrue}{}\relax}%
1304
          \fenc@list
          \message{)}%
1306
          \if@tempswz
1307
            \edef\f@family{#1}%
1308
          \else
            \@notffamtrue
1309
            \xdef\notffam@list{\notffam@list\fam@elt<#1>}\%
1310
1311
     \fi\fi
```

最後に、指定された文字列が、和文ファミリと欧文ファミリのいずれか、あるいは 両方として認識されたかどうかを確認します。

どちらとも認識されていない場合は、ファミリの指定ミスですので、代用フォントを使うために、故意に指定された文字列をファミリに入れます。

```
1313 \if@notkfam\if@notffam

1314 \edef\k@family{#1}\edef\f@family{#1}%

1315 \fi\fi}

1316 \langle /plcore \rangle
```

7.2.8 シリーズの指定(新 NFSS 対応)

\pltx@latex@level コミュニティ版 pIFTEX 2_{ε} 2020-02-02 での変更:ここから IFTEX 2_{ε} 2020-02-02 で拡張された新しい NFSS への対応コードが始まります。pIFTEX 2_{ε} のコードを本家

File c: plfonts.dtx Date: 2021/06/27 Version v1.7n

LATEX 2ε の機能に応じて切り替えます。

IATEX 2_{ε} 2020-02-02 のうち、patch level 2 には latex3/latex2e#277 のバグがあり、patch level 4 には latex3/latex2e#293 のバグがありました。さらに開発版 IATEX 2_{ε} では latex3/latex2e#291 の対策も施されています。

```
1317 (*plcore | platexrelease)
1318 \fontseries force \cupdefined
                                         % old
1319
            \def\pltx@latex@level{0}
                                         % 2020-02-02
1320 \else
     \ifx\@forced@seriestrue\@undefined
1321
        \ifnum\patch@level<1\relax
                                                    % patch level 0
1322
            1323
        \else
                                                    % patch level 1, 2
1324
            \def\pltx@latex@level{2}
1325
        \fi
1326
1327
      \else
1328
        \ifx\series@maybe@drop@one@m\@undefined
                                                    % patch level 3, 4
1329
            \def\pltx@latex@level{3}
1330
          \ifx\series@maybe@drop@one@m@x\@undefined % patch level 5
1331
            \def\pltx@latex@level{4}
1332
            % anticipating LaTeX2e 'develop' branch (after 23b7244)
1333
            \% this temporary code will be removed in the future
1334
            %\let\series@maybe@drop@one@m@x\series@maybe@drop@one@m
1335
            %\def\series@maybe@drop@one@m#1{%
1336
            % \expandafter\series@maybe@drop@one@m@x\expandafter{#1}}
1337
1338
          \else
1339
            \def\pltx@latex@level{5}
          \fi
1340
        \fi
1341
1342
     \fi
1343 \fi
```

ここでは、最低限どのバージョンの \LaTeX 2 ε 上でもフォーマット生成が成功するように \catcode トリックを使います。現在の主要なコードは

- IAT_EX 2_ε 2019-10-01 patch level 3 以前(従来の NFSS2)
- IATEX 2ε の開発版(最新の develop ブランチ)

向けに最適化しており、他のバージョンへの対処は後回しにします。

```
1344 \edef\pltx@reset@catcode@trick{\catcode'\noexpand\~=\the\catcode'\~\relax}
1345 \def\pltx@temp@catcode@ix{\catcode'\~=9\relax}
1346 \def\pltx@temp@catcode@xiv{\catcode'\~=14\relax}
1347 \ifnum\pltx@latex@level<3\relax
1348 \pltx@temp@catcode@xiv % hide if-tokens
1349 \else
1350 \pltx@temp@catcode@ix % reveal if-tokens
1351 \fi
1352 \/plcore | platexrelease\
```

```
\delayed@k@adjustment 	ext{ET}_{	ext{FX}} 2_{arepsilon} 2021-06-01 で追加された \delayed@f@adjustment の和文版です。
                       1353 (*plcore | platexrelease)
                       1354 \ifx\delayed@f@adjustment\@undefined
                       % 2021-06-01
                       1356 \else
                            \let\delayed@k@adjustment\@empty
                       1357
                       1358 \fi
                       1359 (/plcore | platexrelease)
\if@forced@series@kanji IATFX 2: 2020-02-02 PL3 で追加された \if@forced@series フラグの和文版です。
                       1360 (*plcore | platexrelease)
                       1361 \ifx\@forced@seriestrue\@undefined % old
                             \let\@forced@series@kanjifalse\@undefined
                             \let\@forced@series@kanjitrue\@undefined
                                                             % 2020-02-02 PL3 or later
                       1364 \else
                             \expandafter\newif\csname if@forced@series@kanji\endcsname
                       1365
                       1366 \fi
                       1367 (/plcore | platexrelease)
                       書体のシリーズを指定するコマンドです。\fontseries コマンドは和欧文の両方に
          \romanseries
                       影響します。
          \kanjiseries
                          2019年までは無条件に指定されたとおりのシリーズを選択していましたが、
           \fontseries
                        	ext{MT}_{	ext{FX}}\,2_{arepsilon}\,2020-02-02 以降では、\DeclareFontSeriesChangeRule によって宣言さ
                        れた「シリーズ更新規則」に基づきシリーズを選択します。
                          IATFX 2\varepsilon 2021-06-01 以降では、シリーズの更新を\selectfont まで遅らせます。
                       1368 (*plcore | platexrelease)
                       1369 \ifx\fontseriesforce\@undefined % old
                       1370 \DeclareRobustCommand\romanseries[1] {\edef\f@series{#1}}
                       1371 \DeclareRobustCommand\kanjiseries[1] {\edef\k@series{#1}}
                       1372 \DeclareRobustCommand\fontseries[1]{\kanjiseries{#1}\romanseries{#1}}
                       1373 \else
                                                           % 2020-02-02
                       1374 \ifx\delayed@f@adjustment\@undefined % --- for <= 2020-10-01 BEGIN
                       1375 \DeclareRobustCommand\romanseries[1]{\@forced@seriesfalse\merge@font@series{#1}}
                       1376 \DeclareRobustCommand\kanjiseries[1]{\@forced@series@kanjifalse\merge@kanji@series{#1}}
                       1377 \DeclareRobustCommand\fontseries[1] {\kanjiseries{#1}\romanseries{#1}}
                                        \% --- for <= 2020-10-01 END & for >= 2021-06-01 BEGIN
                       1378 \else
                       1379 \DeclareRobustCommand\romanseries[1]{\@forced@seriesfalse
                       1380
                               \expandafter\def\expandafter\delayed@f@adjustment\expandafter
                                   {\delayed@f@adjustment\delayed@merge@font@series{#1}}}
                       1381
                       1382 \DeclareRobustCommand\kanjiseries[1] {\@forced@series@kanjifalse
                               \expandafter\def\expandafter\delayed@k@adjustment\expandafter
                       1383
                                   {\delayed@k@adjustment\delayed@merge@kanji@series{#1}}}
                       1384
                       1385 \DeclareRobustCommand\fontseries[1]{\kanjiseries{#1}\romanseries{#1}}
                                       \% --- for >= 2021-06-01 END
                       1386 \fi
```

1387 \fi

```
\romanseriesforce 無条件にシリーズを変更します。
                                \kanjiseriesforce 1388 \ifx\fontseriesforce\@undefined % old
                                    \fontseriesforce \fontseriesforce\Quadefined
                                                                                                                       1390 \let\kanjiseriesforce\@undefined
                                                                                                                        1391 \else
                                                                                                                                                                                                                                                                                                        % 2020-02-02
                                                                                                                        1392 \ifx\delayed@f@adjustment\@undefined % --- for <= 2020-10-01 BEGIN
                                                                                                                       1393 \verb|\label{localize}| 1393 \verb|\label{local
                                                                                                                       1394 \DeclareRobustCommand\kanjiseriesforce[1] {\@forced@series@kanjitrue\edef\k@series{#1}}
                                                                                                                       1395 \DeclareRobustCommand\fontseriesforce[1]{\kanjiseriesforce{#1}\romanseriesforce{#1}}
                                                                                                                                                                                                       \% --- for <= 2020-10-01 END & for >= 2021-06-01 BEGIN
                                                                                                                       1396 \else
                                                                                                                       1397 \verb|\DeclareRobustCommand\romanseries force[1]{\colored@seriestrue}| \label{local_command_romanseries}| \colored{\colored}| \colored{\colored
                                                                                                                                                              \expandafter\def\expandafter\delayed@f@adjustment\expandafter
                                                                                                                       1398
                                                                                                                                                                       {\delayed@f@adjustment\edef\f@series{#1}}}
                                                                                                                       1399
                                                                                                                        1400 \DeclareRobustCommand\kanjiseriesforce[1]{\@forced@series@kanjitrue
                                                                                                                                                              \expandafter\def\expandafter\delayed@k@adjustment\expandafter
                                                                                                                                                                       {\delayed@k@adjustment\edef\k@series{#1}}}
                                                                                                                        1403 \ensuremath{\mbox{\sc 11}}{\mbox{\sc 1403}} \ensuremath{\mbox{\sc 141}}{\mbox{\sc 1403}} \ensuremath{\mbox{\sc 1403}}{\mbox{\sc 1403}} \ensuremath{\mbox{\sc 1403}} \ensuremath{\mbox{\sc 1403}} \ensuremath{\mbox{\sc 1403}}{\mbox{\sc 1403}} \ensuremath{
                                                                                                                        1404 \fi
                                                                                                                                                                                                       \% --- for >= 2021-06-01 END
                                                                                                                        1405 \fi
                                                                                                                        \merge@font@series の和文版です。
                      \merge@kanji@series
                   \label{lem:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma:lemma
                                                                                                                       1407 \let\merge@kanji@series\@undefined
\set@target@series@kanji
                                                                                                                        1408 \let\merge@kanji@series@\@undefined
                                                                                                                        1409 \let\set@target@series@kanji\@undefined
                                                                                                                        1410 \else
                                                                                                                                                                                                                                                                                                        % 2020-02-02
                                                                                                                       1411 \def\merge@kanji@series#1{%
                                                                                                                                                  \expandafter\expandafter\expandafter
                                                                                                                       1412
                                                                                                                                                   \merge@kanji@series@
                                                                                                                       1413
                                                                                                                                                             \csname series@\k@series @#1\endcsname
                                                                                                                      1414
                                                                                                                                                              {#1}%
                                                                                                                       1415
                                                                                                                       1416
                                                                                                                                                             \@ni1
                                                                                                                       1418 \def\merge@kanji@series@#1#2#3\@nil{%
                                                                                                                                                  \def\reserved@a{#3}%
                                                                                                                                            \ifx\reserved@a\@empty
                                                                                                                           シリーズ更新規則がない場合:#2が要求シリーズであり、これを使う。
                                                                                                                                                             \set@target@series@kanji{#2}%
                                                                                                                       1421
                                                                                                                        1422
                                                                                                                                                  \else
                                                                                                                        1423 %^^A [TODO] BEGIN
                                                                                                                       1424 %^^A
                                                                                                                                                                          LaTeX2e 2021-06-01 では |\maybe@load@fontshape| は削除される。
                                                                                                                       1425 %^^A
                                                                                                                                                                                     理由:処理が |\selectfont| まで遅れるので不要とのこと。
                                                                                                                       1426 %^^A
                                                                                                                                                                            しかし、なぜか ltfssaxes.dtx で rollback の対処が無いような?
                                                                                                                                                             \begingroup\let\f@encoding\k@encoding\let\f@family\k@family
                                                                                                                      1427
                                                                                                                                                                       \verb|\maybe@load@fontshape| endgroup|
                                                                                                                       1428
                                                                                                                       1429 %^^A [TODO] END
                                                                                                                                                              \edef\reserved@a{\k@encoding /\k@family /#1/\k@shape}%
                                                                                                                       1430
                                                                                                                                                                  \ifcsname \reserved@a \endcsname
                                                                                                                        1431
```

```
\set@target@series@kanji{#1}%
                                                                                              \else
                                                                           1434
                                                                                                    \ifcsname \k@encoding /\k@family /#2/\k@shape \endcsname
                                                                             シリーズ更新規則に基づく代替シリーズ #2 が利用可能:
                                                                                                         \set@target@series@kanji{#2}%
                                                                           1435
                                                                                                         {\let\curr@fontshape\curr@kfontshape\@font@shape@subst@warning}%
                                                                           1436
                                                                           1437
                                                                                                     \else
                                                                            いずれも利用不可:要求シリーズ #3 を使う。
                                                                                                         \set@target@series@kanji{#3}%
                                                                           1438
                                                                                                         {\let\curr@fontshape\curr@kfontshape\@font@shape@subst@warning}%
                                                                           1439
                                                                                                     \fi
                                                                           1440
                                                                                              \fi
                                                                           1441
                                                                           1442
                                                                                        \fi
                                                                           1443 }
                                                                           1444 \def\set@target@series@kanji#1{%
                                                                           1445
                                                                                              \edef\k@series{#1}%
                                                                                              \series@maybe@drop@one@m\k@series\k@series
                                                                           1446
                                                                          1447 }
                                                                          1448 \fi
nji@series@without@substitution \merge@font@series@without@substitutionの和文版です。
\verb|ji@series@without@substitution@ 1449 \o fx\merge@font@series@without@substitution\o @undefined \% old without@substitution\o @undefined @un
                                                                          1450 \let\merge@kanji@series@without@substitution\@undefined
       \delayed@merge@kanji@series
                                                                          1451 \let\merge@kanji@series@without@substitution@\@undefined
                                                                           1452 \let\delayed@merge@kanji@series\@undefined
                                                                                                                                                                                                                       % 2021-06-01
                                                                          1453 \else
                                                                          1454 \def\merge@kanji@series@without@substitution#1{%
                                                                                         \expandafter\expandafter\expandafter
                                                                          1455
                                                                                         \merge@kanji@series@without@substitution@
                                                                          1456
                                                                           1457
                                                                                              \csname series@\k@series @#1\endcsname
                                                                                              {#1}%
                                                                           1458
                                                                                              \@nil
                                                                          1459
                                                                           1460 }
                                                                          1461 \def\merge@kanji@series@without@substitution@#1#2#3\@nil{%
                                                                          1462
                                                                                        \def\reserved@a{#3}%
                                                                                         \ifx\reserved@a\@empty
                                                                          1463
                                                                                              \set@target@series@kanji{#2}%
                                                                          1464
                                                                                         \else
                                                                          1465
                                                                                              \set@target@series@kanji{#1}%
                                                                          1466
                                                                           1467
                                                                          1468 }
                                                                          1469 \let\delayed@merge@kanji@series\merge@kanji@series@without@substitution
                                                                           1470 \fi
                                                                           1471 (/plcore | platexrelease)
```

シリーズ更新規則に基づく新シリーズ #1 が利用可能:

7.2.9 シェイプの指定 (新 NFSS 対応)

コミュニティ版 pIfTrX 2 2020-04-12 での変更:従来は、\itshape などの命令を 実行すると

LaTeX Font Warning: Font shape 'JT1/mc/m/it' undefined

using 'JT1/mc/m/n' instead on input line 4.

LaTeX Font Warning: Font shape 'JY1/mc/m/it' undefined

(Font) using 'JY1/mc/m/n' instead on input line 4.

のような警告を発していました。これは以下の理由によります。

- を呼び出す。
- pIATeX 2g では、\fontshape を欧文書体だけでなく和文書体も変更するよう に再定義する。
- しかし、和文書体のシェイプはほとんど "n" しか用いられず、\DeclareFontShape での定義も "n" しか与えられないことが多い。
- 結果的に、欧文書体のシェイプを変更するつもりでも「和文書体のシェイプ が未定義」という警告が出てしまう。

そこで、和文書体のシェイプが未定義の場合は \fontshape 及び \fontshapeforce が和文書体には影響せず、欧文書体のシェイプのみを変更するように改良します。

\if@shape@roman@kanji 和欧文の両方に影響しようとする \fontshape コマンド実行中に真になるフラグで す。\fontshapeforce は実装が単純なので、このフラグは使っていません。

1472 (*plcore | platexrelease)

1473 \ifx\@shape@roman@kanjitrue\@undefined % just in case

 $1474 \qquad \verb|\expandafter\newif| csname if @shape@roman@kanji\\endcsname \\$

1475 **\fi**

1476 (/plcore | platexrelease)

\romanshape 書体のシェイプを指定するコマンドです。\fontshape コマンドは和欧文の両方に \kanjishape 影響します。

\fontshape

2019年までは無条件に指定されたとおりのシェイプを選択していましたが、 IFT_FX 2_F 2020-02-02 以降では、\DeclareFontShapeChangeRule によって宣言さ れた「シェイプ更新規則」に基づきシェイプを選択します。

IATFX 2_{ε} 2021-06-01 以降では、シェイプの更新を\selectfont まで遅らせます。

1477 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2020/04/12}{\fontshape} 1478 (platexrelease) {No \k@shape update if unavailable}%

File c: plfonts.dtx Date: 2021/06/27 Version v1.7n

```
1479 (*plcore | platexrelease)
                 1480 \fontshapeforce\Qundefined
                 1481 \DeclareRobustCommand\romanshape[1] {\edef\f@shape{#1}}
                 1482 \DeclareRobustCommand\kanjishape[1] {\edef\k@shape{#1}}
                 1483 \DeclareRobustCommand\fontshape[1] {%
                       \set@safe@kanji@shape{#1}{}%
                       \edef\f@shape{#1}%
                 1485
                 1486 }
                                                       % 2020-02-02
                 1487 \else
                 1488 \ifx\delayed@f@adjustment\@undefined % --- for <= 2020-10-01 BEGIN
                 1489 \DeclareRobustCommand\romanshape[1] {\merge@font@shape{#1}}
                 1490 \DeclareRobustCommand\kanjishape[1] {\merge@kanji@shape{#1}}
                 1491 \DeclareRobustCommand\fontshape[1]{%
                       \@shape@roman@kanjitrue
                       \kanjishape{#1}\romanshape{#1}%
                 1493
                 1494
                       \@shape@roman@kanjifalse}
                                  \% --- for <= 2020-10-01 END & for >= 2021-06-01 BEGIN
                 1495 \else
                 1496 \DeclareRobustCommand\romanshape[1]{%
                          \expandafter\def\expandafter\delayed@f@adjustment\expandafter
                 1497
                              {\tt \{\delayed@f@adjustment\delayed@merge@font@shape{\#1}\}}
                 1498
                 1499 \DeclareRobustCommand\kanjishape[1] {%
                          \expandafter\def\expandafter\delayed@k@adjustment\expandafter
                 1500
                              {\delayed@k@adjustment\delayed@merge@kanji@shape{#1}}}
                 1501
                 1502 \DeclareRobustCommand\fontshape[1]{%
                         \romanshape{#1}%
                 1503
                         \expandafter\def\expandafter\delayed@k@adjustment\expandafter
                 1504
                 1505
                              {\delayed@k@adjustment\@shape@roman@kanjitrue
                               \delayed@merge@kanji@shape{#1}\@shape@roman@kanjifalse}}
                 1506
                 1507 \fi
                                  \% --- for >= 2021-06-01 END
                 1508 \fi
                 1509 (/plcore | platexrelease)
                 1510 \(\rangle platexrelease \)\(\rangle plantle platexrelease \)
                 1511 (platexrelease)\plIncludeInRelease{0000/00/00}{\fontshape}
                 1512 (platexrelease)
                                                     {ASCII Corporation / TeXJP original}%
                 1513 (platexrelease)\ifx\fontshapeforce\@undefined
                                                                  % old
                 1514 \langle platexrelease \rangle \end{tabular}  \text{Command\romanshape [1] {\edef\f@shape {#1}}}
                 1515 (platexrelease)\DeclareRobustCommand\kanjishape[1]{\edef\k@shape{#1}}
                 1517 (platexrelease)\else
                                                                   % 2020-02-02
                 1519 \(\rangle platexrelease \)\text{DeclareRobustCommand\kanjishape[1]}\\\merge@kanji@shape{#1}}\)
                 1520 (platexrelease)\DeclareRobustCommand\fontshape[1]{\kanjishape{#1}\romanshape{#1}}
                 1521 (platexrelease)\fi
                 1522 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
\romanshapeforce 無条件にシェイプを変更します。
\kanjishapeforce 1523 \( platexrelease \\ plIncludeInRelease \{ 2020/04/12 \\ \fontshapeforce \}
 \fontshapeforce 1524 \( \text{platexrelease} \)
                                                     {No \k@shape update if unavailable}%
                 1525 (*plcore | platexrelease)
```

```
1526 \ifx\fontshapeforce\@undefined
                                                                                                                                                                      % old
                                                          1527 \let\romanshapeforce\@undefined
                                                           1528 \let\kanjishapeforce\@undefined
                                                                                                                                                                      % 2020-02-02
                                                           1529 \else
                                                          1530 \ifx\delayed@f@adjustment\@undefined % --- for <= 2020-10-01 BEGIN
                                                          1531 \DeclareRobustCommand\romanshapeforce[1]{\edef\f@shape{#1}}
                                                           1532 \DeclareRobustCommand\kanjishapeforce[1]{\edef\k@shape{#1}}
                                                           1533 \DeclareRobustCommand\fontshapeforce[1]{%
                                                                           \set@safe@kanji@shape{#1}{}%
                                                          1534
                                                                           \edef\f@shape{#1}%
                                                          1535
                                                          1536 }
                                                                                                           \% --- for <= 2020-10-01 END & for >= 2021-06-01 BEGIN
                                                          1537 \else
                                                          1538 \DeclareRobustCommand\romanshapeforce[1] {%
                                                                                  \expandafter\def\expandafter\delayed@f@adjustment\expandafter
                                                                                             {\delayed@f@adjustment\edef\f@shape{#1}}}
                                                          1541 \DeclareRobustCommand\kanjishapeforce[1] {%
                                                                                 \expandafter\def\expandafter\delayed@k@adjustment\expandafter
                                                          1542
                                                                                             {\delayed@k@adjustment\edef\k@shape{#1}}}
                                                          1543
                                                          1544 \DeclareRobustCommand\fontshapeforce[1] {%
                                                                                 \expandafter\def\expandafter\delayed@k@adjustment\expandafter
                                                          1545
                                                          1546
                                                                                             {\delayed@k@adjustment\set@safe@kanji@shape{#1}{}}%
                                                          1547
                                                                                 \expandafter\def\expandafter\delayed@f@adjustment\expandafter
                                                          1548
                                                                                             {\delayed@f@adjustment\edef\f@shape{#1}}%
                                                          1549 }
                                                                                                           \% --- for >= 2021-06-01 END
                                                          1550 \fi
                                                          1551 \fi
                                                          1552 (/plcore | platexrelease)
                                                          1553 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                                                           {ASCII Corporation / TeXJP original}%
                                                           1555 (platexrelease)
                                                           1556 (platexrelease)\ifx\fontshapeforce\@undefined
                                                                                                                                                                                                        % old
                                                           1557 ⟨platexrelease⟩\let\romanshapeforce\@undefined
                                                           1558 (platexrelease)\let\kanjishapeforce\@undefined
                                                           1559 (platexrelease)\else
                                                                                                                                                                                                        % 2020-02-02
                                                           1560 \(\rangle platexrelease \)\(\rangle \)\(\rangle platexrelease \)\(\rangle plata \)\(\rangle platexrelease \)\(\rangle platexrelease \)\(\rangle
                                                           1561 \(\rangle platexrelease \)\text{DeclareRobustCommand\kanjishapeforce[1]{\edef\k@shape{#1}}}
                                                           1562 \ \langle platexrelease \rangle \ \backslash \ DeclareRobustCommand \ fontshapeforce [1] \ \langle hanjishapeforce \{\#1\} \ \backslash \ Plate \ \rangle \ \rangle \ \rangle
                                                          1563 (platexrelease)\fi
                                                          1564 \langle platexrelease \rangle \backslash plEndIncludeInRelease
                                                           \merge@font@shape の和文版です。
  \merge@kanji@shape
\merge@kanji@shape@ 1565 \langle platexrelease \plIncludeInRelease \{2020/04/12\} \merge@kanji@shape@}
                                                                                                                                                                {No \k@shape update if unavailable}%
                                                           1566 (platexrelease)
                                                           1567 (*plcore | platexrelease)
                                                          1568 \ifx\fontseriesforce\@undefined % old
                                                          1569 \let\merge@kanji@shape\@undefined
                                                           1570 \let\merge@kanji@shape@\@undefined
                                                                                                                                                                      % 2020-02-02
                                                           1571 \else
                                                           1572 \ensuremath{\mbox{\sc loss}} 1572
```

```
\expandafter\expandafter\expandafter
1573
     \merge@kanji@shape@
1574
       \csname shape@\k@shape @#1\endcsname
1575
1576
       {#1}%
       \@nil
1577
1578 }
1579 \def\merge@kanji@shape@#1#2#3\@nil{%
     \def\reserved@a{#3}%
     \ifx\reserved@a\@empty
 シェイプ更新規則がない場合:#2が要求シェイプである。
\fontshape の下請けなら、#2が利用可能かどうか予めチェックする。
\kanjishape の下請けなら、#2 を使う。
      \if@shape@roman@kanji
1583
       \set@safe@kanji@shape{#2}{}%
1584
      \else
1585
       \edef\k@shape{#2}%
      \fi
1587
     \else
1588 %^^A [TODO] BEGIN
1589 %^^A
          LaTeX2e 2021-06-01 では |\maybe@load@fontshape| は削除される。
1590 %^^A
            理由:処理が |\selectfont| まで遅れるので不要とのこと。
1591 %^^A
           しかし、なぜか ltfssaxes.dtx で rollback の対処が無いような?
       \begingroup\let\f@encoding\k@encoding\let\f@family\k@family
1592
         \maybe@load@fontshape\endgroup
1593
1594 %^^A [TODO] END
       \edef\reserved@a{\k@encoding /\k@family /\k@series/#1}%
1595
        \ifcsname \reserved@a\endcsname
1596
 シェイプ更新規則に基づく新シェイプ #1 が利用可能:
          \ensuremath{\texttt{def}\k@shape{\#1}\%}
1597
       \else
1598
          \ifcsname \k@encoding /\k@family /\k@series/#2\endcsname
 シェイプ更新規則に基づく代替シェイプ #2 が利用可能:
1600
            \ensuremath{\mbox{def}\mbox{\mbox{$k@$shape{\#2}%}}}
            {\let\curr@fontshape\curr@kfontshape\@font@shape@subst@warning}%
1601
1602
          \else
いずれも利用不可:要求シェイプ #3 について
\fontshape の下請けなら、#3が利用可能かどうか予めチェックする。
\kanjishape の下請けなら、#3 を使う。
           \if@shape@roman@kanji
1603
            \set@safe@kanji@shape{#3}%
1604
1605
            {{\let\curr@fontshape\curr@kfontshape\@font@shape@subst@warning}}%
1606
           \else
            \ensuremath{\texttt{def}\k@shape{#3}}%
1607
            {\let\curr@fontshape\curr@kfontshape\@font@shape@subst@warning}%
1608
1609
           \fi
```

```
1610
                                                                                            \fi
                                                                                      \fi
                                                                    1611
                                                                    1612
                                                                                 \fi
                                                                    1613 }
                                                                    1614 \fi
                                                                    1615 (/plcore | platexrelease)
                                                                     1616 \( \text{platexrelease} \)\text{plEndIncludeInRelease}
                                                                     {ASCII Corporation / TeXJP original}%
                                                                     1618 (platexrelease)
                                                                     1619 (platexrelease)\ifx\fontseriesforce\@undefined % old
                                                                     1620 ⟨platexrelease⟩\let\merge@kanji@shape\@undefined
                                                                     1621 \ \langle \verb|platexrelease| \rangle \verb|let\merge@kanji@shape@\@undefined|
                                                                     1622 (platexrelease)\else
                                                                                                                                                                               % 2020-02-02
                                                                     1623 (platexrelease)\def\merge@kanji@shape#1{%
                                                                     1624 (platexrelease)
                                                                                                           \expandafter\expandafter\expandafter
                                                                     1625 (platexrelease)
                                                                                                           \merge@kanji@shape@
                                                                                                                \csname shape@\k@shape @#1\endcsname
                                                                     1626 (platexrelease)
                                                                     1627 (platexrelease)
                                                                                                                {#1}%
                                                                     1628 (platexrelease)
                                                                                                                \@nil
                                                                     1629 (platexrelease)}
                                                                     1630 /def\merge@kanji@shape@#1#2#3\@nil{%
                                                                     1631 (platexrelease)
                                                                                                           \def\reserved@a{#3}%
                                                                                                           \ifx\reserved@a\@empty
                                                                     1632 (platexrelease)
                                                                     1633 (platexrelease)
                                                                                                                1634 (platexrelease)
                                                                                                                \begingroup\let\f@encoding\k@encoding\let\f@family\k@family
                                                                     1635 (platexrelease)
                                                                     1636 (platexrelease)
                                                                                                                    \maybe@load@fontshape\endgroup
                                                                     1637 (platexrelease)
                                                                                                                \edef\reserved@a{\k@encoding /\k@family /\k@series/#1}%
                                                                     1638 (platexrelease)
                                                                                                                  \ifcsname \reserved@a\endcsname
                                                                                                                      \end{figure} $$ \end{figure}
                                                                     1639 (platexrelease)
                                                                     1640 (platexrelease)
                                                                                                                \else
                                                                     1641 (platexrelease)
                                                                                                                      \ifcsname \k@encoding /\k@family /\k@series/#2\endcsname
                                                                     1642 (platexrelease)
                                                                                                                           \edef\k@shape{#2}%
                                                                     1643 (platexrelease)
                                                                                                                           {\let\curr@fontshape\curr@kfontshape\@font@shape@subst@warning}%
                                                                     1644 (platexrelease)
                                                                     1645 (platexrelease)
                                                                                                                           \edef\k@shape{#3}%
                                                                                                                           {\let\curr@fontshape\curr@kfontshape\@font@shape@subst@warning}%
                                                                     1646 (platexrelease)
                                                                     1647 (platexrelease)
                                                                                                                      \fi
                                                                                                               \fi
                                                                     1648 (platexrelease)
                                                                                                           \fi
                                                                     1649 (platexrelease)
                                                                     1650 (platexrelease)}
                                                                     1651 (platexrelease)\fi
                                                                     1652~{\tt platexrelease} {\tt \plEndIncludeInRelease}
anji@shape@without@substitution
                                                                      \merge@font@shape@without@substitutionの和文版です。
nji@shape@without@substitution@
                                                                    1653 (*plcore | platexrelease)
                                                                    1654 \ifx\merge@font@shape@without@substitution\@undefined % old
         \delayed@merge@kanji@shape
                                                                     1655 \let\merge@kanji@shape@without@substitution\@undefined
```

1656 \let\merge@kanji@shape@without@substitution@\@undefined

```
% 2021-06-01
                            1658 \else
                             1659 \def\merge@kanji@shape@without@substitution#1{%
                                   \expandafter\expandafter\expandafter
                                   \merge@kanji@shape@without@substitution@
                            1661
                                     \csname shape@\k@shape @#1\endcsname
                             1662
                                     {#1}%
                            1663
                                     \@nil
                            1664
                            1665 }
                             1666 \def\merge@kanji@shape@without@substitution@#1#2#3\@nil{%
                                   \def\reserved@a{#3}%
                            1667
                                   \ifx\reserved@a\@empty
                            1668
                                     \edef\k@shape{#2}%
                             1669
                             1670
                             1671
                                     \edef\k@shape{#1}%
                            1672
                                   \fi
                            1673 }
                            1674 \let\delayed@merge@kanji@shape\merge@kanji@shape@without@substitution
                            1675 \fi
                            1676 //plcore | platexrelease>
                            和文シェープが利用可能かどうか予めチェックしてから設定します。
      \set@safe@kanji@shape
\@kanji@shape@nochange@info 1677 \platexrelease\\plIncludeInRelease{2020/04/12}{\set@safe@kanji@shape}
                            1678 (platexrelease)
                                                                {No \k@shape update if unavailable}%
                            1679 (*plcore | platexrelease)
                            1680 \def\set@safe@kanji@shape#1#2{%
                                  \edef\reserved@b{\k@encoding /\k@family /\k@series/#1}%
                            1682
                                    \ifcsname \reserved@b\endcsname
                            1683
                                      \edef\k@shape{#1}%
                                      #2%
                            1684
                            1685
                                   \else
                                     \@kanji@shape@nochange@info{\reserved@b}%
                            1686
                                   \fi
                            1687
                            1688 }
                            1689 \def\@kanji@shape@nochange@info#1{%
                                     \OfontOinfo{Kanji font shape '#1' undefined\MessageBreak
                                                 No change}%
                            1691
                            1692 }
                            1693 (/plcore | platexrelease)
                            1694 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                            1696 (platexrelease)
                                                                {ASCII Corporation original}\%
                             1697 \ \langle \verb|platexrelease| \rangle \verb|let| set@safe@kanji@shape|@undefined|
                             1698 (platexrelease)\let\@kanji@shape@nochange@info\@undefined
                             1699 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
```

1657 \let\delayed@merge@kanji@shape\@undefined

7.2.10 書体の切り替え (新 NFSS 対応)

```
書体属性を一度に指定するコマンドです。和文書体には \usekanji を、欧文書体に
\usekanji
\useroman は \useroman を指定してください。
                                             \usefont コマンドは、第一引数で指定されるエンコードによって、和文または
   \usefont
                                     欧文フォントを切り替えます。
                                   1701 (platexrelease)
                                                                                                                                                          {Don't call \fontseries or \fontshape}%
                                   _{1702} \; \langle * \mathsf{plcore} \; | \; \mathsf{platexrelease} \rangle
                                   1703 \ifx\set@target@series\@undefined
                                                                                                                                                                               % old
                                  1704 \ensuremath{\mbox{\sc Normand}\mbox{\sc N
                                                              \edef\k@family{#2}%
                                  1705
                                  1706
                                                              \edef\k@series{#3}%
                                                              \edef\k@shape{#4}\selectfont
                                  1707
                                                              \ignorespaces}
                                  1708
                                  1709 \DeclareRobustCommand\useroman[4]{\romanencoding{#1}%
                                                              \edef\f@family{#2}%
                                  1711
                                                              \edef\f@series{#3}%
                                                              \ensuremath{\ensuremath{\mbox{def}\mbox{\mbox{\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mbox{$\mb
                                  1712
                                  1713
                                                              \ignorespaces}
                                                                                                                                                                                % 2020-02-02
                                  1714 \else
                                  1715 \ifx\delayed@f@adjustment\@undefined % --- for <= 2020-10-01 BEGIN
                                   1716 \DeclareRobustCommand\usekanji[4]{\kanjiencoding{#1}%
                                                               \edef\k@family{#2}%
                                  1717
                                                               \set@target@series@kanji{#3}%
                                  1718
                                                               \edef\k@shape{#4}\selectfont
                                  1719
                                  1720
                                                              \ignorespaces}
                                  1721 \DeclareRobustCommand\useroman[4] {\romanencoding{#1}%
                                  1722
                                                              \edef\f@family{#2}%
                                                              \verb|\set@target@series{#3}||
                                  1723
                                  1724
                                                              \ensuremath{\verb| def f@shape{#4}| } \ensuremath{ | select font | } \\
                                  1725
                                                              \ignorespaces}
                                                                                            \% --- for <= 2020-10-01 END & for >= 2021-06-01 BEGIN
                                  1726 \else
                                  1727 \DeclareRobustCommand\usekanji[4] {\kanjiencoding{#1}%
                                                              \edef\k@family{#2}%
                                                              \set@target@series@kanji{#3}%
                                   1729
                                  1730
                                                              \ensuremath{\mbox{def}\k@shape{#4}}\%
                                  1731
                                                              \let\delayed@k@adjustment\@empty
                                  1732
                                                              \selectfont
                                                              \ignorespaces}
                                  1733
                                  1734 \DeclareRobustCommand\useroman[4]{\romanencoding{#1}\%
                                                              \edef\f@family{#2}%
                                  1735
                                  1736
                                                              \set@target@series{#3}%
                                   1737
                                                              \left( \frac{4}{\%} \right)
                                                              \let\delayed@f@adjustment\@empty
                                   1738
                                                              \selectfont
                                   1739
                                                              \ignorespaces}
                                   1740
                                                                                           % --- for >= 2021-06-01 END
                                   1741 \fi
```

```
1742 \fi
                                           % done
1743 \DeclareRobustCommand\usefont[4]{%
      \edef\tmp@item{{#1}}%
      \expandafter\expandafter\expandafter
1745
      \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\kenc@list}%
1746
      \ifin@ \usekanji{#1}{#2}{#3}{#4}%
1747
      \else\useroman{#1}{#2}{#3}{#4}%
1748
      \fi}
1749
1750 (/plcore | platexrelease)
1751 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
1752 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2019/10/01}{\usefont}
1753 (platexrelease)
                                     {Make robust}%
1754 (platexrelease)\DeclareRobustCommand\usekanji[4]{%
1755 (platexrelease)
                     \kanjiencoding{#1}\kanjifamily{#2}\kanjiseries{#3}\kanjishape{#4}%
1756 (platexrelease)
                     \selectfont\ignorespaces}
1757 ⟨platexrelease⟩\DeclareRobustCommand\useroman[4]{%
                     1758 (platexrelease)
1759 (platexrelease)
                     \selectfont\ignorespaces}
1760 \(\rangle platexrelease \rangle \rangle Declare Robust Command \rangle usefont [4] \{\%\}
1761 (platexrelease)
                   \edef\tmp@item{{#1}}%
1762 (platexrelease)
                   \expandafter\expandafter\expandafter
1763 (platexrelease)
                   \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\kenc@list}%
1764 (platexrelease)
                   \ifin@ \usekanji{#1}{#2}{#3}{#4}%
1765 (platexrelease)
                  \else\useroman{#1}{#2}{#3}{#4}%
1766 (platexrelease)
                  \fi}
1767 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
1768 (platexrelease)\plIncludeInRelease{0000/00/00}{\usefont}
1769 (platexrelease)
                                     {ASCII Corporation original}%
1770 (platexrelease)\def\usekanji#1#2#3#4{%
1771 (platexrelease)
                     1772 (platexrelease)
                     \selectfont\ignorespaces}
1773 (platexrelease)\def\useroman#1#2#3#4{%
1774 (platexrelease)
                     \romanencoding{#1}\romanfamily{#2}\romanseries{#3}\romanshape{#4}%
1775 (platexrelease)
                     \selectfont\ignorespaces}
1776 (platexrelease)\def\usefont#1#2#3#4{%
1777 (platexrelease)
                   \edef\tmp@item{{#1}}%
1778 (platexrelease)
                   \expandafter\expandafter\expandafter
1779 (platexrelease)
                   \inlist@\expandafter\tmp@item\expandafter{\kenc@list}%
1780 \; \langle \mathsf{platexrelease} \rangle
                   \ifin@ \usekanji{#1}{#2}{#3}{#4}%
1781 \langle platexrelease \rangle
                   \else\useroman{#1}{#2}{#3}{#4}%
1782 (platexrelease)
                  \fi}
1783 (platexrelease)\expandafter \let \csname usekanji \endcsname \@undefined
1784 (platexrelease)\expandafter \let \csname useroman \endcsname \@undefined
1785 (platexrelease)\expandafter \let \csname usefont \endcsname \@undefined
1786 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
```

\normalfont 書体をデフォルト値にするコマンドです。和文書体もデフォルト値になるように再定義 しています。ただし高速化のため、\usekanjiと \useroman を展開し、\selectfont を一度しか呼び出さないようにしています。 IFT_EX 2ε 2020-02-02 patch level 2 で新設されたフック \@defaultfamilyhook を使うことで、元の定義を上書きする必要がなくなりました。(注意:アスキー版の末尾にあった \ignorespaces を削除することで、元の IFT_EX 2ε と互換になりました。ltfssini.dtx 1995/10/16 v3.0f の変更も参考。)

IAT_FX 2ε 2020-10-01 では \AddToHook が使えます。

```
1787 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2020/04/12}{\normalfont}
1788 (platexrelease)
                                     {Use \@defaultfamilyhook}%
1789 (*plcore | platexrelease)
1790 \ifnum\pltx@newhook@avail=\z@ % --- for <= 2020-02-02 BEGIN
1791 \ifx\@defaultfamilyhook\@undefined % old
1792 \DeclareRobustCommand\normalfont{%
        \kanjiencoding{\kanjiencodingdefault}%
1794
        \edef\k@family{\kanjifamilydefault}%
        \edef\k@series{\kanjiseriesdefault}%
1795
        \edef\k@shape{\kanjishapedefault}%
1796
        \romanencoding{\encodingdefault}%
1797
        \edef\f@family{\familydefault}%
1798
        \edef\f@series{\seriesdefault}%
1799
        \edef\f@shape{\shapedefault}%
1800
1801
         \selectfont}
1802 \else
                                           % 2020-02-02 PL2
1803 ⟨platexrelease⟩ \DeclareRobustCommand \normalfont{%
1804 (platexrelease)
                    \fontencoding\encodingdefault
                    \edef\f@family{\familydefault}%
1805 (platexrelease)
1806 (platexrelease)
                    \edef\f@series{\seriesdefault}%
1807 \langle platexrelease \rangle
                    \edef\f@shape{\shapedefault}%
1808 (platexrelease)
                    \@defaultfamilyhook
1809 (platexrelease)
                    \selectfont}
1810 \g@addto@macro\@defaultfamilyhook{%
1811
        \kanjiencoding{\kanjiencodingdefault}%
        \edef\k@family{\kanjifamilydefault}%
1812
        \edef\k@series{\kanjiseriesdefault}%
1813
        \edef\k@shape{\kanjishapedefault}%
1814
1815 }
1816 \fi
                                           % done
1817 \else % --- for <= 2020-02-02 END & for >= 2020-10-01 BEGIN
1818 \ifx\delayed@f@adjustment\@undefined % --- for == 2020-10-01 BEGIN
1819 (platexrelease) \DeclareRobustCommand \normalfont {%
1820 (platexrelease)
                    \fontencoding\encodingdefault
1821 (platexrelease)
                    \edef\f@family{\familydefault}%
1822 (platexrelease)
                    \edef\f@series{\seriesdefault}%
1823 (platexrelease)
                    \edef\f@shape{\shapedefault}%
1824 (platexrelease)
                    \UseHook{normalfont}%
1825 (platexrelease)
                    \@defaultfamilyhook % hookname from 2020/02 will vanish
1826 (platexrelease)
                    \selectfont}
1827 \AddToHook{normalfont}{%
        \kanjiencoding{\kanjiencodingdefault}%
1828
1829
        \edef\k@family{\kanjifamilydefault}%
```

```
1830
         \edef\k@series{\kanjiseriesdefault}%
         \edef\k@shape{\kanjishapedefault}%
1831
1832 }
                    \% --- for == 2020-10-01 END & for >= 2021-06-01 BEGIN
1833 \else
1834 \(\rangle platexrelease \rangle \rangle DeclareRobustCommand \normalfont \{\%\)
1835 (platexrelease)
                      \fontencoding\encodingdefault
1836 \langle platexrelease \rangle
                      \edef\f@family{\familydefault}%
1837 (platexrelease)
                      \edef\f@series{\seriesdefault}%
1838 (platexrelease)
                      \edef\f@shape{\shapedefault}%
1839 (platexrelease)
                      \let\delayed@f@adjustment\@empty
1840 (platexrelease)
                      \UseHook{normalfont}%
1841 (platexrelease)
                      \@defaultfamilyhook % hookname from 2020/02 will vanish
1842 (platexrelease)
                      \selectfont}
1843 \AddToHook{normalfont}{%
         \kanjiencoding{\kanjiencodingdefault}%
1845
         \edef\k@family{\kanjifamilydefault}%
         \edef\k@series{\kanjiseriesdefault}%
1846
         \edef\k@shape{\kanjishapedefault}%
1847
         \let\delayed@k@adjustment\@empty
1848
1849 }
                   % --- for >= 2021-06-01 END
1850 \fi
           \% --- for >= 2020-10-01 END
1851 \fi
1852 \adjustbaseline
1853 \let\reset@font\normalfont
1854 (/plcore | platexrelease)
1855 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
1856 \ \langle platexrelease \rangle \ | \ lincludeInRelease \{2020/02/02\} \{ \ lincludeInRelease \} 
1857 (platexrelease)
                                        {Don't call \fontseries or \fontshape}%
1858 (platexrelease)\DeclareRobustCommand\normalfont{%
1859 (platexrelease)
                       \kanjiencoding{\kanjiencodingdefault}%
1860 (platexrelease)
                       \edef\k@family{\kanjifamilydefault}%
1861 (platexrelease)
                       \edef\k@series{\kanjiseriesdefault}%
1862 (platexrelease)
                       \edef\k@shape{\kanjishapedefault}%
1863 (platexrelease)
                       \romanencoding{\encodingdefault}%
1864 (platexrelease)
                       \edef\f@family{\familydefault}%
1865 (platexrelease)
                       \edef\f@series{\seriesdefault}%
1866 (platexrelease)
                       \edef\f@shape{\shapedefault}%
1867 \langle platexrelease \rangle
                       \selectfont\ignorespaces}
1868 (platexrelease)\adjustbaseline
1869 (platexrelease)\let\reset@font\normalfont
1870 \ \langle {\tt platexrelease} \rangle {\tt \plEndIncludeInRelease}
1871 \ \langle platexrelease \rangle \ \ | lincludeInRelease \{0000/00/00\} \{\ \ \ \ \} 
1872 (platexrelease)
                                        {ASCII Corporation original}%
1873 (platexrelease)\DeclareRobustCommand\normalfont{%
1874 (platexrelease)
                       \kanjiencoding{\kanjiencodingdefault}%
1875 (platexrelease)
                       \kanjifamily{\kanjifamilydefault}%
1876 (platexrelease)
                       \kanjiseries{\kanjiseriesdefault}%
1877 (platexrelease)
                       \kanjishape{\kanjishapedefault}%
1878 (platexrelease)
                       \romanencoding{\encodingdefault}%
1879 (platexrelease)
                       \romanfamily{\familydefault}%
```

```
1881 (platexrelease)
                                     \romanshape{\shapedefault}%
                    1882 (platexrelease)
                                     \selectfont\ignorespaces}
                    1883 (platexrelease)\adjustbaseline
                    1885 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
                   	ext{IAT}_{	ext{FX}} 	ext{2}_{arepsilon} 	ext{2020-02-02} では、欧文フォントについて「ファミリごとの実際のシリーズ
       \bfseries@mc
                   値を設定できる」という機能が導入されました(元は mweights パッケージの機能)。
       \bfseries@gt
                    また、同時に「Computer Modern と Latin Modern の場合は互換性のため太字を
       \mdseries@mc
                    bx に、それ以外の欧文ファミリの場合は太字を b にする」という仕様変更も入りま
       \mdseries@gt
                    した。これに合わせて、pIAT_{PX} 2_{\varepsilon}の和文フォントにも同等の機能を追加し、和文
                    ファミリの太字も bx ではなく b に変更しました。
                    1886 (*plcore | platexrelease)
                    1887 \ifx\bfseries@rm\@undefined % old
                    1888 \let\bfseries@mc\@undefined
                   1889 \let\bfseries@gt\@undefined
                   1890 \ \text{let}\
                   1891 \let\mdseries@gt\@undefined
                   1892 \else
                                                 % 2020-02-02
                    1893 \edef\bfseries@mc{\bfdefault}% b
                    1894 \edef\bfseries@gt{\bfdefault}% b
                    1895 \edef\mdseries@mc{\mddefault}% m
                   1896 \edf\mdseries@gt{\mddefault}\% \ m
                   1897 \fi
\expand@font@defaults ファミリのデフォルトを完全展開します。まず、オリジナルの L&TrX の定義(ltf-
                    ssini.dtx 2020/08/21 v3.2b 以降) を載せておきます。
                    1898 %\def\expand@font@defaults{%
                    1899 % \edef\rmdef@ult{\rmdefault}%
                    1900 % \edef\sfdef@ult{\sfdefault}%
                         \edef\ttdef@ult{\ttdefault}%
                    1901 %
                    1902 % \series@maybe@drop@one@m\bfdefault\bfdef@ult % !! changed 2020/02/25 v3.1j
                    1903 % \series@maybe@drop@one@m\mddefault\mddef@ult % !! changed 2020/02/25 v3.1j
                    1904 % %\edef\famdef@ult{\familydefault}% !! deleted 2020/04/13 v3.1n
                    1905 % %\@expandfontdefaultshook
                                                 % !! only in 2020/04/06 v3.1m
                    1906 % \UseHook{expand@font@defaults}% !! new in 2020/08/21 v3.2b
                    1907 %}
                    platrX では、以下のコードを末尾に追加します。ltfssini.dtx 2020/04/13 v3.1n で
                    latex3/latex2e#315対策が入りましたので、その前後で\expand@font@defaults
                    および \init@series@setup への追加内容が変わります。
                    1908 \ifx\expand@font@defaults\\eundefined\else %<*2020-02-02|2020-10-01|.>
                    1909 \ifnum\pltx@newhook@avail=\z@ % --- for == 2020-02-02 BEGIN
                    1910 \g@addto@macro\expand@font@defaults{%
                    1911 \edef\mcdef@ult{\mcdefault}%
```

\romanseries{\seriesdefault}%

1880 (platexrelease)

```
\edef\gtdef@ult{\gtdefault}%
                \edef\kanjidef@ult{\kanjifamilydefault}%
          1913
          1914 }
          1915 \else % --- for == 2020-02-02 END & for >= 2020-10-01 BEGIN
          1916 \AddToHook{expand@font@defaults}{%
               \edef\mcdef@ult{\mcdefault}%
               \edef\gtdef@ult{\gtdefault}%
          1919 %\edef\kanjidef@ult{\kanjifamilydefault}% !! sync with 2020/04/13 v3.1n
          1920 }
                    \% --- for >= 2020-10-01 END
          1921 \fi
          1922 \fi %</2020-02-02|2020-10-01|.>
\bfseries ファミリごとの設定値を参照します。まず、オリジナルの LATFX の定義(ltfssini.dtx
\mdseries 2020/09/30 v3.2d 以降) を載せておきます。
          1923 %\DeclareRobustCommand\bfseries{%
                 \not@math@alphabet\bfseries\mathbf
          1924 %
          1925 %
                 \expand@font@defaults
          1926 % \ifx\bfdefault\bfdefault@previous\else % new in 2020/03/19 v3.1k
          1927 %
                   \expandafter\def\expandafter\bfdefault
                                   \expandafter{\bfdefault\@empty}%
          1928 %
                   \let\bfdefault@previous\bfdefault % bugfix in 2020/09/30 v3.2d
          1929 %
          1930 %
                   \let\bfseries@rm\bfdef@ult
          1931 %
                   \let\bfseries@sf\bfdef@ult
          1932 %
                   \let\bfseries@tt\bfdef@ult
          1933 %
                   %\@setbfseriesdefaultshook % !! only in 2020/04/06 v3.1m
          1934 %
                   \UseHook{bfseries/defaults}% !! new in 2020/08/21 v3.2b
          1935 % \fi
          1936 %
                   \ifx\f@family\rmdef@ult
                                                \fontseries\bfseries@rm
                   \else\ifx\f@family\sfdef@ult \fontseries\bfseries@sf
          1937 %
                   \else\ifx\f@family\ttdef@ult \fontseries\bfseries@tt
          1938 %
          1939 %
                   \else
                                                \fontseries\bfdefault
                   \fi\fi\fi
          1940 %
          1941 % \UseHook{bfseries}% !! new in 2020/08/21 v3.2b
          1942 % \selectfont
          1943 %}
          1944 %\DeclareRobustCommand\mdseries{%
          1945 % \not@math@alphabet\mdseries\relax
          1946 %
                \expand@font@defaults
          1947 % \ifx\mddefault\mddefault@previous\else % new in 2020/03/19 v3.1k
          1948 %
                   \expandafter\def\expandafter\mddefault
          1949 %
                                   \expandafter{\mddefault\@empty}%
          1950 %
                   \let\mddefault@previous\mddefault % bugfix in 2020/09/30 v3.2d
          1951 %
                   \let\mdseries@rm\mddef@ult
          1952 %
                   \let\mdseries@sf\mddef@ult
          1953 %
                   \let\mdseries@tt\mddef@ult
                   %\@setmdseriesdefaultshook % !! only in 2020/04/06 v3.1m
          1954 %
          1955 %
                   \UseHook{mdseries/defaults}% !! new in 2020/08/21 v3.2b
          1956 %
          1957 %
                   \ifx\f@family\rmdef@ult
                                                \fontseries\mdseries@rm
```

```
1958 %
         \else\ifx\f@family\sfdef@ult \fontseries\mdseries@sf
1959 %
         \else\ifx\f@family\ttdef@ult \fontseries\mdseries@tt
1960 %
                                      \fontseries\mddefault
1961 %
         \fi\fi\fi
      \UseHook{mdseries}% !! new in 2020/08/21 v3.2b
1962 %
1963 %
      \selectfont
1964 %}
以下で pIATeX 用に再定義します。まず IATeX 2<sub>6</sub> 2020-02-02 ベース。
1965 \ifx\bfseries@rm\@undefined\else %<*2020-02-02|2020-10-01|.>
1966 \ifnum\pltx@newhook@avail=\z@ % --- for == 2020-02-02 BEGIN
1967 \DeclareRobustCommand\bfseries{%
1968
      \not@math@alphabet\bfseries\mathbf
1969
      \expand@font@defaults
     % changed \fontseries -> \romanseries
1970
        \ifx\f@family\rmdef@ult
1971
                                     \romanseries\bfseries@rm
        \else\ifx\f@family\sfdef@ult \romanseries\bfseries@sf
1972
1973
        \else\ifx\f@family\ttdef@ult \romanseries\bfseries@tt
1974
        \else
                                     \romanseries\bfdefault
        \fi\fi\fi
1975
 ここからが pIAT<sub>F</sub>X による追加コードです。
     % changed \fontseries -> \kanjiseries
        \ifx\k@family\mcdef@ult
                                     \kanjiseries\bfseries@mc
1977
        \else\ifx\k@family\gtdef@ult \kanjiseries\bfseries@gt
1978
1979
        \else
                                     \kanjiseries\bfdefault
1980
        \fi\fi
 ここまで。
1981
     \selectfont
1982 }
1983 \DeclareRobustCommand\mdseries{%
      \not@math@alphabet\mdseries\relax
1985
      \expand@font@defaults
     % changed \fontseries -> \romanseries
1986
1987
        \ifx\f@family\rmdef@ult
                                     \romanseries\mdseries@rm
        \else\ifx\f@family\sfdef@ult \romanseries\mdseries@sf
1988
        \else\ifx\f@family\ttdef@ult \romanseries\mdseries@tt
1989
        \else
1990
                                      \romanseries\mddefault
        \fi\fi\fi
1991
 ここからが pIATEX による追加コードです。
1992
     % changed \fontseries -> \kanjiseries
1993
        \ifx\k@family\mcdef@ult
                                     \kanjiseries\mdseries@mc
1994
        \else\ifx\k@family\gtdef@ult \kanjiseries\mdseries@gt
                                     \kanjiseries\mddefault
        \else
        \fi\fi
1996
 ここまで。
     \selectfont
1998 }
```

File c: plfonts.dtx Date: 2021/06/27 Version v1.7n

```
1999 \else % --- for == 2020-02-02 END & for >= 2020-10-01 BEGIN
                              2000 \AddToHook{bfseries/defaults}{%
                                      \let\bfseries@mc\bfdef@ult
                              2002
                                      \let\bfseries@gt\bfdef@ult
                              2003 }
                              2004 \AddToHook\{bfseries\} \{\%
                                   % changed \fontseries -> \kanjiseries
                              2005
                                      \ifx\k@family\mcdef@ult
                                                                  \kanjiseries\bfseries@mc
                              2006
                                      \else\ifx\k@family\gtdef@ult \kanjiseries\bfseries@gt
                              2007
                                                                  \kanjiseries\bfdefault
                              2008
                                      \else
                              2009
                                      \fi\fi
                              2010 }
                              2011 \AddToHook{mdseries/defaults}{%
                                      2012
                              2013
                                      \let\mdseries@gt\mddef@ult
                              2014 }
                              2015 \AddToHook\{mdseries\}\{\%
                                   % changed \fontseries -> \kanjiseries
                              2016
                                                                  \kanjiseries\mdseries@mc
                              2017
                                      \ifx\k@family\mcdef@ult
                                      \else\ifx\k@family\gtdef@ult \kanjiseries\mdseries@gt
                              2018
                              2019
                                      \else
                                                                  \kanjiseries\mddefault
                              2020
                                      \fi\fi
                              2021 }
                              2022 \fi
                                       % --- for >= 2020-10-01 END
                              2023 \fi %</2020-02-02|2020-10-01|.>
pare@family@series@update@kanji \prepare@family@series@updateの和文版です。
      2025 \let\prepare@family@series@update@kanji\@undefined
odate@series@target@value@kanji
                              2026 \let\@meta@family@list@kanji\@undefined
                              2027 \let\update@series@target@value@kanji\@undefined
                                                                               % 2020-02-02
                              2028 \else
                              2029 \def\prepare@family@series@update#1#2{%
                              2030 ~\if@forced@series
                              2031 (+debug) \series@change@debug{No series preparation (forced \f@series)\on@line}%
                              2032 ~
                                    \romanfamily#2% % changed \fontfamily -> \romanfamily
                              2033 ~\else
                              2034 (+debug) \series@change@debug{Prepearing for switching to #1 (#2)\on@line}%
                                     \expand@font@defaults
                              2035
                              2036
                                     \let\target@series@value\@empty
                                     \def\target@meta@family@value{#1}%
                              2037
                                     \expandafter\edef\csname ??def@ult\endcsname{\f@family}%
                              2038
                                     \let\@elt\update@series@target@value
                              2039
                              2040
                                        \@meta@family@list
                                        \@elt{??}%
                              2041
                              2042
                                     \let\@elt\relax
                                                       % changed \fontfamily -> \romanfamily
                              2043
                                     \romanfamily#2%
                              2044
                                     \ifx\target@series@value\@empty
```

次に \LaTeX 2ε 2020-10-01 ベース。\AddToHook で十分です。

```
2045 (+debug) \series@change@debug{Target series still empty ...}%
2046
       \else
         \ifx \f@series\target@series@value
2048 (+debug) \series@change@debug{Target series unchanged:
                                    \f@series \space = \target@series@value}%
2049 (+debug)
2050
         \else
            \maybe@load@fontshape
2051
2052 (+debug) \series@change@debug{Target series:
2053 \langle +debug \rangle
                                    \f@series \space -> \target@series@value}%
2054 %
            \let\f@series\target@series@value
2055
           \series@maybe@drop@one@m\target@series@value\f@series
2056
         \fi
       \fi
2057
2058 ~\fi
2059 }
2060 \def\prepare@family@series@update@kanji#1#2{%
2061 ~\if@forced@series@kanji
2062 (+debug) \series@change@debug{No series preparation (forced \k@series)\on@line}%
2063
       \kanjifamily#2%
2064 ~\else
2065 (+debug) \series@change@debug{Prepearing for switching to #1 (#2)\on@line}%
2066
       \expand@font@defaults
       \let\target@series@value\@empty
2067
       \def\target@meta@family@value{#1}%
2068
       \expandafter\edef\csname ??def@ult\endcsname{\k@family}%
2069
2070
       \let\@elt\update@series@target@value@kanji
2071
          \@meta@family@list@kanji
          \@elt{??}%
2072
       \let\@elt\relax
2073
       \kanjifamily#2%
2074
       \ifx\target@series@value\@empty
2075
2076 (+debug) \series@change@debug{Target series still empty ...}%
2077
2078
         \ifx \k@series\target@series@value
2079 (+debug) \series@change@debug{Target series unchanged:
2080 (+debug)
                                    \k@series \space = \target@series@value}%
2081
         \else
            \begingroup\let\f@encoding\k@encoding\let\f@family\k@family
2082
              \maybe@load@fontshape\endgroup
2083
2084 (+debug) \series@change@debug{Target series:
2085 \langle +debug \rangle
                                    \k@series \space -> \target@series@value}%
            \let\k@series\target@series@value
2086 %
2087
           \series@maybe@drop@one@m\target@series@value\k@series
         \fi
2088
       \fi
2089
2090 ~\fi
2091 }
2092 \def\@meta@family@list@kanji{\@elt{mc}\@elt{gt}}
2093 \def\update@series@target@value@kanji#1{%
      \def\reserved@a{#1}%
2094
```

```
2097 \ (+debug) \ series@change@debug\{Trying to match \#1: \ csname\#1def@ult\ endcsname = 1000 \ for the constant of the cons
                                     2098 (+debug)
                                                                                                        \space = \k@family\space ?}%
                                                     \expandafter\ifx\csname#1def@ult\endcsname\k@family
                                     2099
                                     2100
                                                         \let\@elt\@gobble
                                                         \expandafter\let\expandafter\reserved@b
                                     2101
                                     2102
                                                                                        \csname mdseries@\target@meta@family@value\endcsname
                                     2103
                                                         \expandafter\let\expandafter\reserved@c
                                                                                        \csname bfseries@\target@meta@family@value\endcsname
                                     2104
                                     2105 (+debug)\series@change@debug{Targets for mdseries and bfseries:
                                     2106 (+debug)
                                                                                                      \reserved@b\space and \reserved@c}%
                                                         \expandafter\series@maybe@drop@one@m
                                     2107
                                                                 \csname mdseries@#1\endcsname\reserved@d
                                     2108
                                                         \ifx\reserved@d\k@series
                                     2109
                                     2110 (+debug)
                                                                \series@change@debug{mdseries@#1 matched -> \reserved@b}%
                                                                                                                       \let\target@series@value\reserved@b
                                     2111
                                     2112
                                                         \else
                                                            \expandafter\series@maybe@drop@one@m
                                     2113
                                                                   \csname bfseries@#1\endcsname\reserved@d
                                     2114
                                     2115
                                                            \ifx\reserved@d\k@series
                                     2116 (+debug) \series@change@debug{bfseries@#1 matched -> \reserved@c}%
                                     2117
                                                                                                                       \let\target@series@value\reserved@c
                                                         \else\ifx\k@series\mddef@ult
                                                                                                                       \let\target@series@value\reserved@b
                                     2119 (+debug) \series@change@debug{mddef@ult matched -> \reserved@b}%
                                                         \else\ifx\k@series\bfdef@ult
                                                                                                                       \let\target@series@value\reserved@c
                                     2121 (+debug) \series@change@debug{bfdef@ult matched -> \reserved@c}%
                                     2122
                                                        \fi\fi\fi\fi
                                     2123
                                                     \fi
                                     2124
                                                \fi
                                     2125 }
                                     2126 \fi
\init@series@setup \begin{document}で実行される初期化です。まず、オリジナルの LATFX の定義(ltf-
                                       ssini.dtx 2020/04/13 v3.1n 以降) を載せておきます。
                                     2127 %\def\init@series@setup{%
                                     2128 % \ifx\bfseries@rm@kernel\bfseries@rm
                                     2129 %
                                                      \expandafter\in@\expandafter{\rmdefault}%
                                     2130 %
                                                                                      {cmr,cmss,cmtt,lcmss,lcmtt,lmr,lmss,lmtt}%
                                     2131 %
                                                      \ifin@ \else \def\bfseries@rm{b}\fi\fi
                                     2132 % \ifx\bfseries@sf@kernel\bfseries@sf
                                                      \expandafter\in@\expandafter{\sfdefault}%
                                     2133 %
                                                                                      {cmr,cmss,cmtt,lcmss,lcmtt,lmr,lmss,lmtt}%
                                     2134 %
                                     2135 %
                                                       \ifin@ \else \def\bfseries@sf{b}\fi\fi
                                     2136 %
                                                  \ifx\bfseries@tt@kernel\bfseries@tt
                                     2137 %
                                                      \expandafter\in@\expandafter{\ttdefault}%
                                     2138 %
                                                                                      {cmr,cmss,cmtt,lcmss,lcmtt,lmr,lmss,lmtt}%
                                     2139 %
                                                       \ifin@ \else \def\bfseries@tt{b}\fi\fi
                                     2140 % %\expand@font@defaults % !! deleted in 2020/04/13 v3.1n BEGIN
```

\ifx\target@meta@family@value\reserved@a % rm -> rm do nothing

2095 2096

\else

```
2141 % %\ifx\famdef@ult\rmdef@ult
                                          \rmfamily
                                                               % !! CONT
2142 % %\else\ifx\famdef@ult\sfdef@ult \sffamily
                                                               % !! CONT
2143 % %\else\ifx\famdef@ult\ttdef@ult \ttfamily
                                                               % !! CONT
2144 % %\fi\fi % !! deleted in 2020/04/13 v3.1n END 2145 % \reset@font % !! added in 2020/04/13 v3.1n BEGIN
2146 % \ifx\seriesdefault\seriesdefault@kernel % !! CONT
                                                     % !! CONT
2147 %
         \mdseries
         \let\seriesdefault\f@series
                                                     % !! CONT
2148 %
2149 % \fi
                        %!! added in 2020/04/13 v3.1n END
2150 %}%
```

ここからが pIATeX による追加コードです。

- IATEX 2_€ 2019-10-01 以前:未定義
- IATEX 2_€ 2020-02-02 以降:上のとおりの定義
- ただし、latexrelease で巻き戻し:\relax と同義

になることに注意します。

```
2151 \expandafter\ifx\csname init@series@setup\endcsname\relax
           %<*2020-02-02|2020-10-01|.>
2152 \ensuremath{\setminus} else
2153 \ifnum\pltx@newhook@avail=\z@ % --- for == 2020-02-02 BEGIN
2154 \g@addto@macro\init@series@setup{%
2155 \ifx\kanjidef@ult\mcdef@ult
2156 \else\ifx\kanjidef@ult\gtdef@ult \gtfamily
2157 \fi\fi
2158 }%
2159 \text{ lse } \% --- for == 2020-02-02 \text{ END } \& \text{ for >= } 2020-10-01 \text{ BEGIN}
2160 \g@addto@macro\init@series@setup{%
2161 % !! sync with 2020/04/13 v3.1n BEGIN
     \ifx\kanjiseriesdefault\kanjiseriesdefault@kernel
2162
2163
        \mdseries
2164
        \let\kanjiseriesdefault\k@series
     \fi
2165
2166~\% !! sync with 2020/04/13 v3.1n END
2167 }%
          % --- for >= 2020-10-01 END
2168 \fi
            %</2020-02-02|2020-10-01|.>
2169 \fi
```

\kanjiseriesdefault \kanjiseriesdefault が pldefs.ltx または pldefs.cfg で定義された後に、そ \kanjiseriesdefault@kernel の末尾に \@empty を追加します。これは展開時に消滅しますが、文書のプリアンブ ルで別の値に変更されたかどうか検知できるようになります。

```
2170 \ifnum\pltx@newhook@avail>\z@ % --- for >= 2020-10-01 BEGIN
2171 \def\code@after@pldefs{%
2172 \expandafter\def\expandafter\kanjiseriesdefault
2173 \expandafter{\kanjiseriesdefault\@empty}
2174 \let\kanjiseriesdefault@kernel\kanjiseriesdefault}
2175 \fi
                                  \% --- for >= 2020-10-01 END
```

File c: plfonts.dtx Date: 2021/06/27 Version v1.7n

```
\mcfamily 和文書体を明朝体にする \mcfamily とゴシック体にする \gtfamily を定義します。
\gtfamily これらは、\rmfamily などに対応します。\mathmc と \mathgt は数式内で用いると
          きのコマンド名です。
         2176 \ifx\prepare@family@series@update@kanji\@undefined % old
         2177 \DeclareRobustCommand\mcfamily
                     {\not@math@alphabet\mcfamily\mathmc
         2178
         2179
                      \kanjifamily\mcdefault\selectfont}
         2180 \DeclareRobustCommand\gtfamily
         2181
                     {\not@math@alphabet\gtfamily\mathgt
                      \kanjifamily\gtdefault\selectfont}
         2182
                                                               % 2020-02-02
         2183 \else
         2184 \DeclareRobustCommand\mcfamily
                 {\not@math@alphabet\mcfamily\mathmc
         2185
                  \prepare@family@series@update@kanji{mc}\mcdefault\selectfont}
         2187 \DeclareRobustCommand\gtfamily
                 {\not@math@alphabet\gtfamily\mathgt
                  \prepare@family@series@update@kanji{gt}\gtdefault\selectfont}
         2189
         2190 \fi
         2191 (/plcore | platexrelease)
 \textmc テキストファミリを切り替えるためのコマンドです。ltfntcmd.dtx で定義されて
 \textgt いる \textrm などに対応します。
         2192 (*plcore)
         2193 \DeclareTextFontCommand{\textmc}{\mcfamily}
         2194 \verb|\DeclareTextFontCommand{\textgt}{\gtfamily}|
         2195 (/plcore)
            後回しにしていた他のバージョンへの対処です。ここで新 NFSS 対応コードが終
          わりますので、\catcode トリックを元に戻します。
         2196 (*plcore | platexrelease)
         2197 %%
         2198 \ifnum\pltx@latex@level>0\relax
                                                  % 2020-02-02
         2199 %
         2200 \verb|\frum\pltx@latex@level<3\relax|
                                                  \% 2020-02-02 patch level 0--2 (no flags)
         2201 \DeclareRobustCommand\romanseries[1]{\merge@font@series{#1}}
         2202 \DeclareRobustCommand\kanjiseries[1]{\merge@kanji@series{#1}}
         2203 \DeclareRobustCommand\fontseries[1] {\kanjiseries{#1}\romanseries{#1}}
         2204 \DeclareRobustCommand\romanseriesforce[1]{\edef\f@series{#1}}
         2205 \DeclareRobustCommand\kanjiseriesforce[1]{\edef\k@series{#1}}
         2206 \DeclareRobustCommand\fontseriesforce[1]{\kanjiseriesforce{#1}\romanseriesforce{#1}}
         2207\fi
         2208 %
         2209 \ifnum\pltx@latex@level=1\relax
                                                  % 2020-02-02 patch level 0 (\@reserveda)
         2210 \def\merge@kanji@series@#1#2#3\@ni1{%
              \def\@reserveda{#3}%
         2212
               \ifx\@reserveda\@empty
                 \set@target@series@kanji{#2}%
         2213
```

```
2214
      \else
        \begingroup\let\f@encoding\k@encoding\let\f@family\k@family
2215
          \maybe@load@fontshape\endgroup
2216
2217
        \edef\@reserveda{\k@encoding /\k@family /#1/\k@shape}%
2218
         \ifcsname \@reserveda \endcsname
2219
           \set@target@series@kanji{#1}%
2220
        \else
2221
           \ifcsname \k@encoding /\k@family /#2/\k@shape \endcsname
2222
             \set@target@series@kanji{#2}%
             {\let\curr@fontshape\curr@kfontshape\@font@shape@subst@warning}%
2223
2224
           \else
              \set@target@series@kanji{#3}%
2225
             {\let\curr@fontshape\curr@kfontshape\@font@shape@subst@warning}%
2226
2227
2228
        \fi
2229
      \fi
2230 }
2231 \def\merge@kanji@shape@#1#2#3\@nil{%
      \def\@reserveda{#3}%
2232
      \ifx\@reserveda\@empty
2233
2234
        \edef\k@shape{#2}%
2235
      \else
        \begingroup\let\f@encoding\k@encoding\let\f@family\k@family
2236
          \maybe@load@fontshape\endgroup
2237
2238
        \edef\@reserveda{\k@encoding /\k@family /\k@series/#1}%
2239
         \ifcsname \@reserveda\endcsname
2240
           \edef\k@shape{#1}%
2241
        \else
           \ifcsname \k@encoding /\k@family /\k@series/#2\endcsname
2242
             \edef\k@shape{#2}%
2243
             {\tt \{\let\curr@fontshape\curr@kfontshape\@font@shape@subst@warning\}\%}
2244
           \else
2245
2246
             \edef\k@shape{#3}%
             {\let\curr@fontshape\curr@kfontshape\@font@shape@subst@warning}%
        \fi
2249
      \fi
2250
2251 }
2252 \fi
2253 %
2254 \verb|\finum\pltx@latex@level<4\relax|
                                            % 2020-02-02 patch level 0--4 (drop m)
2255 \def\set@target@series@kanji#1{%
2256
        \edef\k@series{#1}%
        \edef\k@series{\expandafter\series@drop@one@m\k@series mm\series@drop@one@m}%
2257
2258 }
2259 \else\ifnum\pltx@latex@level=4\relax % 2020-02-02 patch level 5 (old syntax)
2260 \def\set@target@series@kanji#1{%
2261
        \edef\k@series{#1}%
2262
        \expandafter\series@maybe@drop@one@m\expandafter{\k@series}\k@series
2263 }
```

```
2264 \fi\fi
2265 %
2266 \ifnum\pltx@latex@level<5\relax
                                            % 2020-02-02 patch level 0--5
2267 \def\prepare@family@series@update#1#2{%
2268 ~\if@forced@series
2269 (+debug) \series@change@debug{No series preparation (forced \f@series)\on@line}%
2270 ~ \romanfamily#2% % changed \fontfamily -> \romanfamily
2271 ~\else
2272 + debug \series@change@debug{Prepearing for switching to #1 (#2)\on@line}%
       \expand@font@defaults
2273
2274
       \let\target@series@value\@empty
2275
       \def\target@meta@family@value{#1}%
       \expandafter\edef\csname ??def@ult\endcsname{\f@family}%
2276
       \let\@elt\update@series@target@value
2277
          \@meta@family@list
2278
2279 ~
          \@elt{??}%
2280
       \let\@elt\relax
       \verb|\romanfamily#2%|
                          % changed \fontfamily -> \romanfamily
2281
       \ifx\target@series@value\@empty
2282
2283 (+debug) \series@change@debug{Target series still empty ...}%
2284
         \ifx \f@series\target@series@value
2285
2286 (+debug) \series@change@debug{Target series unchanged:
                                   \f@series \space = \target@series@value}%
2287 (+debug)
2288
           \maybe@load@fontshape
2289
2290 (+debug) \series@change@debug{Target series:
                                   \f@series \space -> \target@series@value}%
2291 (+debug)
           \let\f@series\target@series@value
2292
         \fi
2293
       \fi
2294
2295 ~\fi
2296 }
2297 \def\prepare@family@series@update@kanji#1#2{%
2298 ~\if@forced@series@kanji
2299 + \text{debug} \ \series@change@debug{No series preparation (forced \k@series) \on@line}%
2300 ~
     \kanjifamily#2%
2301 ~\else
2302 (+debug) \series@change@debug{Prepearing for switching to #1 (#2)\on@line}%
       \expand@font@defaults
2303
       \let\target@series@value\@empty
2304
       \def\target@meta@family@value{#1}%
2305
2306 ~
       \expandafter\edef\csname ??def@ult\endcsname{\k@family}%
2307
       \let\@elt\update@series@target@value@kanji
          \@meta@family@list@kanji
2308
2309 ~
          \@elt{??}%
2310
       \let\@elt\relax
2311
       \kanjifamily#2%
2312
       \ifx\target@series@value\@empty
2313 (+debug) \series@change@debug{Target series still empty ...}%
```

```
2314
                             \ifx \k@series\target@series@value
2315
2316 (+debug) \series@change@debug{Target series unchanged:
2317 (+debug)
                                                                                                              \k@series \space = \target@series@value}%
2318
                                    \begingroup\let\f@encoding\k@encoding\let\f@family\k@family
2319
                                          \maybe@load@fontshape\endgroup
2320
2321 (+debug) \series@change@debug{Target series:
2322 \langle +debug \rangle
                                                                                                              \k@series \space -> \target@series@value}%
                                    \let\k@series\target@series@value
2323
2324
                             \fi
                       \fi
2325
2326 ~\fi
2327 }
2328 \def\@meta@family@list@kanji{\@elt{mc}\@elt{gt}}
2329 \def\update@series@target@value@kanji#1{%
                   \def\reserved@a{#1}%
2330
                    \ifx\target@meta@family@value\reserved@a
                                                                                                                                                              % rm -> rm do nothing
2331
2332
                   \else
2333 \; \langle + debug \rangle \; \\ \verb|\scrips@change@debug{Trying to match \#1: } \\ \verb|\csname#1def@ult\endcsname=1 \\ | csname#1def@ult\endcsname=1 \\ | csname#1def@ult\end
2334 (+debug)
                                                                                                              \space = \k@family\space ?}%
2335
                          \expandafter\ifx\csname#1def@ult\endcsname\k@family
2336
                                 \let\@elt\@gobble
                                 \expandafter\let\expandafter\reserved@b
2337
                                                                                    \csname mdseries@\target@meta@family@value\endcsname
2338
2339
                                 \expandafter\let\expandafter\reserved@c
2340
                                                                                    \csname bfseries@\target@meta@family@value\endcsname
2341 \ \langle +debug \rangle \backslash series@change@debug\{Targets\ for\ mdseries\ and\ bfseries: \ and\ bfs
2342 (+debug)
                                                                                                          \reserved@b\space and \reserved@c}%
                                \expandafter\ifx\csname mdseries@#1\endcsname\k@series
2343
2344 \langle +debug \rangle
                                                \verb|\scries@change@debug{mdseries@#1 matched -> \reserved@b}||%
                                                                                                                                        \let\target@series@value\reserved@b
2345
2346
                                \else\expandafter\ifx\csname bfseries@#1\endcsname\k@series
2347 + \text{debug} \series@change@debug{bfseries@#1 matched -> \reserved@c}%
                                                                                                                                        \let\target@series@value\reserved@c
2349
                                 \else\ifx\k@series\mddef@ult
                                                                                                                                        \let\target@series@value\reserved@b
2350 (+debug) \series@change@debug{mddef@ult matched -> \reserved@b}%
                                \else\ifx\k@series\bfdef@ult
                                                                                                                                        \let\target@series@value\reserved@c
2352 (+debug) \series@change@debug{bfdef@ult matched -> \reserved@c}%
                                \fi\fi\fi\fi
2353
2354
                          \fi
                   \fi
2355
2356 }
2357 \fi
2358 %
2359 \fi
2360 %%
2361 \pltx@reset@catcode@trick
2362 (/plcore | platexrelease)
```

```
\romanprocess@table 文書の先頭で、和文デフォルトフォントの変更が反映されないのを修正します。
\kanjiprocess@table 2363 (*plcore)
    2365 \def\kanjiprocess@table{%
                        \kanjiencoding\kanjiencodingdefault
                   2366
                        \edef\k@family{\kanjifamilydefault}%
                   2367
                        \edef\k@series{\kanjiseriesdefault}%
                   2368
                   2369
                        \edef\k@shape{\kanjishapedefault}%
                   2370 }
                   2371 \def\process@table{%
                        \romanprocess@table
                        \kanjiprocess@table
                   2374 }
                   2375 \@onlypreamble\romanprocess@table
                   2376 \@onlypreamble\kanjiprocess@table
                   2377 (/plcore)
                          強調書体
                    7.3
               \em 従来は \em, \emph で和文フォントの切り替えは行っていませんでしたが、和文フォ
             \emph ントも \gtfamily に切り替えるようにしました。
                     [pIFTFX 2\varepsilon 2016/04/17] IFTFX <2015/01/01>で追加された \eminnershape も取
     \eminnershape
                    り入れ、強調コマンドを入れ子にする場合の書体を自由に再定義できるようになり
                    ました。
                      [pIAT_{F}X \, 2_{\varepsilon} \, 2020-02-02] \, IAT_{F}X \, < 2020-02-02>で追加された \DeclareEmphSequence
                    をサポートしました。
                   2378 \ \langle platexrelease \rangle \ | plincludeInRelease \{2020/02/02\} \{\ DeclareEmphSequence\} \} 
                   2379 (platexrelease)
                                                                {Nested emph}%
                   2380 (*plcore | platexrelease)
                   2381 \ifx\DeclareEmphSequence\@undefined \% old
                   2382 \DeclareRobustCommand\em
                   2383
                              {\tt \{\nomath\em\\ifdim\fontdimen\em\font\>\z@}
                                            \eminnershape \else \gtfamily \itshape \fi}%
                   2384
                   2385 \setminus else
                   2386 \DeclareRobustCommand\em{%
                                                         % 2020-02-02
                        \@nomath\em
                   2388 \ifx\emfontdeclare@clist\@empty
                          \ifdim \fontdimen\@ne\font >\z@
                   2389
                   2390
                            \eminnershape \else \gtfamily \itshape \fi
                   2391
                       \edef\em@currfont{\csname\curr@fontshape/\f@size\endcsname}%
                   2392
                         \expandafter\do@emfont@update\emfontdeclare@clist\do@emfont@update
                   2393
                   2394
                        \fi
                   2395 }
```

2397 \def\eminnershape{\mcfamily \upshape}%

2396 \fi

```
2398 (/plcore | platexrelease)
2399 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
2400 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2016/04/17}{\DeclareEmphSequence}
2401 (platexrelease)
                                                                                                                                   {Support \eminnershape}%
2402 (platexrelease)\DeclareRobustCommand\em
2403 (platexrelease)
                                                                  {\@nomath\em \ifdim \fontdimen\@ne\font >\z@
2404 (platexrelease)
                                                                                                            \eminnershape \else \gtfamily \itshape \fi}%
2405 \langle platexrelease \rangle \land feminnershape{\mcfamily \upshape}%
2406 <platexrelease <pre>\plEndIncludeInRelease
2408 (platexrelease)
                                                                                                                                  {Non-supported \eminnershape}%
2409 (platexrelease)\DeclareRobustCommand\em
2410 (platexrelease)
                                                                  {\@nomath\em \ifdim \fontdimen\@ne\font >\z@
2411 (platexrelease)
                                                                                                             \mcfamily \upshape \else \gtfamily \itshape \fi}
2412 (platexrelease) \def\eminnershape{\upshape}% defined by LaTeX, but not used by pLaTeX
2413 \(\rangle platexrelease \)\(\rangle \)\(\rangle platexrelease \)
2414 \particle{lase} \plincludeInRelease{0000/00/00}{\particle{lase}} \particle{lase} \parti
2415 \langle platexrelease \rangle
                                                                                                                                  {ASCII Corporation original}%
2416 \ \langle {\tt platexrelease} \rangle \backslash {\tt DeclareRobustCommand} \backslash {\tt em}
2417 (platexrelease)
                                                                  {\@nomath\em \ifdim \fontdimen\@ne\font >\z@
2418 (platexrelease)
                                                                                                            \mcfamily \upshape \else \gtfamily \itshape \fi}
2419 (platexrelease)\let\eminnershape\@undefined
2420 <platexrelease > \plEndIncludeInRelease
```

7.4 下線マクロ

\textunderscore

このコマンドはテキストモードで指定された_の内部コマンドです。縦組での位置を調整するように再定義をします。もとは ltoutenc.dtx で定義されています。

なお、_を数式モードで使うと\mathunderscoreが実行されます。

コミュニティ版では縦数式ディレクションでベースライン補正量が変だったのを 直しました。あわせて横ディレクションでもベースライン補正に追随するようにし ています。

```
2421 \ \langle platexrelease \rangle \ | plincludeInRelease \{ 2017/04/08 \} \{ \ textunderscore \} 
2422 (platexrelease)
                                         {Baseline shift for \textunderscore}%
2423 (*plcore | platexrelease)
2424 \DeclareTextCommandDefault{\textunderscore}{%
2425
      \leavevmode\kern.06em
       \raise-\iftdir\ifmdir\ybaselineshift
2426
               \else\tbaselineshift\fi
2427
               \else\ybaselineshift\fi
2428
      \vbox{\hrule\@width.3em}}
2429
2430 (/plcore | platexrelease)
2431 <platexrelease <pre>\plEndIncludeInRelease
2432 \(\rangle\)plIncludeInRelease\(\rangle\)0000/00\(\rangle\)\(\rangle\)textunderscore\
2433 (platexrelease)
                                         {ASCII Corporation original}%
2434 (platexrelease)\DeclareTextCommandDefault{\textunderscore}{%
2435 (platexrelease) \leavevmode\kern.06em
```

```
2436 (platexrelease) \iftdir\raise-\tbaselineshift\fi
2437 (platexrelease) \vbox{\hrule\@width.3em}}
2438 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
```

7.5 合成文字

IATEX 2_{ε} のカーネルのコードをそのまま使うと、pTeX のベースライン補正量がゼロでないときに合成文字がおかしくなっていたため、対策します。

```
\pltx@saved@oalign \b{...}, \c{...}, \d{...}, \k{...}などの合成文字を修正するため、ltplain.dtx
                                                          の \oalign を上書きします。
                                                        2439 \ \langle platexrelease \rangle \% \rangle PlIncludeInRelease \{0000/00/00\} \{ \ pltx@saved@oalign \} \}
                                                        2440 (platexrelease)%
                                                                                                         {Special case! (This block is required for any emulation date)}%
                                                        2441 (*plcore | platexrelease)
                                                           まず、元の IATrX のコードをコピーしたものです。接頭辞 \pltx@saved... を付け
                                                          ておきます。
                                                        2442 \ensuremath{\tt 2442 \ensur
                                                        2443 \ialign{##\crcr#1\crcr}}}
                                                        2444 (/plcore | platexrelease)
                                                        2445 (platexrelease) %\plEndIncludeInRelease
                      \pltx@oalign 次に、pIATEX の新しいコードです。
                                                        2446 \(\rangle platexrelease \rangle \rangle plinclude InRelease \{ 2018/07/28 \} \{ \rangle pltx@oalign \}
                                                        2447 (platexrelease)
                                                                                                                                               {Fix for non-zero baselineshift}%
                                                        2448 (*plcore | platexrelease)
                                                        2449 \ensuremath{\tt def\pltx@oalign\#1{\tt lifmmode}}
                                                        2450 \leavevmode\vtop{\baselineskip\z@skip \lineskip.25ex%
                                                                            \ialign{##\crcr#1\crcr}}%
                                                        2451
                                                        2452 \else
                                                        2453 \iftdir\ybaselineshift\tbaselineshift\fi
                                                                       \m@th$\hbox{\vtop{\baselineskip\z@skip \lineskip.25ex%
                                                                            \ialign{##\crcr#1\crcr}}}$%
                                                        2456 \fi}
                                                        2457 (/plcore | platexrelease)
                                                        2458 \(\rangle platexrelease \)\\rangle plEndIncludeInRelease
                                                        2459 \(\rangle\)plincludeInRelease\(\rangle\)0000/00\(\rangle\)\(\rangle\)plincludeInRelease\(\rangle\)
                                                        2460 (platexrelease)
                                                                                                                                                  {Fix for non-zero baselineshift}%
                                                        2461 (platexrelease)\let\pltx@oalign\@undefined
                                                        2462 \langle platexrelease \rangle \rangle 1 EndIncludeInRelease
\pltx@saved@ltx@sh@ft \b{...}と \d{...}の合成文字を修正するため、ltplain.dtx の \ltx@sh@ft を上
                                                          書きします。
                                                        2463 \ \langle platexrelease \rangle \% \rangle lincludeInRelease \{0000/00/00\} \{ \ pltx@saved@ltx@sh@ft \} \} 
                                                        2464 (platexrelease)%
                                                                                                             {Special case! (This block is required for any emulation date)}%
```

File c: plfonts.dtx Date: 2021/06/27 Version v1.7n

2465 (*plcore | platexrelease)

```
まず、元の IATrX のコードをコピーしたものです。接頭辞 \pltx@saved...を付け
                                   ておきます。
                                2466 \def\pltx@saved@ltx@sh@ft #1{%
                                2467
                                            \dimen@ #1%
                                2468 \kern \strip@pt
                                                \fontdimen1\font \dimen0
                                2470 } % kern by #1 times the current slant
                                2471 (/plcore | platexrelease)
                                \pltx@ltx@sh@ft 次に、pLATFX の新しいコードです。
                                2473 \left| platexrelease \right| plincludeInRelease \{2018/07/28\} \left| pltx@ltx@sh@ft \right|
                                2474 (platexrelease)
                                                                                                       {Fix for non-zero baselineshift}%
                                2475 (*plcore | platexrelease)
                                2476 \def\pltx@ltx@sh@ft #1{%
                                2477
                                           \ybaselineshift\z@
                                            \dimen@ #1%
                                2478
                                            \kern \strip@pt
                                2479
                                                \fontdimen1\font \dimen0
                                2480
                                2481
                                            } % kern by #1 times the current slant
                                2482 (/plcore | platexrelease)
                                2484 \left| \text{platexrelease} \right| \text{plIncludeInRelease} \{0000/00/00\} \{ \text{pltx@ltx@sh@ft} \}
                                2485 (platexrelease)
                                                                                                       {Fix for non-zero baselineshift}%
                                2486 \langle platexrelease \rangle \text{let} v@tx@sh@ft\\@undefined
                                2487 \(\rangle platexrelease \)\(\rangle platexrelease \)
 \g@tlastchart@ T<sub>F</sub>X Live 2015 で追加された \lastnodechar を利用して、「直前の文字」の符号位
                                  置を得るコードです。\lastnodechar が未定義の場合は -1 が返ります。
                                2488 \(\rangle plant = \rangle plinclude InRelease \{ 2016/06/10 \} \\ \rangle g = \text{chart 0} \\ \rangle plinclude InRelease \{ 2016/06/10 \} \\ \rangle g = \text{chart 0} \\ \rangle plinclude InRelease \{ 2016/06/10 \} \\ \rangle g = \text{chart 0} \\ \rangle plinclude InRelease \{ 2016/06/10 \} \\ \rangle g = \text{chart 0} \\ \
                                2489 (platexrelease)
                                                                                                       {Added \g@tlastchart@}%
                                2490 (*plcore | platexrelease)
                                2492 (/plcore | platexrelease)
                                2493 \ \langle {\tt platexrelease} \rangle \backslash {\tt plEndIncludeInRelease}
                                2494 \particle{lease} \plincludeInRelease{0000/00/00}{\g@tlastchart@} \\
                                2495 (platexrelease)
                                                                                                       {Added \g@tlastchart@}%
                                2496 \(\rangle platexrelease \) \let\\g@tlastchart@\@undefined
                                2497 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
 \pltx@isletter 第一引数のマクロ (#1) の置換テキストが、カテゴリコード 11 か 12 の文字トーク
                                  ン1文字であった場合に第二引数の内容に展開され、そうでない場合は第三引数の
                                  内容に展開されます。
                                2498 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2018/07/28}{\pltx@isletter}
                                2499 (platexrelease)
                                                                                                       {Support PD1 encoding}%
                                2500 (*plcore | platexrelease)
                                2501 \def\pltx@mark{\pltx@mark@}
```

```
2502 \let\pltx@scanstop\relax
2503 \long\def\pltx@cond#1\fi{%
             #1\expandafter\@firstoftwo\else\expandafter\@secondoftwo\fi}
2505 \def\pltx@pdfencA{PD1}
2506 \def\pltx@composite@chkenc{%
2507
                \ifx\pltx@pdfencA\f@encoding
                      \expandafter\@firstoftwo
2508
2509
                 \else
2510
                      \expandafter\@secondoftwo
2511
                \fi}
2512 \long\def\pltx@isletter#1{%
                \expandafter\pltx@isletter@i#1\pltx@scanstop}
2514 \long\def\pltx@isletter@i#1\pltx@scanstop{%
                \pltx@cond\ifx\pltx@mark#1\pltx@mark\fi{\@firstoftwo}%
                       {\pltx@isletter@ii\pltx@scanstop#1\pltx@scanstop{}#1\pltx@mark}}
2517 \long\def\pltx@isletter@ii#1\pltx@scanstop#{%
2518
                \pltx@cond\ifx\pltx@mark#1\pltx@mark\fi%
                       {\pltx@isletter@iii}{\pltx@isletter@iv}}
2519
2520 \verb|\long\def\pltx@isletter@iii#1\pltx@mark{\@secondoftwo}|
2521 \long\def\pltx@isletter@iv#1#2#3\pltx@mark{%
                \pltx@cond\ifx\pltx@mark#3\pltx@mark\fi{%
2522
                      \pltx@cond{\ifnum0\ifcat A\noexpand#21\fi\ifcat=\noexpand#21\fi>\z@}\fi
2523
2524
                            {\@firstoftwo}{\pltx@composite@chkenc}%
                }{\pltx@composite@chkenc}}
2526 (/plcore | platexrelease)
2527 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
2528 \label{localized} $$2528 \end{figure} $$2016/06/10} {\bf \pltx@isletter} $$
                                                                                                {Added \pltx@isletter}%
2529 (platexrelease)
2530 \ \langle {\tt platexrelease} \rangle {\tt def} \\ {\tt pltx@mark{pltx@mark@}}
2531 (platexrelease)\let\pltx@scanstop\relax
2532 \langle platexrelease \rangle \log\left(\frac{1}{fi}\%\right)
2533 \(\frac{1}{2533} \) \
2534 (platexrelease)\long\def\pltx@isletter#1{%
2535 (platexrelease) \expandafter\pltx@isletter@i#1\pltx@scanstop}
2536 (platexrelease)\long\def\pltx@isletter@i#1\pltx@scanstop{%
2537 \(\rangle platexrelease \) \(\rangle pltx@cond\ifx\pltx@mark\fi\\Gfirstoftwo\)\(\rangle pltx@mark\fi\\Gfirstoftwo\)\(\rangle pltx\text{\text{\text{ofirstoftwo}}}\)\(\rangle pltx\text{\text{ofirstoftwo}}\)\(\rangle pltx\text{\text{ofirstoftwo}}\)\(\rangle pltx\text{\text{ofirstoftwo}}\)\(\rangle pltx\text{\text{ofirstoftwo}}\)\(\rangle pltx\text{\text{ofirstoftwo}}\)\(\rangle pltx\text{\text{ofirstoftwo}}\)\(\rangle pltx\text{\text{ofirstoftwo}}\)\(\rang
2538 (platexrelease)
                                                      {\pltx@isletter@ii\pltx@scanstop#1\pltx@scanstop{}#1\pltx@mark}}
2540 (platexrelease) \pltx@cond\ifx\pltx@mark#1\pltx@mark\fi%
2541 \langle platexrelease \rangle
                                                      {\pltx@isletter@iii}{\pltx@isletter@iv}}
2542 (platexrelease)\long\def\pltx@isletter@iii#1\pltx@mark{\@secondoftwo}
2543 (platexrelease)\long\def\pltx@isletter@iv#1#2#3\pltx@mark{%
2544 (platexrelease) \pltx@cond\ifx\pltx@mark#3\pltx@mark\fi{%
                                                       2545 (platexrelease)
2546 \langle platexrelease \rangle
                                                            {\@firstoftwo}{\@secondoftwo}%
2547 (platexrelease) }{\@secondoftwo}}
2548 \(\rangle platexrelease \)\(\rangle \)\(\rangle platexrelease \)
2549 \ \langle platexrelease \rangle \ | plincludeInRelease \{0000/00/00\} \{\ pltx@isletter\} \}
2550 (platexrelease)
                                                                                                {Added \pltx@isletter}%
```

 $2551 \langle platexrelease \rangle \text{let} pltx@isletter \ @undefined$

```
2552 \ \langle {\tt platexrelease} \rangle \backslash {\tt plEndIncludeInRelease}
```

```
\@text@composite 合成文字の内部命令です。v1.6a で誤って LAT<sub>P</sub>X の定義を上書きしてしまいました
                                                              が、v1.6c で外しました。
                                                            2554 (platexrelease)
                                                                                                                                    {Fix for non-zero baselineshift (revert)}%
                                                            2555 (platexrelease)\def\@text@composite#1#2#3\@text@composite{%
                                                            2556 (platexrelease)
                                                                                                   \expandafter\@text@composite@x
                                                                                                         \csname\string#1-\string#2\endcsname}
                                                            2557 (platexrelease)
                                                            2558 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                                                            2559 \(\rangle\) plincludeInRelease{2016/04/17}{\\@text@composite}
                                                            2560 (platexrelease)
                                                                                                                                    {Fix for non-zero baselineshift (wrong)}%
                                                            2561 (platexrelease)\def\@text@composite#1#2#3#{%
                                                            2562 (platexrelease) \begingroup
                                                            2563 (platexrelease) \setbox\z@=\hbox\bgroup%
                                                            2564 \langle platexrelease \rangle \ybaselineshift\z@\tbaselineshift\z@
                                                            2565 \; \langle \texttt{platexrelease} \rangle \; \; \\ \backslash \texttt{expandafter} \backslash \texttt{@text@composite@x}
                                                            2566 (platexrelease) \csname\string#1-\string#2\endcsname}
                                                            2567 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                                                            2568 \(\rangle platexrelease \)\(\rangle plinclude InRelease \)\(\lambda \) text@composite\)
                                                            2569 (platexrelease)
                                                                                                                                    {LaTeX2e original}%
                                                            2570 (platexrelease)\def\@text@composite#1#2#3\@text@composite{%
                                                            2571 (platexrelease)
                                                                                                   \expandafter\@text@composite@x
                                                            2572 (platexrelease)
                                                                                                         \csname\string#1-\string#2\endcsname}
                                                            2573 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
\pltx@saved@text@composite@x 合成文字の内部命令 \@text@composite@x のために、2 通りの定義を準備します。
                                                            2574 \( \text{platexrelease} \)\( \text{plIncludeInRelease} \) (0000/00) \( \text{pltx@saved@text@composite@x} \)
                                                            2575 (platexrelease)%
                                                                                                       {Special case! (This block is required for any emulation date)}%
                                                            2576 (*plcore | platexrelease)
                                                              まず、元の IATrX のコードをコピーしたものです。接頭辞 \pltx@saved... を付け
                                                              ておきます。
                                                            2577 \ensuremath{\mbox{\sc def}\mbox{\sc d
                                                                           \int x#1\relax
                                                            2578
                                                            2579
                                                                                 \expandafter\@secondoftwo
                                                            2580
                                                                                 \expandafter\@firstoftwo
                                                            2581
                                                                           \fi
                                                            2582
                                                            2583
                                                                           #1}
                                                            2584 (/plcore | platexrelease)
                                                            2585 \langle platexrelease \rangle \% \plEndIncludeInRelease
            \pltx@text@composite@x 次に、pLMTFX の新しいコードです。\g@tlastchart@と \pltx@isletter を使い
                                                              ます。
                                                            2586 \(\rangle plane = \plinclude InRelease \{ 2018/07/28 \} \pltx@text@composite@x \}
                                                            2587 (platexrelease)
                                                                                                                                    {Fix for non-zero baselineshift}%
                                                            2588 (*plcore | platexrelease)
```

```
2589 \def\pltx@text@composite@x#1#2{%
    \int x#1\relax
     \else\pltx@isletter{#1}{#1}{%
2592
2593
       \begingroup
#1 を実際に組んでみて、符号位置の取得を試みます。結果は \@tempcntb に保存さ
れます。取得に失敗した場合は -1 です。
2594
       \setbox\z@\hbox\bgroup
2595
        \ybaselineshift\z@\tbaselineshift\z@
        #1%
2596
2597
        \g@tlastchart@\@tempcntb
2598
        \xdef\pltx@composite@temp{\noexpand\@tempcntb=\the\@tempcntb\relax}%
        \aftergroup\pltx@composite@temp
2600
アクセントが付く「本体の文字」が欧文文字と推測される場合には、一旦数式モー
 ドに入ることによって \xkanjiskip が前後に入るようにします。ここでは、取得に
失敗した場合も欧文文字であると仮定しています。また、符号位置の取得に成功し
ていた場合は、その \xspcode の状態に応じて、数式モードの前後に \null を補っ
て \xkanjiskip の挿入を抑制します。
       \ifnum\@tempcntb<\@cclvi
2601
        \ifnum\@tempcntb>\m@ne
2602
          \ifodd\xspcode\@tempcntb\else\leavevmode\null\fi
2603
        \fi
2604
        \begingroup\m@th$%
2605
          \ifx\textbaselineshiftfactor\@undefined\else
2606
            \textbaselineshiftfactor\z@\fi
2607
2608
          \box\z0
2609
        $\endgroup
2610
        \ifnum\@tempcntb>\m@ne
          \ifnum\xspcode\@tempcntb<2\null\fi
2611
2612
アクセントが付く「本体の文字」が和文文字と推測される場合には、ベースライン
補正を行わずに出力します。
       \else
2613
        {\ybaselineshift\z@\tbaselineshift\z@#1}%
2614
2615
2616
       \endgroup}%
2617
     \fi
2618 }
2619 (/plcore | platexrelease)
2620 \langle platexrelease \rangle \backslash plEndIncludeInRelease
2622 \langle platexrelease \rangle
                              {Fix for non-zero baselineshift}%
2623 ⟨platexrelease⟩\def\pltx@text@composite@x#1#2{%
2624 (platexrelease) \ifx#1\relax
```

```
2625 (platexrelease)
2626 (platexrelease)
                     \else\pltx@isletter{#1}{#1}{%
2627 (platexrelease)
                        \begingroup
2628 (platexrelease)
                        \setbox\z@\hbox\bgroup%
2629 (platexrelease)
                          \ybaselineshift\z@\tbaselineshift\z@
2630 (platexrelease)
                          #1%
2631 (platexrelease)
                          \g@tlastchart@\@tempcntb
2632 (platexrelease)
                          \xdef\pltx@composite@temp{\noexpand\@tempcntb=\the\@tempcntb\relax}%
2633 (platexrelease)
                          \aftergroup\pltx@composite@temp
2634 (platexrelease)
                        \egroup
                        \ifnum\@tempcntb<\z@
2635 (platexrelease)
2636 (platexrelease)
                          \@tempdima=\iftdir
2637 (platexrelease)
                               \ifmdir
2638 (platexrelease)
                                 \ifmmode\tbaselineshift\else\ybaselineshift\fi
2639 (platexrelease)
                               \else
2640 (platexrelease)
                                 \tbaselineshift
                               \fi
2641 (platexrelease)
_{2642} \langle platexrelease \rangle
                            \else
2643 \langle platexrelease \rangle
                               \ybaselineshift
2644 (platexrelease)
                            \fi
2645 (platexrelease)
                          \@tempcntb=\@cclvi
2646 (platexrelease)
                       \else\@tempdima=\z@
2647 (platexrelease)
2648 (platexrelease)
                        \ifnum\@tempcntb<\@cclvi
2649 (platexrelease)
                          \ifnum\@tempcntb>\m@ne\ifnum\@tempcntb<\@cclvi
2650 (platexrelease)
                            \ifodd\xspcode\@tempcntb\else\leavevmode\hbox{}\fi
2651 (platexrelease)
2652 (platexrelease)
                          \begingroup\mathsurround\z@$%
2653 (platexrelease)
                            \ifx\textbaselineshiftfactor\@undefined\else
2654 (platexrelease)
                               \textbaselineshiftfactor\z@\fi
2655 (platexrelease)
                            \box\z@
2656 (platexrelease)
                          $\endgroup%
2657 (platexrelease)
                          \ifnum\@tempcntb>\m@ne\ifnum\@tempcntb<\@cclvi
2658 (platexrelease)
                            \ifnum\xspcode\@tempcntb<2\hbox{}\fi
2659 (platexrelease)
                          \fi\fi
2660 (platexrelease)
                       \else
2661 (platexrelease)
                          \ifdim\@tempdima=\z@{\ybaselineshift\z@\tbaselineshift\z@#1}%
2662 \langle \mathsf{platexrelease} \rangle
                          \else\leavevmode\lower\@tempdima\box\z@\fi
2663 (platexrelease)
2664 (platexrelease)
                        \endgroup}%
2665 (platexrelease)
                     \fi
2666 (platexrelease)}
2667 \(\rangle platexrelease \)\(\rangle platexrelease \)
2668 \(\rangle plane = \plinclude InRelease \{ 2016/04/17 \} \\rangle pltx @text @composite @x \}
2669 (platexrelease)
                                         {Fix for non-zero baselineshift}%
2670 (platexrelease)\def\pltx@text@composite@x#1#2{%
2671 (platexrelease)
                     \int x#1\relax
2672 (platexrelease)
                        \expandafter\@secondoftwo
2673 (platexrelease)
                     \else
2674 (platexrelease)
                        \expandafter\@firstoftwo
```

```
2675 (platexrelease)
                      2676 (platexrelease)
                                        #1{#2}\egroup
                      2677 (platexrelease)
                                        \leavevmode
                      2678 (platexrelease)
                                        \expandafter\lower
                      2679 (platexrelease)
                                           \iftdir
                      2680 (platexrelease)
                                             \ifmdir
                      2681 (platexrelease)
                                               \ifmmode\tbaselineshift\else\ybaselineshift\fi
                      2682 (platexrelease)
                      2683 (platexrelease)
                                               \tbaselineshift
                      2684 (platexrelease)
                                             \fi
                      2685 (platexrelease)
                                           \else
                      2686 (platexrelease)
                                             \ybaselineshift
                      2687 (platexrelease)
                                           \fi
                                           \box\z0
                      2688 (platexrelease)
                      2689 (platexrelease)
                                        \endgroup}
                      2690 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                      2691 \(\rangle platexrelease \rangle plInclude InRelease \{ 0000/00/00} \{ \pltx@text@composite@x \}
                                                          {Fix for non-zero baselineshift}%
                      2692 (platexrelease)
                      2694 \langle platexrelease \rangle \backslash plEndIncludeInRelease
                      上記 2 通りの定義のうち、本当は plłTrX の定義を用いたいのですが、想定外の
 \fixcompositeaccent
\nofixcompositeaccent エラーが発生するのを防ぐため、デフォルトでは LATrX の定義のままとしておき
  \@text@composite@x ます。そして、\fixcompositeaccent が有効な時だけ pLATrX の定義を用います。
                       \nofixcompositeaccent はこの否定です。
                      2695 (platexrelease)%\plIncludeInRelease{0000/00/00}{\@text@composite@x}
                      2696 (platexrelease)%
                                           {Special case! (This block is required for any emulation date)}%
                      2697 (*plcore | platexrelease)
                      2698 \DeclareRobustCommand\fixcompositeaccent{%
                            \let\oalign\pltx@oalign
                      2699
                      2700
                            \let\ltx@sh@ft\pltx@ltx@sh@ft
                      2701
                            \let\@text@composite@x\pltx@text@composite@x
                      2702 }
                      2703 \DeclareRobustCommand\nofixcompositeaccent{%
                            \let\oalign\pltx@saved@oalign
                      2705
                            \let\ltx@sh@ft\pltx@saved@ltx@sh@ft
                      2706
                            \let\@text@composite@x\pltx@saved@text@composite@x
                      2707 }
                      2708 \setminus nofixcomposite accent
                      2709 (/plcore | platexrelease)
                      2710 <platexrelease \%\plEndIncludeInRelease
  \@text@composite@x エミュレーション専用のコードです。
                      2711 \ \langle platexrelease \rangle \\ \ | PlIncludeInRelease \{2018/07/28\} \\ \ \langle plincomposite accent \}
                      2712 (platexrelease)
                                                          {Fix for non-zero baselineshift}%
                      2713 (platexrelease)\nofixcompositeaccent % force LaTeX original (conditional default)
                      2714 (platexrelease)% other commands are actually defined for pLaTeX2e 2018-07-28
```

```
2716 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2016/07/01}{\fixcompositeaccent}
2717 (platexrelease)
                                                                            {Fix for non-zero baselineshift}%
2718 (platexrelease)\nofixcompositeaccent % force LaTeX original (always)
2719 (platexrelease)\let\fixcompositeaccent\@undefined
2720 (platexrelease)\let\nofixcompositeaccent\@undefined
2721 (platexrelease)\let\pltx@saved@oalign\@undefined
2722 (platexrelease)\let\pltx@oalign\@undefined
2723 \ \langle platexrelease \rangle \ | \ tx@saved@ltx@sh@ft\\@undefined
2724 \(\rangle platexrelease \)\let\\pltx@ltx@sh@ft\\@undefined
2725 (platexrelease)\let\pltx@saved@text@composite@x\@undefined
2726 \(\rangle platexrelease \)\let\\pltx@text@composite@x\@undefined
2727 <platexrelease > \plEndIncludeInRelease
2728 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2016/04/17}{\fixcompositeaccent}
2729 (platexrelease)
                                                                            {Fix for non-zero baselineshift}%
2730 (platexrelease)\fixcompositeaccent % force pLaTeX definition (always)
2731 (platexrelease)\let\oalign\pltx@saved@oalign % no fix at that time
2732 (platexrelease)\let\ltx@sh@ft\pltx@saved@ltx@sh@ft % no fix at that time
2733 \ \langle \texttt{platexrelease} \rangle \texttt{let} \\ \texttt{fixcompositeaccent} \\ \texttt{@undefined}
2734 \langle platexrelease \rangle \ let \\ no fix composite accent \\ @undefined
2735 (platexrelease)\let\pltx@saved@oalign\@undefined
2736 \(\rangle platexrelease \)\let\\pltx@oalign\\@undefined
2737 \place\place | place | place
2738 \placerelease \let\pltx@ltx@sh@ft\@undefined
2739 \(\rangle platexrelease \rangle \let\pltx@saved@text@composite@x\@undefined
2740 \(\rangle platexrelease \)\let\\pltx@text@composite@x\\@undefined
2741 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
2742 \particle{lease} \plincludeInRelease{0000/00/00}{\fixcompositeaccent}
2743 (platexrelease)
                                                                            {Fix for non-zero baselineshift}%
2744 (platexrelease)\nofixcompositeaccent % force LaTeX original (always)
2745 \langle platexrelease \rangle \ | \ t \leq mposite accent \ | \ Cundefined \ |
2746 \(\rangle platexrelease \)\let\\nofixcompositeaccent\@undefined
2747 \(\rangle platexrelease \)\let\\pltx@saved@oalign\@undefined
2748 (platexrelease)\let\pltx@oalign\@undefined
2749 \(\rangle platexrelease \rangle \let\pltx@saved@ltx@sh@ft\@undefined
2750 (platexrelease)\let\pltx@ltx@sh@ft\@undefined
2751 (platexrelease)\let\pltx@saved@text@composite@x\@undefined
2752 (platexrelease)\let\pltx@text@composite@x\@undefined
2753 \langle platexrelease \rangle \backslash plEndIncludeInRelease
```

7.6 イタリック補正と\xkanjiskip

\check@nocorr@

「あ \texttt{abc}い」としたとき、書体の変更を指定された欧文の左側に和欧文間スペースが入らないのを修正します。

コミュニティ版の修正: pT_EX のバージョン p3.1.11 以前は、イタリック補正(以下 \/と記す)と \xkanjiskip の挿入が衝突 2 し

 $^{^2}$ 和文のイタリック補正用 kern が、通常の explicit な (\kern による) kern と同じ扱いを受けていたため。

- 1. 「欧文文字 \rightarrow \/」の場合には \/を無視する(つまり後に \xkanjiskip 挿入可能)
- 2. 「和文文字 \rightarrow \/」の場合にはこの後に \xkanjiskip は挿入できない という挙動になっていました。p3.2(2010 年)の修正で
 - \xkanjiskip 挿入時にはいかなる場合も \/を無視する

という挙動に変更されました。pIFTEX カーネルの \check@nocorr@の修正は、p3.1.11 以前の 2. への対処でしたが、これは「\text...{}の左への \/挿入」を無効化しているので、\textit{f\textup{a}}で本来入るべきイタリック補正が入りませんでした。p3.2 以降では pTEX の \xkanjiskip 対策が不要になっていますので、コミュニティ版では削除しました。

```
2754 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2017/10/28}{\check@nocorr@}
2755 (platexrelease)
                                                                                        {Italic correction before \textt...}%
2756 \(\rangle platexrelease \) \def \\check@nocorr@ #1#2\\nocorr#3\\@nil \{\%
2757 (platexrelease) \let \check@icl \maybe@ic
2758 \langle platexrelease \rangle
                                            \def \check@icr {\ifvmode \else \aftergroup \maybe@ic \fi}%
2759 (platexrelease)
                                            \def \reserved@a {\nocorr}%
2760 (platexrelease) \def \reserved@b {#1}%
2761 (platexrelease)
                                            \def \reserved@c {#3}%
2762 (platexrelease)
                                            \ifx \reserved@a \reserved@b
2763 (platexrelease)
                                                  \ifx \reserved@c \@empty
2764 (platexrelease)
                                                       \let \check@icl \@empty
2765 (platexrelease)
2766 (platexrelease)
                                                       \let \check@icl \@empty
2767 (platexrelease)
                                                       \let \check@icr \@empty
2768 (platexrelease)
                                                  \fi
2769 (platexrelease)
                                            \else
                                                  \ifx \reserved@c \@empty
2770 (platexrelease)
2771 (platexrelease)
                                                  \else
2772 (platexrelease)
                                                       \let \check@icr \@empty
2773 (platexrelease)
                                                  \fi
2774 (platexrelease)
                                             \fi
2775 (platexrelease)}
2776 \( platexrelease \)\\\plEndIncludeInRelease
2777 \(\rangle platexrelease \)\rangle \)\rangle \] \(\rangle platexrelease \)\rangle \)\rangle \(\rangle platexrelease \)\rangle \]\rangle \(\rangle platexrelease \)\rangle \)\rangle \(\rangle platexrelease \)\rangle \(\rangle platexrele
2778 (platexrelease)
                                                                                       {ASCII Corporation original}%
2779 \(\rangle platexrelease \rangle \def \check@nocorr@ #1#2\nocorr#3\@nil {%
2780 \langle platexrelease \rangle
                                            \let \check@icl \relax % changed from \maybe@ic
2781 (platexrelease)
                                            \def \check@icr {\ifvmode \else \aftergroup \maybe@ic \fi}%
                                            \def \reserved@a {\nocorr}%
2782 (platexrelease)
2783 (platexrelease)
                                            \def \reserved@b {#1}%
2784 (platexrelease)
                                            \def \reserved@c {#3}%
2785 (platexrelease)
                                            \ifx \reserved@a \reserved@b
2786 (platexrelease)
                                                  \ifx \reserved@c \@empty
2787 (platexrelease)
                                                       \let \check@icl \@empty
```

File c: plfonts.dtx Date: 2021/06/27 Version v1.7n

```
2788 (platexrelease)
                       \else
2789 (platexrelease)
                         \let \check@icl \@empty
2790 (platexrelease)
                         \let \check@icr \@empty
2791 (platexrelease)
                       \fi
2792 (platexrelease) \else
                       \ifx \reserved@c \@empty
2793 (platexrelease)
2794 (platexrelease)
                       \else
2795 (platexrelease)
                         \let \check@icr \@empty
2796 (platexrelease)
                       \fi
2797 (platexrelease)
                    \fi
2798 (platexrelease)}
2799 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
```

\< 最後に、\inhibitglue の簡略形を定義します。このコマンドは、和文フォントのメトリック情報から、自動的に挿入されるグルーの挿入を禁止します。</p>

2014年の pTeX の \inhibitglue のバグ修正に伴い、 \inhibitglue が垂直モードでは効かなくなりました。 I をでは垂直モードと水平モードの区別が隠されていますので、p I の追加命令である \< は段落頭でも効くように修正します。

\DeclareRobustCommandを使うと\protectの影響で前方の文字に対する\inhibitglueが効かなくなるので、e-T_FXの\protectedが必要です。

```
2801 (platexrelease)
                                     {\inhibitglue in vertical mode}%
2802 (*plcore | platexrelease)
2803 \ifx\protected\@undefined
2804 \def\<{\inhibitglue}
2805 \else
2806 \protected\def\<{\ifvmode\leavevmode\fi\inhibitglue}
2807\fi
2808 (/plcore | platexrelease)
2810 \ \langle platexrelease \rangle \\ \ | lincludeInRelease \{0000/00/00\} \{ \ \ \ \ \ \}
2811 (platexrelease)
                                     {ASCII Corporation original}\%
2812 \langle platexrelease \rangle \def \< \{ \inhibitglue \}
2813 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease
```

7.7 デフォルト設定ファイルの読み込み

デフォルト設定ファイル pldefs.ltx は、もともと plcore.ltx の途中で読み込んでいましたが、2018 年以降の新しいコミュニティ版 pl 4 Te 2 X では platex.ltx から読み込むことにしました。実際の中身については、第 8 節を参照してください。

8 デフォルト設定ファイル

ここでは、フォーマットファイルに読み込まれるデフォルト値を設定しています。この節での内容は pldefs.ltx に出力されます。このファイルの内容を plcore.ltx

に含めてもよいのですが、デフォルトの設定を参照しやすいように、別ファイルに してあります。

プリロードサイズは、DOCSTRIP プログラムのオプションで変更することができます。これ以外の設定を変更したい場合は、pldefs.ltx を直接、修正するのではなく、このファイルを pldefs.cfg という名前でコピーをして、そのファイルに対して修正を加えるようにしてください。

```
2814 \langle *pldefs \rangle
2815 \ProvidesFile{pldefs.ltx}
2816 [2021/01/10 v1.7k pLaTeX Kernel (Default settings)]
2817 \langle /pldefs \rangle
```

8.1 テキストフォント

テキストフォントのための属性やエラー書体などの宣言です。pIAT_EX のデフォルト の横組エンコードは JY1、縦組エンコードは JT1 とします。 縦横エンコード共通:

```
2818 (*pldefs)
2819 \DeclareKanjiEncodingDefaults{}{}
2820 \DeclareErrorKanjiFont{JY1}{mc}{m}{10}
2821 \kanjifamily{mc}
2822 \ensuremath{\mbox{k@series{m}}}
                      % \kanjiseries{m}
2823 \def\k@shape{n}
                     % \kanjishape{n}
2824 \fontsize{10}{10}
横組エンコード:
2825 \DeclareYokoKanjiEncoding{JY1}{}{}
2826 \DeclareKanjiSubstitution{JY1}{mc}{m}{n}
縦組エンコード:
2827 \DeclareTateKanjiEncoding{JT1}{}{}
2828 \DeclareKanjiSubstitution{JT1}{mc}{m}{n}
縦横のエンコーディングのセット化:
2829 \KanjiEncodingPair{JY1}{JT1}
 フォント属性のデフォルト値:AT_{FX} 2\varepsilon 2019-10-01までは\shapedefaultは\updefault
とに伴い、\shapedefault は明示的に"n"に設定されました。
2830 \newcommand\mcdefault{mc}
2831 \verb|\newcommand\gtdefault{gt}|
2832 \mbox{ newcommand\kanjiencodingdefault{JY1}}
2833 \newcommand\kanjifamilydefault{\mcdefault}
2834 \newcommand\kanjiseriesdefault{\mddefault}
2835 \newcommand\kanjishapedefault{n}% formerly \updefault
```

File c: plfonts.dtx Date: 2021/06/27 Version v1.7n

和文エンコードの指定: 2836 \kanjiencoding{JY1}

```
フォント定義: これらの具体的な内容は第9節を参照してください。
2837 \input{jy1mc.fd}
2838 \input{jy1gt.fd}
2839 \input{jt1mc.fd}
2840 \input{jt1gt.fd}
フォントを有効にします。
2841 \fontencoding{JT1}\selectfont
2842 \fontencoding{JY1}\selectfont
```

8.2 プリロードフォント

あらかじめフォーマットファイルにロードされるフォントの宣言です。DOCSTRIP プログラムのオプションでロードされるフォントのサイズを変更することができます。plfmt.ins では xpt を指定しています。

```
2843 (*xpt)
2844 \DeclarePreloadSizes{JY1}{mc}{m}{n}{5,7,10,12}
2845 \DeclarePreloadSizes{JY1}{gt}{m}{n}{5,7,10,12}
2846 \DeclarePreloadSizes{JT1}{mc}{m}{n}{5,7,10,12}
2847 \DeclarePreloadSizes{JT1}{gt}{m}{n}{5,7,10,12}
2848 (/xpt)
2849 (*xipt)
2850 \DeclarePreloadSizes{JY1}{mc}{m}{5,7,10.95,12}
2851 \DeclarePreloadSizes{JY1}{gt}{m}{n}{5,7,10.95,12}
2852 \DeclarePreloadSizes{JT1}{mc}{m}{n}{5,7,10.95,12}
2853 \DeclarePreloadSizes{JT1}{gt}{m}{n}{5,7,10.95,12}
2854 (/xipt)
2855 (*xiipt)
2856 \DeclarePreloadSizes{JY1}{mc}{m}{n}{7,9,12,14.4}
2857 \DeclarePreloadSizes{JY1}{gt}{m}{n}{7,9,12,14.4}
2858 \DeclarePreloadSizes{JT1}{mc}{m}{n}{7,9,12,14.4}
2859 \DeclarePreloadSizes{JT1}{gt}{m}{n}{7,9,12,14.4}
2860 (/xiipt)
2861 (*ori)
2862 \DeclarePreloadSizes{JY1}{mc}{m}{n}
           {5,6,7,8,9,10,10.95,12,14.4,17.28,20.74,24.88}
2863
2864 \DeclarePreloadSizes{JY1}{gt}{m}{n}
           {5,6,7,8,9,10,10.95,12,14.4,17.28,20.74,24.88}
2865
2866 \DeclarePreloadSizes{JT1}{mc}{m}{n}
            {5,6,7,8,9,10,10.95,12,14.4,17.28,20.74,24.88}
2868 \DeclarePreloadSizes{JT1}{gt}{m}{n}
2869
            {5,6,7,8,9,10,10.95,12,14.4,17.28,20.74,24.88}
2870 (/ori)
```

8.3 組版パラメータ

禁則パラメータや文字間へ挿入するスペースの設定などです。実際の各文字への禁 則パラメータおよびスペースの挿入の許可設定などは、kinsoku.tex で行なってい ます。具体的な設定については、kinsoku.dtx を参照してください。

組版パラメータの設定をします。\kanjiskip は、漢字と漢字の間に挿入されるグルーです。\noautospacing で、挿入を中止することができます。デフォルトは\autospacing です。

```
2879 \kanjiskip=Opt plus .4pt minus .5pt 2880 \autospacing
```

\xkanjiskip は、和欧文間に自動的に挿入されるグルーです。\noautoxspacing で、挿入を中止することができます。デフォルトは \autoxspacing です。

```
2881 \xkanjiskip=.25zw plus1pt minus1pt 2882 \autoxspacing
```

\jcharwidowpenalty は、パラグラフに対する禁則です。パラグラフの最後の行が 1文字だけにならないように調整するために使われます。

2883 \jcharwidowpenalty=500

2884 (/pldefs)

ここまでが、pldefs.ltx の内容です。

9 フォント定義ファイル

ここでは、フォント定義ファイルの設定をしています。フォント定義ファイルは、 IAT_{EX} のフォント属性を T_{EX} フォントに置き換えるためのファイルです。記述方法 についての詳細は、fntguide.tex を参照してください。

欧文書体の設定については、cmfonts.fdd や slides.fdd などを参照してください。skfonts.fdd には、写研代用書体を使うためのパッケージとフォント定義が記述されています。

```
 2885 \ \langle JY1mc \rangle \ ProvidesFile\{jy1mc.fd\} \\ 2886 \ \langle JY1gt \rangle \ ProvidesFile\{jy1gt.fd\} \\ 2887 \ \langle JT1mc \rangle \ ProvidesFile\{jt1mc.fd\} \\ 2888 \ \langle JT1gt \rangle \ ProvidesFile\{jt1gt.fd\} \\ 2889 \ \langle JY1mc, JY1gt, JT1mc, JT1gt \rangle  [2018/07/03 v1.6q KANJI font defines]
```

File c: plfonts.dtx Date: 2021/06/27 Version v1.7n

横組用、縦組用ともに、明朝体のシリーズ bx がゴシック体となるように宣言しています。また、シリーズ b は同じ書体の bx と等価になるように宣言します。

pIAT_EX では従属書体に OT1 エンコーディングを指定しています。また、要求サイズ(指定されたフォントサイズ)が 10pt のとき、全角幅の実寸が 9.62216pt となるようにしますので、和文スケール値(1 zw÷要求サイズ)は 9.62216 pt/10 pt =0.962216 です。 min10 系のメトリックは全角幅が 9.62216pt でデザインされているので、これを 1 倍で読込みます。

```
2890 (*JY1mc)
2891 \DeclareKanjiFamily{JY1}{mc}{}
2892 \DeclareRelationFont{JY1}{mc}{m}{}{OT1}{cmr}{m}{}
2893 \DeclareRelationFont{JY1}{mc}{bx}{}{OT1}{cmr}{bx}{}
2894 \DeclareFontShape{JY1}{mc}{n}{<5> <6> <7> <8> <9> <10> sgen*min
                   <10.95><12><14.4><17.28><20.74><24.88> min10
2895
                   <-> min10
2896
                  }{}
2898 \DeclareFontShape{JY1}{mc}{bx}{n}{<->ssub*gt/m/n}{}
2899 \DeclareFontShape{JY1}{mc}{b}{n}{<->ssub*mc/bx/n}{}
2900 (/JY1mc)
2901 (*JT1mc)
2902 \DeclareKanjiFamily{JT1}{mc}{}
2903 \DeclareRelationFont{JT1}{mc}{m}{}(OT1){cmr}{m}{}
2904 \DeclareRelationFont{JT1}{mc}{bx}{}{OT1}{cmr}{bx}{}
2905 \DeclareFontShape{JT1}{mc}{m}{n}{<5> <6> <7> <8> <9> <10> sgen*tmin
                   <10.95><12><14.4><17.28><20.74><24.88> tmin10
2906
                   <-> tmin10
2907
                  }{}
2908
2909 \DeclareFontShape{JT1}{mc}{bx}{n}{<->ssub*gt/m/n}{}
2910 \DeclareFontShape{JT1}{mc}{b}{n}{<->ssub*mc/bx/n}{}
2911 (/JT1mc)
2912 (*JY1gt)
2913 \DeclareKanjiFamily{JY1}{gt}{}
2914 \DeclareRelationFont{JY1}{gt}{m}{}{OT1}{cmr}{bx}{}
2915 \ensuremath{\mbox{\sc 45} \mbox{\sc 48} < 9} < 10> \ensuremath{\mbox{\sc sgen*goth}} \ensuremath{\mbox{\sc 46} \mbox{\sc 48}} < 10> \ensuremath{\sc sgen*goth} \ensuremath{\mbox{\sc sgen*goth}} \ensuremath{\mbox{\sc 46} \mbox{\sc 46}} > 10> \ensuremath{\sc sgen*goth} \ensuremath{\sc sgen*goth} > 10> \ensuremath{\sc sgen*go
                   <10.95><12><14.4><17.28><20.74><24.88> goth10
2916
2917
                   <-> goth10
                   }{}
2918
2919 \DeclareFontShape{JY1}{gt}{bx}{n}{<->ssub*gt/m/n}{}
2920 \DeclareFontShape{JY1}{gt}{b}{n}{<->ssub*gt/bx/n}{}
2921 (/JY1gt)
2922 (*JT1gt)
2923 \DeclareKanjiFamily{JT1}{gt}{}
2924 \DeclareRelationFont{JT1}{gt}{m}{}{OT1}{cmr}{bx}{}
2925 \DeclareFontShape{JT1}{gt}{m}{n}{<5> <6> <7> <8> <9> <10> sgen*tgoth
                  <10.95><12><14.4><17.28><20.74><24.88> tgoth10
2926
                   <-> tgoth10
2927
2928
                  ት{}
2929 \DeclareFontShape{JT1}{gt}{bx}{n}{<->ssub*gt/m/n}{}
```

2930 \DeclareFontShape{JT1}{gt}{b}{n}{<->ssub*gt/bx/n}{} 2931 $\langle /JT1gt \rangle$

File d

plcore.dtx

10 概要

このファイルでは、つぎの機能の拡張や修正を行っています。詳細は、それぞれの 項目の説明を参照してください。

- プリアンブルコマンド
- 改ページ
- 改行
- オブジェクトの出力順序
- トンボ
- 出力ルーチン
- 脚注マクロ
- 相互参照
- 疑似タイプ入力
- tabbing 環境
- 用語集の出力
- 時分を示すカウンタ

11 コード

このファイルの内容は、 $pIPT_EX 2_{\varepsilon}$ のコア部分です。 1 $\langle *plcore \rangle$

11.1 プリアンブルコマンド

文書ファイルが必要とするフォーマットファイルの指定をするコマンドを拡張し、 $pIAT_{PX} 2_{\varepsilon}$ フォーマットファイルも認識するようにします。

\NeedsTeXFormat \NeedsTeXFormatsに "pLaTeX2e" を指定すると、"LaTeX2e" フォーマットを必要 \@needsPformat とする英語版のクラスファイルやパッケージファイルなどが使えなくなってしまう \@needsPf@rmat ために再定義します。このコマンドは ltclass.dtx で定義されています。

```
2 \def\NeedsTeXFormat#1{%
     \def\reserved@a{#1}%
4
     \ifx\reserved@a\pfmtname
       \expandafter\@needsPformat
5
6
       \ifx\reserved@a\fmtname
7
         \expandafter\expandafter\@needsformat
8
       \else
9
         \@latex@error{This file needs format '\reserved@a',%
10
            \MessageBreak but this is '\pfmtname'}{%
11
            The current input file will not be processed
            further,\MessageBreak
13
            because it was written for some other flavor of
15
            TeX.\MessageBreak\@ehd}%
16
         \endinput
       \fi
17
     \fi}
18
19 %
20 \def\@needsPformat{\@ifnextchar[\@needsPf@rmat{}}
22 \def\@needsPf@rmat[#1]{%
      \@ifl@t@r\pfmtversion{#1}{}%
      {\@latex@warning@no@line
24
          {You have requested release '#1' of pLaTeX,\MessageBreak
25
           but only release '\pfmtversion' is available}}}
26
27 %
28 \@onlypreamble\@needsPformat
29 \@onlypreamble\@needsPf@rmat
```

\documentstyle

\documentclass の代わりに \documentstyle が使われると、IATEX 2.09 互換モー ドに入ります。このとき、オリジナルの LATFX では latex 209. def を読み込みます が、pIATEX 2_{ε} では p1209.def を読み込みます。このコマンドは 1tclass.dtx で 定義されています。

```
30 \def\documentstyle{%
    \makeatletter\input{pl209.def}\makeatother
    \documentclass}
33 \langle /plcore \rangle
```

直前の JFM 由来スペースの削除【コミュニティ版独自】

現状の pT_FX (T_FX Live 2017 時点) では、\inhibitglue プリミティブは「JFM 由来のスペース(グルー・カーン)挿入ルーチンを抑制する」働きをします。しか し、既に挿入されてしまった JFM グルーやカーンを削除することはできません。

\removejfmglue そこで、「最後のノードが JFM グルーであった場合にそれを削除する」というユーザ向け命令を定義します。この機能には e-pTEX 180226 以降の \lastnodesubtype プリミティブが必要です。この命令はあくまで「\removejfmglue の展開時点で既に pTEX によって挿入完了している JFM グルー」だけを削除し、「これから挿入されようとする JFM グルー」は抑制しません。例えば

始) \removejfmglue 中) \relax\removejfmglue 終

という入力からは

始)中)終

```
が得られます(最初の\removejfmglueは結果的に何もしていません)。
34 \ \langle \texttt{platexrelease} \rangle \texttt{plIncludeInRelease} \{ 2018/03/09 \} \%
35 (platexrelease)
                                         {\removejfmglue}{Macro added}%
36 (*plcore | platexrelease)
37 \ifx\lastnodesubtype\Qundefined
38 \let\removejfmglue\@undefined
39 \ensuremath{\setminus} \texttt{else}
     \setbox0\hbox{%
40
        \ifdefined\ucs %% upTeX check
41
42
           \jfont\tenmin=upjisr-h at 9.62216pt
 43
           \jfont\tenmin=min10
 45
        \fi\tenmin
 46
        \char\jis"214B\null\setbox0\lastbox
        \global\chardef\pltx@gluetype\lastnodetype
 47
        \global\chardef\pltx@jfmgluesubtype\lastnodesubtype
48
49
     \setbox0=\box\voidb@x
50
      \protected\def\removejfmglue{%
        \ifnum\lastnodetype=\pltx@gluetype\relax
52
           \ifnum\lastnodesubtype=\pltx@jfmgluesubtype\relax
53
54
             \unskip
           \fi
        fi
56
57\fi
58 (/plcore | platexrelease)
59 \ \langle {\tt platexrelease} \rangle \backslash {\tt plEndIncludeInRelease}
 60 \ \langle platexrelease \rangle \\ \ plincludeInRelease \{0000/00/00\}\%
 61 (platexrelease)
                                         {\removejfmglue}{Macro added}%
 62 ⟨platexrelease⟩\let\removejfmglue\@undefined
 63 \(\rangle platexrelease \)\(\rangle plEndIncludeInRelease \)
```

11.3 改ページ

縦組のとき、改ページ後の内容が偶数ページ(右ページ)からはじまるようにしま す。横組のときには、奇数ページ(右ページ)からはじまります。 \cleardoublepage

このコマンドによって出力される、白ページのページスタイルを *empty* にし、ヘッダとフッタが入らないようにしています。ltoutput.dtx の定義を、縦組、横組に合わせて、定義しなおしたものです。

```
65 \def\cleardoublepage{\clearpage\if@twoside
    \ifodd\c@page
67
      \iftdir
        \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
68
        \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
69
70
      \fi
    \else
71
      \ifydir
72
        \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
73
        \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
      \fi
   \fi\fi}
```

11.4 改行

\@gnewline

日本語 T_{EX} の行頭禁則処理は、禁則対象文字の直前に、 \prebreakpenalty で指定されたペナルティの値を挿入することで行なっています。ところが、改行コマンドは負のペナルティの値を挿入することで改行を行ないます。そのために、禁則ペナルティの値が 10000 の文字の直後では、ペナルティの値が相殺され、改行することができません。

```
あいうえお \\
!かきくけこ
```

したがって、\newline マクロに \mbox{}を入れることによって、\newline マクロのペナルティ-10000 と行頭文字のペナルティ10000 が加算されないようにします。\\ は \newline マクロを呼び出しています。

なお、\newlineマクロはltspaces.dtxで定義されています。

IFT_EX <1996/12/01>で改行マクロが変更され、\\ が \newline を呼び出さなくなったため、変更された改行マクロに対応しました。\null の挿入位置は同じです。ltspace.dtx の定義を上記に合わせて、定義しなおしました。

日本語 TeX 開発コミュニティによる補足:アスキーによる pleteX では、行頭禁則文字の直前で \\ による強制改行を行えるようにするという目的で \null を \@gnewline マクロ内に挿入していました。しかし、これでは \\\par と書いた場合に Underfull 警告が出なくなっています(tests/newline_par.tex を latex と platex で処理してみてください)。

もし \null の代わりに \hskip\z@を挿入すれば、IFTEX と同様に Underfull 警告を出すことができます。ただし、\null を挿入した場合と異なり、強制改行後の行

頭に JFM グルーが入らなくなります。これはむしろ、奥村さんの jsclasses で行頭を天ツキに直しているのと同じですが、pIPTEX としては挙動が変化してしまいますので、現時点では $\null \rightarrow \nskip\null > \null > \n$

```
77 \def\@gnewline #1{%
78 \ifvmode
79 \@nolnerr
80 \else
81 \unskip \reserved@e {\reserved@f#1}\nobreak \hfil \break \null
82 \ignorespaces
83 \fi}
84 \langle /plcore \rangle
```

\@no@lnbk 日本語 TeX 開発コミュニティによる追加: さらに、\\だけでなく\linebreak についても同様の対処をします。IfTeX の定義のままではマクロによるペナルティー10000と行頭文字のペナルティ10000が加算されてしまうため、\hskip\z@\relax を入れておきます。なお、\linebreak を発行して行分割が起きた場合、新しい行頭の JFMグル―は消えるという従来の plfTeX の挙動も維持しています。

前回の \hskip\z@\relax の追加では、\nolinebreak の場合に \kanjiskip や\xkanjiskip が入らない問題が起きてしまいました。そこで、\penalty\z@\relax に変更しました。これは、明示的な \penalty プリミティブ同士の合算は行われないことを利用しています。

ところが、その変更によってそもそも \nolinebreak が効かない場合が生じたので、変更全体をいったんキャンセルして元に戻します。

```
85 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2017/10/28}{\@no@lnbk}
                                      {Break before prebreakpenalty (revert)}%
 86 (platexrelease)
 87 (platexrelease)\def\@no@lnbk #1[#2]{%
 88 (platexrelease) \ifvmode
 89 (platexrelease)
                    \@nolnerr
90 (platexrelease) \else
91 (platexrelease)
                     \@tempskipa\lastskip
92 (platexrelease)
                     \unskip
93 (platexrelease)
                     \penalty #1\@getpen{#2}%
94 (platexrelease)
                     \ifdim\@tempskipa>\z@
 95 (platexrelease)
                       \hskip\@tempskipa
96 (platexrelease)
                       \ignorespaces
                     \fi
97 (platexrelease)
98 \langle platexrelease \rangle \ \fi
99~ \langle {\tt platexrelease} \rangle \backslash {\tt plEndIncludeInRelease}
101 (platexrelease)
                                      {Break before prebreakpenalty (another)}%
102 (platexrelease)\def\@no@lnbk #1[#2]{%
103 (platexrelease)
                  \ifvmode
104 (platexrelease)
                     \@nolnerr
105 (platexrelease)
                  \else
106 (platexrelease)
                     \@tempskipa\lastskip
```

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

```
107 (platexrelease)
                       \unskip
108 (platexrelease)
                       \penalty #1\@getpen{#2}%
109 (platexrelease)
                       \penalty\z@\relax %% added (2017/08/25)
110 (platexrelease)
                       \ifdim\@tempskipa>\z@
111 (platexrelease)
                         \hskip\@tempskipa
112 (platexrelease)
                         \ignorespaces
113 (platexrelease)
                       \fi
114 (platexrelease)
                    \fi}
115 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease
116 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2017/05/05}{\@no@lnbk}
117 (platexrelease)
                                         {Break before prebreakpenalty}%
118 \(\rangle platexrelease \rangle \def \OnoOlnbk #1[#2] \{\%\}
119 (platexrelease)
                    \ifvmode
120 (platexrelease)
                       \@nolnerr
121 (platexrelease)
                    \else
_{122} \; \langle \mathsf{platexrelease} \rangle
                       \@tempskipa\lastskip
123 (platexrelease)
                       \unskip
                       \penalty #1\@getpen{#2}%
124 (platexrelease)
                       \hskip\z@\relax %% added (2017/05/03)
125 (platexrelease)
126 (platexrelease)
                       \ifdim\@tempskipa>\z@
127 (platexrelease)
                         \hskip\@tempskipa
128 (platexrelease)
                         \ignorespaces
129 (platexrelease)
                       \fi
130 (platexrelease)
                    \fi}
131 \(\rangle platexrelease \)\(\rangle \)\(\rangle platexrelease \)
133 (platexrelease)
                                         {LaTeX2e original}%
134 \langle platexrelease \rangle \cdot def \cdot 0no0 lnbk #1[#2]{%}
135 (platexrelease)
                    \ifvmode
136 (platexrelease)
                       \@nolnerr
137 (platexrelease)
                    \else
138 (platexrelease)
                       \@tempskipa\lastskip
139 (platexrelease)
                       \unskip
140 (platexrelease)
                       \penalty #1\@getpen{#2}%
141 (platexrelease)
                       \ifdim\@tempskipa>\z@
142 (platexrelease)
                         \hskip\@tempskipa
143 (platexrelease)
                         \ignorespaces
144 \langle platexrelease \rangle
                       \fi
145 (platexrelease)
                    \fi}
146 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
```

なお、 \LaTeX 用の命令である \\ と \linebreak には上記のような禁則文字への対策を入れていますが、plain \TeX 互換のシンプルな命令である \break や \nobreak には、対策を行いません。

11.5 オブジェクトの出力順序

オリジナルの LATEX は、トップフロート、本文、脚注、ボトムフロートの順番で出 力しますけれども、日本語組版では、トップフロート、本文、ボトムフロート、脚 注という順番の方が一般的ですので、このような順番になるよう修正をします。

したがって、文書ファイルによっては IATFX の組版結果と異なる場合があります ので、注意をしてください。

2014年に IATEX に fltrace パッケージが追加されましたので、その pIATEX 版 として pfltrace パッケージを追加します。この pfltrace パッケージは IATeX の fltrace パッケージに依存します。

- 147 (*fltrace)
- 148 \NeedsTeXFormat{pLaTeX2e}
- 149 \ProvidesPackage{pfltrace}
- [2016/05/20 v1.2e Standard pLaTeX package (float tracing)]
- 151 \RequirePackageWithOptions{fltrace}
- 152 (/fltrace)

\pltx@adjust@wd@outputbox \@outputpage 内で実行されていた

縦組の際に \@outputbox の内容が空のボックスだけの場合に、\wd\@outputbox が Opt になってしまい、結果としてフッタの位置がくるってしまってい た。0の \hskip を発生させると \wd\@outputbox の値が期待したもの となるので、縦組の場合はその方法で対処する。

ただし、0の \hskip を発生させるとき、水平モードに入ってしまうと、 たとえば longtable パッケージを使用して表組途中で改ページするときに \par -> {\vskip}の無限ループが起きてしまいます。そこで、\vbox の中で発生させます。

という処理を取り出したものです。

IÅTeX 2ε 2021-06-01 では段落開始時の "para/*" フックが実装されますが、それを 一時的に無効化するために「プリミティブとしての」\everyparを\pdfprimitive\everypar として呼び出しています。

- 153 (*plcore | platexrelease)
- 154 \def\pltx@adjust@wd@outputbox{%

pltx@adjust@wd@outputbox@vtryfc \pltx@adjust@wd@outputbox と同様の処理ですが、\@vtryfc では \vbox の位置 が異なります。

- 156 \def\pltx@adjust@wd@outputbox@vtryfc{%
- 157 \ifydir\else\pdfprimitive\everypar{}\hskip\z0\fi}
- 158 (/plcore | platexrelease)

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

Comakecol このマクロが組み立てる部分の中心となります。**ltoutput.dtx** で定義されているものです。

オリジナルの IFTEX は、トップフロート、本文、脚注、ボトムフロートの順番で出力します。一方 pIFTEX は、トップフロート、本文、ボトムフロート、脚注の順番で出力します。ところが、アスキー版のコードは順番を入れ替えるだけでなく、脚注のあるページの版面全体の垂直位置が(特に縦組で顕著に)ずれてしまっていました。これは補正量 \dp\@outputbox の取得を**脚注挿入より前**に行っていたためで、コミュニティ版 pIFTEX ではこの問題に対処してあります。結果的に、fnpos パッケージ (yafoot) の \makeFNbottom かつ \makeFNbelow な状態と完全に等価になりました。

```
168
      \let\pltx@textbottom\@textbottom % save (pLaTeX 2017/02/25)
      \ifvoid\footins\else % changed (pLaTeX 2017/02/25)
169
170
        \setbox\@outputbox \vbox {%
171
          \boxmaxdepth \@maxdepth
172
          \unvbox \@outputbox
          \@textbottom % inserted here (pLaTeX 2017/02/25)
174
          \vskip \skip\footins
175
          \color@begingroup
176
            \normalcolor
177
            \footnoterule
            \unvbox \footins
178
          \color@endgroup
179
180
          \let\@textbottom\relax % disable temporarily (pLaTeX 2017/02/25)
181
182
      \fi
      \ifvbox\@kludgeins
        \@makespecialcolbox
185
      \else
186
        \setbox\@outputbox \vbox to\@colht {%
187
          %\boxmaxdepth \@maxdepth
                                       % comment out on LaTeX 1997/12/01
188
          \@texttop
          \dimen@ \dp\@outputbox
189
          \unvbox \@outputbox
190
```

\iftdir\vbox{\hskip\z@}\fi

次の行は以前は

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

```
でしたが、\pltx@adjust@wd@outputbox として切り出しました。
                                                    \pltx@adjust@wd@outputbox
 192
                                                     \vskip -\dimen@
 193
                                                     \@textbottom
194
                                                   }%
195
                               \fi
                               \let\@textbottom\pltx@textbottom % restore (pLaTeX 2017/02/25)
196
                               \global \maxdepth \@maxdepth
197
198 }
199  (/plcore | platexrelease)
200 \langle platexrelease \rangle \rangle 100 \langle platexrelease \rangle
201 \langle platexrelease \rangle \plincludeInRelease \{2016/09/03\} \{\column{2}{c} \parbox{0.05}{c} \p
202 (platexrelease)
                                                                                                                                                                               {Avoid infinite loop}%
203 \ \langle platexrelease \rangle \ \langle gdef \ @makecol \{\% \ \} 
204 \langle platexrelease \rangle
                                                                                            \setbox\@outputbox\box\@cclv%
205 (platexrelease)
                                                                                            \xdef\@freelist{\@freelist\@midlist}%
206 \langle platexrelease \rangle
                                                                                            \global \let \@midlist \@empty
207 \langle platexrelease \rangle
                                                                                            \colone{1}{0} combinefloats
208 \langle \mathsf{platexrelease} \rangle
                                                                                            \ifvbox\@kludgeins
209 (platexrelease)
                                                                                                       \@makespecialcolbox
210 \langle platexrelease \rangle
                                                                                            \else
211 (platexrelease)
                                                                                                       \setbox\@outputbox \vbox to\@colht {%
212 (platexrelease)
                                                                                                                 %\boxmaxdepth \@maxdepth
                                                                                                                                                                                                                                                                % comment out on LaTeX 1997/12/01
213 \langle platexrelease \rangle
                                                                                                                  \@texttop
214 (platexrelease)
                                                                                                                 \dimen@ \dp\@outputbox
                                                                                                                 \unvbox \@outputbox
215 (platexrelease)
216 (platexrelease)
                                                                                                                 \left( \frac{\pi vbox{\pi 
217 \langle platexrelease \rangle
                                                                                                                 \vskip -\dimen@
218 \ \langle \mathsf{platexrelease} \rangle
                                                                                                                 \@textbottom
219 \langle platexrelease \rangle
                                                                                                                 \ifvoid\footins\else % for pLaTeX
220 (platexrelease)
                                                                                                                          \vskip \skip\footins
221 \langle platexrelease \rangle
                                                                                                                          \color@begingroup
222 (platexrelease)
                                                                                                                                           \normalcolor
223 \langle platexrelease \rangle
                                                                                                                                           \footnoterule
224 \langle platexrelease \rangle
                                                                                                                                           \unvbox \footins
225 \langle platexrelease \rangle
                                                                                                                          \color@endgroup
226 (platexrelease)
                                                                                                                 \fi
227 (platexrelease)
                                                                                                                }%
228 \langle platexrelease \rangle
                                                                                            \fi
229 \langle platexrelease \rangle
                                                                                            \global \maxdepth \@maxdepth
230 \langle platexrelease \rangle \}
231 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease
232 \langle platexrelease \rangle plincludeInRelease{2016/04/17}{\column{center} 2016/04/17}{\column{center} 2016/04/17}{\co
233 (platexrelease)
                                                                                                                                                                               {Adjust for \dp\@outputbox in tate mode}%
235 (platexrelease)
                                                                                            \setbox\@outputbox\box\@cclv%
236 (platexrelease)
                                                                                            \xdef\@freelist{\@freelist\@midlist}%
237 (platexrelease)
                                                                                            \global \let \@midlist \@empty
238 (platexrelease)
                                                                                            \@combinefloats
```

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

```
239 (platexrelease)
                   \ifvbox\@kludgeins
240 (platexrelease)
                      \@makespecialcolbox
241 (platexrelease)
242 (platexrelease)
                      \setbox\@outputbox \vbox to\@colht {%
243 (platexrelease)
                        %\boxmaxdepth \@maxdepth
                                                      % comment out on LaTeX 1997/12/01
244 (platexrelease)
                        \@texttop
245 (platexrelease)
                        \dimen@ \dp\@outputbox
246 \langle platexrelease \rangle
                        \unvbox \@outputbox
247 (platexrelease)
                        \iftdir\hskip\z@\fi
248 (platexrelease)
                        \vskip -\dimen@
249 (platexrelease)
                        \@textbottom
                        \ifvoid\footins\else % for pLaTeX
250 (platexrelease)
251 (platexrelease)
                          \vskip \skip\footins
252 (platexrelease)
                          \color@begingroup
253 (platexrelease)
                              \normalcolor
254 (platexrelease)
                              \footnoterule
255 (platexrelease)
                             \unvbox \footins
256 (platexrelease)
                          \color@endgroup
257 (platexrelease)
                        \fi
258 (platexrelease)
                        }%
259 (platexrelease)
                   \fi
260 (platexrelease)
                    \global \maxdepth \@maxdepth
261 (platexrelease)}
262 <plantexrelease \plEndIncludeInRelease
264 (platexrelease)
                                     {ASCII Corporation original}%
266 (platexrelease)
                   \setbox\@outputbox\box\@cclv%
267 (platexrelease)
                   \xdef\@freelist{\@freelist\@midlist}%
268 (platexrelease)
                    \global \let \@midlist \@empty
269 (platexrelease)
                   \@combinefloats
270 (platexrelease)
                    \ifvbox\@kludgeins
271 (platexrelease)
                      \@makespecialcolbox
272 (platexrelease)
273 (platexrelease)
                      \setbox\@outputbox \vbox to\@colht {%
274 (platexrelease)
                        %\boxmaxdepth \@maxdepth
                                                      % comment out on LaTeX 1997/12/01
275 (platexrelease)
                        \@texttop
276 (platexrelease)
                        \dimen@ \dp\@outputbox
                        \unvbox \@outputbox
277 (platexrelease)
                        \iftdir\hskip\z@
278 (platexrelease)
                        \else\vskip -\dimen@\fi
279 (platexrelease)
280 (platexrelease)
                        \@textbottom
                        \ifvoid\footins\else % for pLaTeX
281 (platexrelease)
282 (platexrelease)
                          \vskip \skip\footins
283 (platexrelease)
                          \color@begingroup
284 (platexrelease)
                             \normalcolor
285 (platexrelease)
                             \footnoterule
286 (platexrelease)
                             \unvbox \footins
287 (platexrelease)
                          \color@endgroup
288 (platexrelease)
                        \fi
```

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

```
289 (platexrelease)
                         }%
290 (platexrelease)
                     \fi
291 (platexrelease)
                     \global \maxdepth \@maxdepth
292 (platexrelease)}
293 <plantexrelease \plEndIncludeInRelease
```

\@makespecialcolbox 本文(あるいはボトムフロート)と脚注の間に \@textbottom を入れたいので、 \@makespecialcolbox コマンドも修正をします。やはり、ltoutput.dtx で定義 されているものです。

> このマクロは、\enlargethispageが使われたときに、\@makecolマクロから呼 び出されます。

> 日本語 TFX 開発コミュニティによる補足 (2017/02/25): 2016/11/29 以前の pLFTFX では、\@makecol はボトムフロートを挿入した後、すぐに \@kludgeins が空かど うか判定し

- 空の場合は、残りすべての処理を \@makespecialcolbox に任せる
- 空でない場合は、\@makecol 自身で残りすべての処理を行う

としていました。しかし 2017/04/08 以降の plaTFX では、\@makecol はボトムフ ロートと脚注を挿入してから \@kludgeins の判定に移るようにしています。した がって、新しい \@makecol から以下に記す \@makespecialcolbox が呼び出される 場合は、\ifvoid\footins(二箇所)の判定は常に真となるはずです。要するに「つ ぎの部分が pIATFX 用の修正です。」という二箇所のコードは実質的に不要となりま した。

しかし、だからといって消してしまうと、古い pIATFX の \@makecol をベースに 作られた外部パッケージから \@makespecialcolbox が呼び出される場合に脚注が 消滅するおそれがあります。このため、\@makespecialcolbox は従来のコードの まま維持してあります (害はありません)。

```
294 \langle *plcore | fltrace \rangle
295 \gdef\@makespecialcolbox{%
296 (*trace)
       \fl@trace{Krudgeins ht \the\ht\@kludgeins\space
297
                             dp \the\dp\@kludgeins\space
298
299
                             wd \the\wd\@kludgeins}%
300 (/trace)
       \setbox\@outputbox \vbox {%
301
         \@texttop
302
         \dimen@ \dp\@outputbox
303
         \unvbox\@outputbox
304
305
         \vskip-\dimen@
306
         }%
307
       \@tempdima \@colht
```

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

```
308
      \ifdim \wd\@kludgeins>\z@
        \advance \@tempdima -\ht\@outputbox
309
        \advance \@tempdima \pageshrink
310
311 (*trace)
        \fl@trace {Natural ht of col: \the\ht\@outputbox}%
312
        \fl@trace {\string \@colht: \the\@colht}%
313
        \fl@trace {Pageshrink added: \the\pageshrink}%
314
315
        \fl@trace {Hence, space added: \the\@tempdima}%
316 (/trace)
        \setbox\@outputbox \vbox to \@colht {%
317
318 %
           \boxmaxdepth \maxdepth
          \unvbox\@outputbox
319
320
          \vskip \@tempdima
321
          \@textbottom
つぎの部分が pIAT<sub>F</sub>X 用の修正です。
322
          \ifvoid\footins\else % for pLaTeX
            \vskip\skip\footins
323
            \color@begingroup
324
325
               \normalcolor
326
               \footnoterule
327
               \unvbox \footins
328
            \color@endgroup
          \fi
329
        }%
330
331
      \else
        \advance \@tempdima -\ht\@kludgeins
332
333 (*trace)
334
        \fl@trace {Natural ht of col: \the\ht\@outputbox}%
335
        \fl@trace {\string \@colht: \the\@colht}%
        \fl@trace {Extra size added: -\the \ht \@kludgeins}%
        \fl@trace {Hence, height of inner box: \the\@tempdima}%
337
        \fl@trace {Max? pageshrink available: \the\pageshrink}%
338
339 (/trace)
        \setbox \@outputbox \vbox to \@colht {%
340
          \vbox to \@tempdima {%
341
            \unvbox\@outputbox
342
            \@textbottom
343
つぎの部分が pIAT<sub>F</sub>X 用の修正です。脚注があれば、ここでそれを出力します。
344
            \ifvoid\footins\else % for pLaTeX
345
              \vskip\skip\footins
              \color@begingroup
346
                  \normalcolor
347
                 \footnoterule
348
349
                 \unvbox \footins
              \color@endgroup
350
            \fi
351
352
          \ \vss}%
353
      \fi
```

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

```
{\setbox \@tempboxa \box \@kludgeins}%
            355 (*trace)
                   \fl@trace {kludgeins box made void}%
            357 \langle / trace \rangle
            358 }
            _{359} \langle / plcore | fltrace \rangle
\@reinserts このマクロは、\@specialoutput マクロから呼び出されます。ボックス footins が
            組み立てられたモードに合わせて縦モードか横モードで \unvbox をします。
            360 (*plcore)
            361 \def\@reinserts{%
            362 \ifvoid\footins\else\insert\footins{%
            363
                  \iftbox\footins\tate\else\yoko\fi
            364
                  \unvbox\footins}\fi
            365 \qquad \verb|\ifvbox\\@kludgeins\\insert\\@kludgeins\\\{unvbox\\@kludgeins\}\\fi
            366 }
            367 (/plcore)
  \@vtryfc \LaTeX2017/01/01 以降では、例えば
             \documentclass{tarticle}
             \begin{document}
             \begin{figure}
             \end{figure}
             \clearpage
             \end{document}
            のようにすると「空のフロート」だけの空白ページが発生します。このとき、縦組
            クラスではフッタが持ち上がってしまうので、対策します。(Issue #78)
              なお、\LaTeX2_{\varepsilon}2015/01/01-2016/03/31 patch level 3 では
               ! Output loop---100 consecutive dead cycles.
            のエラーが出ていました。それより昔の版では空白ページは発生しません。
              対策方法は、ltoutput.dtxで定義されている \@vtryfcに\ifydir\else\hskip\z@\fi
            の追加です(\@makecolと同様)が、別命令\pltx@adjust@wd@outputbox@vtryfc
            として切り出しました。
            368 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2020/10/01}{\@vtryfc}
            369 (platexrelease)
                                                      {Empty float}%
            370 (*plcore | platexrelease)
            371 \def\@vtryfc #1{%
            372 \global\setbox\@outputbox\vbox{\pltx@adjust@wd@outputbox@vtryfc}%
            373 \let\@elt\@wtryfc
            374 \@flsucceed
            375 \global\setbox\@outputbox \vbox to\@colht{%
                  \vskip \@fptop
            377
                \vskip -\@fpsep
```

```
\unvbox \@outputbox
378
       \vskip \@fpbot}%
379
    \let\@elt\relax
381
    \xdef #1{\@failedlist\@flfail}%
    \xdef\@freelist{\@freelist\@flsucceed}}
382
383 (/plcore | platexrelease)
384 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease
385 (platexrelease)\plIncludeInRelease{0000/00/00}{\@vtryfc}
386 (platexrelease)
                                              {LaTeX2e original}%
387 \langle platexrelease \rangle \def \@vtryfc #1{%}
                \global\setbox\@outputbox\vbox{}%
388 (platexrelease)
389 (platexrelease)
                \let\@elt\@wtryfc
390 (platexrelease)
                \@flsucceed
391 (platexrelease)
                \global\setbox\@outputbox \vbox to\@colht{%
392 (platexrelease)
                   \vskip \@fptop
393 (platexrelease)
                   \vskip -\@fpsep
                   \unvbox \@outputbox
394 (platexrelease)
395 (platexrelease)
                   \vskip \@fpbot}%
397 (platexrelease) \xdef #1{\@failedlist\@flfail}%
399 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
```

トンボ 11.6

ここではトンボを出力するためのマクロを定義しています。

\iftombow \iftombow はトンボを出力するかどうか、\iftombowdate は DVI を作成した日付 \iftombowdate をトンボの脇に出力するかどうかを示すために用います。

400 (*plcore)

 $401 \neq 10$

402 \newif\iftombowdate \tombowdatetrue

\@tombowwidth \@tombowwidth には、トンボ用罫線の太さを指定します。デフォルトは 0.1 ポイン トです。この値を変更し、\maketombowbox コマンドを実行することにより、トンボ の罫線太さを変更して出力することができます。通常の使い方では、トンボの罫線 を変更する必要はありません。DVI をフィルムに面付け出力するとき、トンボをつ けずに位置はそのままにする必要があるときに、この太さをゼロポイントにします。

 $403 \mbox{ }\mbox{mem}\mbox{@tombowwidth}$

 $404 \setlength{\downwidth}{.1\p0}$

\@tombowbleed \@tombowbleed は、bleed 幅を指定します。デフォルトは 3mm です。

405 (/plcore)

 $406 \langle platexrelease \rangle plIncludeInRelease \{2018/05/20\} \{\dombowbleed\} \{\dombowbleed\} \}$

407 (*plcore | platexrelease)

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

```
409 (/plcore | platexrelease)
                                                                       410 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                                                                       411 \(\rangle platexrelease \)\(\rangle \rangle plinclude InRelease \)\(\rangle 0000/00/00 \)\(\lambda tombowbleed \)\(\rangle \rangle tombowbleed \)\(\rangle \rangle tombowbleed \)\(\rangle tombowbleed \)\(\rangle \rangle tombowbleed \)\(\rangle tombowbleed \)\(\rangle
                                                                       412 (platexrelease)\let\@tombowbleed\@undefined
                                                                       413 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease
                                                                       414 (*plcore)
\@tombowcolor \@tombowcolor は、トンボの色です。デフォルトは \normalcolor です。
                                                                      415 (/plcore)
                                                                       416 \parbox{$\langle platexrelease \rangle plIncludeInRelease {2018/05/20} {\color}{Macro added}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}{\color}
                                                                       417 (*plcore | platexrelease)
                                                                       418 \def\@tombowcolor{\normalcolor}
                                                                       419 \langle /plcore \mid platexrelease \rangle
                                                                       420 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                                                                       421 \(\rangle\)plIncludeInRelease\(\rangle\)0000/00\(\rangle\)tombowcolor\(\rangle\)Macro added\(\rangle\)
                                                                       422 (platexrelease)\let\@tombowcolor\@undefined
                                                                       423 <planter | Planter | 423 | planter | 423 | planter | 424 | 425 | 425 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426 | 426
                                                                       424 (*plcore)
                                                                                   トンボ用の罫線を定義します。
                                           \cTL \cTL と \cTl はページ上部の左側、\cTC はページ上部の中央、\cTR と \cTr はペー
                                           \@Tl ジ上部の左側のトンボとなるボックスです。
                                           \@TC 425 \newbox\@TL\newbox\@Tl
                                                                      426 \newbox\QTC
                                           \@TR.
                                                                       427 \newbox\QTR\newbox\QTr
                                           \@Tr
                                           \@BL \@BLと\@B1 はページ下部の左側、\@BC はページ下部の中央、\@BR と \@Br はペー
                                           \@B1 ジ下部の左側のトンボとなるボックスです。
                                           \@BC 428 \newbox\@BL\newbox\@B1
                                                                      429 \newbox\@BC
                                           \@BR
                                                                       430 \newbox\@BR\newbox\@Br
                                           \@Br
                                           \@CL \@CL はページ左側の中央、\@CR はページ右側の中央のトンボとなるボックスです。
                                           \@CR 431 \newbox\@CL
                                                                       432 \newbox\CR
\@bannertoken \@bannertokenトークンは、トンボの横に出力する文字列を入れます。デフォルト
    \@bannerfont では何も出力しません。\@bannerfont フォントは、その文字列を出力するための
                                                                         フォントです。9 ポイントのタイプライタ体としています。
                                                                       433 \font\@bannerfont=cmtt9
                                                                       434 \newtoks\@bannertoken
                                                                       435 \@bannertoken{}
```

```
\maketombowbox \maketombowbox コマンドは、トンボとなるボックスを作るために用います。この
                                             コマンドは、トンボとなるボックスを作るだけで、それらのボックスを出力するの
                                            ではないことに注意をしてください。
                                            436 (/plcore)
                                            437 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2018/05/20}{\maketombowbox}
                                            438 (platexrelease)
                                                                                                                                                                            {Use \@tombowbleed}%
                                            439 (*plcore | platexrelease)
                                            440\ensuremath{\mbox{\mbowbox}}\
                                                          \setbox\@TL\hbox to\z@{\yoko\hss
                                                                      \vrule width\dimexpr 10mm+\@tombowbleed\relax height\@tombowwidth depth\z@
                                            442
                                                                      \vrule height10mm width\@tombowwidth depth\z@
                                            443
                                            444
                                                                      \iftombowdate
                                                                           445
                                                                      fi}%
                                            446
                                                          \setbox\@Tl\hbox to\z@{\yoko\hss
                                            447
                                                                      \vrule width10mm height\@tombowwidth depth\z@
                                            448
                                                                      \vrule height\dimexpr 10mm+\@tombowbleed\relax width\@tombowwidth depth\z@}%
                                            449
                                                          \setbox\@TC\hbox{\yoko
                                            450
                                                                      \vrule width10mm height\@tombowwidth depth\z@
                                            451
                                                                      \vrule height10mm width\@tombowwidth depth\z@
                                            452
                                                                      \vrule width10mm height\@tombowwidth depth\z@}%
                                            453
                                            454
                                                          \setbox\@TR\hbox to\z@{\yoko
                                                                      \vrule height10mm width\@tombowwidth depth\z@
                                            455
                                            456
                                                                      \vrule width\dimexpr 10mm+\@tombowbleed\relax height\@tombowwidth depth\z@\hss}%
                                            457
                                                          \setbox\@Tr\hbox to\z@{\yoko
                                                                      \vrule height\dimexpr 10mm+\@tombowbleed\relax width\@tombowwidth depth\z@
                                            458
                                                                      \vrule width10mm height\@tombowwidth depth\z@\hss}%
                                            459
                                            460 %
                                                          461
                                                                      \vrule width\dimexpr 10mm+\@tombowbleed\relax depth\@tombowwidth height\z@
                                            462
                                                                      \vrule depth10mm width\@tombowwidth height\z@}%
                                            463
                                                          \ \begin{tabular}{l} \begin{ta
                                            464
                                                                      \vrule width10mm depth\@tombowwidth height\z@
                                            465
                                                                      \vrule depth\dimexpr 10mm+\@tombowbleed\relax width\@tombowwidth height\z@}%
                                                          \setbox\@BC\hbox{\yoko
                                            467
                                                                      \vrule width10mm depth\@tombowwidth height\z@
                                            468
                                            469
                                                                      \vrule depth10mm width\@tombowwidth height\z@
                                            470
                                                                      \vrule width10mm depth\@tombowwidth height\z@}%
                                                          \st volume 10 \c volume 10 \c
                                            471
                                                                      \vrule depth10mm width\@tombowwidth height\z@
                                            472
                                                                      \vrule width\dimexpr 10mm+\@tombowbleed\relax depth\@tombowwidth height\z@\hss}%
                                            473
                                                          \setbox\@Br\hbox to\z@{\yoko
                                            474
                                                                      \vrule depth\dimexpr 10mm+\@tombowbleed\relax width\@tombowwidth height\z@
                                            475
                                                                      \vrule width10mm depth\@tombowwidth height\z@\hss}%
                                            476
                                            477 %
                                                          \setbox\@CL\hbox to\z@{\yoko\hss
                                            478
                                                                      \vrule width10mm height.5\@tombowwidth depth.5\@tombowwidth
                                            479
```

480

\vrule height10mm depth10mm width\@tombowwidth}%

```
\setbox\@CR\hbox to\z@{\yoko
481
482
                        \vrule height10mm depth10mm width\@tombowwidth
                        \vrule height.5\@tombowwidth depth.5\@tombowwidth width10mm\hss}%
483
484 }
485 (/plcore | platexrelease)
486 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease
487 \langle platexrelease \rangle plincludeInRelease \{0000/00/00\} \{ \maketombowbox \}
488 (platexrelease)
                                                                                                                        {ASCII Corporation original}%
489 (platexrelease)\def\maketombowbox{%
                                            \verb|\color| \color| \c
490 (platexrelease)
491 (platexrelease)
                                                       \vrule width13mm height\@tombowwidth depth\z@
492 (platexrelease)
                                                       \vrule height10mm width\@tombowwidth depth\z@
493 (platexrelease)
                                                       \iftombowdate
494 (platexrelease)
                                                             495 (platexrelease)
                                                       \fi}%
                                            496 (platexrelease)
497 (platexrelease)
                                                       \vrule width10mm height\@tombowwidth depth\z@
498 (platexrelease)
                                                       \vrule height13mm width\@tombowwidth depth\z@}%
499 (platexrelease)
                                            \setbox\@TC\hbox{\yoko
500 (platexrelease)
                                                       \vrule width10mm height\@tombowwidth depth\z@
501 (platexrelease)
                                                       \vrule height10mm width\@tombowwidth depth\z@
502 (platexrelease)
                                                       \vrule width10mm height\@tombowwidth depth\z@}%
503 (platexrelease)
                                            \setbox\@TR\hbox to\z@{\yoko
504 (platexrelease)
                                                       \vrule height10mm width\@tombowwidth depth\z@
505 (platexrelease)
                                                       \vrule width13mm height\@tombowwidth depth\z@\hss}%
506 (platexrelease)
                                            \setbox\@Tr\hbox to\z@{\yoko
507 (platexrelease)
                                                       \vrule height13mm width\@tombowwidth depth\z@
508 (platexrelease)
                                                       \vrule width10mm height\@tombowwidth depth\z@\hss}%
509 (platexrelease)
                                            \label{locality} $$\left(\frac{0}L\hbox\ to\z0{\yoko\hss}\right)$
510~\langle \mathsf{platexrelease} \rangle
                                                       \vrule width13mm depth\@tombowwidth height\z@
511 (platexrelease)
                                                       \vrule depth10mm width\@tombowwidth height\z@}%
512 (platexrelease)
                                            \ \begin{tabular}{l} \begin{ta
513 (platexrelease)
                                                       \vrule width10mm depth\@tombowwidth height\z@
514 (platexrelease)
                                                       \vrule depth13mm width\@tombowwidth height\z@}%
515 (platexrelease)
                                            \setbox\@BC\hbox{\yoko
516 (platexrelease)
                                                       \vrule width10mm depth\@tombowwidth height\z@
517 (platexrelease)
                                                       \vrule depth10mm width\@tombowwidth height\z@
                                                       \vrule width10mm depth\@tombowwidth height\z@}%
518 (platexrelease)
                                            \stbox\BR\hbox to\z0{\yoko}
519 (platexrelease)
                                                       \vrule depth10mm width\@tombowwidth height\z@
520 (platexrelease)
                                                       521 (platexrelease)
522 (platexrelease)
                                            \setbox\@Br\hbox to\z@{\yoko
                                                       \vrule depth13mm width\@tombowwidth height\z@
523 (platexrelease)
                                                       \vrule width10mm depth\@tombowwidth height\z@\hss}%
524 (platexrelease)
525 (platexrelease)
                                            526 (platexrelease)
                                                       \vrule width10mm height.5\@tombowwidth depth.5\@tombowwidth
527 (platexrelease)
                                                       \vrule height10mm depth10mm width\@tombowwidth}%
528 (platexrelease)
                                            \setbox\@CR\hbox to\z@{\yoko
529 (platexrelease)
                                                       \vrule height10mm depth10mm width\@tombowwidth
```

530 (platexrelease)

\vrule height.5\@tombowwidth depth.5\@tombowwidth width10mm\hss}%

```
531 (platexrelease)}
               532 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
               533 (*plcore)
               \Coutputtombow コマンドは、トンボを出力するのに用います。コミュニティ版で
\@outputtombow
               は、「色付きテキストの途中で改ページが起きた場合に、トンボにも色が付いてしま
               う」という現象を防ぎ、さらにトンボの色を簡単に変えられるよう、\@tombowcolor
               というマクロに切り出しています。
               534 (/plcore)
               535 \(\rangle\)plincludeInRelease\(2018/05/20\)\(\rangle\)outputtombow\\
               536 (platexrelease)
                                                {Use \@tombowcolor and \@tombowbleed}%
               537 (*plcore | platexrelease)
               538 \def\@outputtombow{%
                    \iftombow
               540
                    \vbox to\z@{\kern-\dimexpr 10mm+\@tombowbleed\relax\relax
               541
                      \boxmaxdepth\maxdimen
                      \moveleft\@tombowbleed \vbox to\@@paperheight{%
               542
                      \color@begingroup
               543
                        \@tombowcolor
               544
                        \hbox to\@@paperwidth{\hskip\@tombowbleed\relax
               545
               546
                           \copy\@TL\hfill\copy\@TC\hfill\copy\@TR\hskip\@tombowbleed}%
               547
                        \kern-10mm
                        \hbox to\@@paperwidth{\copy\@Tl\hfill\copy\@Tr}%
               548
                        \vfill
                        \hbox to\@@paperwidth{\copy\@CL\hfill\copy\@CR}%
               550
               551
                        \vfill
               552
                        \hbox to\@@paperwidth{\copy\@B1\hfill\copy\@Br}%
               553
                        \kern-10mm
                        \hbox to\@@paperwidth{\hskip\@tombowbleed\relax
               554
                           \copy\@BL\hfill\copy\@BC\hfill\copy\@BR\hskip\@tombowbleed}%
               555
                      \color@endgroup
               556
               557
                      }\vss
               558
               559
                    \fi
               560 }
               561 (/plcore | platexrelease)
               562 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease
               564 (platexrelease)
                                                {Safe \boxmaxdepth}%
               565 (platexrelease)\def\@outputtombow{%
               566 (platexrelease) \iftombow
               567 (platexrelease) \vbox to\z@{\kern-13mm\relax
               568 (platexrelease)
                                  \boxmaxdepth\maxdimen
               569 (platexrelease)
                                  \moveleft3mm\vbox to\@@paperheight{%
               570 (platexrelease)
                                    \hbox to\@@paperwidth{\hskip3mm\relax
               571 (platexrelease)
                                      \copy\@TL\hfill\copy\@TC\hfill\copy\@TR\hskip3mm}%
               572 (platexrelease)
                                    \kern-10mm
```

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

573 (platexrelease)

\hbox to\@@paperwidth{\copy\@Tl\hfill\copy\@Tr}%

```
575 (platexrelease)
                                                                                        \hbox to\@@paperwidth{\copy\@CL\hfill\copy\@CR}%
                                             576 (platexrelease)
                                                                                        \vfill
                                             577 (platexrelease)
                                                                                        \hbox to\@@paperwidth{\copy\@B1\hfill\copy\@Br}%
                                             578 (platexrelease)
                                                                                        \kern-10mm
                                             579 (platexrelease)
                                                                                        \hbox to\@@paperwidth{\hskip3mm\relax
                                             580 (platexrelease)
                                                                                              \copy\@BL\hfill\copy\@BC\hfill\copy\@BR\hskip3mm}%
                                             581 (platexrelease)
                                                                                    }\vss
                                             582 (platexrelease)
                                                                               }%
                                             583 (platexrelease)
                                                                               \fi
                                             584 (platexrelease)}
                                             585 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                                             586 \(\rangle plane = \plinclude InRelease \{ 0000/00/00 \} \\ \@outputtombow \}
                                             587 (platexrelease)
                                                                                                                   {ASCII Corporation original}%
                                             588 (platexrelease)\def\@outputtombow{%
                                             589 (platexrelease)
                                                                               \iftombow
                                             590 (platexrelease)
                                                                                \vbox to\z@{\kern-13mm\relax
                                             591 (platexrelease)
                                                                                    \moveleft3mm\vbox to\@@paperheight{%
                                             592 (platexrelease)
                                                                                        \hbox to\@@paperwidth{\hskip3mm\relax
                                             593 (platexrelease)
                                                                                              \copy\@TL\hfill\copy\@TR\hskip3mm}%
                                             594 (platexrelease)
                                                                                        \kern-10mm
                                                                                        \hbox to\@@paperwidth{\copy\@Tl\hfill\copy\@Tr}%
                                             595 (platexrelease)
                                             596 (platexrelease)
                                                                                        \vfill
                                             597 (platexrelease)
                                                                                        \hbox to\@@paperwidth{\copy\@CL\hfill\copy\@CR}%
                                             598 (platexrelease)
                                                                                        \vfill
                                                                                        \hbox to\@@paperwidth{\copy\@B1\hfill\copy\@Br}%
                                             599 (platexrelease)
                                             600 (platexrelease)
                                                                                        \kern-10mm
                                             601 \langle platexrelease \rangle
                                                                                        \begin{tabular}{l} $$ \begin{tabular}{l} \begin{t
                                                                                              602 (platexrelease)
                                             603 (platexrelease)
                                                                                   }\vss
                                             604 (platexrelease)
                                                                               ጉ%
                                             605 (platexrelease)
                                                                                \fi
                                             606 (platexrelease)}
                                             607 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                                             608 (*plcore)
                                             \@@paperheight は、用紙の縦の長さにトンボの長さを加えた長さになります。
            \@@paperheight
                                                 \@@paperwidthは、用紙の横の長さにトンボの長さを加えた長さになります。
              \@@paperwidth
                                                 \@@topmargin は、現在のトップマージンに1インチ加えた長さになります。
                \@@topmargin
                                             609 \newdimen\@@paperheight
                                             610 \newdimen\@@paperwidth
                                             611 \newdimen\@@topmargin
                                              トンボ出力オプションが指定されている場合に用紙サイズを再設定する命令です。
\@tombowreset@@paper
                                             \Coutputpageへ加える変更を簡潔にするため、分離した上で\Ctombowbleedを使
                                             うようにしました。
                                             612 (/plcore)
                                             613 \langle platexrelease \rangle \plincludeInRelease \{2018/05/20\} \{\c mbowreset@paper\}
```

574 (platexrelease)

\vfill

```
614 (platexrelease)
                                  {Macro separated}%
615 (*plcore | platexrelease)
616 \def\@tombowreset@@paper{%
        \@@topmargin\topmargin
618
        \iftombow
          \@@paperwidth\paperwidth
619
          \advance\@@paperwidth 2\dimexpr\@tombowbleed\relax
620
          \@@paperheight\paperheight \advance\@@paperheight 10mm\relax
621
          \advance\@@paperheight 2\dimexpr\@tombowbleed\relax
622
          \verb|\advance|@topmargin 1in| relax | advance|@themargin 1in| relax| \\
623
624
        \fi
625 }
626 (/plcore | platexrelease)
627 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
628 \ \langle platexrelease \rangle \\ \ plIncludeInRelease \{0000/00/00\} \\ \ \langle ptombowreset@Gpaper \}
629 (platexrelease)
                                  {Macro separated}%
632 (*plcore)
```

11.7 出力ルーチン

ここで実際にトンボを出力します。

\@shipoutsetup \@outputpage 内に挿入したので削除しました。

\@outputpage

\textwidth と \textheight の交換は、\@shipoutsetup 内では行ないません。なぜなら、\@shipoutsetup マクロが実行されるときは、\shipout される \vbox の中であり、このときは横組モードですので、つねに \iftdir は偽と判断され、縦と横のサイズを交換できないからです。

なお、この変更をローカルなものにするために、\begingroup と \endgroup で 囲みます。

```
633 \/plcore\
634 \/plcore\
634 \/plcore\
635 \/platexrelease\\plIncludeInRelease{2018/05/20}{\cutputpage}
635 \/platexrelease\
636 \/*elcore | platexrelease\
637 \/def\\@outputpage{%
638 \/begingroup % the \endgroup is put in by \aftergroup
639 \/iftdir
640 \/dimen\z@\textwidth \textwidth\textheight \textheight\dimen\z@
641 \/fi
642 \/let \protect \noexpand
```

IFTEX 2ε 2017-04-15 では verbatim 環境内でハイフネーションが起きないように修正されましたが、verbatim 環境の途中で改ページが起きた場合にヘッダでハイフネーションが抑制されるのは正しくないので、\language を \begin{document}で

の値にリセットします(参考:latex2e svn r1407)。プリアンブルで特別に設定さ れればその値、設定されなければ0です(万が一 \document の定義が古い場合3は -1 になりますが、これは0と同じはたらきをするので問題は起きません)。

\language\document@default@language

```
\@resetactivechars
644
    \global\let\@@if@newlist\if@newlist
645
646
    \global\@newlistfalse
    \@parboxrestore
647
    \shipout\vbox{\yoko
648
      \set@typeset@protect
649
       \aftergroup\endgroup
650
      \aftergroup\set@typeset@protect
ここから \@shipoutsetup の内容。
        \if@specialpage
652
653
         \global\@specialpagefalse\@nameuse{ps@\@specialstyle}%
654
       \if@twoside
         \ifodd\count\z@ \let\@thehead\@oddhead \let\@thefoot\@oddfoot
657
            \iftdir\let\@themargin\evensidemargin
            \else\let\@themargin\oddsidemargin\fi
658
         \else \let\@thehead\@evenhead
659
            \let\@thefoot\@evenfoot
660
             \iftdir\let\@themargin\oddsidemargin
661
662
             \else\let\@themargin\evensidemargin\fi
トンボ出力オプションが指定されている場合、ここで用紙サイズを再設定します。
```

TFX の加える左と上部の1インチは、トンボの内側に入ります。

```
664
        \@tombowreset@@paper
        \reset@font
665
        \normalsize
        \normalsfcodes
        \let\label\@gobble
669
        \let\index\@gobble
        \let\glossary\@gobble
670
        \baselineskip\z@skip \lineskip\z@skip \lineskiplimit\z@
```

ここまでが \@shipoutsetup の内容。

```
\@begindvi
672
       \@outputtombow
673
674
       \vskip \@@topmargin
675
       \moveright\@themargin\vbox{%
676
         \setbox\@tempboxa \vbox to\headheight{%
```

 $^{^3}$ IATEX 2_{ε} 2017/01/01 以前を使って pIATEX 2_{ε} のフォーマットを作成した場合や、dinbrief.cls の ように独自の再定義を行うクラスやパッケージを使った場合に起こるかもしれません。

```
678
            \color@hbox
679
              \normalcolor
              \hb@xt@\textwidth{\@thehead}%
680
681
            \color@endbox
          }%
                                       %% 22 Feb 87
682
          683
          \box\@tempboxa
684
          \vskip \headsep
685
          \box\@outputbox
686
          \baselineskip \footskip
687
          \color@hbox
688
689
            \normalcolor
            \hb@xt@\textwidth{\@thefoot}%
690
691
          \color@endbox
692
       ጉ%
     }%
693
694 \% \endgroup now inserted by \aftergroup
\if@newlist を初期化。
     \global\let\if@newlist\@@if@newlist
     \global \@colht \textheight
697
     \stepcounter{page}%
     \let\firstmark\botmark
698
699 }
700 (/plcore | platexrelease)
701 \langle platexrelease \rangle \rangle 101 \langle platexrelease \rangle
702 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2017/04/08}{\@outputpage}
703 (platexrelease)
                                     {Reset language for hyphenation}%
704 (platexrelease)\def\@outputpage{%
705 \langle platexrelease \rangle \setminus \ the \ in by \ aftergroup
706 (platexrelease)
                  \iftdir
                     \dimen\z@\textwidth \textwidth\textheight \textheight\dimen\z@
707 (platexrelease)
708 (platexrelease)
                  \fi
                  \let \protect \noexpand
709 (platexrelease)
710 (platexrelease)
                  \language\document@default@language
711 (platexrelease)
                  \@resetactivechars
712 (platexrelease)
                  \global\let\@@if@newlist\if@newlist
713 (platexrelease)
                  \global\@newlistfalse
714 (platexrelease)
                  \@parboxrestore
715 (platexrelease)
                  \shipout\vbox{\yoko
716 (platexrelease)
                     \set@typeset@protect
717 (platexrelease)
                     \aftergroup\endgroup
718 (platexrelease)
                     \aftergroup\set@typeset@protect
719 (platexrelease)
                      \if@specialpage
                        \global\@specialpagefalse\@nameuse{ps@\@specialstyle}%
720 (platexrelease)
                      \fi
721 (platexrelease)
722 (platexrelease)
                      \if@twoside
723 (platexrelease)
                        \ifodd\count\z@ \let\@thehead\@oddhead \let\@thefoot\@oddfoot
724 (platexrelease)
                            \iftdir\let\@themargin\evensidemargin
725 (platexrelease)
                            \else\let\@themargin\oddsidemargin\fi
```

```
726 (platexrelease)
                          \else \let\@thehead\@evenhead
727 (platexrelease)
                             \let\@thefoot\@evenfoot
728 (platexrelease)
                              \iftdir\let\@themargin\oddsidemargin
729 (platexrelease)
                              \else\let\@themargin\evensidemargin\fi
730 (platexrelease)
                       \fi\fi
731 (platexrelease)
                       \@@topmargin\topmargin
732 (platexrelease)
                       \iftombow
733 (platexrelease)
                          \@@paperwidth\paperwidth \advance\@@paperwidth 6mm\relax
734 (platexrelease)
                          \@@paperheight\paperheight \advance\@@paperheight 16mm\relax
735 (platexrelease)
                          \advance\@@topmargin 1in\relax \advance\@themargin 1in\relax
736 (platexrelease)
                       \fi
737 (platexrelease)
                       \reset@font
738 (platexrelease)
                       \normalsize
739 (platexrelease)
                       \normalsfcodes
740 (platexrelease)
                       \let\label\@gobble
741 (platexrelease)
                       \let\index\@gobble
742 (platexrelease)
                       \let\glossary\@gobble
743 (platexrelease)
                       \baselineskip\z@skip \lineskip\z@skip \lineskiplimit\z@
744 \langle platexrelease \rangle
                      \@begindvi
745 (platexrelease)
                      \@outputtombow
746 (platexrelease)
                      \vskip \@@topmargin
                      \moveright\@themargin\vbox{%
747 (platexrelease)
748 (platexrelease)
                        \setbox\@tempboxa \vbox to\headheight{%
749 (platexrelease)
                           \vfil
750 (platexrelease)
                           \color@hbox
751 (platexrelease)
                             \normalcolor
752 (platexrelease)
                             \hb@xt@\textwidth{\@thehead}%
753 (platexrelease)
                           \color@endbox
                                                       %% 22 Feb 87
754 (platexrelease)
                        }%
755 (platexrelease)
                        \dp\@tempboxa \z@
756 (platexrelease)
                        \box\@tempboxa
757 (platexrelease)
                        \vskip \headsep
758 (platexrelease)
                        \box\@outputbox
759 (platexrelease)
                        \baselineskip \footskip
760 (platexrelease)
                        \color@hbox
761 (platexrelease)
                           \normalcolor
762 (platexrelease)
                           \hb@xt@\textwidth{\@thefoot}%
763 \langle platexrelease \rangle
                        \color@endbox
764 (platexrelease)
                      }%
                   }%
765 (platexrelease)
                    \global\let\if@newlist\@@if@newlist
766 (platexrelease)
767 (platexrelease)
                    \global \@colht \textheight
768 (platexrelease)
                    \stepcounter{page}%
769 (platexrelease)
                   \let\firstmark\botmark
770 (platexrelease)}
771 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
772 \langle platexrelease \rangle plincludeInRelease \{0000/00/00\} \{\ensuremath{\mbox{\tt Qoutputpage}}\}
773 (platexrelease)
                                        {ASCII Corporation original}%
774 (platexrelease)\def\@outputpage{%
775 (platexrelease)\begingroup % the \endgroup is put in by \aftergroup
```

```
776 (platexrelease)
                  \iftdir
                     \dimen\z@\textwidth \textwidth\textheight \textheight\dimen\z@
777 (platexrelease)
778 (platexrelease)
779 (platexrelease)
                  \let \protect \noexpand
780 (platexrelease)
                  \@resetactivechars
781 (platexrelease)
                  \global\let\@@if@newlist\if@newlist
782 (platexrelease)
                  \global\@newlistfalse
783 (platexrelease)
                  \@parboxrestore
                  \shipout\vbox{\yoko
784 (platexrelease)
785 (platexrelease)
                     \set@typeset@protect
786 (platexrelease)
                     \aftergroup\endgroup
787 (platexrelease)
                     \aftergroup\set@typeset@protect
788 (platexrelease)
                      \if@specialpage
789 (platexrelease)
                        \global\@specialpagefalse\@nameuse{ps@\@specialstyle}%
790 (platexrelease)
                      \fi
                      \if@twoside
791 (platexrelease)
                        792 (platexrelease)
793 (platexrelease)
                           \iftdir\let\@themargin\evensidemargin
794 (platexrelease)
                           \else\let\@themargin\oddsidemargin\fi
                        \else \let\@thehead\@evenhead
795 (platexrelease)
796 (platexrelease)
                           \let\@thefoot\@evenfoot
797 (platexrelease)
                             \iftdir\let\@themargin\oddsidemargin
798 (platexrelease)
                             \else\let\@themargin\evensidemargin\fi
799 (platexrelease)
                      \fi\fi
800 (platexrelease)
                      \@@topmargin\topmargin
801 (platexrelease)
                      \iftombow
802 (platexrelease)
                        \@@paperwidth\paperwidth \advance\@@paperwidth 6mm\relax
803 (platexrelease)
                        \@@paperheight\paperheight \advance\@@paperheight 16mm\relax
804 (platexrelease)
                        \advance\@@topmargin 1in\relax \advance\@themargin 1in\relax
805 (platexrelease)
                      \fi
806 (platexrelease)
                      \reset@font
807 (platexrelease)
                      \normalsize
808 (platexrelease)
                      \normalsfcodes
809 (platexrelease)
                      \let\label\@gobble
810 (platexrelease)
                      \let\index\@gobble
811 (platexrelease)
                      \let\glossary\@gobble
                      \baselineskip\z@skip \lineskip\z@skip \lineskiplimit\z@
812 (platexrelease)
813 (platexrelease)
                     \@begindvi
814 (platexrelease)
                     \@outputtombow
815 \langle platexrelease \rangle
                     \vskip \@@topmargin
                     \moveright\@themargin\vbox{%
816 (platexrelease)
817 (platexrelease)
                       \setbox\@tempboxa \vbox to\headheight{%
818 (platexrelease)
                         \vfil
819 (platexrelease)
                         \color@hbox
820 (platexrelease)
                           \normalcolor
821 (platexrelease)
                           \hb@xt@\textwidth{\@thehead}%
822 (platexrelease)
                         \color@endbox
                                                    %% 22 Feb 87
823 (platexrelease)
                       }%
824 (platexrelease)
                       \dp\@tempboxa \z@
825 (platexrelease)
                       \box\@tempboxa
```

```
826 (platexrelease)
                       \vskip \headsep
827 (platexrelease)
                       \box\@outputbox
828 (platexrelease)
                       \baselineskip \footskip
829 (platexrelease)
                       \color@hbox
830 (platexrelease)
                          \normalcolor
831 (platexrelease)
                          \hb@xt@\textwidth{\@thefoot}%
832~\langle \mathsf{platexrelease} \rangle
                       \color@endbox
833 \langle platexrelease \rangle
                     }%
834 (platexrelease)
                  }%
835 (platexrelease)
                  \global\let\if@newlist\@@if@newlist
836 (platexrelease)
                   \global \@colht \textheight
837 (platexrelease)
                   \stepcounter{page}%
838 (platexrelease)
                   \let\firstmark\botmark
839 (platexrelease)}
841 (*plcore)
```

\AtBeginDvi \LaTeX 2020-02-02 までの場合:\AtBeginDvi が「\unvbox してから再び\vbox する」という動作のため、再定義が必要です。

pIFT_EX の出力ルーチンの \@outputpage では、\shipout する vbox の中身に \yoko を指定しています。このため、\AtBeginDocument{\AtBeginDvi{}}というコードを書くと Incompatible direction list can't be unboxed. というエラーが出てしまいます。

そこで、コミュニティ版 pIATEX では「\shipout で \yoko が指定されている」ことを根拠として

∖@begindvibox は(空でない限り)常に横組でなければならない

と仮定します。この仮定に従い、\AtBeginDvi を再定義します。

I ΔT_{EX} 2ε 2020-10-01 以降:\AtBeginDvi はフックにどんどんコードを追加していくだけですので、再定義は不要です。一方、代わりに__shipout_execute_cont: を再定義する必要があります。

```
842 \( /p|core \)
843 \( /p|core \)
844 \( /p|core \)
844 \( /p|core \)
845 \( /p|core \)
845 \( /p|core \)
846 \( /p|core \)
846 \( /p|core \)
847 \( /p|core \)
847 \( /p|core \)
847 \( /p|core \)
848 \( /p|core \)
849 \( /p|core \)
849 \( /p|core \)
849 \( /p|core \)
840 \( /p|core \)
841 \( /p|core \)
842 \( /p|core \)
843 \( /p|core \)
844 \( /p|core \)
845 \( /p|core \)
846 \( /p|core \)
846 \( /p|core \)
847 \( /p|core \)
847 \( /p|core \)
848 \( /p|core \)
848 \( /p|core \)
849 \( /p|core \)
849 \( /p|core \)
849 \( /p|core \)
840 \( /p|core \)
841 \( /p|core \)
842 \( /p|core \)
843 \( /p|core \)
843 \( /p|core \)
844 \( /p|core \)
845 \( /p|core \)
845 \( /p|core \)
846 \( /p|core \)
846 \( /p|core \)
847 \( /p|core \)
847 \( /p|core \)
848 \( /p|core \)
848 \( /p|core \)
849 \( /p|core \)
849 \( /p|core \)
849 \( /p|core \)
840 \( /p|core \)
840 \( /p|core \)
840 \( /p|core \)
841 \( /p|core \)
842 \( /p|core \)
843 \( /p|core \)
843 \( /p|core \)
844 \( /p|core \)
845 \( /p|core \)
845 \( /p|core \)
846 \( /p|core \)
846 \( /p|core \)
846 \( /p|core \)
847 \( /p|core \)
847 \( /p|core \)
847 \( /p|core \)
848 \( /p|core \)
848 \( /p|core \)
849 \( /p|core \)
849 \( /p|core \)
840 \( /p|co
```

```
853 (platexrelease) {\__shipout_add_firstpage_material:Nn \AtBeginDvi}
854 \fi:
855 \ExplSyntaxOff
                                                                 %--- expl3 available END
856 \fi
857\,\% for LaTeX2e 2020-02-02 PL5 or older
858 \mbox{\ensuremath{\mbox{NIF}}} \mbox{\ensuremath{\mbox{N
859 \DeclareRobustCommand \AtBeginDvi [1] {%
            \global \setbox \@begindvibox
                  \vbox{\yoko \unvbox \@begindvibox #1}}%
861
862 \fi
863 % done
864 \let\pltx@AtBeginDvi@untouched\@undefined
865 (/plcore | platexrelease)
866 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
867 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2019/10/01}{\AtBeginDvi}
868 (platexrelease)
                                                                                  {Make robust}%
870 (platexrelease) \global \setbox \@begindvibox
871 (platexrelease)
                                              \vbox{\yoko \unvbox \@begindvibox #1}}
872 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease
874 (platexrelease)
                                                                                  {Fix for incompatible direction}%
875 (platexrelease)\def \AtBeginDvi #1{%
876 (platexrelease) \global \setbox \@begindvibox
877 (platexrelease)
                                             \vbox{\yoko \unvbox \@begindvibox #1}}
878 \platexrelease \expandafter \let \csname AtBeginDvi \endcsname \@undefined
879 \plantexrelease \plEndIncludeInRelease
880 \(\rangle platexrelease \rangle \rangle plinclude InRelease \{ 0000/00/00 \} \AtBeginDvi \}
881 (platexrelease)
                                                                                  {LaTeX2e original}%
882 (platexrelease)\def \AtBeginDvi #1{%
883 (platexrelease) \global \setbox \@begindvibox
884 (platexrelease)
                                             \vbox{\unvbox \@begindvibox #1}}
885 (platexrelease)\expandafter \let \csname AtBeginDvi \endcsname \@undefined
886 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
887 (*plcore)
```

__shipout_execute_cont:

LATEX 2_{ε} 2020-10-01 以降:1tshipout.dtx がベースです。ただし、縦組クラスでも通るようにするため、以下の方法を採ります。

- \shipout 実行時の組方向が横組なら、\yoko を実行せずそのまま。
- 横組でない場合は __shipout_execute_cont: を横組ボックス \1__platex_shipout_dummy_box で括って実行する(※)。
- ◆ \1_shipout_box が横組でない場合は事前に横組化する。

注意:上記%の実装により、縦組クラスでは「AtBeginShipout の中身が外部垂直 モードで実行されること」を想定した使用(例:platex-tools issue #15)はサポートされません。

```
894 \cs_if_exist:NT \__shipout_execute_cont: { %--- IF LEVEL 1 BEGIN
                                 895 \cs_if_exist:NF \__platex_original_shipout_execute_cont: {
                                      \cs_new_eq:NN \__platex_original_shipout_execute_cont:
                                 896
                                                     \__shipout_execute_cont:
                                 897
                                 898
                                 899 \cs_if_exist:NF \l__platex_shipout_dummy_box {
                                        \box_new:N \l__platex_shipout_dummy_box
                                 901
                                 902 \cs_set:Npn \__shipout_execute_cont:
                                 903
                                        % if \l_shipout_box is not a \yoko-box (= horizontal writing),
                                 904
                                        % then make it a \yoko-box behorehand.
                                 905
                                         \platex_if_box_yoko:NF \l_shipout_box {
                                 906
                                           \vbox_set:Nn \l_shipout_box
                                 907
                                 908
                                 909
                                                 \platex_direction_yoko:
                                 910
                                                 \box_use:N \l_shipout_box
                                 911
                                 912
                                 913
                                        % if the current direction is not \yoko,
                                 914
                                        % then enclose \__shipout_execute_cont: with
                                        \% a dummy \yoko-box named \l__platex_shipout_dummy_box.
                                 915
                                        \platex_if_direction_yoko:TF {
                                 916
                                           \__platex_original_shipout_execute_cont:
                                 917
                                        }{
                                 918
                                          \vbox_set:Nn \l__platex_shipout_dummy_box
                                 919
                                 920
                                               \platex_direction_yoko:
                                               \__platex_original_shipout_execute_cont:
                                 923
                                 924
                                           % [Limitation] the code above may discard some contents,
                                           % so we'd like to put it back by \box\l__platex_shipout_dummy_box.
                                 925
                                          % however, an infinite loop occurs if we uncomment the line below
                                 926
                                          % so we can't.
                                 927
                                          \verb|\box_use:N \l_platex_shipout_dummy_box| \\
                                 928
                                 929
                                 930
                                      }
                                                                                 %--- IF LEVEL 1 END
                                 931 }
                                IATFX 2_{\varepsilon} 2021-06-01 では、同様の処理が \__shipout_execute_nohooks_cont: に
_shipout_execute_nohooks_cont:
                                 も必要なので、それを行います。
                                 932 \cs_if_exist:NT \__shipout_execute_nohooks_cont: { %--- IF LEVEL 1 BEGIN
                                 933 \cs_if_exist:NF \__platex_original_shipout_execute_nohooks_cont: {
```

889 \platexrelease\\plIncludeInRelease{2020/10/01}{__shipout_execute_cont:}

892 \ifdefined\ExplSyntaxOn %--- expl3 available BEGIN

{Adapt to new shipout code}%

888 (/plcore)

890 (platexrelease)

893 \ExplSyntaxOn

891 (*plcore | platexrelease)

```
\cs_new_eq:NN \__platex_original_shipout_execute_nohooks_cont:
934
                       \__shipout_execute_nohooks_cont:
935
936
937 \cs_set:Npn \__shipout_execute_nohooks_cont:
938
        \platex_if_box_yoko:NF \l__shipout_raw_box {
939
           \vbox_set:Nn \l__shipout_raw_box
940
941
                  \platex_direction_yoko:
942
                  \box_use:N \l__shipout_raw_box
943
944
945
        \platex_if_direction_yoko:TF {
946
           \__platex_original_shipout_execute_nohooks_cont:
947
948
           \vbox_set:Nn \l__platex_shipout_dummy_box
949
950
                \platex_direction_yoko:
951
                \__platex_original_shipout_execute_nohooks_cont:
952
953
954
        }
     }
955
956 }
                                                                 %--- IF LEVEL 1 END
957 \ExplSyntaxOff
958 \fi
                                %--- expl3 available END
959~\langle/\mathsf{plcore}\mid\mathsf{platexrelease}\rangle
960 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease
961 \(\rangle platexrelease \rangle \rangle plinclude InRelease \{ 0000/00/00 \} \\__shipout_execute_cont: \}
962 (platexrelease)
                                         {LaTeX2e original}%
963 \langle platexrelease \rangle \% do nothing
964 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease
965 (*plcore)
```

11.8 脚注マクロ

脚注を組み立てる部分のマクロを再定義します。主な修正点は、縦組モードでの動作の追加です。

これらのマクロは、1tfloat.dtx で定義されていたものです。

\thempfn 本文で使われる脚注記号です。

```
\@footnotemark で縦横の判断をするようにしたため、削除。
```

966 %\def\thempfn{%

967 % \ifydir\thefootnote\else\hbox{\yoko\thefootnote}\fi}

\thempfootnote minipage環境で使われる脚注記号です。

```
968 %\def\thempfootnote{%
```

969 % \ifydir\alph{mpfootnote}\else\hbox{\yoko\alph{mpfootnote}}\fi}

```
\@makefnmark 脚注記号を作成するマクロです。
                  970 (/plcore)
                  971 \(\rangle platexrelease \rangle \rangle plinclude InRelease \{2016/04/17\} \\ \Qmakefnmark\)
                  972 (platexrelease)
                                                   {Remove extra \xkanjiskip}%
                  973 (*plcore | platexrelease)
                  974 \renewcommand\@makefnmark{%
                  975 \ifydir \hbox{\\dtextsuperscript{\normalfont\\dthefnmark}}\hbox{\\%}
                  976 \else\hbox{\yoko\@textsuperscript{\normalfont\@thefnmark}}fi}
                  977 (/plcore | platexrelease)
                  978 \plEndIncludeInRelease
                  979 \langle platexrelease \rangle plincludeInRelease \{0000/00/00\} \{\c makefnmark\}
                                                  {ASCII Corporation original}%
                  980 (platexrelease)
                  981 \(\rangle platexrelease \)\renewcommand \(\rangle makefnmark \\\rangle hbox \{\%\}\)
                  982 \; \langle \texttt{platexrelease} \rangle \; \; \texttt{\formalfont\cothefnmark} \} \\ \%
                  984 \plEndIncludeInRelease
                  開き括弧類の直後に \footnotetext が続いた場合、\footnotetext の前での改行
\pltx@foot@penalty
                  は望ましくありません。このような場合に対処するために、\pltx@foot@penalty
                   というカウンタを用意しました。\footnotetext の最初で「直前のペナルティ値」
                   としてこのカウンタが初期化されます。\footnotemark, \footnote では使わない
                   ので0に設定しています。
                  985 \platexrelease\\plIncludeInRelease{2016/09/03}{\pltx@foot@penalty}
                  986 (platexrelease)
                                                  {Add new counter \pltx@foot@penalty}%
                  987 (*plcore | platexrelease)
                  988 \ifx\@undefined\pltx@foot@penalty \newcount\pltx@foot@penalty \fi
                  989 \pltx@foot@penalty\z@
                  990 (/plcore | platexrelease)
                  991 \plEndIncludeInRelease
                  992 \platexrelease\\plIncludeInRelease\{0000/00/00\}\\pltx@foot@penalty\}
                                                   {Add new counter \pltx@foot@penalty}%
                  994 \placerelease \let\pltx@foot@penalty\@undefined
                  995 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease
    \footnotemark また、合印の前の文字と合印の間は原則ベタ組です(但し、JIS X 4051 には例外有り)。
        \footnote そのため、合印を出力する \footnotemark, \footnote の最初で \inhibitglue を
                  実行しておくことにします(\@makefnmarkの中に置いても効力がありません)。
                  996 \langle platexrelease \rangle \plincludeInRelease \{2016/09/03\} \{\footnote\}
                  997 (platexrelease)
                                                   998 (*plcore | platexrelease)
                  999 \def\footnote{\inhibitglue
                          \@ifnextchar[\@xfootnote{\stepcounter\@mpfn
                  1000
                          \protected@xdef\@thefnmark{\thempfn}%
                  1001
                          \@footnotemark\@footnotetext}}
                  1003 \def\footnotemark{\inhibitglue
                       \@ifnextchar[\@xfootnotemark
```

```
1005
                          {\stepcounter{footnote}%
                           \protected@xdef\@thefnmark{\thefootnote}%
                1006
                           \@footnotemark}}
                1007
                1008 (/plcore | platexrelease)
                1009 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
                1010 \langle platexrelease \rangle \\ plincludeInRelease \{0000/00/00\} \{footnote\}
                1011 (platexrelease)
                                                     {LaTeX2e original}%
                1013 (platexrelease)
                                      \protected@xdef\@thefnmark{\thempfn}%
                1014 (platexrelease)
                                      \@footnotemark\@footnotetext}}
                1015 (platexrelease)\def\footnotemark{%
                1016 (platexrelease)
                                   \@ifnextchar[\@xfootnotemark
                1017 (platexrelease)
                                      {\stepcounter{footnote}%
                1018 (platexrelease)
                                       \protected@xdef\@thefnmark{\thefootnote}%
                1019 \langle platexrelease \rangle
                                       \@footnotemark}}
                1020 \langle platexrelease \rangle \backslash plEndIncludeInRelease
 \footnotetext \footnotetext の直前のペナルティ値を保持します。
                1021 \(\rangle platexrelease \rangle \rangle plIncludeInRelease \{ 2016/09/03 \} \) \(\footnotetext \}
                1022 (platexrelease)
                                                     {Preserve penalty before \footnotetext}%
                1023 (*plcore | platexrelease)
                1024 \def\footnotetext{%
                      \ifhmode\pltx@foot@penalty\lastpenalty\unpenalty\fi%
                1026
                      \@ifnextchar [\@xfootnotenext
                        {\bf \{\protected@xdef\@thefnmark{\tt \{\thempfn}\}\%}
                1027
                1028
                         \@footnotetext}}
                1029 (/plcore | platexrelease)
                1030 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                1031 (platexrelease)\plIncludeInRelease{0000/00/00}{\footnotetext}
                1032 (platexrelease)
                                                     {LaTeX2e original}%
                1033 (platexrelease)\def\footnotetext{%
                1034 (platexrelease)
                                      \@ifnextchar [\@xfootnotenext
                1035 (platexrelease)
                                        {\protected@xdef\@thefnmark{\thempfn}%
                                     \@footnotetext}}
                1036 (platexrelease)
                1037~ \langle {\tt platexrelease} \rangle {\tt \plEndIncludeInRelease}
\@footnotetext インサートボックス \footins に脚注のテキストを入れます。コミュニティ版 pIATeX
                 では\footnotetext、\footnoteの直後で改行を可能にします。jsclasses ではこの
                 変更に加え、脚注で\verbが使えるように再定義されます。
                1038 \(\rangle platexrelease \)\text{plIncludeInRelease{2021/06/01}{\\@footnotetext}}
                1039 (platexrelease)
                                                     {Adapt to ltfloat.dtx (2021-03-03 v1.2f)}%
                1040 (*plcore | platexrelease)
                1041 \long\def\@footnotetext#1{%
                1042 \ifydir\def\@tempa{\yoko}\else\def\@tempa{\tate}\fi
                      \insert\footins{\@tempa%
                1043
                        \reset@font\footnotesize
                1044
```

```
1045
        \interlinepenalty\interfootnotelinepenalty
1046
        \splittopskip\footnotesep
        \splitmaxdepth \dp\strutbox \floatingpenalty \@MM
1047
        \hsize\columnwidth \@parboxrestore
1048
1049
        \protected@edef\@currentlabel{%
1050
           \csname p@footnote\endcsname\@thefnmark
1051
        \color@begingroup
1052
1053
          \@makefntext{%
            \rule\z@\footnotesep\ignorespaces#1\@finalstrut\strutbox}%
1054
1055
```

 pT_EX では \insert の直後に和文文字が来た場合、そこでの改行は許されないという挙動になっています。このため、従来は脚注番号(合印)の直後の改行が抑制されていました。しかし、\hbox の直後に和文文字が来た場合は、そこでの改行は許されますから、最後に \null を追加します。また、\pltx@foot@penalty の値が0ではなかった場合、脚注の前にペナルティがあったということですから、復活させておきます。

```
1056
        \color@endgroup}\ifhmode\null\fi
1057
        \ifnum\pltx@foot@penalty=\z@\else
1058
           \penalty\pltx@foot@penalty
1059
           \pltx@foot@penalty\z@
1060
        \fi}
1061 (/plcore | platexrelease)
1062 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
1063 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2016/09/08}{\@footnotetext}
1064 (platexrelease)
                                       {Allow break after \footnote (more fix)}%
1065 (platexrelease)\long\def\@footnotetext#1{%
1066 (platexrelease) \ifydir\def\@tempa{\yoko}\else\def\@tempa{\tate}\fi
1067 (platexrelease) \insert\footins{\@tempa%
1068 (platexrelease)
                      \reset@font\footnotesize
1069 (platexrelease)
                      \interlinepenalty\interfootnotelinepenalty
1070 (platexrelease)
                      \splittopskip\footnotesep
1071 (platexrelease)
                      \splitmaxdepth \dp\strutbox \floatingpenalty \@MM
1072 (platexrelease)
                      \hsize\columnwidth \@parboxrestore
1073 (platexrelease)
                      \protected@edef\@currentlabel{%
1074 (platexrelease)
                         \csname p@footnote\endcsname\@thefnmark
1075 (platexrelease)
                      }%
1076 (platexrelease)
                      \color@begingroup
1077 (platexrelease)
                        \@makefntext{%
1078 (platexrelease)
                          \rule\z@\footnotesep\ignorespaces#1\@finalstrut\strutbox}%
1079 \langle platexrelease \rangle
                      \color@endgroup}\ifhmode\null\fi
1080 (platexrelease)
                      \ifnum\pltx@foot@penalty=\z@\else
1081 (platexrelease)
                        \penalty\pltx@foot@penalty
1082 (platexrelease)
                        \pltx@foot@penalty\z@
                      \fi}
1083 (platexrelease)
1084 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
1085 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2016/09/03}{\@footnotetext}
```

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

```
1086 (platexrelease)
                                                                                                       {Allow break after \footnote}%
                               1087 (platexrelease)\long\def\@footnotetext#1{%
                               1088 (platexrelease)
                                                                    \ifydir\def\@tempa{\yoko}\else\def\@tempa{\tate}\fi
                               1089 (platexrelease)
                                                                    \insert\footins{\@tempa%
                               1090 (platexrelease)
                                                                         \reset@font\footnotesize
                               1091 (platexrelease)
                                                                        \interlinepenalty\interfootnotelinepenalty
                               1092 \langle platexrelease \rangle
                                                                         \splittopskip\footnotesep
                               1093 (platexrelease)
                                                                         \splitmaxdepth \dp\strutbox \floatingpenalty \@MM
                               1094 (platexrelease)
                                                                         \hsize\columnwidth \@parboxrestore
                               1095 (platexrelease)
                                                                         \protected@edef\@currentlabel{%
                               1096 (platexrelease)
                                                                               \csname p@footnote\endcsname\@thefnmark
                               1097 (platexrelease)
                               1098 (platexrelease)
                                                                         \color@begingroup
                               1099 (platexrelease)
                                                                             \@makefntext{%
                               1100 (platexrelease)
                                                                                 \rule\z@\footnotesep\ignorespaces#1\@finalstrut\strutbox}%
                               1101 (platexrelease)
                                                                         \color@endgroup}\null
                                                                         \ifnum\pltx@foot@penalty=\z@\else
                               1102 (platexrelease)
                               1103 (platexrelease)
                                                                             \penalty\pltx@foot@penalty
                               1104 \langle platexrelease \rangle
                                                                             \pltx@foot@penalty\z@
                               1105 (platexrelease)
                                                                         \fi}
                               1106 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                               1107 \(\rangle platexrelease \)\rangle \)\rangle \] \(\rangle platexrelease \)\rangle \)\rangle \(\rangle platexrelease \)\rangle \]\rangle \(\rangle platexrelease \)\rangle \)\rangle \(\rangle platexrelease \)\rangle \)\rangle \(\rangle platexrelease \)\rangle \)\rangle \(\rangle platexrelease \)\rangle \)\rangle \(\rangle platexrelease \)\ran
                               1108 (platexrelease)
                                                                                                       {ASCII Corporation original}%
                               1109 (platexrelease)\long\def\@footnotetext#1{%
                               1110 (platexrelease)
                                                                    \ifydir\def\@tempa{\yoko}\else\def\@tempa{\tate}\fi
                               1111 (platexrelease)
                                                                   \insert\footins{\@tempa%
                               1112 (platexrelease)
                                                                        \reset@font\footnotesize
                               1113 (platexrelease)
                                                                        \interlinepenalty\interfootnotelinepenalty
                               1114 (platexrelease)
                                                                         \splittopskip\footnotesep
                               1115 (platexrelease)
                                                                         \splitmaxdepth \dp\strutbox \floatingpenalty \@MM
                               1116 (platexrelease)
                                                                         \hsize\columnwidth \@parboxrestore
                               1117 (platexrelease)
                                                                         \protected@edef\@currentlabel{%
                               1118 (platexrelease)
                                                                               \csname p@footnote\endcsname\@thefnmark
                               1119 (platexrelease)
                               1120 (platexrelease)
                                                                         \color@begingroup
                               1121 (platexrelease)
                                                                             \@makefntext{%
                               1122 (platexrelease)
                                                                                 \rule\z@\footnotesep\ignorespaces#1\@finalstrut\strutbox}%
                               1123 (platexrelease)
                                                                        \color@endgroup}}
                               1124 \(\rangle platexrelease \)\\rangle \Lambda \] \(\rangle platexrelease \)
                               1125 (*plcore)
\@footnotemark 脚注記号を出力します。
                               1126 \def\@footnotemark{\leavevmode
                               1127
                                           \ifhmode\edef\@x@sf{\the\spacefactor}\nobreak\fi
                               1128
                                           \ifydir\@makefnmark
                                           1129
                                           \ifhmode\spacefactor\@x@sf\fi\relax}
                               1130
```

11.9 相互参照

\@setref

\ref コマンドや \pageref コマンドで参照したとき、これらのコマンドによって 出力された番号と続く 2 バイト文字との間に \xkanjiskip が入りません。これは、 \null が \hbox{}と定義されているためです。そこで \null を取り除きます。この コマンドは、ltxref.dtx で定義されているものです。

しかし、単に\nullを\relaxに置き換えるだけでは、\sectionのような「動く引数」で\ref などを使った場合に、目次で後ろの空白が消えてしまいます。そこで、\relax のあとに{}を追加しました。従来も \protect\ref のように使えば問題ありませんでしたが、IFTEX では展開されても問題が起きない robust な実装になっていますので、これに従います。

さらに、例えば "see Appendix A." のような記述が文末にあり、かつ "A" を相互 参照で取得した場合のスペースファクターを補正するため、\spacefactor\@m{}に 修正しました。これで、"A." の後のスペースが文末として扱われます。「I Δ TEX 2ε マクロ&クラス プログラミング実践解説」のコードを参考にしましたが、数式モード内でもエラーにならないように改良しています。

```
1131 (/plcore)
1132 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2017/10/28}{\@setref}
1133 (platexrelease)
                                                                                         {Space factor after \ref}%
1134 (*plcore | platexrelease)
1135 \def\@setref#1#2#3{%
1136 \ifx#1\relax
                    \protect\G@refundefinedtrue
1137
                    \nfss@text{\reset@font\bfseries ??}%
1138
                    \@latex@warning{Reference '#3' on page \thepage \space
1139
1140
                                              undefined}%
1141
                   \expandafter#2#1\protect\@setref@{}% change \null to \protect\@setref@{}
               \fi}
1144 \def\@setref@{\ifhmode\spacefactor\@m\fi}
1145 (/plcore | platexrelease)
{\tt 1146}~ \langle {\tt platexrelease} \rangle \backslash {\tt plEndIncludeInRelease}
1147 \; \langle platexrelease \rangle \\ \label{lease} \\ 1147 \; \langle platexrelease \rangle \\ \label{lease} \\ \label{lease} \\ 1147 \; \langle platexrelease \rangle \\ \label{lease} \\ \label{lease}
1148 (platexrelease)
                                                                                         {Spacing after \ref in moving arguments}%
1149 \(\rangle platexrelease \rangle \def \@setref #1#2#3 \){\(\rangle a \)
1150 (platexrelease) \ifx#1\relax
1151 (platexrelease)
                                                   \protect\G@refundefinedtrue
1152 (platexrelease)
                                                   \nfss@text{\reset@font\bfseries ??}%
1153 (platexrelease)
                                                  \Clatex@warning{Reference '#3' on page \thepage \space
1154 (platexrelease)
                                                                            undefined}%
1155 (platexrelease) \else
                                                   \expandafter#2#1\relax{}% change \null to \relax{}
1156 (platexrelease)
1157 (platexrelease)
                                             \fi}
1158 (platexrelease)\let\@setref@\@undefined
1159 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
```

```
1160 (platexrelease)\plIncludeInRelease{0000/00/00}{\@setref}
1161 (platexrelease)
                                        {ASCII Corporation original}%
1162 (platexrelease)\def\@setref#1#2#3{%
1163 (platexrelease) \ifx#1\relax
1164 (platexrelease)
                       \protect\G@refundefinedtrue
1165 (platexrelease)
                       \nfss@text{\reset@font\bfseries ??}%
1166 (platexrelease)
                      \@latex@warning{Reference '#3' on page \thepage \space
1167 (platexrelease)
                                  undefined}%
1168 \langle platexrelease \rangle
                    \else
1169 (platexrelease)
                       \expandafter#2#1\relax% change \null to \relax
1170 (platexrelease)
                    \fi}
1171 (platexrelease)\let\@setref@\@undefined
1172 \(\rangle platexrelease \)\(\rangle platexrelease \)
1173 (*plcore)
```

疑似タイプ入力 11.10

| verb | IATFX の | verb コマンドでは、数式モードでないときは、 | leaveymode で水平モー ドに入ったあと、\null を出力しています。マクロ \null は \hbox{}として定義さ れていますので、ここには和欧文間スペース(\xkanjiskip)が入りません。

しかし、単に \null を除いてしまうと、今度は \verb+ abc+のように \verb の 冒頭に半角空白がある場合にこれが消えてしまいます (TeX.SX 170245)。そこで、 pLAT_EX では \null の代わりに

- 1. 和欧文間スペースの挿入処理は透過する
- 2. 行分割時に消える (discardable) ノードではない
- の両条件を満たすノードを挿入します。ここでは \vadjust{}としました。 このマクロは、ltmiscen.dtx で定義されています。

```
1174 (/plcore)
1175 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2017/10/28}{\verb}
                               {Preserve beginning space characters}\%
1176 (platexrelease)
1177 (*plcore | platexrelease)
1178 \if@compatibility\else
1180
     \bgroup
1181
       \verb@eol@error \let\do\@makeother \dospecials
       \verbatim@font\@noligs
I
m FT_{
m E}X 2arepsilon 2017-04-15 に追随して、\verb の途中でハイフネーションが起きないよう
```

に \language を設定します (参考: latex2e svn r1405)。

```
\language\l@nohyphenation
1183
1184
         \@ifstar\@sverb\@verb}
1185 \fi
1186 (/plcore | platexrelease)
```

```
1188 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2017/04/08}{\verb}
           1189 (platexrelease)
                                               {Disable hyphenation in verb}%
           1190 (platexrelease)\if@compatibility\else
           1191 \(\relax\)ifmmode\\\box\else\\leavevmode\\fi
           1192 (platexrelease)
                             \bgroup
           1193 (platexrelease)
                               \verb@eol@error \let\do\@makeother \dospecials
           1194 (platexrelease)
                               \verbatim@font\@noligs
           1195 \langle platexrelease \rangle
                               \language\l@nohyphenation
           1196 (platexrelease)
                               \@ifstar\@sverb\@verb}
           1197 (platexrelease)\fi
           1198 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
           1199 (platexrelease)\plIncludeInRelease{0000/00/00}{\verb}
           1200 (platexrelease)
                                               {ASCII Corporation original}%
           1201 (platexrelease)\if@compatibility\else
           1202 (platexrelease)\def\verb{\relax\ifmmode\hbox\else\leavevmode\fi
           1203 (platexrelease) \bgroup
                               \verb@eol@error \let\do\@makeother \dospecials
           1204 (platexrelease)
           1205 (platexrelease)
                               \verbatim@font\@noligs
           1206 (platexrelease)
                               \@ifstar\@sverb\@verb}
           1207 (platexrelease)\fi
           1208 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
           1209 (*plcore)
\do@noligs >などの一部の文字について、\xspcode'\>=3 としたときに \texttt{>}では前後
            に \xkanjiskip 由来のアキが入るのに、\verb+>+では後ろにしかアキが入らない
            という現象に対処します。
              元の定義は ltmiscen.dtx を参照してください。pLATpX では、\kern\z@を
            \vadjust{}に置き換えることで「合字処理を抑止」かつ「和欧文間スペースの挿入
            処理は透過」を実現します。(Issue #87)
           1210 (/plcore)
           1211 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2020/04/12}{\do@noligs}
           1212 (platexrelease)
                                              {Allow \xkanjiskip while avoiding ligature}%
           1213 (*plcore | platexrelease)
           1214 \def\do@noligs#1{%}
                 \catcode'#1\active
           1216
                 \begingroup
                    \c)
           1217
           1218
                    \lowercase{\endgroup\def~{\leavevmode\vadjust{}\char'#1}}}
           1219 (/plcore | platexrelease)
           1220 \langle platexrelease \rangle \backslash plEndIncludeInRelease
           1221 (platexrelease)\plIncludeInRelease{0000/00/00}{\do@noligs}
           1222 (platexrelease)
                                              {LaTeX2e original}%
           1223 (platexrelease)\def\do@noligs#1{%
           1224 (platexrelease)
                             \catcode'#1\active
           1225 (platexrelease)
                             \begingroup
           1226 (platexrelease)
                                \lccode'\~'#1\relax
           1227 (platexrelease)
                                \lowercase{\endgroup\def~{\leavevmode\kern\z@\char'#1}}}
```

```
1228 \langle platexrelease \rangle \plEndIncludeInRelease 1229 \langle *plcore \rangle
```

11.11 tabbing 環境

\@startline tabbing 環境の行で、中身が始め括弧類などで始まる場合、最初の項目だけ JFM グルーが消えない現象に対処します。

```
1230 (/plcore)
1231 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2017/10/28}{\@startline}
1232 (platexrelease)
                                     {Inhibit JFM glue at the beginning}%
1233 (*plcore | platexrelease)
1234 \gdef\@startline{\%}
         \ifnum \@nxttabmar >\@hightab
1235
           \@badtab
1236
            \global\@nxttabmar \@hightab
1237
1238
         \global\@curtabmar \@nxttabmar
1239
         \global\@curtab \@curtabmar
1240
1241
         \global\setbox\@curline \hbox {}%
         \@startfield
1242
         \strut\inhibitglue}
1243
1244 (/plcore | platexrelease)
1245 \langle platexrelease \rangle \backslash plEndIncludeInRelease
1247 (platexrelease)
                                     {LaTeX2e original}%
1248 <platexrelease \ \gdef \ @startline {%
1249 (platexrelease)
                      \ifnum \@nxttabmar >\@hightab
1250 (platexrelease)
                        \@badtab
1251 (platexrelease)
                        \global\@nxttabmar \@hightab
                      \fi
1252 (platexrelease)
1253 (platexrelease)
                      \global\@curtabmar \@nxttabmar
1254 (platexrelease)
                      \global\@curtab \@curtabmar
1255 (platexrelease)
                      \global\setbox\@curline \hbox {}%
1256 (platexrelease)
                      \@startfield
1257 (platexrelease)
                      \strut}
1258 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
1259 (*plcore)
```

\@stopfield 相互参照や疑似タイプ入力では、和欧文間スペースが入らないので、\null を取り 除きましたが、tabbing 環境では、逆に\null がないため、和欧文間スペースが 入ってしまうので、それを追加します。lttab.dtx で定義されているものです。 1260 \gdef\@stopfield{\null\color@endgroup\egroup}

11.12 用語集の出力

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

\printglossary \printglossary コマンドは、単に拡張子が gls のファイルを読み込むだけです。 このファイルの生成には、mendex などを用います。

1261 \newcommand\printglossary{\@input@{\jobname.gls}}

時分を示すカウンタ 11.13

TrX には、年月日を示す数値を保持しているカウンタとして、それぞれ \year, \month, \day がプリミティブとして存在します。しかし、時分については、深夜の零 時からの経過時間を示す \time カウンタしか存在していません。そこで、 $pIAT_{PX} 2_{\varepsilon}$ では、時分を示すためのカウンタ \hour と \minute を作成しています。

\hour 何時か(\hour)を得るには、\timeを60で割った商をそのまま用います。何分か \minute (\minute) は、\hour に 60 を掛けた値を \time から引いて算出します。ここでは カウンタを宣言するだけです。実際の計算は、クラスやパッケージの中で行なって います。

1262 \newcount\hour 1263 \newcount\minute

11.14 tabular 環境

LATeX カーネル (lttab.dtx) の命令群を修正します。

\@tabclassz IATrX カーネルは、アラインメント文字&の周囲に半角空白を書いたかどうかにかか わらず余分なスペースを出力しないように、\ignorespaces と \unskip を発行し ています (lttab.dtx)。しかし、これだけでは JFM グルーが消えずに残ってしまう ので、pIATeX では追加の対処を入れます。

> まず、1, c, r の場合です。2017/09/26 の修正では「セルの要素を \mbox に入れ、 その最初で \inhibitglue を発行する」という方針でしたが、2018/03/09 の修正 では「\removejfmglueマクロが定義されている場合は最初に \inhibitglue を発 行し、最後に \removejfmglue を発行する」という方針にします。こうすれば少々 LATeX との互換性が向上します。

```
1264 (/plcore)
1265 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2018/03/09}{\@tabclassz}
1266 (platexrelease)
                                     {Inhibit JFM glue in tabular cells (better)}%
1267 (*plcore | platexrelease)
1268 \ifx\removejfmglue\@undefined
1269 \def\@tabclassz{%
1270 \ifcase\@lastchclass
        \@acolampacol
1271
     \or
1272
1273
      \@ampacol
     \or
1274
```

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

```
1275
       \or
1276
       \or
          \@addamp
1277
1278
          \@acolampacol
1279
1280
          \@firstampfalse\@acol
1281
1282
       \edef\@preamble{%
1283
          \@preamble{%
1284
1285
            \ifcase\@chnum
               \hfil\mbox{\inhibitglue\ignorespaces\@sharp\unskip}\hfil % c
1286
1287
               \hskip1sp\mbox{\inhibitglue\ignorespaces\@sharp\unskip}\hfil % 1
1288
1289
               \hfil\hskip1sp\mbox{\inhibitglue\ignorespaces\@sharp\unskip}% % r
1290
            \fi}}}
1291
1292 \else
1293 \def\@tabclassz{%
       \ifcase\@lastchclass
1294
1295
          \@acolampacol
1296
       \or
1297
          \@ampacol
1298
       \or
1299
       \or
1300
       \or
1301
          \@addamp
1302
       \or
          \@acolampacol
1303
1304
       \or
          \@firstampfalse\@acol
1305
       \fi
1306
1307
       \edef\@preamble{%
1308
          \@preamble{%
1309
            \ifcase\@chnum
1310
               \hfil\hskip1sp\inhibitglue
               \ignorespaces\@sharp\unskip\removejfmglue\hfil % c
1311
            \or
1312
               \hskip1sp\inhibitglue
1313
               \ignorespaces\@sharp\unskip\removejfmglue\hfil % 1
1314
1315
               \hfil\hskip1sp\inhibitglue
1316
               \ignorespaces\@sharp\unskip\removejfmglue % r
1317
            fi}}
1318
1319 \fi
1320 (/plcore | platexrelease)
1321 \ \langle {\tt platexrelease} \rangle \backslash {\tt plEndIncludeInRelease}
1322 \left\langle platexrelease \right\rangle \left\langle plIncludeInRelease \left\{ 2017/09/26 \right\} \left\{ \left\langle 0tabclassz \right\rangle \right\rangle 
1323 (platexrelease)
                                           {Inhibit JFM glue in tabular cells}%
1324 \langle platexrelease \rangle \def \0 tabclassz {\%}
```

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

```
\ifcase\@lastchclass
1325 (platexrelease)
1326 (platexrelease)
                      \@acolampacol
1327 (platexrelease)
1328 (platexrelease)
                      \@ampacol
1329 (platexrelease)
                    \or
1330 (platexrelease)
                    \or
1331 (platexrelease)
                    \or
1332 (platexrelease)
                       \@addamp
1333 (platexrelease)
                    \or
1334 (platexrelease)
                       \@acolampacol
1335 (platexrelease)
                    \or
1336 (platexrelease)
                       \@firstampfalse\@acol
1337 (platexrelease)
1338 (platexrelease)
                    \edef\@preamble{%
1339 (platexrelease)
                       \@preamble{%
1340 (platexrelease)
                         \ifcase\@chnum
1341 (platexrelease)
                           \hfil\mbox{\inhibitglue
1342 \langle platexrelease \rangle
                             \ignorespaces\@sharp\unskip}\hfil % c
1343 (platexrelease)
                         \or
1344 (platexrelease)
                           \hskip1sp\mbox{\inhibitglue
1345 (platexrelease)
                             \ignorespaces\@sharp\unskip}\hfil % 1
1346 (platexrelease)
                         \or
1347 (platexrelease)
                           \hfil\hskip1sp\mbox{\inhibitglue
1348 (platexrelease)
                             \ignorespaces\@sharp\unskip}% % r
1349 (platexrelease)
                         \fi}}}
1350 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
1352 (platexrelease)
                                        {Inhibit JFM glue in tabular cells (wrong)}%
1353 (platexrelease)\def\@tabclassz{%
1354 (platexrelease)
                    \ifcase\@lastchclass
1355 (platexrelease)
                       \@acolampacol
1356 (platexrelease)
                    \or
1357 (platexrelease)
                      \@ampacol
1358 (platexrelease)
                    \or
1359 (platexrelease)
1360 (platexrelease)
1361 (platexrelease)
                      \@addamp
1362 (platexrelease)
                    \or
1363 (platexrelease)
                      \@acolampacol
1364 (platexrelease)
                    \or
1365 (platexrelease)
                      \@firstampfalse\@acol
1366 (platexrelease)
                    \fi
1367 (platexrelease)
                    \edef\@preamble{%
1368 (platexrelease)
                       \@preamble{%
1369 (platexrelease)
                         \ifcase\@chnum
1370 (platexrelease)
                           \hfil\inhibitglue
1371 (platexrelease)
                           \ignorespaces\@sharp\unskip\unskip\hfil % c
1372 (platexrelease)
                         \or
1373 (platexrelease)
                           \hskip1sp\inhibitglue
1374 (platexrelease)
                           \ignorespaces\@sharp\unskip\unskip\hfil % 1
```

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

```
1375 (platexrelease)
                    1376 (platexrelease)
                                                                           \hfil\hskip1sp\inhibitglue
                    1377 (platexrelease)
                                                                          \ignorespaces\@sharp\unskip\unskip % r
                     1378 (platexrelease)
                                                                      \fi}}}
                    1379 \(\rangle platexrelease \rangle \rangle plEndIncludeInRelease \)
                    1380 \label{localized} $$1380 \end{plane} $$ \localized in Release {0000/00/00} {\columnwidth} $$ $$ \columnwidth $$ \columnwidth $$ $$ \columnwidth $$ \columnwid
                     1381 (platexrelease)
                                                                                                   {LaTeX2e original}%
                     1382 (platexrelease)\def\@tabclassz{%
                     1383 (platexrelease)
                                                            \ifcase\@lastchclass
                     1384 (platexrelease)
                                                                  \@acolampacol
                     1385 (platexrelease)
                                                             \or
                     1386 (platexrelease)
                                                                 \@ampacol
                     1387 (platexrelease)
                     1388 (platexrelease)
                                                             \or
                     1389 (platexrelease)
                    1390 (platexrelease)
                                                                 \@addamp
                    1391 (platexrelease)
                                                             \or
                    1392 (platexrelease)
                                                                 \@acolampacol
                    1393 (platexrelease)
                    1394 (platexrelease)
                                                                 \@firstampfalse\@acol
                    1395 (platexrelease)
                                                             \edef\@preamble{%
                    1396 (platexrelease)
                    1397 (platexrelease)
                                                                 \@preamble{%
                     1398 (platexrelease)
                                                                      \ifcase\@chnum
                     1399 (platexrelease)
                                                                          \hfil\ignorespaces\@sharp\unskip\hfil
                    1400 (platexrelease)
                                                                          \hskip1sp\ignorespaces\@sharp\unskip\hfil
                    1401 (platexrelease)
                     1402 (platexrelease)
                                                                          \hfil\hskip1sp\ignorespaces\@sharp\unskip
                     1403 (platexrelease)
                     1404 (platexrelease)
                                                                      \fi}}
                     1405 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
\@classv 次に、pの場合です。2017/07/29の修正では\mbox{}\inhibitglueと\unskipを
                      追加していましたが、以下のように p 指定のセルの最初で \par として改段落を発
                      行すると、一行空いてしまうという症状が起きてしまいます (platex/#63)。
                         \begin{tabular}{p{5cm}}
                        A\\
                         \relax\par
                         \end{tabular}
                       ここでは、2017/07/29 の修正から方針を改め、\everypar 内に \inhibitglue を
                      仕込むという方針で対応します。
                     {Inhibit JFM glue in tabular cells (better)}%
                     1407 (platexrelease)
                     1408 (*plcore | platexrelease)
                     1409 \def\@classv{\@addtopreamble{\@startpbox{\@nextchar}\pltx@next@inhibitglue\ignorespaces
                     1410 \@sharp\unskip\@endpbox}}
```

```
1411 (/plcore | platexrelease)
                                                                                                                        1412 <platexrelease > \plEndIncludeInRelease
                                                                                                                        1413 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2017/07/29}{\@classv}
                                                                                                                        1414 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                           {Inhibit JFM glue in tabular cells}%
                                                                                                                        1415 \ \langle platexrelease \rangle \ \langle classv{\Qaddtopreamble{\Qstartpbox{\Qnextchar}\mbox{\Linhibitglue} ignores} \rangle \ \langle platexrelease \rangle \ \langle platexrelease
                                                                                                                        1416 (platexrelease)\@sharp\unskip\@endpbox}}
                                                                                                                        1417 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
                                                                                                                        1418 \ \langle platexrelease \rangle \ | \ lincludeInRelease \{0000/00/00\} \{\ \ classv\}
                                                                                                                        1419 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                           {LaTeX2e original}%
                                                                                                                        1420 \ \langle platexrelease \rangle \ \langle classv{\Qaddtopreamble{\Qstartpbox{\Qnextchar}\ignorespaces} \rangle \ \langle classv{\Qaddtopreamble{\Qstartpbox{\Qnextchar}\ignorespaces} \rangle \ \langle classv{\Qaddtopreamble{\Qnextchar}\ignorespaces} \rangle \ \langle classv{\Qad
                                                                                                                        1421 (platexrelease)\@sharp\@endpbox}}
                                                                                                                        1422 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
\pltx@next@inhibitglue 水平モードであればそのまま \inhibitglue を発行し、それ以外であれば \everypar
                                                                                                                            内に \inhibitglue を仕込みます。
                                                                                                                        1423 \(\rangle\)plincludeInRelease\(\rangle\)03/09\(\rangle\)plix@next@inhibitglue\)
                                                                                                                        1424 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                           {Add \pltx@next@inhibitglue}%
                                                                                                                        1425 (*plcore | platexrelease)
                                                                                                                        1426 \protected\def\pltx@next@inhibitglue{%
                                                                                                                                                     \ifhmode\inhibitglue\else
                                                                                                                                                    \edef\@tempa{\everypar{%
                                                                                                                        1428
                                                                                                                                                                 \everypar{\unexpanded\expandafter{\the\everypar}}%
                                                                                                                        1429
                                                                                                                                                                 \unexpanded\expandafter{\the\everypar}\inhibitglue}}%
                                                                                                                        1430
                                                                                                                        1431
                                                                                                                                                     \@tempa\fi}
                                                                                                                        1432 (/plcore | platexrelease)
                                                                                                                        1433 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                                                                                                                        1434 \(\rangle\)plincludeInRelease\\\0000/00\){\\pltx@next@inhibitglue\}
                                                                                                                        1435 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                           {Add \pltx@next@inhibitglue}%
                                                                                                                        1436 (platexrelease)\let\pltx@next@inhibitglue\@undefined
                                                                                                                        1437 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
```

12 2013年以降の新しい pT_EX 対応

I $\Delta T_{\rm E}$ X 2_{ε} のカーネルのコードをそのまま使うと、2013 年以降の ${\rm pT_{E}}$ X では \xkan j i skip 由来のアキが前後に入ってしまうことがありました。そうした命令にパッチをあてます。なお、既に出てきた \footnote の内部命令(\@makefnmark)には同様のパッチがもうあててあります。

```
\@tabular 現境の内部命令です。もとはlttab.dtxで定義されています。

1438 ⟨platexrelease⟩ \plIncludeInRelease{2016/04/17}{\@tabular}

1439 ⟨platexrelease⟩ {Remove extra \xkanjiskip}%

1440 ⟨*plcore | platexrelease⟩

1441 \def\@tabular{\leavevmode \null\hbox \bgroup $\let\@acol\@tabacol

1442 \let\@classz\@tabclassz

1443 \let\@classiv\@tabclassiv \let\\\@tabularcr\@tabarray}

1444 ⟨/plcore | platexrelease⟩
```

```
1445 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
                                                                1446 \langle platexrelease \rangle \plincludeInRelease \{0000/00/00\} \{\color=1446 \langle platexrelease \rangle \plincludeInRelease \} \}
                                                                1447 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                                                                         {LaTeX2e original}%
                                                                1449 (platexrelease)
                                                                                                                                                       \let\@classz\@tabclassz
                                                                                                                                                          \let\@classiv\@tabclassiv \let\\\@tabularcr\@tabarray}
                                                                1450 (platexrelease)
                                                                1451 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
   \endtabular
\verb|\endtabular*| 1452 \langle platexrelease \rangle \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/04/17 \} \{ endtabular \} \\ | lincludeInRelease \{ 2016/
                                                               1453 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                                                                        {Remove extra \xkanjiskip}%
                                                               1454 (*plcore | platexrelease)
                                                                1455 \def\endtabular{\crcr\egroup\egroup \egroup\null}
                                                                1456 \expandafter \let \csname endtabular*\endcsname = \endtabular
                                                                1457 (/plcore | platexrelease)
                                                                1458 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                                                                1459 \label{lem:lease} $$1459 \end{align} $$1459 
                                                               1460 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                                                                         {LaTeX2e original}%
                                                               1461 (platexrelease)\def\endtabular{\crcr\egroup\egroup $\egroup}
                                                               1462 (platexrelease)\expandafter \let \csname endtabular*\endcsname = \endtabular
                                                               1463 \langle platexrelease \rangle \rangle 1463 \langle platexrelease \rangle
   \@iiiparbox \parbox の内部命令です。もとは ltboxes.dtx で定義されています。
                                                               1464 \langle platexrelease \rangle \rangle 11ncludeInRelease \{2016/04/17\} \{\citiparbox\}
                                                                1465 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                                                                         {Remove extra \xkanjiskip}%
                                                                1466 (*plcore | platexrelease)
                                                                1467 \let\@parboxto\@empty
                                                                1468 \ensuremath{\mbox{$^1$}\mbox{$^2$}} 1468 \ensuremath{\mbox{$^2$}\mbox{$^3$}} 1445 \ensuremath{\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}} 1468 \ensuremath{\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}} 1468 \ensuremath{\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}} 1468 \ensuremath{\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}} 14468 \ensuremath{\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}} 14468 \ensuremath{\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}} 14468 \ensuremath{\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\mbox{$^3$}\m
                                                                1469
                                                                                          \leavevmode
                                                                                           \@pboxswfalse
                                                               1470
                                                                                           \setlength\@tempdima{#4}%
                                                                1471
                                                                                           \@begin@tempboxa\vbox{\hsize\@tempdima\@parboxrestore#5\@@par}%
                                                               1472
                                                                                                      \ifx\relax#2\else
                                                                1473
                                                                                                                \setlength\@tempdimb{#2}%
                                                                1474
                                                                1475
                                                                                                                 \edef\@parboxto{to\the\@tempdimb}%
                                                                1476
                                                                1477
                                                                                                      \if#1b\vbox
                                                                1478
                                                                                                      \else\if #1t\vtop
                                                               1479
                                                                                                      \else\ifmmode\vcenter
                                                               1480
                                                                                                      \else\@pboxswtrue\null$\vcenter% !!!
                                                               1481
                                                                                                      \fi\fi\fi
                                                                                                      \@parboxto{\let\hss\vss\let\unhbox\unvbox
                                                               1482
                                                                                                                     \csname bm@#3\endcsname}%
                                                               1483
                                                                                                      \if@pboxsw \m@th$\null\fi% !!!
                                                               1484
                                                                                           \@end@tempboxa}
                                                               1485
                                                                1486 (/plcore | platexrelease)
                                                                1487 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
                                                                1488 (platexrelease)\plIncludeInRelease{0000/00/00}{\@iiiparbox}
                                                                1489 (platexrelease)
                                                                                                                                                                                                                                          {LaTeX2e original}%
```

File d: plcore.dtx Date: 2021/06/03 Version v1.3j

```
1490 (platexrelease)\let\@parboxto\@empty
           1491 /platexrelease \long\def\@iiiparbox#1#2[#3]#4#5{%
           1492 (platexrelease)
                              \leavevmode
           1493 (platexrelease)
                              \@pboxswfalse
                              \setlength\@tempdima{#4}%
           1494 (platexrelease)
           1495 (platexrelease)
                              \@begin@tempboxa\vbox{\hsize\@tempdima\@parboxrestore#5\@@par}%
           1496 (platexrelease)
                                 \int x\relax#2\else
           1497 (platexrelease)
                                   \setlength\@tempdimb{#2}%
           1498 (platexrelease)
                                   \edef\@parboxto{to\the\@tempdimb}%
           1499 (platexrelease)
                                \fi
           1500 (platexrelease)
                                 \if#1b\vbox
           1501 (platexrelease)
                                 \else\if #1t\vtop
           1502 (platexrelease)
                                 \else\ifmmode\vcenter
           1503 (platexrelease)
                                 \else\@pboxswtrue $\vcenter
           1504 (platexrelease)
                                 \fi\fi\fi
                                 \@parboxto{\let\hss\vss\let\unhbox\unvbox
           1505 (platexrelease)
           1506 (platexrelease)
                                    \csname bm@#3\endcsname}%
           1507 \langle platexrelease \rangle
                                 \if@pboxsw \m@th$\fi
           1508 (platexrelease)
                              \@end@tempboxa}
           1509 \(\rangle platexrelease \)\(\rangle \)\(\rangle platexrelease \)
\underline 下線を引く命令です。もとは ltboxes.dtx で定義されています。
           1510 \(\rangle\)plincludeInRelease{2019/10/01}{\underline}
           1511 (platexrelease)
                                                 {Make robust}%
           1512 (*plcore | platexrelease)
           1513 \DeclareRobustCommand\underline[1]{%
           1514
                 \relax
           1515
                 \ifmmode\@@underline{#1}%
           1516 \else \leavevmode\null\@@underline{\hbox{#1}}\m@th\null\relax\fi}
           1517 (/plcore | platexrelease)
           1518 (platexrelease)\plEndIncludeInRelease
           1519 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2016/04/17}{\underline}
           1520 (platexrelease)
                                                 {Remove extra \xkanjiskip}%
           1521 (platexrelease)\def\underline#1{%
           1522 (platexrelease)
                              \relax
           1523 (platexrelease)
                              \ifmmode\@@underline{#1}%
           1524 (platexrelease) \else \leavevmode\null$\@@underline{\hbox{#1}}\m@th$\null\relax\fi}
           1525 (platexrelease)\expandafter \let \csname underline \endcsname \@undefined
           1528 (platexrelease)
                                                 {LaTeX2e original}%
           1529 \langle platexrelease \rangle \cdot def \cdot mderline#1{%}
           1530 (platexrelease)
                              \relax
           1531 (platexrelease) \ifmmode\@@underline{#1}%
           1532 (platexrelease) \else $\@@underline{\hbox{#1}}\m@th$\relax\fi}
           1533 (platexrelease)\expandafter \let \csname underline \endcsname \@undefined
           1534 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
```

13 e-pT_EX での FAM256 パッチの利用

```
\e@alloc@chardef
                  	ext{IPT}_{	ext{FX}} 	ext{2}_{arepsilon} 	ext{2015}/01/01 以降、拡張レジスタがあれば利用するようになっていますの
                   で、e-pTFX の拡張レジスタを利用できるように設定します。
    \e@alloc@top
                  1535 \langle platexrelease \rangle \plincludeInRelease{2019/10/01}%
                  1536 (platexrelease)
                                                        {\e@alloc@chardef}{Extended Allocation (FAM256)}%
                  1537 (*plcore | platexrelease)
                  1538 \ifx\widowpenalties\@undefined
                   オリジナルの TrX の場合(拡張なしのアスキー pTrX の場合)。
                           \mathchardef\e@alloc@top=255
                  1539
                           \let\e@alloc@chardef\chardef
                  1540
                  1541 \else
                        \ifx\omathchar\@undefined
                   e-T<sub>F</sub>X 拡張で 2^{15} 個のレジスタが利用できます。
                           \mathchardef\e@alloc@top=32767
                           \let\e@alloc@chardef\mathchardef
                  1544
                  1545
                         \else
                   FAM256 パッチが適用された e-pTEX の場合は、2^{16} 個のレジスタが利用できます。
                           \omathchardef\e@alloc@top=65535
                           \let\e@alloc@chardef\omathchardef
                  1547
                  1548
                         \fi
                  1549 \fi
                  1550 (/plcore | platexrelease)
                  1551 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                  1552 \ \langle platexrelease \rangle \ \ linclude In Release \{ 2018/03/09 \} \%
                                                        {\e@alloc@chardef}{Extended Allocation (FAM256)}%
                  1553 (platexrelease)
                  1554 (platexrelease)\ifx\omathchar\@undefined
                  1555 (platexrelease)
                                     \ifx\widowpenalties\@undefined
                  1556 (platexrelease)
                                        \mathchardef\e@alloc@top=255
                  1557 (platexrelease)
                                        \let\e@alloc@chardef\chardef
                  1558 (platexrelease)
                                     \else
                                        \mathchardef\e@alloc@top=32767
                  1559 (platexrelease)
                  1560 (platexrelease)
                                        \let\e@alloc@chardef\mathchardef
                  1561 (platexrelease) \fi
                  1562 (platexrelease)\else
                  1563 (platexrelease)
                                        \omathchardef\e@alloc@top=65535
                                        \let\e@alloc@chardef\omathchardef
                  1564 (platexrelease)
                  1565 (platexrelease)\fi
                  1566 \(\rangle platexrelease \)\\rangle plEndIncludeInRelease
                  1567 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2016/11/29}%
                  1568 (platexrelease)
                                                        {\e@alloc@chardef}{Extended Allocation (FAM256)}%
                  1569 (platexrelease)\ifx\omathchar\@undefined
                  1570 (platexrelease) \ifx\widowpenalties\@undefined
                  1571 (platexrelease)
                                        \mathchardef\e@alloc@top=255
```

\let\e@alloc@chardef\chardef

1572 (platexrelease)

```
1573 (platexrelease)
                  1574 (platexrelease)
                                        \mathchardef\e@alloc@top=32767
                  1575 (platexrelease)
                                        \let\e@alloc@chardef\mathchardef
                  1576 (platexrelease)
                  1577 (platexrelease)\else
                                     \ifx\enablecjktoken\@undefined % pTeX
                  1578 (platexrelease)
                  1579 (platexrelease)
                                        \omathchardef\e@alloc@top=65535
                                        \let\e@alloc@chardef\omathchardef
                  1580 (platexrelease)
                  1581 (platexrelease)
                                                                       % upTeX
                  1582 (platexrelease)
                                        \chardef\e@alloc@top=65535
                  1583 (platexrelease)
                                        \let\e@alloc@chardef\chardef
                  1584 (platexrelease)
                                     \fi
                  1585 (platexrelease)\fi
                  1586 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                  1587 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2015/01/01}%
                  1588 (platexrelease)
                                                        {\e@alloc@chardef}{LaTeX2e original}%
                  1589 (platexrelease)\ifx\widowpenalties\@undefined
                  1590 (platexrelease) \mathchardef\e@alloc@top=255
                  1591 (platexrelease)
                                     \let\e@alloc@chardef\chardef
                  1592 (platexrelease)\else
                  1593 (platexrelease)
                                     \mathchardef\e@alloc@top=32767
                  1594 (platexrelease) \let\e@alloc@chardef\mathchardef
                  1595 (platexrelease)\fi
                  1596 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
                  1597 (platexrelease)\plIncludeInRelease{0000/00/00}%
                  1598 (platexrelease)
                                                        {\e@alloc@chardef}{LaTeX2e original}%
                  1599 (platexrelease)\let\e@alloc@top\@undefined
                  1600 \(\rangle platexrelease \)\let\e@alloc@chardef\@undefined
                  1601 \(\rangle platexrelease \rangle \rangle plEndIncludeInRelease \)
    \float@count \newcount や \newdimen で使われます。
                  1602 (*plcore | platexrelease)
                  1603 \let\float@count\e@alloc@top
                  1604 (/plcore | platexrelease)
\e@mathgroup@top 2015/01/01 以降の LATEX 2 カーネルは、XeTEX と LuaTEX に対して数式 fam の
                   上限を 16 から 256 に増やしています (\Umathcode で判定)。FAM256 パッチが適
                   用された e-pT<sub>F</sub>X でも同様に上限を 16 から 256 に増やします。これで
                     ! LaTeX Error: Too many math alphabets used in version normal.
                   が出にくくなるはずです。
                  1605 (platexrelease)\plIncludeInRelease{2016/11/29}%
                  1606 (platexrelease)
                                                        {\e@mathgroup@top}{Extended Allocation (FAM256)}%
                  1607 (*plcore | platexrelease)
                  1608 \ifx\omathchar\@undefined
                        \chardef\e@mathgroup@top=16 % LaTeX2e kernel standard
                  1610 \else
```

```
1611 \mathchardef\e@mathgroup@top=256 % for e-pTeX FAM256 patched
1612 \fi

1613 \langle /plcore | platexrelease \rangle
1614 \langle platexrelease \rangle plEndIncludeInRelease
1615 \langle platexrelease \rangle plIncludeInRelease {2015/01/01}%
1616 \langle platexrelease \rangle \langle e@mathgroup@top} {\LaTeX2e original}%
1617 \langle platexrelease \rangle \chardef\e@mathgroup@top=16
1618 \langle platexrelease \rangle plEndIncludeInRelease
1619 \langle platexrelease \rangle plIncludeInRelease {0000/00/00}%
1620 \langle platexrelease \rangle \langle e@mathgroup@top\{\LaTeX2e original}%
1621 \langle platexrelease \rangle \langle lease \langle e@mathgroup@top\{\LaTeX2e original}%
1622 \langle platexrelease \rangle plEndIncludeInRelease
```

14 $ext{PT}_{F}X 2_{\varepsilon}$ と $ext{pPT}_{F}X 2_{\varepsilon}$ の更新タイミングずれ対策

\1@nohyphenation

通常は Babel のハイフネーション定義により提供されるパラメータです。しかし、 $I = T_E X 2_{\varepsilon} 2017$ -04-15 以降・ $p I = T_E X 2_{\varepsilon} 2017$ -04-08 以降では、\verb の途中でハイフネーションが起きないようにするために必須のものとなりました。 $I = T_E X 2_{\varepsilon}$ は特殊な状況も想定して ltfinal.dtx で対策しているようですので、 $p I = T_E X 2_{\varepsilon}$ も念のためここで対策します(参考:latex2e svn r1405)。

\document@default@language

IFT_EX 2_{ε} 2017-04-15 で導入されたパラメータですが、これに先立ち pIFT_EX 2_{ε} 2017-04-08 でも使用しています。verbatim 環境の途中で改ページが起きた場合にヘッダでハイフネーションが抑制されないように、\@outputpage で \language をリセットするときに使われます(参考:latex2e svn r1407)。

```
1628 ⟨platexrelease⟩\plIncludeInRelease{2017/04/08}{\document@default@language}%
1629 ⟨platexrelease⟩ {Save language for hyphenation}%
1630 ⟨*plcore| platexrelease⟩
1631 \ifx\document@default@language \@undefined
1632 \let\document@default@language\m@ne
1633 \fi
1634 ⟨/plcore| platexrelease⟩
1635 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
1636 ⟨platexrelease⟩\plIncludeInRelease{0000/00/00}{\document@default@language}%
1637 ⟨platexrelease⟩ {Save language for hyphenation}%
1638 ⟨platexrelease⟩\let\document@default@language\@undefined
1639 ⟨platexrelease⟩\plEndIncludeInRelease
```

File e

plext.dtx

15 概要

このパッケージは、以下の項目に関する機能を拡張するものです。

- 表組環境
- フロートとキャプションの出力位置
- 段落ボックス環境
- 作図環境
- 連数字、漢数字、傍点、下線
- 参照番号

このパッケージは縦組用クラス(tarticle, tbook, treport)のときには、自動的に 読み込まれます。横組用クラス(jarticle, jbook, jreport)で拡張機能を使いたい場 合は、文書ファイルのプリアンブルに以下の一行を記述してください。

\usepackage{plext}

16 組方向オプションについて

つぎの環境やコマンドは、組方向オプションが追加され、拡張されています。

- tabular 環境、array 環境
- \layoutcaption コマンド
- minipage 環境、\parbox コマンド、\pbox コマンド
- picture 環境

組方向オプションは、コマンド名や環境の後ろで<と>で囲って、"y", "t", "z" のいずれかを指定します。それぞれのオプションの意味はつぎのとおりです。デフォルトの組み方向は、横組のときは"y"、縦組のときは"t"です。

オプション	意味
У	横組で出力(横組モードでは何もしない)
t	縦組で出力(縦組モードでは何もしない)
Z	90 度回転して出力(横組モードでは何もしない)

組方向オプションを用いたサンプルを図1に示します。左から、"y", "t", "z" オプションを指定してあります。

たとえば、これはいったい何、いったいどうして、などと思えるようなことが世の中にはたくさんあります。	たくさんあります?たい何、いったいどうたい何、いったいどうたいだと思えるよたが世の中には	たとえば、これはいったい何、いったいどう して、などと思えるようなことが世の中には たへさんあります!
---	--	---

Figure 1: 組方向オプションの使用例

17 コード

\if@rotsw このスイッチは、縦組モードで90度回転させるかどうかを示すのに使います。

- 1 (*package)
- 2 \newif\if@rotsw

17.1 表組環境

tabular 環境と array 環境は、組方向を指定するオプションを追加しました。これらのコマンドは、lttab.dtx で定義されています。

\array array 環境と tabular 環境を開始するコマンドです。tabular 環境にはアスタリスク \tabular 形式があります。

\tabular*

- ${\tt 3 \ def\ array{\ let\ @acol\ @arrayacol\ let\ @classz\ @arrayclassz}$
- 4 \let\@classiv\@arrayclassiv
- $\label{lem:condition} 5 \qquad \verb{\let'\Qarraycr\let'Qhalignto\Qempty\XQtabarray}}$
- 6 **%**
- 7 \def\tabular{\let\@halignto\@empty\X@tabular}
- 8 \@namedef{tabular*}{\@ifnextchar<%>
- 9 {\p@stabular}{\p@stabular<Z>}}

\XCtabarray 組方向オプションを調べます。

\X@tabular 10 \def\X@tabarray{\@ifnextchar<%>

File e: plext.dtx

```
{\p@tabarray}{\p@tabarray<Z>}}
             12 \def\X@tabular{\@ifnextchar<%>
                  {\p@tabular}{\p@tabular<Z>}}
            アスタリスク形式の場合は、組方向オプションの後ろに幅を指定します。
\p@stabular
             14 \def\p@stabular<#1>#2{%
 \p@tabular
                  \setlength\dimen@{#2}%
                  \edef\@halignto{to\the\dimen@}\p@tabular<#1>}
             16
             17 \def\p@tabular<#1>{\leavevmode \null\hbox \bgroup $\let\@acol\@tabacol
                  \let\@classz\@tabclassz
                  \let\@classiv\@tabclassiv \let\\\@tabularcr\p@tabarray<#1>}
            位置オプションを調べます。
\p@tabarray
             20 \def\p@tabarray<#1>{\m@th\@ifnextchar[%]
                  {\p@array<#1>}{\p@array<#1>[c]}}
            tabular 環境と array 環境の内部形式です。
             22 \def\p@array<#1>[#2]#3{%
                 \fork@array@option<#1>[#2]\@begin@alignbox
                 \bgroup\box@dir\adjustbaseline
                 \setbox\@arstrutbox\hbox{%
             26
                 \iftdir
             27
                   \if #1v\relax\voko
                      \vrule\@height\arraystretch\ht\strutbox
             28
                            \@depth\arraystretch\dp\strutbox \@width\z@
             29
                   \else\if #1z\relax\@rotswtrue
             31
                      \vrule\@height\arraystretch\ht\zstrutbox
             32
                            \@depth\arraystretch\dp\zstrutbox \@width\z@
             33
             34
                      \vrule\@height\arraystretch\ht\tstrutbox
                            \@depth\arraystretch\dp\tstrutbox \@width\z@
             35
                   \fi\fi
             36
             37
                 \else
                   \if #1t\relax\tate
             38
                      \vrule\@height\arraystretch\ht\tstrutbox
             39
                             \@depth\arraystretch\dp\tstrutbox \@width\z@
             40
             41
             42
                      \vrule\@height\arraystretch\ht\strutbox
             43
                             \@depth\arraystretch\dp\strutbox \@width\z@
                   \fi
             44
                 \fi}%
             45
                  \@mkpream{#3}\edef\@preamble{\ialign \noexpand\@halignto
                  \bgroup \tabskip\z@skip \@arstrut \@preamble \tabskip\z@skip \cr}%
             47
                  \let\@startpbox\@@startpbox \let\@endpbox\@@endpbox
             48
                 \let\tabularnewline\\%
             49
                   \let\par\@empty
             50
                   \let\@sharp##%
             51
                   \set@typeset@protect
             52
             53
                   \lineskip\z@skip\baselineskip\z@skip
```

- \ifhmode \@preamerr\z@ \@@par\fi
- \@preamble}

\endarray array 環境と tabular 環境の終了コマンドです。 \@end@alignbox は \p@array から 呼び出される\fork@array@optionによって設定されます。 \endtabular

- 56 \def\endarray{\crcr\egroup\egroup\@end@alignbox}
- 57 \def\endtabular{\crcr\egroup\egroup\@end@alignbox \$\egroup\null}
- 58 \expandafter \let \csname endtabular*\endcsname = \endtabular

\fork@array@option array 環境と tabular 環境で与えられた第一引数と第二引数の組合せの分岐を行ない ます。

> コミュニティ版では、アスキー版で不自然だった表組(array 環境および tabular 環境)と周囲の本文との揃え位置を修正し、以下のように設計しました。

- 周囲の組方向が横組かつ組方向が<y>, <z>指定の場合
 - [t] 指定のとき 一行目のベースラインが周囲のそれと一致(罫線の場合は和文ベースラ インの位置)
 - [c] 指定のとき 表組の中心が周囲の数式軸を通る(欧文ベースラインシフトの影響下)
 - [b] 指定のとき 最終行のベースラインが周囲のそれと一致(罫線の場合は和文ベースラ インの位置)
- 周囲の組方向が横組かつ組方向が<t>指定の場合
 - [t] 指定のとき 表組の上端が周囲の和文ベースラインと一致
 - [c] 指定のとき 表組の中心が周囲の数式軸を通る(欧文ベースラインシフトの影響下)
 - [b] 指定のとき 表組の下端が周囲の和文ベースラインと一致
- 周囲の組方向が縦組かつ組方向が<y>指定の場合
 - [t] 指定のとき 表組の上端が周囲の和文ベースラインと一致
 - [c] 指定のとき 表組の中心が周囲の数式軸を通る(欧文ベースラインシフトの影響下)

- [b] 指定のとき表組の下端が周囲の和文ベースラインと一致
- 周囲の組方向が縦組かつ組方向が<t>指定の場合
 - [t] 指定のとき
 一行目のベースラインが周囲のそれと一致(罫線の場合は和文ベースラインの位置)
 - [c] 指定のとき 表組の中心が周囲の数式軸を通る(欧文ベースラインシフトの影響下)
 - [b] 指定のとき 最終行のベースラインが周囲のそれと一致(罫線の場合は和文ベースラ インの位置)
- 周囲の組方向が縦組かつ組方向が<z>指定の場合
 - [t] 指定のとき 一行目の欧文ベースラインが周囲のそれと一致
 - [c] 指定のとき 表組の中心が周囲の数式軸を通る(欧文ベースラインシフトの影響下)
 - [b] 指定のとき 最終行の欧文ベースラインが周囲のそれと一致

```
59 \def\fork@array@option<#1>[#2]{%
60 \@rotswfalse
縦組モードのとき:
61 \iftdir
62 \if #1y\relax\let\box@dir\yoko
   64
       \def\@begin@alignbox{%
65
          \@tempdima=\tbaselineshift
66
          \advance\@tempdima-\ybaselineshift
          67
       \let\@end@alignbox\egroup
68
    \else\if #2b\relax
69
70
       \def\@begin@alignbox{%
           \@tempdima=\tbaselineshift
71
          \advance\@tempdima-\ybaselineshift
72
           \raise\@tempdima\vbox\bgroup\vbox}%
74
       \def\@end@alignbox{\kern\z@\egroup}%
75
       \let\@begin@alignbox\vcenter
76
```

```
77
        \let\@end@alignbox\relax
    \fi\fi
78
79 \else\if #1z\relax\let\box@dir\relax\@rotswtrue
    \def\@begin@alignbox{%
81
            \@tempdima=\tbaselineshift
82
            \advance\@tempdima-\ybaselineshift
83
            \advance\@tempdima\ht\tstrutbox
84
            \raise\arraystretch\@tempdima\vtop\bgroup\kern\z@\vtop}%
85
        \let\@end@alignbox\egroup
86
     \else\if #2b\relax
87
        \def\@begin@alignbox{%
88
            \@tempdima=\tbaselineshift
89
            \advance\@tempdima-\ybaselineshift
90
            \advance\@tempdima-\dp\tstrutbox
91
            \raise\arraystretch\@tempdima\vbox\bgroup\vbox}%
92
        \def\@end@alignbox{\kern\z@\egroup}%
93
94
     \else
        \let\@begin@alignbox\vcenter
95
        \let\@end@alignbox\relax
96
97
    \fi\fi
98 \else\let\box@dir\tate
    99
        \let\@begin@alignbox\vtop
100
101
        \let\@end@alignbox\relax
102
    \else\if #2b\relax
        \let\@begin@alignbox\vbox
103
        \let\@end@alignbox\relax
104
105
    \else
        \let\@begin@alignbox\vcenter
106
        \let\@end@alignbox\relax
107
108
    \fi\fi
109 \fi\fi
横組モードのとき:
110 \else
111 \if #1t\relax\let\box@dir\tate
    112
        \def\@begin@alignbox{\vtop\bgroup\kern\z@\vbox}%
113
        \let\@end@alignbox\egroup
114
    \else\if #2b\relax
        \def\@begin@alignbox{\vbox\bgroup\vbox}%
117
        \def\@end@alignbox{\kern\z@\egroup}%
118
119
        \let\@begin@alignbox\vcenter
        \let\@end@alignbox\relax
120
121
    \fi\fi
122 \else\let\box@dir\yoko
123
    \if #2t\relax
        \let\@begin@alignbox\vtop
```

```
125 \let\@end@alignbox\relax
126 \else\if #2b\relax
127 \let\@begin@alignbox\vbox
128 \let\@end@alignbox\relax
129 \else
130 \let\@begin@alignbox\vcenter
131 \let\@end@alignbox\relax
132 \fi\fi
133 \fi\fi}
```

17.2 フロートとキャプションの出力位置

キャプションとフロートは、出力位置の指定や大きさの指定などができるように拡張しています。詳細は、『日本語 $\begin{subarray}{c} \begin{subarray}{c} \begin{su$

\layoutfloat コマンドで作られるボックスです。

134 \newbox\@floatbox

フロートオブジェクトの幅と高さです。

- $135 \newdimen\floatwidth$
- $136 \mbox{ }\mbox{\ensuremath{\mbox{newdimen}\mbox{\sc floatheight}}$

フロートオブジェクトのまわりに引かれる罫線の太さです。

137 \newdimen\floatruletick \floatruletick=0.4pt

フロートオブジェクトとキャプションの間のアキです。

 $138 \verb|\captionfloatsep| \verb|\captionfloatsep=10pt|$

\caption@dir には、キャプションを組む方向を示すオプションが格納されます。 \captiondir は \caption@dir の値と現在の組み方向によって、\yoko, \tate, \relax のいずれかに設定されます。

- 139 \def\caption@dir{Z}
- 140 \let\captiondir\relax

キャプションの幅です。

141 \newdimen\captionwidth \captionwidth\z@

キャプションを付ける位置を指定します。

- 142 \def\caption@posa{Z}
- 143 \def\caption@posb{Z}

組み立てられたキャプションが格納されるボックスです。

144 \newbox\@captionbox

キャプションに使われる文字です。

 $145 \ensuremath{\mbox{\sc hormalfont}\mbox{\sc hormalsize}}$

\layoutfloat \X@layoutfloat \@layoutfloat \layoutfloat は図表類の大きさと位置を指定するのに使います。大きさを省略するか、負の値を指定すると、そのオブジェクトの自然な長さになります。このとき

は、罫が引かれません。正の大きさを指定すると、\floatruletickの太さの罫で囲まれます。

位置指定を省略した場合、中央揃えになるようにしています。

```
146 \def\layoutfloat{\@ifnextchar(%)
      {X@layoutfloat}_{X@layoutfloat(-5\p@,-5\p@)}}
148 %
149 \def\X@layoutfloat(#1,#2) {\@ifnextchar[%]
      {\c (\#1,\#2)}{\c (\#1,\#2)[c]}
150
151 %
152 \long\def\@layoutfloat(#1,#2)[#3]#4{%}
    \setbox\z@\hbox{#4}%
     \floatwidth=#1 \floatheight=#2 \edef\float@pos{#3}%
     \ifdim\floatwidth<\z0
        \floatwidth\wd\z@\floatruletick\z@
157
    \fi
158
    \ifdim\floatheight<\z@
        \floatheight\ht\z@\advance\floatheight\dp\z@\relax
159
        \floatruletick\z@
160
161
    \setbox\@floatbox\vbox to\floatheight{\offinterlineskip
162
163
       \hrule width\floatwidth height\floatruletick depth\z@
164
       \vss\hbox to\floatwidth{%
         \vrule width\floatruletick height\floatheight depth\z@
         \hss\vbox to\floatheight{\hsize\floatwidth\vss#4\vss}\hss
166
167
         \vrule width\floatruletick height\floatheight depth\z@
       }\hrule width\floatwidth height\floatruletick depth\z@}}
```

\DeclareLayoutCaption

\DeclareLayoutCaption コマンドは、キャプションの組方向、付ける位置や幅のデフォルトをフロートのタイプごとに設定することができます。このコマンドでデフォルト値が設定されていないと、\pcaption コマンドでエラーが発せられます。このコマンドはプリアンブルでのみ、使用できます。

 $\verb|\DeclareLayoutCaption| \langle type \rangle < \langle dir \rangle > (\langle width \rangle) [\langle pos1 \rangle \langle pos2 \rangle]$

コマンド引数を省略することはできません。 $\langle dir \rangle$ には、'y', 't', 'z', 'n' のいずれかを指定します。'n' と指定をすると、本文の組み方向と同じ方向でキャプションが組まれます。これがデフォルトです。(補足:2018/09/20 v1.2j までは、この説明に反して実際のコードは'y' がデフォルトになっており、「日本語 $\text{IAT}_{EX} 2_{\varepsilon}$ ブック」にも'y' と書かれていましたが、後述の \bigstar のバグ修正に合わせ、2018/10/07 v1.2k で'n' に直しました。)

 $\langle width \rangle$ には、キャプションを折り返す長さを指定します。'(12zw)' と指定をすると、漢字 12 文字分の長さで折り返されます。デフォルトは (.8\linewidth) です。なお、キャプションの幅をフロートオブジェクトの幅に合わせる場合は'(\floatwidth)' と指定し、高さに合わせる場合は'(\floatheight)' と指定します。

 $\langle pos1 \rangle$ と $\langle pos2 \rangle$ には、キャプションを出力する位置を指定します。 $\langle pos1 \rangle$ は、'c',

```
figure タイプが 'cd'、table タイプは 'cu' です。
                                      169 \def\DeclareLayoutCaption#1<#2>(#3) [#4#5] {%
                                               \expandafter
                                      171
                                                \ifx\csname #1@layoutc@ption\endcsname\relax \else
                                                    \@latex@info{Redeclaring capiton layout setting of '#1'}%
                                      173
                                               \expandafter
                                      174
                                                \gdef\csname #1@layoutc@ption\endcsname{%
                                      176
                                                      \if Z\caption@dir\def\caption@dir{#2}\fi
                                                      \ifdim\captionwidth=\z@ \captionwidth=#3\relax\fi
                                      177
                                                      \if Z\caption@posa\def\caption@posa{#4}\fi
                                      178
                                                      \label{lem:caption@posb} $$ \left( \sum_{s=0}^{posb} f(s) \right) $$
                                      180 \@onlypreamble\DeclareLayoutCaption
                                      181 \DeclareLayoutCaption{figure}<n>(.8\linewidth)[cd]
                                      182 \DeclareLayoutCaption{table}<n>(.8\linewidth)[cu]
                                     \DeclareLayoutCaption コマンドで設定をした、デフォルト値とは異なる設定で
      \layoutcaption
                                     組みたい場合は、\layoutcaption コマンドを使用します。
 \X@layoutcaption
                                          \langle dir \rangle (\langle width \rangle) [\langle pos \rangle]
  \@ilayoutcaption
                                          なお、\layoutcaption に組み方向オプションを付けましたので、\captiondir
\@iilayoutcaption
                                      で組み方向を指定する必要はありません。また、\captiondirで指定をしても、そ
                                      の値は無視されます。
                                      183 \def\layoutcaption{\def\caption@dir{Z}\captionwidth\z@lef} \def\caption@dir{Z}\captionwidth\z@lef} \def\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\caption\
                                               \def\caption@posa{Z}\def\caption@posb{Z}%
                                      185
                                                \@ifnextchar<\X@layoutcaption{%
                                      186
                                                    \@ifnextchar(\@ilayoutcaption{%
                                                        \@ifnextchar[\@iilayoutcaption\relax}}}
                                      187
                                      188 %
                                      189 \def\X@layoutcaption<#1>{\def\caption@dir{#1}%
                                               \@ifnextchar(\@ilayoutcaption{%
                                                    \@ifnextchar[\@iilayoutcaption\relax}}
                                      191
                                      192 %
                                      193 \def\@ilayoutcaption(#1){\setlength\captionwidth{#1}%
                                      194 \@ifnextchar[{\@iilayoutcaption}{\relax}}
                                      195 %
                                      196 \def\@iilayoutcaption[#1#2]{%
                                             \def\caption@posa{#1}\def\caption@posb{#2}}
                                    キャプションを図表類の天地左右の指定箇所に付けるには \pcaption コマンドで指定
                                    をします。位置の指定は \layoutcaption コマンドで行ないます。 \layoutcaption
              \@pcaption
                                      コマンドが省略された場合は、\DeclareLayoutCaption コマンドで設定されてい
                                      るデフォルト値が使われます。
                                      198 \def\pcaption{%
                                                  \ifx\@captype\@undefined
```

(t', b') のいずれかです。 $\langle pos2 \rangle$ は、(u', b') (a', (t') (b') のいずれかです。デフォルトは、

```
200
       \@latex@error{\noexpand\pcaption outside float}\@ehd
       \expandafter\@gobble
201
202
203
       \refstepcounter\@captype
       \expandafter\@firstofone
204
205
     {\@dblarg{\@pcaption\@captype}}%
206
207 }
208 %
209 \long\def\@pcaption#1[#2]#3{%
210
    \addcontentsline{\csname ext@#1\endcsname}{#1}{%
       \protect\numberline{\csname the#1\endcsname}{\ignorespaces#2}}%
211
212
       \@latex@error{Use \noexpand\pcaption with '\string\layoutfloat'}\@eha
213
214
    \fi
    \label{local_make_properties} $$\max_{0 \le 1} {\#3}% $$
215
    \@pboxswfalse
216
     \setbox\@tempboxa\vbox{\hbox to\hsize{\if 1\float@pos\else\hss\fi
217
      \if 1\caption@posb\box\@captionbox\kern\captionfloatsep\fi
218
219
      \if t\caption@posa\vtop
220
      \else\if b\caption@posa\vbox
      \else\@pboxswtrue $\vcenter \fi\fi
221
      222
       \unvbox\@floatbox
223
224
       \if d\caption@posb\kern\captionfloatsep\box\@captionbox\fi}%
225
      \if@pboxsw \m@th$\fi
      226
      \if r\float@pos\else\hss\fi}}%
227
    \par\vskip.25\baselineskip
228
    \box\@tempboxa}
229
```

\make@pcaptionbox

キャプションを組み立て、\@captionbox を作成します。

230 \def\make@pcaptionbox#1{%

まず、デフォルトの設定がされているかを確認します。設定されていない場合は、 警告メッセージを出力し、現在の組モードでのデフォルト値を使用します。設定されていれば、そのデフォルト値にします。

```
231 \expandafter
232 \ifx\csname\@captype @layoutc@ption\endcsname\relax
233 \@latex@warning{Default caption layout of '\@captype' unknown}%
234 \def\caption@dir{Z}\captionwidth\z@
235 \def\caption@posa{Z}\def\caption@posb{Z}%
236 \else
237 \csname \@captype @layoutc@ption\endcsname
238 \fi
```

次に、組み方向を設定します。基本組の組み方向とキャプションの組み方向を変える場合には、\@tempswaを真とします。文字を回転させるときは\@rotswを真にし

ます。

- 239 \@rotswfalse \@tempswafalse
 240 \iftdir\if y\caption@dir \let\captiondir\yoko \@tempswatrue
 241 \else\if z\caption@dir \let\captiondir\relax \@rotswtrue
 242 \else\let\captiondir\tate\fi\fi
 243 \else\if t\caption@dir\let\captiondir\tate \@tempswatrue
 244 \else\let\captiondir\yoko\fi
 245 \fi
- キャプションを組み立てる前に、まず、キャプション文字列がどの程度の長さを持っているのかを確認するために、\hbox に入れます。
- 246 \setbox0\hbox{\if@rotsw \$\fi\hbox{\captiondir
- 247 \captionfontsetup\parindent\z@\inhibitglue
- 248 \csname fnum@\@captype\endcsname\char\euc"A1A1\relax#1}%
- 249 \if@rotsw \m@thfi}%

キャプションの幅に合わせるため、再び、ボックスを組み立てます。

キャプションを折り返さなくてもよい場合、\@tempdimaをキャプションの長さにします。ただし、キャプションの組み方向が基本組の組み方向と異なる場合(\@tempswaが真)は、ボックス 0 の幅ではなく、高さに設定をします(pT_EX では同じボックスでも、組方向によって \wd と \ht+\wd の返す寸法が異なることに注意)。 \captionwidthの値が、キャプションの幅よりも長い場合、折り返さなくてはなりませんので、\@tempdimaを \captionwidthにします。

日本語 T_{EX} 開発コミュニティによる修正:2018/09/20 v1.2j までは、キャプション の組方向が基本組の組み方向と直交する場合に深さを考慮するのを忘れていたため に、本来は折り返さずに済むはずの短いキャプションが、必ず折り返されてしまう というバグ (\bigstar) がありました。2018/10/07 v1.2k でこのバグを修正したため、組 版結果が大きく変わる場合があります。

- 250 \if@tempswa \@tempdima\ht0 \advance\@tempdima\dp0
- 251 \else \@tempdima\wd0 \fi
- ${\tt 252} \qquad \verb|\dim|@tempdima>| captionwidth \dim| {\tt 0tempdima}| captionwidth \dim| {\tt 152}| {\tt 152}|$
- 253 \@pboxswfalse
- 254 \setbox0\hbox{\if@rotsw \$\fi
- 255 \if u\caption@posb\vbox
- 256 \else\if d\caption@posb\vbox
- 257 \else\if t\caption@posa\vtop
- 258 \else\if b\caption@posa\vbox
- 259 \else\ifmmode\vcenter\else\@pboxswtrue \$\vcenter\fi
- 260 \fi\fi\fi\fi
- 261 {\hsize\@tempdima\kern\z@
- 262 \vbox{\captiondir\hsize\@tempdima
- 263 \captionfontsetup\parindent\z@\inhibitglue
- 264 \csname fnum@\@captype\endcsname\char\euc"A1A1\relax#1}\kern\z@
- 265 }\if@pboxsw \m@th\$\fi \if@rotsw \m@th\$\fi}%

最後に \@captionbox を組み立てます。

位置 2 オプションが 'u' か 'd' の場合、このボックスの幅をフロートオブジェクト の幅と同じ長さにし、位置 1 オプションでの揃えに組み立てます。

位置 2 オプションが '1' か 'r' の場合は、キャプションの幅です。このときの位置 1 オプションの揃えは、この前の段階で準備をしておき、\@pcaption で最終的にフロートオブジェクトと組み合わせるときになされます。

- 266 \let\to@captionboxwidth\relax
- 267 \if l\caption@posb \else\if r\caption@posb\else
- 268 \def\to@captionboxwidth{to\floatwidth}\fi\fi
- 269 \setbox\@captionbox\hbox\to@captionboxwidth{%
- 270 \if t\caption@posa\else\hss\fi
- 271 \unhbox0\relax
- 272 \if b\caption@posa\else\hss\fi}}

17.3 段落ボックス環境

minipage 環境と \parbox コマンドも、tabular 環境と同じように、組方向を指定するオプションを追加してあります。これらのコマンドは、ltboxes.dtx で定義されています。

\parbox コマンドは幅だけでなく高さも指定できるようになっています。新しい \parbox コマンドについての詳細は、usrguide.tex を参照してください。

minipage 環境

\minipage 組方向オプションを調べます。

273 \def\minipage{\@ifnextchar<%>
274 {\X@minipage}{\X@minipage<Z>}}

\X@minipage 位置オプションを調べます。

275 \def\X@minipage<#1>{\@ifnextchar[%]

276 {\@iminipage<#1>}{\@iiiminipage<#1>{c}\relax[s]}}

\@iminipage 高さオプションを調べます。

277 \def\@iminipage<#1>[#2]{\@ifnextchar[%]

278 {\@iiminipage<#1>{#2}}{\@iiiminipage<#1>{#2}\relax[s]}}

\@iminipage 内部位置オプションを調べます。

279 $\def\@iiminipage<#1>#2[#3]{<math>\def\@ifnextchar[\%]$ }

 $280 \qquad \{\@iiminipage<\#1>\{\#2\}\{\#3\}\}\\ \{\@iiminipage<\#1>\{\#2\}\{\#3\}\}\\ \#2]\}\}$

\@iiminipage minipage 環境の内部形式です。\leavevmode の後の \bgroup は、回転オプションが指定されたときのフラグ \if@rotswが、このマクロの内部だけで有効になるようにするためです。この括弧は、\endminipage コマンドで閉じます。

281 \def\@iiiminipage<#1>#2#3[#4]#5{%

```
282
                   \leavevmode\bgroup
                   \setlength\@tempdima{#5}%
              283
                   \def\@mpargs{<#1>{#2}{#3}[#4]{#5}}%
              285
                   \@rotswfalse
                   \iftdir
              286
                     \if #1y\relax\let\box@dir\yoko
              287
                     \else\if #1z\relax\@rotswtrue \let\box@dir\relax
              288
              289
                     \else\let\box@dir\tate
              290
                     \fi\fi
                   \else
              291
                     \if #1t\relax\let\box@dir\tate
              292
                     \else\let\box@dir\yoko
              293
              294
              295
                   \fi
                   \setbox\@tempboxa\vbox\bgroup\box@dir
              296
                     \if@rotsw \hsize\@tempdima\hbox\bgroup$\vbox\bgroup\fi
              297
                     \adjustbaseline
              298
                     \color@begingroup
              299
              300
                       \hsize\@tempdima
              301
                       \textwidth\hsize \columnwidth\hsize
              302
                       \@parboxrestore
              303
                       \def\@mpfn{mpfootnote}\def\thempfn{\thempfootnote}%
              304
                       \c@mpfootnote\z@
                       \let\@footnotetext\@mpfootnotetext
              305
                       \let\@listdepth\@mplistdepth\z@
              306
                       \@minipagerestore
              307
                       \@setminipage}
              308
             minipage 環境の終了コマンドです。
\endminipage
              309 \def\endminipage{%
              310
                     \par
              311
                     \unskip
              312
                     \ifvoid\@mpfootins\else
                       \vskip\skip\@mpfootins
              313
             314
                       \normalcolor
              315
                       \footnoterule
              316
                       \unvbox\@mpfootins
              317
                     \fi
                     \@minipagefalse
              318
                                       %% added 24 May 89
                   \color@endgroup
                   \if@rotsw \egroup\m@th$\egroup\fi
              \@iiiminipage で開始したグループを閉じるための \egroup です。
                   \egroup
              321
                   \expandafter\@iiiparbox\@mpargs{\unvbox\@tempboxa}\egroup}
```

\parbox コマンド

```
\parbox 組方向オプションを調べます。
                                                     323 \DeclareRobustCommand\parbox{\@ifnextchar<%>
                                                                               {\X@parbox}{\X@parbox<Z>}}
                                                位置オプションを調べます。
        \X@parbox
                                                     325 \def\X@parbox<#1>{\@ifnextchar[%]
                                                                               {\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\ensuremath{\en
        \@iparbox 高さオプションを調べます。
                                                     327 \def\@iparbox<#1>[#2] {\@ifnextchar[%]
                                                                               \label{limits} $$ (\input) $
    \@iiparbox 内部位置オプションを調べます。
                                                     329 \def\@iiparbox<#1>#2[#3]{\@ifnextchar[%]%
                                                                              {\@iiiparbox<#1>{#2}{#3}}{\@iiiparbox<#1>{#2}{#3}[#2]}}
\@iiiparbox parbox の内部形式です。 minipage 環境と同じようにグルーピングをします。この
                                                     括弧と対になるのは、このマクロの最後の\egroupです。
                                                     331 \long\def\@iiiparbox<#1>#2#3[#4]#5#6{%
                                                                         \leavevmode\null\bgroup
                                                     333
                                                                          \setlength\@tempdima{#5}%
                                                     334
                                                                        \fork@parbox@option<#1>[#2]%
                                                     335 \if@rotsw
                                                                          \@begin@tempboxa\vbox{\box@dir\hsize\@tempdima
                                                                                   337
                                                     338 \else
                                                     339
                                                                        \@begin@tempboxa\vbox{\box@dir
                                                                                   \hsize\@tempdima\@parboxrestore\adjustbaseline#6\@@par}%
                                                     340
                                                     341 \fi
                                                                                   \fint $$ \left( \frac{3}{re} \right) = \frac{3}{re} 
                                                     342
                                                     343
                                                                                           \setlength\@tempdimb{#3}%
                                                     344
                                                                                           \edef\@parboxto{to\the\@tempdimb}%
                                                     345
                                                     346
                                                                                   \@begin@parbox\@parboxto{\box@dir\adjustbaseline
                                                                                               \let\hss\vss\let\unhbox\unvbox
                                                                                               \csname bm@#4\endcsname}\@end@parbox
                                                                          \@end@tempboxa\egroup\null}
                                                     349
```

\fork@parbox@option \parbox で与えられた第一引数と第二引数の組合せの分岐を行ないます。
 コミュニティ版では、アスキー版で不自然だった \parbox の箱と周囲の本文との
揃え位置を修正し、以下のように設計しました。

• 周囲の組方向が横組かつ組方向が<y>, <z>指定の場合

- [t] 指定のとき一行目のベースラインが周囲のそれと一致
- [c] 指定のとき 箱の中心が周囲の数式軸を通る(欧文ベースラインシフトの影響下)
- [b] 指定のとき 最終行のベースラインが周囲のそれと一致
- 周囲の組方向が横組かつ組方向が<t>指定の場合
 - [t] 指定のとき 箱の上端が周囲の和文文字の高さと一致
 - [c] 指定のとき 箱の中心が周囲の数式軸を通る(欧文ベースラインシフトの影響下)
 - [b] 指定のとき 箱の下端が周囲の和文文字の深さと一致
- 周囲の組方向が縦組かつ組方向が<y>指定の場合
 - [t] 指定のとき 箱の上端が周囲の和文文字の高さと一致
 - [c] 指定のとき 箱の中心が周囲の数式軸を通る(欧文ベースラインシフトの影響下)
 - [b] 指定のとき 箱の下端が周囲の和文文字の深さと一致
- 周囲の組方向が縦組かつ組方向が<t>指定の場合
 - [t] 指定のとき一行目のベースラインが周囲のそれと一致
 - [c] 指定のとき 箱の中心が周囲の数式軸を通る(欧文ベースラインシフトの影響下)
 - [b] 指定のとき 最終行のベースラインが周囲のそれと一致
- 周囲の組方向が縦組かつ組方向が<z>指定の場合
 - [t] 指定のとき 箱の上端が周囲の和文文字の高さと一致

- [c] 指定のとき 箱の中心が周囲の数式軸を通る(欧文ベースラインシフトの影響下)
- [b] 指定のとき 箱の下端が周囲の和文文字の深さと一致

```
350 \def\fork@parbox@option<#1>[#2]{%
351 \@rotswfalse
縦組モードのとき:
352 \setminus iftdir
353 \if #1y\relax\let\box@dir\yoko
      \if #2t\relax
         \def\@begin@parbox{\raise\cht\vtop\bgroup\kern\z@\vtop}%
355
         \let\@end@parbox\egroup
356
      \else\if #2b\relax
357
         \def\@begin@parbox{\lower\cdp\vbox\bgroup\vbox}%
358
         \def\@end@parbox{\kern\z@\egroup}%
359
360
      \else\ifmmode
361
         \let\@begin@parbox\vcenter
362
         \let\@end@parbox\relax
363
364
         \def\@begin@parbox{$\vcenter}%
         \def\@end@parbox{\m@th$}%
365
      \fi\fi\fi
366
367 \le \ \#1z\ #1z\relax\@rotswtrue \let\box@dir\relax
      368
         \def\@begin@parbox{\raise\cht\vtop\bgroup\kern\z@\vtop}%
369
370
         \let\@end@parbox\egroup
      \else\if #2b\relax
371
         \def\@begin@parbox{\lower\cdp\vbox\bgroup\vbox}%
372
         \def\@end@parbox{\kern\z@\egroup}%
373
374
      \else\ifmmode
375
         \let\@begin@parbox\vcenter
376
         \let\@end@parbox\relax
377
      \else
378
         \def\@begin@parbox{$\vcenter}%
         379
      \fi\fi\fi
380
381 \else\let\box@dir\tate
      \if #2t\relax
382
         \let\@begin@parbox\vtop
383
         \let\@end@parbox\relax
384
385
      \else\if #2b\relax
386
         \let\@begin@parbox\vbox
         \let\@end@parbox\relax
387
      \else\ifmmode
388
         \let\@begin@parbox\vcenter
389
         \let\@end@parbox\relax
390
```

```
\def\@begin@parbox{$\vcenter}%
          392
          393
                  \def\@end@parbox{\m@th$}%
          394
                \fi\fi\fi
          395 \fi\fi
          横組モードのとき:
          396 \else
          397 \if #1t\relax\let\box@dir\tate
                398
                  399
                  \let\@end@parbox\egroup
          400
          401
                \else\if #2b\relax
                  \def\@begin@parbox{\lower\cdp\vbox\bgroup\vbox}%
          402
                  \def\@end@parbox{\kern\z@\egroup}%
          403
                \else\ifmmode
          404
          405
                  \let\@begin@parbox\vcenter
          406
                  \let\@end@parbox\relax
          407
                  \def\@begin@parbox{$\vcenter}%
          408
                  \def\@end@parbox{\m@th$}%
          409
                \fi\fi\fi
          410
          411 \else\let\box@dir\yoko
               412
          413
                  \let\@begin@parbox\vtop
          414
                  \let\@end@parbox\relax
          415
               \else\if #2b\relax
          416
                  \let\@begin@parbox\vbox
          417
                  \let\@end@parbox\relax
          418
                \else\ifmmode
                  \let\@begin@parbox\vcenter
          419
                  \let\@end@parbox\relax
          420
                \else
          421
          422
                  \def\@begin@parbox{$\vcenter}%
                  \def\@end@parbox{\m@th$}%
          423
                \fi\fi\fi
          425 \fi\fi
          \pbox コマンド
          \pbox は組み方向を指定できるボックスコマンドです。次のような構文となってい
           ます。
            \pbox オプションを調べます。
          \X@makepbox
\ensuremath{\texttt{\sc dimakepbox}}
                                                                      152
          File e: plext.dtx
```

391

\else

```
427 \det X@makePbox<#1>{%}
                429 %
            430 \def\@imakePbox<#1>[#2] {\@ifnextchar[%]
                {\@iimakePbox<#1>{#2}}{\@iimakePbox<#1>{#2}[c]}}
           \pbox の内部形式です。
\@iimakePbox
            432 \def\@iimakePbox<#1>#2[#3]#4{%
                \bgroup \@rotswfalse \@pboxswfalse
                \iftdir
            435
                  \if #1y\relax\let\box@dir\yoko
            436
                  \else\if #1z\relax\@rotswtrue \let\box@dir\relax
            437
                  \else\let\box@dir\tate
                  \fi\fi
            438
                \else
            439
                  \if #1t\relax\let\box@dir\tate
            440
                  \else\let\box@dir\yoko
            441
            442
            443
                \ifmmode\else\if@rotsw\@pboxswtrue\hbox\bgroup$\fi\fi
                  \left( \frac{42}{\%} \right)
            445
                  \  \ifdim\end{ar} \
            446
            447
                  \hb@xt@\@tempdima{\box@dir
            448
                            \if #31\relax\else\hss\fi
            449
                            #4\relax
                            \if #3r\relax\else\hss\fi}\fi
            450
                \if@pboxsw \m@th$\egroup\fi\egroup}
            451
            17.4 作図環境
            picture 環境も、組方向を指定するオプションを追加してあります。なお、これらの
            コマンドは、ltpictur.dtx で定義されています。
   \picture 組方向オプションを調べます。
            452 \neq \%
                 {\X@picture}{\X@picture<Z>}}
            図形領域オプションを調べます。
 \X@picture
            454 \def\X@picture<#1>(#2,#3){\@ifnextchar(%)
                 {\@@picture<#1>(#2,#3)}{\@@picture<#1>(#2,#3)(0,0)}}
            picture 環境の内部ではベースラインシフトの値をゼロにします。以前に設定されて
 \@@picture
            いた値は、それぞれ保存され、終了時に、その値に戻されます。
            456 \mbox{ }\mbox{\ensuremath{\texttt{Newdimen}}\mbox{\ensuremath{\texttt{SaveQybaselineshift}}}
```

458 \newdimen\@picwd

 $457 \mbox{ }\mbox{newdimen}\mbox{save@tbaselineshift}$

```
図形領域の寸法値を調整する命令を切り出しました。基本組の組み方向と直交する
\X@picture@dimens
                 場合は、高さと幅を入れ替えます。
                 459 \ifx\@defaultunitsset\@undefined
                                                       % old
                      \def\X@picture@dimens#1#2#3#4{%
                        \@picwd=#1\unitlength \@picht=#2\unitlength
                 461
                        \@tempdima=#3\unitlength \@tempdimb=#4\unitlength
                 462
                 463
                 464 \else
                                                       % 2020-10-01
                      \def\X@picture@dimens#1#2#3#4{%
                 465
                        \@defaultunitsset\@picwd{#1}\unitlength
                 466
                        \@defaultunitsset\@picht{#2}\unitlength
                 467
                        \@defaultunitsset\@tempdima{#3}\unitlength
                 468
                        \verb|\defaultunitsset|@tempdimb{#4}| unitlength|
                 469
                 470
                 471 \fi
                 \picture の内部形式です。3 組目の引数は、原点座標です。
                 472 \def\@@picture<#1>(#2,#3)(#4,#5){%
                      \save@ybaselineshift\ybaselineshift
                      \save@tbaselineshift\tbaselineshift
                      \iftdir
                 475
                 476
                        \if#1y\let\box@dir\yoko
                 477
                          X@picture@dimens{#3}{#2}{#5}{#4}%
                 478
                        \else\let\box@dir\tate
                          \X@picture@dimens{#2}{#3}{#4}{#5}%
                 479
                        \fi
                 480
                      \else
                 481
                        \if#1t\let\box@dir\tate
                 482
                          \X@picture@dimens{#3}{#2}{#5}{#4}%
                 483
                        \else\let\box@dir\yoko
                 484
                          \X@picture@dimens{#2}{#3}{#4}{#5}%
                 485
                        \fi
                 486
                 487
                      \fi
                      \setbox\@picbox\hb@xt@\@picwd\bgroup\box@dir
                 488
                        \hskip-\@tempdima
                 489
                        \lower\@tempdimb\hbox\bgroup
                 490
                 491
                          \ybaselineshift\z@ \tbaselineshift\z@
                          \ignorespaces}
                 492
                 図形領域の幅と高さを指定の大きさにしてから、出力をします。そして、最後にベー
     \endpicture
                 スラインシフトの値を元に戻します。
                 493 \def\endpicture{%
                      \egroup\hss\egroup
                 495
                      \ht\@picbox\@picht \wd\@picbox\@picwd \dp\@picbox\z@
                 496
                      \mbox{\box\@picbox}%
                      \ybaselineshift\save@ybaselineshift
                      \tbaselineshift\save@tbaselineshift}
                 picture 環境の内部で、フォントサイズ変更コマンドなどが使用された場合、ベース
            \put
           \line
         \vector
                File e: plext.dtx
                                                                                     154
        \dashbox
           \oval
```

\circle

ラインシフト量が新たに設定されてしまうため、これらのコマンドがベースラインシフトの影響を受けないように再定義をします。ベースラインシフトを有効にしたい場合は、\pbox コマンドを使用してください。

```
499 \let\org@put\put
```

- $500 \label{thm:condition} 500 \label{thm:condition} $$ 100 \label{thm:co$
- 501 %
- 502 \let\org@line\line
- $503 \end{area} $100 \le 100 \le$
- 504 %
- 505 \let\org@vector\vector
- $506 \def\vector{\ybaselineshift\z0\tbaselineshift\z0\corg0vector}$
- 507 %
- 508 \let\org@dashbox\dashbox
- 509 \def\dashbox{\ybaselineshift\z@\tbaselineshift\z@\org@dashbox}
- 510 %
- 511 \let\org@oval\oval
- $512 \end{area} being $$12 \end{area} or $$0 \to 12 \end{area} area $$12 \end{area} area area$
- 513 %
- 514 \let\org@circle\circle
- 515 \def\circle{\ybaselineshift\z@\tbaselineshift\z@\org@circle}

17.5 連数字/漢数字/傍点/下線

ここでは、連数字、漢数字、傍点、下線について説明をしています。

連数字と漢数字、および傍点と下線についての詳細は、『日本語 \LaTeX 2ε ブック』を参照してください。なお、傍点に使う文字は pldefs.ltx で定義されています。

なお、連数字コマンドは3種類ありましたが、\rensuji コマンド一つにまとめました。新しい連数字コマンドは次の構文となります。

\rensuji[$\langle pos \rangle$] \langle 横に並べる半角文字 \rangle

\rensuji*[\langle pos\] \ 横に並べる半角文字 \

アスタリスク形式の場合は、行間を連数字の幅に合わせて広げません。 $\langle pos \rangle$ は、連数字を揃える位置です。'c'(中央揃え)、'r'(右寄せ)、'1'(左寄せ)を指定できます。デフォルトでは、中央に揃えます。

次のフラグが真の場合には、連数字の幅に合わせて行間を広げ**ません**。アスタリスク形式の場合に真になります。

516 \newif\ifnot@advanceline

\rensujiskip は連数字の前後に入るアキです。デフォルトは、現在の文字の幅の4分の1を基準にしています。

- 517 \newskip\rensujiskip
- 518 \rensujiskip=0.25\chs plus.25zw minus.25zw

連数字

```
\rensuji \rensuji は、*形式かどうかを調べます。\@rensuji は、位置オプションを調べま
\Orensuji す。\OOrensujiが\rensujiの内部形式です。
\@@rensuji 519 \DeclareRobustCommand\rensuji{%
              \@ifstar{\not@advancelinetrue\@rensuji}{\@rensuji}}
          521 \def\@rensuji{\@ifnextchar[{\@@rensuji}{\@@rensuji[c]}}
          522 \def\@@rensuji[#1]#2{%
          523 \ifvmode\leavevmode\fi
          524 \left( \frac{42}{else} \right)
              \hskip\rensujiskip
              \ifnot@advanceline\not@advancelinefalse\else
          526
          527
                 \setbox\z@\hbox{\yoko#2}%
          528
                 \@tempdima\ht\z@ \advance\@tempdima\dp\z@
                 \if #1c\relax\vrule\@width\z@ \@height.5\@tempdima \@depth.5\@tempdima
          530
                 \else\if #1r\relax\vrule\@width\z@\@height\z@ \@depth\@tempdima
          531
                 \else\vrule\@width\z@ \@height\@tempdima \@depth\z@
          532
                 \fi\fi
               \fi
          533
               \if #1c\relax\hbox to1zw{\yoko\hss#2\hss}%
          534
               \else\if #1r\relax\vbox{\hbox to1zw{\yoko\hss#2}}%
          535
          536
               \else\vtop{\hbox to1zw{\yoko#2\hss}}%
               \fi\fi
          537
              \hskip\rensujiskip
          538
          539 \left| \text{fi}\left( \frac{42}{fi} \right) \right|
          540 }
 \Rensuji \Rensuji コマンドと \prensuji コマンドは、\rensuji コマンドで代用できます。
\prensuji
          541 \let\Rensuji\rensuji
          542 \let\prensuji\rensuji
          漢数字
   \Kanji \Kanji コマンドを定義します。\Kanji コマンドは \Alph と同じように、カウンタ
  \@Kanji に対してのみ使用することができます。
   \kanji
            \kanji コマンドは、後続の半角数字を漢数字にします。\kanji 1989 のように
          指定をします。ただし、横組モードのときには、何もしません。つねに漢数字にし
          たい場合は、\kansuji プリミティブを使ってください。
            後続の数字まで漢数字になってしまうバグを修正しました (Issue #33)。
          543 \def\Kanji#1{\expandafter\@Kanji\csname c@#1\endcsname}
          544 \def\@Kanji#1{\kansuji #1}
          545 \def\kanji{\iftdir\expandafter\kansuji\fi}
```

傍点

\bou は、傍点を付けるコマンドです。 \boutenchar

\bou

傍点として出力する文字は\boutencharに指定します。この文字は、いつでも、横組用フォントが使われます。デフォルトは、EUCコード A1A2(、)です。546 \def\boutenchar{\char\euc"A1A2}

```
547 \DeclareRobustCommand\bou[1]{\ifvmode\leavevmode\fi\@bou#1\end}
548 \def\@bou#1{%
    \ifx#1\end \let\next=\relax
    \else
551
      \iftdir\if@rotsw
       552
         \vss\moveleft-0.2zw\hbox{\boutenchar}\nointerlineskip
553
         \hbox{\char\euc"A1A1}}\hss{\nobreak#1\relax}
554
555
       \hbox to\z@{\boxmaxdepth\maxdimen
556
557
         \vss\moveleft0.2zw\hbox{\yoko\boutenchar}\nointerlineskip
         \hbox{\char\euc"A1A1}}\hss{\nobreak#1\relax}
558
559
        \hbox to\z0{\vbox to\z}0{\%}
561
         562
         \hbox{\char\euc"A1A1}}\hss{\nobreak#1\relax}
563
      \fi
      \let\next=\@bou
564
    fi\next
565
```

下線

\kasen 下線を引くコマンドです。横組モードのときは、引数を \underline に渡します。 縦組モードでも、回転モードの \parbox などで使われたときには、やはり引数を \underline に渡します。これ以外の場合は、引数の上に直線を引きます。

```
566 \DeclareRobustCommand\kasen[1]{%
567 \ifydir\underline{#1}%
568 \else\if@rotsw\underline{#1}\else
569 \setbox\z@\hbox{#1}\leavevmode\raise.7zw
570 \hbox to\z@{\vrule\@width\wd\z@ \@depth\z@ \@height.4\p@\hss}%
571 \box\z@
572 \fi\fi}
```

17.6 参照番号

参照番号の類を連数字で出力するように再定義します。itemize 環境などのリスト型のラベルについては、jarticle などのパッケージで定義しています。詳細は、jclasses.dtx を参照してください。

\@eqnnum これらは\equationコマンドで作成された数式に付加される番号です。ltmath.dtx \@thecounter で定義されています。

 $573 \ensuremath{\ensuremath{\mbox{\color}}} \$

```
574 \iftdir\raise.25zh\hbox{\yoko(\theequation)}%
575 \else (\theequation)\fi}}
576 \def\@thecounter#1{\noexpand\rensuji{\noexpand\arabic{#1}}}

\@thmcounter \newtheorem コマンドで作成した環境で参照されるラベルです。ltthm.dtx で定義されています。
577 \def\@thmcounter#1{\noexpand\rensuji{\noexpand\arabic{#1}}}
578 \/package\
```

 $File\ e\hbox{:}\ {\tt plext.dtx}$

File f pl209.dtx

18 DOCSTRIP 用モジュール

DOCSTRIP で以下のモジュール名を指定することで、対象となる部分を取り出すことができます。

pl209.def ファイルを生成 pl209 oldfonts oldpfont.sty を生成 style jarticle.sty ファイルを生成 jarticle jbook.sty ファイルを生成 ibook jreport.sty ファイルを生成 jreport tarticle.sty ファイルを生成 tarticle tbook.sty ファイルを生成 tbook treport treport.sty ファイルを生成

19 2.09 互換マクロ

2.09 用のコマンド定義ファイルがロードされたとき、メッセージを出力します。また、IATFX の 2.09 コマンドマクロ定義をロードします。

- 1 (*pl209)
- 2 \typeout{Entering pLaTeX 2.09 compatibility mode.}
- 3 \input{latex209.def}
- 4 (/pl209)

フォント選択コマンドのトレースのために ptrace パッケージをロードします。

- 5 (oldfonts)\RequirePackage{oldlfont}

\Rensuji p\PTEX 2_{ε} では、\Rensuji, \prensuji の動作を \rensuji コマンドがカバーして \prensuji います。

- 7 (*pl209)
- 8 \let\Rensuji\rensuji
- 9 \let\prensuji\rensuji
- 10 (/pl209)

\@footnotemark 脚注の印を出力するマクロを、組み方向に応じて、脚注の方向が変わるようにし \@makefnmark ます。

- 11 (*pl209)
- 12 \def\@footnotemark{\leavevmode

File f: pl209.dtx

```
\ifhmode\edef\@x@sf{\the\spacefactor}\fi
    \ifydir\@makefnmark
    \else\hbox to\z0{\hskip-.25zw\raise2\cht\@makefnmark\hss}\fi
16 \ifhmode\spacefactor\@x@sf\fi\relax}
17 \def\@makefnmark{\hbox{\ifydir $\m@th^{\@thefnmark}$
    \else\hbox{\yoko$\m@th^{\@thefnmark}$}\fi}}
19 (/pl209)
_{20}~\langle*\text{pl209}\rangle
21 \fontencoding{JY1}
22 \fontfamily{mc}
23 \fontsize{10}{15}
24 (/pl209)
25 \langle *pl209 \mid oldfonts \rangle
26 \DeclareSymbolFont{mincho}{JY1}{mc}{m}{n}
27 \DeclareSymbolFont{gothic}{JY1}{gt}{m}{n}
28 \DeclareSymbolFontAlphabet\mathmc{mincho}
29 \DeclareSymbolFontAlphabet\mathgt{gothic}
31 \jfam\symmincho
\mcと \gt は、和文フォントを変更しますが、欧文フォントには影響しません。
32 \DeclareRobustCommand\mc{%
      \kanjiencoding{\kanjiencodingdefault}%
33
      \kanjifamily{\mcdefault}%
34
35
      \kanjiseries{\kanjiseriesdefault}%
      \kanjishape{\kanjishapedefault}%
      \selectfont\mathgroup\symmincho}
38 \DeclareRobustCommand\gt{%
      \kanjiencoding{\kanjiencodingdefault}%
40
      \kanjifamily{\gtdefault}%
      \kanjiseries{\kanjiseriesdefault}%
41
      \kanjishape{\kanjishapedefault}%
42
      \selectfont\mathgroup\symgothic}
\bf コマンドは、和文フォントをゴシックにし、欧文フォントをボールドにします。
44 \DeclareRobustCommand\bf{\normalfont\bfseries\mathgroup\symbold\jfam\symgothic}
\rm, \sf, \sl, \sc, \it, \tt の各コマンドを、欧文ファミリだけをデフォルトフォン
トから属性を変更するようにし、和文フォントは影響を受けないように修正します。
45 \DeclareRobustCommand\roman@normal{%
      \romanencoding{\encodingdefault}%
46
47
      \romanfamily{\familydefault}%
48
      \romanseries{\seriesdefault}%
      \romanshape{\shapedefault}%
      \selectfont\ignorespaces}
51 \DeclareRobustCommand\rm{\roman@normal\rmfamily\mathgroup\symoperators}
52 \DeclareRobustCommand\sf{\roman@normal\sffamily\mathgroup\symsans}
53 \DeclareRobustCommand\s1{\roman@normal\s1shape\mathgroup\symslanted}
```

```
54 \DeclareRobustCommand\sc{\roman@normal\scshape\mathgroup\symsmallcaps}
     55 \DeclareRobustCommand\it{\roman@normal\itshape\mathgroup\symitalic}
     56 \DeclareRobustCommand\tt{\roman@normal\ttfamily\mathgroup\symtypewriter}
\em \em コマンドで、和文フォントも \gt に切り替えるようにしました。
     57 \DeclareRobustCommand\em{%
         \@nomath\em
         \ifdim \fontdimen\@ne\font>\z@\mc\rm\else\gt\it\fi}
     60 (/pl209 | oldfonts)
     61 (*pl209)
     62 \let\mcfam\symmincho
     63 \let\gtfam\symgothic
                         {\edef\f@size{\@vpt}\rm\mc}
     64 \renewcommand\vpt
     65 \renewcommand\vipt {\edef\f@size{\@vipt}\rm\mc}
     66 \renewcommand\viipt {\edef\f@size{\@viipt}\rm\mc}
     67 \renewcommand\viiipt{\edef\f@size{\@viiipt}\rm\mc}
     68 \renewcommand\ixpt {\edef\f@size{\@ixpt}\rm\mc}
     69 \renewcommand\xpt
                          {\edef\f@size{\@xpt}\rm\mc}
     70 \renewcommand\xipt {\edef\f@size{\@xipt}\rm\mc}
     71 \renewcommand\xiipt {\edef\f@size{\@xiipt}\rm\mc}
     72 \renewcommand\xivpt {\edef\f@size{\@xivpt}\rm\mc}
     73 \renewcommand\xviipt{\edef\f@size{\@xviipt}\rm\mc}
     75 \renewcommand\xxvpt {\edef\f@size{\@xxvpt}\rm\mc}
     76 (/pl209)
    そして、最後に p1209.cfg というファイルがあれば、それをロードします。
```

20 スタイルファイル

77 $\langle p|209\rangle \setminus InputIfFileExists\{p|209.cfg\}\{\}\{\}$

以下は、pIFIEX 2.09 での標準スタイルファイルです。pIFIEX 2_{ε} のクラスファイルをロードするようにしています。

File f: pl209.dtx

```
92 \LoadClass{jbook}
93 \/jbook\
94 \*tbook\
95 \@obsoletefile{tbook.cls}{tbook.sty}
96 \LoadClass{tbook}
97 \/tbook\
98 \*jreport\
99 \@obsoletefile{jreport.cls}{jreport.sty}
100 \LoadClass{jreport}
101 \/jreport\
102 \*treport\
103 \@obsoletefile{treport.cls}{treport.sty}
104 \LoadClass{treport}
105 \/treport\
106 \/style\
```

File g

kinsoku.dtx

このファイルは、禁則と文字間スペースの設定について説明をしています。日本語 T_{EX} の機能についての詳細は、『日本語 T_{EX} テクニカルブック I』を参照してください。

なお、このファイルのコード部分は、以前のバージョンで配布された kinsoku.tex と同一です。

1 (*plcore)

21 禁則

ある文字を行頭禁則の対象にするには、\prebreakpenaltyに正の値を指定します。 ある文字を行末禁則の対象にするには、\postbreakpenaltyに正の値を指定しま す。数値が大きいほど、行頭、あるいは行末で改行されにくくなります。

21.1 半角文字に対する禁則

ここでは、半角文字に対する禁則の設定を行なっています。

- 2 \prebreakpenalty'!=10000
- 3 \prebreakpenalty'"=10000
- 4 \postbreakpenalty'\#=500
- 5 \postbreakpenalty'\\$=500
- 6 \prebreakpenalty'\%=500
- 7 \prebreakpenalty'\&=500
- $9 \prebreakpenalty",=10000$
- 10 \prebreakpenalty')=10000
- 11 \postbreakpenalty (=10000
- 12 \prebreakpenalty'*=500
- $13 \prebreakpenalty'+=500$
- 14 \prebreakpenalty '-=10000
- 15 \prebreakpenalty'.=10000
- $16 \prebreakpenalty',=10000$
- 17 \prebreakpenalty'/=500
- 18 \prebreakpenalty';=10000
- 19 \prebreakpenalty'?=10000
- 20 \prebreakpenalty':=10000
- $21 \prebreakpenalty']=10000$
- 22 \postbreakpenalty' [=10000

21.2 全角文字に対する禁則

ここでは、全角文字に対する禁則の設定を行なっています。

```
23 \text{ prebreakpenalty'}, =10000
24 \prebreakpenalty'_{\circ} = 10000
25 \prebreakpenalty', =10000
26 \prebreakpenalty'. =10000
27 \prebreakpenalty ' • =10000
28 \prebreakpenalty':=10000
29 \prebreakpenalty'; =10000
30 \prebreakpenalty `?=10000
31 \prebreakpenalty' ! =10000
32 \prebreakpenalty\jis"212B=10000
33 \prebreakpenalty\jis"212C=10000
34 \prebreakpenalty\jis"212D=10000
35 \postbreakpenalty\jis"212E=10000
36 \prebreakpenalty\jis"2139=10000
37 \prebreakpenalty\jis"2144=250
38 \prebreakpenalty\jis"2145=250
39 \postbreakpenalty\jis"2146=10000
40 \prebreakpenalty\jis"2147=5000
41 \postbreakpenalty\jis"2148=5000
42 \verb|\prebreakpenalty | jis" 2149 = 5000
43 \prebreakpenalty') =10000
44 \postbreakpenalty' (=10000
45 \prebreakpenalty' = 10000
46 \postbreakpenalty' {=10000
47 \prebreakpenalty' =10000
48 \postbreakpenalty' [=10000
49 \postbreakpenalty' =10000
50 \prebreakpenalty' =10000
51 \postbreakpenalty\jis"214C=10000
52 \prebreakpenalty\jis"214D=10000
53 \postbreakpenalty\jis"2152=10000
54 \prebreakpenalty\jis"2153=10000
55 \postbreakpenalty\jis"2154=10000
56 \prebreakpenalty\jis"2155=10000
57 \postbreakpenalty\jis"2156=10000
58 \prebreakpenalty\jis"2157=10000
59 \postbreakpenalty\jis"2158=10000
60 \prebreakpenalty\jis"2159=10000
61 \postbreakpenalty\jis"215A=10000
62 \prebreakpenalty\jis"215B=10000
63 \prebreakpenalty '-=10000
64 \text{ \label{eq:condition}} +=200
65 \text{ prebreakpenalty'} -=200
66 \prebreakpenalty'==200
67 \postbreakpenalty' #=200
68 \postbreakpenalty' $ =200
```

```
69 \prebreakpenalty '%=200
70 \prebreakpenalty' &=200
71 \prebreakpenalty' 5 = 150
72 \prebreakpenalty' w=150
73 \prebreakpenalty' 5 =150
74 \prebreakpenalty'え=150
75 \prebreakpenalty' お=150
76 \prebreakpenalty' ⇒=150
77 \prebreakpenalty' ≈=150
78 \prebreakpenalty' ⋈=150
79 \prebreakpenalty' & =150
80 \prebreakpenalty\jis"246E=150
81 \prebreakpenalty' 7=150
82 \prebreakpenalty' < =150
83 \prebreakpenalty'ゥ=150
84 \prebreakpenalty' x=150
85 \prebreakpenalty'オ=150
86 \text{ \prebreakpenalty'} = 150
87 \prebreakpenalty' \tau=150
88 \prebreakpenalty' = 150
89 \prebreakpenalty' ==150
90 \prebreakpenalty\jis"256E=150
91 \prebreakpenalty\jis"2575=150
92 \prebreakpenalty\jis"2576=150
```

22 文字間のスペース

ある英字の前後と、その文字に隣合う漢字に挿入されるスペースを制御するには、\xspcode を用います。

ある漢字の前後と、その文字に隣合う英字に挿入されるスペースを制御するには、 \inhibitxspcode を用います。

22.1 ある英字と前後の漢字の間の制御

ここでは、英字に対する設定を行なっています。 指定する数値とその意味は次のとおりです。

- 0 前後の漢字の間での処理を禁止する。
- 1 直前の漢字との間にのみ、スペースの挿入を許可する。
- 2 直後の漢字との間にのみ、スペースの挿入を許可する。
- 3 前後の漢字との間でのスペースの挿入を許可する。

```
93 \xspcode'(=1
94 \xspcode')=2
95 \xspcode'[=1
```

```
96 \xspcode']=2

97 \xspcode''=1

98 \xspcode''=2

99 \xspcode':=2

100 \xspcode';=2

101 \xspcode',=2

102 \xspcode'.=2
```

T1 などの 8 ビットフォントエンコーディングで 128–255 の文字は欧文文字ですので、周囲の和文文字との間に \xkanjiskip が挿入される必要があります。そこで、奥村さんの jsclasses や田中さんの upl $\Upsilon_{\rm PX}$ と同等の対処をします。

```
103 \xspcode"80=3
104 \xspcode"81=3
105 \xspcode"82=3
106 \xspcode"83=3
107 \xspcode"84=3
108 \xspcode"85=3
109 \xspcode"86=3
110 \xspcode"87=3
111 \xspcode"88=3
112 \xspcode"89=3
113 \xspcode"8A=3
114 \xspcode"8B=3
115 \xspcode"8C=3
116 \xspcode"8D=3
117 \xspcode"8E=3
118 \xspcode"8F=3
119 \xspcode"90=3
120 \xspcode"91=3
121 \xspcode"92=3
122 \xspcode"93=3
123 \xspcode"94=3
124 \xspcode"95=3
125 \xspcode"96=3
126 \xspcode"97=3
127 \times 98=3
128 \xspcode"99=3
129 \xspcode"9A=3
130 \xspcode"9B=3
131 \times 9C=3
132 \times 9D=3
133 \times 9E=3
134 \times 9F=3
135 \times 900
136 \xspcode"A1=3
137 \xspcode"A2=3
138 \xspcode"A3=3
139 \xspcode"A4=3
140 \xspcode"A5=3
```

```
141 \xspcode"A6=3
142 \xspcode"A7=3
143 \xspcode"A8=3
144 \times pcode"A9=3
145 \xspcode"AA=3
146 \spcode"AB=3
147 \times C=3
148 \mbox{xspcode"AD=3}
149 \xspcode"AE=3
150 \sprace AF=3
151 \times B0=3
152 \times B1=3
153 \xspcode"B2=3
154 \times B3=3
155 \xspcode"B4=3
156 \xspcode"B5=3
157 \xspcode"B6=3
158 \times B7=3
159 \times B8=3
160 \space "B9=3
161 \xspcode"BA=3
162 \times BB=3
163 \xspcode"BC=3
164 \times BD=3
165 \xspcode"BE=3
166 \space BF=3
167 \times code"C0=3
168 \xspcode"C1=3
169 \times C2=3
170 \xspcode"C3=3
171 \xspcode"C4=3
172 \spcode"C5=3
173 \times code"C6=3
174 \xspcode"C7=3
175 \xspcode"C8=3
176 \xspcode"C9=3
177 \xspcode"CA=3
178 \xspcode"CB=3
179 \xspcode"CC=3
180 \space "CD=3
181 \xspcode"CE=3
182 \xspcode"CF=3
183 \times D0=3
184 \times D1=3
185 \times D2=3
186 \xspcode"D3=3
187 \xspcode"D4=3
188 \times D5=3
189 \xspcode"D6=3
190 \xspcode"D7=3
```

```
191 \xspcode"D8=3
192 \xspcode"D9=3
193 \xspcode"DA=3
194 \xspcode"DB=3
195 \spreak \color=3
196 \space "DD=3
197 \xspcode"DE=3
198 \times DF=3
199 \xspcode"E0=3
200 \space"E1=3
201 \xspcode"E2=3
202 \times E3=3
203 \times E4=3
204 \spcode"E5=3
205 \xspcode"E6=3
206 \space "E7=3
207 \times E8=3
208 \times 208 = 3
209 \xspcode"EA=3
210 \xspcode"EB=3
211 \xspcode"EC=3
212 \xspcode"ED=3
213 \xspcode"EE=3
214 \xspcode"EF=3
215 \xspcode"F0=3
216 \sprode"F1=3
217 \times F2=3
218 \xspcode"F3=3
219 \xspcode"F4=3
220 \space"F5=3
221 \times F6=3
222 \spcode"F7=3
223 \times F8=3
224 \spcode"F9=3
225 \xspcode"FA=3
226 \xspcode"FB=3
227 \spcode"FC=3
228 \xspcode"FD=3
229 \xspcode"FE=3
230 \xspcode"FF=3
```

22.2 ある漢字と前後の英字の間の制御

ここでは、漢字に対する設定を行なっています。 指定する数値とその意味は次のとおりです。

- 0 前後の英字との間にスペースを挿入することを禁止する。
- 1 直前の英字との間にスペースを挿入することを禁止する。
- 2 直後の英字との間にスペースを挿入することを禁止する。
- 3 前後の英字との間でのスペースの挿入を許可する。

```
231 \inhibitxspcode', =1
232 \inhibitxspcode'<sub>o</sub> =1
233 \inhibitxspcode', =1
234 \inhibitxspcode'. =1
235 \inhibitxspcode':=1
236 \inhibitxspcode'; =1
237 \inhibitxspcode'?=1
238 \inhibitxspcode'!=1
239 \inhibitxspcode') =1
240 \inhibitxspcode' (=2
241 \inhibitxspcode'] =1
242 \inhibitxspcode' [=2
243 \inhibitxspcode'\} =1
244 \inhibitxspcode' {=2
245 \inhibitxspcode' '=2
246 \inhibitxspcode' '=1
247 \inhibitxspcode' "=2
248 \inhibitxspcode' "=1
249 \inhibitxspcode' [=2
250 \inhibitxspcode'] =1
251 \inhibitxspcode' <=2
252 \inhibitxspcode' > =1
253 \inhibitxspcode' 《=2
254 \in 254 = 1
256 \in \text{inhibitxspcode'} = 1
257 \inhibitxspcode' \mathbb{F}=2
258 \in 258 = 1
259 \inhibitxspcode' [=2
260 \inhibitxspcode' ] =1
261 \inhibitxspcode'—=0
262 \sinhibitxspcode' \sim = 0
263 \in 100
264 \inhibitxspcode' \S =0
265\ \mbox{\ \ linhibitxspcode'}\ \mbox{\ \ \ }^{\circ}\ \mbox{\ \ }=1
266 \inhibitxspcode'' =1
267 \inhibitxspcode' "=1
268 \langle /plcore \rangle
```

File h jclasses.dtx

このファイルは、pI m^4T_EX 2_{ε} の標準クラスファイルです。 $m^4DOCSTRIP$ プログラムによって、横組用のクラスファイルと縦組用のクラスファイルを作成することができます。

次に DOCSTRIP プログラムのためのオプションを示します。

オプション	意味
article	article クラスを生成
report	report クラスを生成
book	book クラスを生成
$10 \mathrm{pt}$	10pt サイズの設定を生成
11pt	11pt サイズの設定を生成
12pt	12pt サイズの設定を生成
bk	book クラス用のサイズの設定を生成
tate	縦組用の設定を生成
yoko	横組用の設定を生成

23 オプションスイッチ

ここでは、後ほど使用するいくつかのコマンドやスイッチを定義しています。

\c@@paper 用紙サイズを示すために使います。A4, A5, B4, B5 用紙はそれぞれ、1, 2, 3, 4 として表されます。

- $_{1}\left\langle \ast\mathsf{article}\mid\mathsf{report}\mid\mathsf{book}\right\rangle$
- 2 \newcounter{@paper}

\if@landscape 用紙を横向きにするかどうかのスイッチです。デフォルトは、縦向きです。

3 \newif\if@landscape \@landscapefalse

\@ptsize 組版をするポイント数の一の位を保存するために使います。0, 1, 2 のいずれかです。

 ${\tt 4 \newcommand{\{\Qptsize\}\{\}}}$

\if@restonecol 二段組時に用いるテンポラリスイッチです。

 $5 \neq 5$

\if@titlepage タイトルページやアブストラクト (概要)を独立したページにするかどうかのスイッチです。report と book スタイルのデフォルトでは、独立したページになります。

6 \newif\if@titlepage

File h: jclasses.dtx

7 (article)\@titlepagefalse 8 (report | book) \@titlepagetrue

\ifCopenright chapter レベルを右ページからはじめるかどうかのスイッチです。横組では奇数ペー ジ、縦組では偶数ページから始まることになります。report クラスのデフォルトは、 "no" です。book クラスのデフォルトは、"yes" です。

9 (!article) \newif \if@openright

\if@openleft chapter レベルを左ページからはじめるかどうかのスイッチです。日本語 TrX 開発 コミュニティ版で新たに追加されました。横組では偶数ページ、縦組では奇数ペー ジから始まることになります。report クラスと book クラスの両方で、デフォルト は "no" です。

10 (!article) \newif \if@openleft

\if@mainmatter スイッチ \@mainmatter が真の場合、本文を処理しています。このスイッチが偽の 場合は、\chapter コマンドは見出し番号を出力しません。

11 $\langle book \rangle \setminus f$ (mainmatter f)

\hour

\minute

- 12 \hour\time \divide\hour by 60\relax
- 13 \@tempcnta\hour \multiply\@tempcnta 60\relax
- 14 \minute\time \advance\minute-\@tempcnta

\if@stysize pI4TpX 2ε 2.09 互換モードで、スタイルオプションに a4j,a5p などが指定されたと きの動作をエミュレートするためのフラグです。

15 \newif\if@stysize \@stysizefalse

\if@enablejfam 日本語ファミリを宣言するために用いるフラグです。

16 \newif\if@enablejfam \@enablejfamtrue

和欧文両対応の数式文字コマンドを有効にするときに用いるフラグです。マクロの 展開順序が複雑になるのを避けるため、デフォルトでは false としてあります。

17 \newif\if@mathrmmc \@mathrmmcfalse

オプションの宣言 24

ここでは、クラスオプションの宣言を行なっています。

24.1 用紙オプション

```
用紙サイズを指定するオプションです。
18 \DeclareOption{a4paper}{\setcounter{@paper}{1}%
    \setlength\paperheight {297mm}%
20 \setlength\paperwidth {210mm}}
21 \DeclareOption{a5paper}{\setcounter{@paper}{2}%
22 \setlength\paperheight {210mm}
23 \setlength\paperwidth {148mm}}
24 \DeclareOption{b4paper}{\setcounter{@paper}{3}%
25 \setlength\paperheight {364mm}
26 \setlength\paperwidth {257mm}}
27 \DeclareOption{b5paper}{\setcounter{@paper}{4}%
28 \setlength\paperheight {257mm}
   \setlength\paperwidth {182mm}}
ドキュメントクラスに、以下のオプションを指定すると、通常よりもテキストを組
み立てる領域の広いスタイルとすることができます。
31 \DeclareOption{a4j}{\setcounter{@paper}{1}\@stysizetrue}
    \setlength\paperheight {297mm}%
    \setlength\paperwidth {210mm}}
\setlength\paperheight {210mm}
    \setlength\paperwidth {148mm}}
\setlength\paperheight {364mm}
    \setlength\paperwidth {257mm}}
40 \DeclareOption{b5j}{\setcounter{@paper}{4}\@stysizetrue
    \setlength\paperheight {257mm}
42
    \setlength\paperwidth {182mm}}
43 %
44 \DeclareOption{a4p}{\setcounter{@paper}{1}\@stysizetrue}
45 \setlength\paperheight {297mm}%
    \setlength\paperwidth {210mm}}
47 \DeclareOption{a5p}{\setcounter{@paper}{2}\@stysizetrue
   \setlength\paperheight {210mm}
49 \setlength\paperwidth {148mm}}
50 \DeclareOption{b4p}{\setcounter{@paper}{3}\@stysizetrue
   \setlength\paperheight {364mm}
52 \setlength\paperwidth {257mm}}
53 \DeclareOption{b5p}{\setcounter{@paper}{4}\@stysizetrue
   \setlength\paperheight {257mm}
   \setlength\paperwidth {182mm}}
```

24.2 サイズオプション

基準となるフォントの大きさを指定するオプションです。

 $56 \setminus if@compatibility$

```
57 \renewcommand{\@ptsize}{0}
58 \else
59 \DeclareOption{10pt}{\renewcommand{\@ptsize}{0}}
60 \fi
61 \DeclareOption{11pt}{\renewcommand{\@ptsize}{1}}
62 \DeclareOption{12pt}{\renewcommand{\@ptsize}{2}}
```

24.3 横置きオプション

このオプションが指定されると、用紙の縦と横の長さを入れ換えます。

```
63 \DeclareOption{landscape}{\@landscapetrue
```

- 64 \setlength\@tempdima{\paperheight}%
- 65 \setlength\paperheight{\paperwidth}%
- 66 \setlength\paperwidth{\@tempdima}}

24.4 トンボオプション

tombow オプションが指定されると、用紙サイズに合わせてトンボを出力します。このとき、トンボの脇に DVI を作成した日付が出力されます。作成日付の出力を抑制するには、tombow ではなく、tombo と指定をします。

ジョブ情報の書式は元々filename: 2017/3/5(13:3)のような書式でしたが、jsclasses にあわせて桁数固定の filename (2017-03-05 13:03) に直しました。

```
67 \DeclareOption{tombow}{%
68 \tombowtrue \tombowdatetrue
69 \setlength{\Qtombowwidth}{.1\pQ}%
```

- 70 \@bannertoken{%
- 71 \jobname\space(\number\year-\two@digits\month-\two@digits\day
- 72 \space\two@digits\hour:\two@digits\minute)}%
- 73 \maketombowbox}
- 74 \DeclareOption{tombo}{%
- 75 \tombowtrue \tombowdatefalse
- 76 \setlength{\@tombowwidth}{.1\p@}%
- 77 \maketombowbox}

24.5 面付けオプション

このオプションが指定されると、トンボオプションを指定したときと同じ位置に文章を出力します。作成した DVI をフィルムに面付け出力する場合などに指定をします。

78 \DeclareOption{mentuke}{%

- 79 \tombowtrue \tombowdatefalse
- 80 \setlength{\@tombowwidth}{\z@}%
- 81 \maketombowbox}

24.6 組方向オプション

このオプションが指定されると、縦組で組版をします。

24.7 両面、片面オプション

twoside オプションが指定されると、両面印字出力に適した整形を行ないます。

```
86 \label{lem:conside} \\ 86 \label{lem:conside} \\ \text{Cotwosidefalse} \\ \\
```

87 \DeclareOption{twoside}{\@twosidetrue}

24.8 二段組オプション

二段組にするかどうかのオプションです。

```
88 \DeclareOption{onecolumn}{\@twocolumnfalse}
```

89 \DeclareOption{twocolumn}{\@twocolumntrue}

24.9 表題ページオプション

Otitlepage が真の場合、表題を独立したページに出力します。

```
90 \DeclareOption{titlepage}{\@titlepagetrue}
```

91 \DeclareOption{notitlepage}{\@titlepagefalse}

24.10 右左起こしオプション

chapter を右ページあるいは左ページからはじめるかどうかを指定するオプションです。openleft オプションは日本語 T_{EX} 開発コミュニティによって追加されました。

```
92 \larticle\\if@compatibility
93 \larticle\\openrighttrue
94 \larticle\\else
95 \larticle\\DeclareOption{openright}{\@openrighttrue\@openleftfalse}
96 \larticle\\DeclareOption{openleft}{\@openlefttrue\@openleftfalse}
97 \larticle\\DeclareOption{openany}{\@openrightfalse\@openleftfalse}
98 \larticle\\fi
```

24.11 数式のオプション

leqno を指定すると、数式番号を数式の左側に出力します。fleqn を指定するとディスプレイ数式を左揃えで出力します。

```
99 \DeclareOption{leqno}{\input{leqno.clo}}
100 \DeclareOption{fleqn}{\input{fleqn.clo}}
```

24.12 参考文献のオプション

参考文献一覧を"オープンスタイル"の書式で出力します。これは各ブロックが改行で区切られ、\bibindent のインデントが付く書式です。

101 \DeclareOption{openbib}{%

参考文献環境内の最初のいくつかのフックを満たします。

```
102 \AtEndOfPackage{%
103 \renewcommand\@openbib@code{%
104 \advance\leftmargin\bibindent
105 \itemindent -\bibindent
106 \listparindent \itemindent
107 \parsep \z@
108 }%
```

そして、\newblockを再定義します。

109 \renewcommand\newblock{\par}}}

24.13 日本語ファミリ宣言の抑制、和欧文両対応の数式文字

 $pIFT_EX 2_{\varepsilon}$ は、このあと、数式モードで直接、日本語を記述できるように数式ファミリを宣言します。しかし、 T_EX で扱える数式ファミリの数が 16 個なので、その他のパッケージと組み合わせた場合、数式ファミリを宣言する領域を超えてしまう場合があるかもしれません。そのときには、残念ですが、そのパッケージか、数式内に直接、日本語を記述するのか、どちらかを断念しなければなりません。このクラスオプションは、数式内に日本語を記述するのをあきらめる場合に用います。

disablejfam オプションを指定しても \textmc や \textgt などを用いて、数式内に日本語を記述することは可能です。

日本語 T_{EX} 開発コミュニティによる補足:コミュニティ版 pIFT_{EX} の 2016/11/29 以降の版では、e-p T_{EX} の拡張機能(通称「旧 FAM256 パッチ」)が利用可能な場合 に、IFT_{EX} の機能で宣言できる数式ファミリ(数式アルファベット)の上限を 256 個に増やしています。したがって、新しい環境では disable jfam を指定しなくても 上限を超えることが起きにくくなっています。

mathrmmc オプションは、\mathrm と \mathbf を和欧文両対応にするためのクラスオプションです。

```
110 \if@compatibility
111 \@mathrmmctrue
112 \else
113 \DeclareOption{disablejfam}{\@enablejfamfalse}
114 \DeclareOption{mathrmmc}{\@mathrmmctrue}
115 \fi
```

24.14 ドラフトオプション

draft オプションを指定すると、オーバフルボックスの起きた箇所に、5pt の罫線が引かれます。

117 \DeclareOption{final}{\setlength\overfullrule{Opt}}

118 (/article | report | book)

24.15 オプションの実行

```
オプションの実行、およびサイズクラスのロードを行ないます。
```

```
119 (*article | report | book)
```

- 120 (*article)
- 121 \(\tate\)\ExecuteOptions{a4paper,10pt,oneside,onecolumn,final,tate}
- 122 (yoko) \ExecuteOptions{a4paper,10pt,oneside,onecolumn,final}
- 123 (/article)
- 124 (*report)
- 125 (tate) \ExecuteOptions{a4paper, 10pt, oneside, onecolumn, final, openany, tate}
- 126 (yoko) \ExecuteOptions{a4paper, 10pt, oneside, onecolumn, final, openany}
- $127 \langle / \text{report} \rangle$
- $128 \langle *book \rangle$
- 129 (tate) \ExecuteOptions {a4paper, 10pt, twoside, one column, final, open right, tate}
- 130 (yoko) \ExecuteOptions{a4paper,10pt,twoside,onecolumn,final,openright}
- 131 (/book)
- 132 \ProcessOptions\relax
- 133 (book & tate) \input{tbk1\@ptsize.clo}
- 134 (!book & tate) \input{tsize1\@ptsize.clo}
- 135 $\langle book \& yoko \rangle \setminus input{jbk1 \setminus @ptsize.clo}$
- 136 (!book & yoko)\input{jsize1\@ptsize.clo}

縦組用クラスファイルの場合は、ここで plext.sty も読み込みます。

- 137 $\langle tate \rangle \setminus RequirePackage\{plext\}$
- 138 (/article | report | book)

25 フォント

ここでは、LATEX のフォントサイズコマンドの定義をしています。フォントサイズコマンドの定義は、次のコマンドを用います。

 $\ensuremath{\texttt{Qsetfontsize}}\sl baselineskip \rangle$

〈font-size〉これから使用する、フォントの実際の大きさです。

 $\langle baselineskip \rangle$ 選択されるフォントサイズ用の通常の \baselineskip の値です (実際は、\baselinestretch * $\langle baselineskip \rangle$ の値です)。

数値コマンドは、次のように IATEX カーネルで定義されています。

\normalsize 基本サイズとするユーザレベルのコマンドは\normalsizeです。IFTEX の内部では \Cnormalsize \Cnormalsize を使用します。

\normalsizeマクロは、\abovedisplayskipと\abovedisplayshortskip、および\belowdisplayshortskipの値も設定をします。\belowdisplayskipは、つねに \abovedisplayskip と同値です。

また、リスト環境のトップレベルのパラメータは、つねに \@listI で与えられます。

```
139 (*10pt | 11pt | 12pt)
140 \renewcommand{\normalsize}{%
141 (10pt & yoko)
                    \@setfontsize\normalsize\@xpt{15}%
142 (11pt & yoko)
                    \@setfontsize\normalsize\@xipt{15.5}%
143 (12pt & yoko)
                    \@setfontsize\normalsize\@xiipt{16.5}%
144 \langle 10pt \& tate \rangle
                   \@setfontsize\normalsize\@xpt{17}%
145 \langle 11pt \& tate \rangle
                   \@setfontsize\normalsize\@xipt{17}%
146 (12pt & tate)
                   \@setfontsize\normalsize\@xiipt{18}%
147 (*10pt)
     \abovedisplayskip 10\p0 \plus2\p0 \plus5\p0
     \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
     \belowdisplayshortskip 6\p@ \@plus3\p@ \@minus3\p@
151 (/10pt)
152 (*11pt)
     \abovedisplayskip 11\p@ \@plus3\p@ \@minus6\p@
153
     \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
     \belowdisplayshortskip 6.5\p@ \@plus3.5\p@ \@minus3\p@
156 \langle /11pt \rangle
157 (*12pt)
     \abovedisplayskip 12\p@ \@plus3\p@ \@minus7\p@
     \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
     \belowdisplayshortskip 6.5\p@ \@plus3.5\p@ \@minus3\p@
160
161 (/12pt)
162
      \belowdisplayskip \abovedisplayskip
      \let\@listi\@listI}
```

ここで、ノーマルフォントを選択し、初期化をします。このとき、縦組モードならば、デフォルトのエンコードを変更します。

```
164 (tate)\def\kanjiencodingdefault{JT1}%
```

166 \normalsize

\normalsize を robust にします。すぐ上で \DeclareRobustCommand とせずに、 カーネルの定義を \renewcommand した後に \MakeRobust を使っている理由は、ログ

¹⁶⁵ $\langle tate \rangle \setminus kanjiencoding{\{kanjiencodingdefault\}}\%$

```
に LaTeX Info: Redefining \normalsize on input line ... というメッセー
       ジを出したくないからです。ただし、latexrelease パッケージで 2015/01/01 より昔
       の日付に巻き戻っている場合は \MakeRobust が定義されていません。
       167 \ifx\MakeRobust\@undefined \else
       168 \MakeRobust\normalsize
       169 \fi
  \Cht 基準となる長さの設定をします。これらのパラメータは plfonts.dtx で定義されて
  \Cdp います。基準とする文字を「全角空白」(EUC コード 0xA1A1) から「漢」(JIS コー
  \Cwd ド 0x3441) へ変更しました。
  \Cvs 170 \setbox0\hbox{\char\jis"3441}%
 \Chs 171 \setlength\Cht{\ht0}
       172 \setlength\Cdp\{\dp0\}
       173 \setlength\Cwd{\wd0}
       174 \setlength\Cvs{\baselineskip}
       175 \setlength\Chs{\wd0}
       176 \setbox0=\box\voidb@x
\small \small コマンドの定義は、\normalsize に似ています。こちらはカーネルで未定
       義なので、直接 \DeclareRobustCommand で定義します。
       177 \DeclareRobustCommand{\small}{%
       178 (*10pt)
            \@setfontsize\small\@ixpt{11}%
       179
            \abovedisplayskip 8.5\p@ \@plus3\p@ \@minus4\p@
            181
            \verb|\belowdisplayshortskip| 4\p@ \eglus2\p@ \eglus2\p@ \eglus2\p@
       182
            \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
       183
                       \topsep 4\p@ \plus2\p@ \eminus2\p@
       184
       185
                       \parsep 2\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
       186
                       \itemsep \parsep}%
       187 (/10pt)
       188 (*11pt)
            \@setfontsize\small\@xpt\@xiipt
            \label{localize} $$\aboved is playskip 10\p@ \@plus2\p@ \@minus5\p@ \end{substitute} $$
       190
            \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
       191
            \belowdisplayshortskip 6\p@ \@plus3\p@ \@minus3\p@
       192
            \label{leftmargin} $$ \ef{0} isti{\left\{ \operatorname{margin} \right\} } $$
       193
                       \topsep 6\p@ \plus2\p@ \eminus2\p@
       194
                       \parsep 3\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
       195
                       \itemsep \parsep}%
       196
       197 (/11pt)
       198 (*12pt)
           \@setfontsize\small\@xipt{13.6}%
       199
           200
       201
           \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
            \belowdisplayshortskip 6.5\p@ \@plus3.5\p@ \@minus3\p@
       202
            \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
```

```
topsep 9\\p@ \\p@ \\plus3\\p@ \\pminus5\\p@
             204
                            \parsep 4.5\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
             205
                            \itemsep \parsep}%
             206
             207 (/12pt)
                 \belowdisplayskip \abovedisplayskip}
             208
             \footnotesize コマンドの定義は、\normalsize に似ています。こちらも直接
\footnotesize
             \DeclareRobustCommand で定義します。
             209 \DeclareRobustCommand{\footnotesize}{%
             210 (*10pt)
             211
                  \@setfontsize\footnotesize\@viiipt{9.5}%
             212
                  \abovedisplayskip 6\p@ \@plus2\p@ \@minus4\p@
                  \abovedisplayshortskip \z@ \@plus\p@
                  \belowdisplayshortskip 3\p@ \@plus\p@ \@minus2\p@
                  \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
             216
                            \topsep 3\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
                            217
             218
                            \itemsep \parsep}%
             219 (/10pt)
             220 (*11pt)
             221
                 \@setfontsize\footnotesize\@ixpt{11}%
                  \abovedisplayskip 8\p@ \@plus2\p@ \@minus4\p@
             222
                  \above displays hortskip \z @ \plus \p @
             223
                  224
                  \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
             226
                            \topsep 4\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
             227
                             \parsep 2\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
             228
                            \itemsep \parsep}%
             229 (/11pt)
             230 (*12pt)
             231
                 \@setfontsize\footnotesize\@xpt\@xiipt
                  232
                  \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
             233
                  \belowdisplayshortskip 6\p@ \@plus3\p@ \@minus3\p@
             234
                  \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
                            237
                            \parsep 3\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
             238
                            \itemsep \parsep}%
             _{239}~\langle/12pt\rangle
                 \belowdisplayskip \abovedisplayskip}
 \scriptsize これらは先ほどのマクロよりも簡単です。これらはフォントサイズを変更するだけ
      \tiny で、リスト環境とディスプレイ数式のパラメータは変更しません。
             241 (*10pt)
      \large
             242 \DeclareRobustCommand{\scriptsize}{\@setfontsize\scriptsize\@viipt\@viiipt}
      \Large
             243 \DeclareRobustCommand{\tiny}{\@setfontsize\tiny\@vpt\@vipt}
      \LARGE
             244 \DeclareRobustCommand{\large}{\@setfontsize\large\@xiipt{17}}
             245 \DeclareRobustCommand{\Large}{\@setfontsize\Large\@xivpt{21}}
       \huge
       \Huge
```

```
246 \DeclareRobustCommand{\LARGE}{\@setfontsize\LARGE\@xviipt{25}}
                                                                                                                                              247 \label{localize} \label{localize} \label{localize} \\ 247 \label{localize} \label{localize} \label{localize} \label{localize} \\ 247 \label{localize} \labe
                                                                                                                                              248 \ensuremath{\label{logelements} \ensuremath{\labelements} \ensuremath{\label
                                                                                                                                              249 (/10pt)
                                                                                                                                              250 (*11pt)
                                                                                                                                              251 \DeclareRobustCommand{\scriptsize}{\@setfontsize\scriptsize\@viiipt{9.5}}
                                                                                                                                              252 \ensuremath{\lower.pmand{\tiny}{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\contint{\
                                                                                                                                              253 \ensuremath{\large}{\command{\large}} \ensuremath{\large}{\comma
                                                                                                                                              254 \ensuremath{\large}{\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\large\lar
                                                                                                                                              256 \label{localize} $$ \end{\mathbf \def} \ \cline{28} $$ \end{\mathbf \def} $$ \end{\mathbf 
                                                                                                                                              257 \DeclareRobustCommand{\Huge}{\@setfontsize\Huge\@xxvpt{33}}
                                                                                                                                              258 (/11pt)
                                                                                                                                              259 (*12pt)
                                                                                                                                              261 \DeclareRobustCommand{\tiny}{\@setfontsize\tiny\@vipt\@vipt}
                                                                                                                                              262 \end{Command} \end{\large} {\tt Qsetfontsize} \end{\large} \end{Cxivpt} \end{\large} \end{Cxivpt} \end{Cx
                                                                                                                                              264 \label{large} \label{large} \end{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{\command{
                                                                                                                                              265 \ensuremath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmath{\lowernthmat
                                                                                                                                              266 \let\Huge=\huge
                                                                                                                                              267 (/12pt)
                                                                                                                                              268 (/10pt | 11pt | 12pt)
                                                                                                                                     このクラスファイルが意図する和文スケール値(1zw÷要求サイズ)を表す実数値
\Cjascale
                                                                                                                                              マクロ \Cjascale を定義します。この pLATFX 2<sub>6</sub> の標準クラスでは、フォーマット
                                                                                                                                              作成時に読み込まれたフォント定義ファイル(jy1mc.fd / jy1gt.fd / jt1mc.fd /
                                                                                                                                              jt1gt.fd) での和文スケール値がそのまま有効ですので、これは0.962216です。
                                                                                                                                              269 (*article | report | book)
                                                                                                                                              270 \def\Cjascale{0.962216}
                                                                                                                                              271 \langle / article \mid report \mid book \rangle
                                                                                                                                                                                                                                          レイアウト
                                                                                                                                              26
```

26.1 用紙サイズの決定

```
\columnsep は、二段組のときの、左右(あるいは上下)の段間の幅です。このス
\columnseprule ペースの中央に \columnseprule の幅の罫線が引かれます。

272 ⟨*article | report | book⟩
273 \if@stysize
274 ⟨tate⟩ \setlength\columnsep{3\Cwd}
275 ⟨yoko⟩ \setlength\columnsep{2\Cwd}
276 \else
277 \setlength\columnsep{10\p0}
278 \fi
279 \setlength\columnseprule{0\p0}
```

26.2 段落の形

\lineskip これらの値は、行が近付き過ぎたときの TFX の動作を制御します。

\normallineskip 280 \setlength\lineskip{1\p0}

281 \setlength\normallineskip{1\p0}

\baselinestretch これは、\baselineskip の倍率を示すために使います。デフォルトでは、何もし

ません。このコマンドが "empty" でない場合、\baselineskip の指定の plus や

minus 部分は無視されることに注意してください。

282 \renewcommand{\baselinestretch}{}

\parskip \parskip は段落間に挿入される、縦方向の追加スペースです。\parindent は段落

\parindent の先頭の字下げ幅です。

283 \setlength\parskip{0\p0 \@plus \p0}

 $284 \setlength\parindent{1\Cwd}$

\smallskipamount これら3つのパラメータの値は、LATEX カーネルの中で設定されています。これら

\medskipamount はおそらく、サイズオプションの指定によって変えるべきです。しかし、LATeX 2.09

\bigskipamount や $ext{LAT}_{ ext{E\!X}}\,2_{arepsilon}$ の以前のリリースの両方との互換性を保つために、これらはまだ同じ値

としています。

285 (*10pt | 11pt | 12pt)

286 \setlength\smallskipamount{3\p@ \@plus 1\p@ \@minus 1\p@}

287 \setlength\medskipamount{6\p@ \@plus 2\p@ \@minus 2\p@}

288 \setlength\bigskipamount{12\p0 \@plus 4\p0 \@minus 4\p0}

289 (/10pt | 11pt | 12pt)

\@lowpenalty \nopagebreak と \nolinebreak コマンドは、これらのコマンドが置かれた場所に、

\@medpenalty ペナルティを起いて、分割を制御します。置かれるペナルティは、コマンドの引数に

\Chighpenalty よって、\Clowpenalty, \Cmedpenalty, \Chighpenalty のいずれかが使われます。

290 \@lowpenalty 51

 $291 \mbox{\em 0medpenalty} 151$

292 \@highpenalty 301

293 (/article | report | book)

26.3 ページレイアウト

26.3.1 縦方向のスペース

\headheight \headheight は、ヘッダが入るボックスの高さです。\headsep は、ヘッダの下端

\headsep と本文領域との間の距離です。\topskip は、本文領域の上端と1行目のテキスト

\topskip のベースラインとの距離です。

294 (*10pt | 11pt | 12pt)

 $295 \setlength\headheight{12\p0}$

296 (*tate)

```
298 \ifnum\c@@paper=2 % A5
                      \setlength\headsep{6mm}
             300
                  \else % A4, B4, B5 and other
                     \setlength\headsep{8mm}
             301
             302
             303 \else
                      \setlength\headsep{8mm}
             304
             305 \fi
             306 \langle / tate \rangle
             307 (*yoko)
             308 \langle !bk \rangle \setlength \headsep{25\p0}
             309 (10pt & bk)\setlength\headsep{.25in}
             310 \langle 11pt \& bk \rangle \setminus setlength \setminus headsep \{.275in\}
             311 \langle 12pt \& bk \rangle \setminus setlength \setminus headsep \{.275in\}
             312 (/yoko)
             313 \setlength\topskip{1\Cht}
\footskip \footskip は、本文領域の下端とフッタの下端との距離です。フッタのボックスの
             高さを示す、\footheight は削除されました。
             314 <tate \setlength\footskip{14mm}
             315 (*yoko)
             316 \langle !bk \rangle \setlength footskip{30p@}
             317 (10pt & bk)\setlength\footskip{.35in}
             318 (11pt & bk)\setlength\footskip{.38in}
             319 \langle 12pt \& bk \rangle \setminus \{12pt \& bk \} \setminus \{30 \neq 0\}
             320 (/yoko)
```

\maxdepth T_{EX} のプリミティブレジスタ \maxdepth は、\topskip と同じような働きをします。 \@maxdepth レジスタは、つねに \maxdepth のコピーでなくてはいけません。これ は \begin{document}の内部で設定されます。 T_{EX} と PT_{EX} 2.09 では、\maxdepth は 4pt に固定です。 PT_{EX} 2 ε では、\maxdepth+\topskip を基本サイズの 1.5 倍に したいので、\maxdepth を \topskip の半分の値で設定します。

```
321 \if@compatibility
322 \setlength\maxdepth{4\p@}
323 \else
324 \setlength\maxdepth{.5\topskip}
```

325 \fi

26.3.2 本文領域

297 \if@stysize

\textheight と \textwidth は、本文領域の通常の高さと幅を示します。縦組でも横組でも、"高さ" は行数を、"幅" は字詰めを意味します。後ほど、これらの長さに \topskip の値が加えられます。

\textwidth 基本組の字詰めです。

互換モードの場合: 326 \if@compatibility 互換モード:a4j や b5j のクラスオプションが指定された場合の設定: \if@stysize \ifnum\c@@paper=2 % A5 328 \if@landscape 330 (10pt & yoko) $\stingth\textwidth{47\Cwd}$ 331 (11pt & yoko) \setlength\textwidth{42\Cwd} 332 (12pt & yoko) \setlength\textwidth{40\Cwd} 333 (10pt & tate) $\stingth\textwidth{27\Cwd}$ $334~\langle 11 pt~\&~tate \rangle$ \setlength\textwidth{25\Cwd} $\stingth\textwidth{23\Cwd}$ 335 (12pt & tate) 336 \else 337 (10pt & yoko) \setlength\textwidth{28\Cwd} 338 (11pt & yoko) \setlength\textwidth{25\Cwd} 339 (12pt & yoko) \setlength\textwidth{24\Cwd} 340 **(10pt & tate)** $\stingth\textwidth{46\Cwd}$ 341 **(11pt** & tate) $\setlength\textwidth{42\Cwd}$ 342 (12pt & tate) $\stingth\textwidth{38\Cwd}$ 343 \fi \else\ifnum\c@@paper=3 % B4 344 \if@landscape 345 $\stingth\textwidth{75\Cwd}$ 346 (10pt & yoko) 347 (11pt & yoko) \setlength\textwidth{69\Cwd} 348 (12pt & yoko) \setlength\textwidth{63\Cwd} 349 (10pt & tate) \setlength\textwidth{53\Cwd} 350 (11pt & tate) \setlength\textwidth{49\Cwd} 351 **(12pt & tate)** $\stingth\textwidth{44\Cwd}$ 352 \else 353 (10pt & yoko) $\stingth\textwidth{60\Cwd}$ 354 (11pt & yoko) \setlength\textwidth{55\Cwd} 355 (12pt & yoko) $\stingth\textwidth{50\Cwd}$ $356 \langle 10pt \& tate \rangle$ $\stingth\textwidth{85\Cwd}$ 357 (11pt & tate) \setlength\textwidth{76\Cwd} 358 (12pt & tate) $\stingth\textwidth{69\Cwd}$ 359 \fi \else\ifnum\c@@paper=4 % B5 \if@landscape 362 (10pt & yoko) $\stingth\textwidth{60\Cwd}$ 363 (11pt & yoko) \setlength\textwidth{55\Cwd} 364 (12pt & yoko) \setlength\textwidth{50\Cwd} 365 (10pt & tate) $\setlength\textwidth{34\Cwd}$ $366 \langle 11pt \& tate \rangle$ \setlength\textwidth{31\Cwd} $_{367}$ $\langle 12pt \& tate \rangle$ \setlength\textwidth{28\Cwd} 368 \else 369 (10pt & yoko) \setlength\textwidth{37\Cwd}

\setlength\textwidth{34\Cwd}

\setlength\textwidth{31\Cwd}

\setlength\textwidth{55\Cwd}

370 (11pt & yoko)

371 (12pt & yoko)

372 (10pt & tate)

```
373 (11pt & tate)
                       \setlength\textwidth{51\Cwd}
374 (12pt & tate)
                       \setlength\textwidth{47\Cwd}
         \fi
376
       \else % A4 ant other
377
         \if@landscape
378 (10pt & yoko)
                        \setlength\textwidth{73\Cwd}
379 (11pt & yoko)
                        \setlength\textwidth{68\Cwd}
380 (12pt & yoko)
                        \stingth\textwidth{61\Cwd}
381 \langle 10pt \& tate \rangle
                       \stingth\textwidth{41\Cwd}
382 \langle 11pt \& tate \rangle
                       \setlength\textwidth{38\Cwd}
383 (12pt & tate)
                       \setlength\textwidth{35\Cwd}
384
         \else
385 (10pt & yoko)
                        386 (11pt & yoko)
                        \setlength\textwidth{43\Cwd}
387 (12pt & yoko)
                        \stingth\textwidth{40\Cwd}
388 (10pt & tate)
                       \stingth\textwidth{67\Cwd}
389 (11pt & tate)
                       \setlength\textwidth{61\Cwd}
390 (12pt & tate)
                       \stingth\textwidth{57\Cwd}
         \fi
391
392
       \fi\fi\fi
393
     \else
互換モード:デフォルト設定
394
       \if@twocolumn
         \setlength\textwidth{52\Cwd}
395
       \else
396
397 (10pt&!bk & yoko)
                          \setlength\textwidth{327\p0}
398 (11pt&!bk & yoko)
                          \setlength\textwidth{342\p0}
399 (12pt&!bk & yoko)
                          \setlength\textwidth{372\p0}
400 (10pt & bk & yoko)
                          \setlength\textwidth{4.3in}
401 (11pt & bk & yoko)
                          \setlength\textwidth{4.8in}
402 (12pt & bk & yoko)
                          \setlength\textwidth{4.8in}
403 (10pt & tate)
                     \setlength\textwidth{67\Cwd}
404 (11pt & tate)
                     \setlength\textwidth{61\Cwd}
405 \langle 12pt \& tate \rangle
                     \stingth\textwidth{57\Cwd}
406
       \fi
     \fi
407
2e モードの場合:
408 \ensuremath{\setminus} else
2e モード: a4j や b5j のクラスオプションが指定された場合の設定: 二段組では用
紙サイズの8割、一段組では用紙サイズの7割を版面の幅として設定します。
     \if@stysize
409
       \if@twocolumn
410
411 (yoko)
               \setlength\textwidth{.8\paperwidth}
               \setlength\textwidth{.8\paperheight}
412 (tate)
       \else
414 (yoko)
               \setlength\textwidth{.7\paperwidth}
415 \langle tate \rangle
               \setlength\textwidth{.7\paperheight}
```

```
416
                      \fi
              417
                    \else
              2e モード: デフォルト設定
                           \verb|\setlength|@tempdima{\paperheight}|
              418 (tate)
              419 \langle \mathsf{yoko} \rangle
                            \setlength\@tempdima{\paperwidth}
              420
                      \addtolength\@tempdima{-2in}
                           \addtolength\@tempdima{-1.3in}
              421 (tate)
              422 (yoko & 10pt)
                                  \setlength\@tempdimb{327\p@}
              423 (yoko & 11pt)
                                  \setlength\@tempdimb{342\p0}
              424 (yoko & 12pt)
                                  \setlength\@tempdimb{372\p0}
              425 (tate & 10pt)
                                  \setlength\@tempdimb{67\Cwd}
              426 (tate & 11pt)
                                  \stingth\@tempdimb{61\Cwd}
              427 \langle tate \& 12pt \rangle
                                  \setlength\@tempdimb{57\Cwd}
                      \if@twocolumn
              428
              429
                        \ifdim\@tempdima>2\@tempdimb\relax
              430
                          \setlength\textwidth{2\@tempdimb}
              431
                          \setlength\textwidth{\@tempdima}
              432
                        \fi
              433
                      \else
              434
              435
                        \ifdim\@tempdima>\@tempdimb\relax
                          \setlength\textwidth{\@tempdimb}
              436
              437
                          \setlength\textwidth{\@tempdima}
              438
                        \fi
              439
                      \fi
              440
              441
                    \fi
              442 \fi
              443 \@settopoint\textwidth
              基本組の行数です。
\textheight
                互換モードの場合:
              444 \if@compatibility
              互換モード:a4jやb5jのクラスオプションが指定された場合の設定:
                    \if@stysize
              445
                      \ifnum\c@@paper=2 % A5
              446
                        \if@landscape
              447
              448 (10pt & yoko)
                                       \setlength\textheight{17\Cvs}
              449 (11pt & yoko)
                                       \setlength\textheight{17\Cvs}
              450 (12pt & yoko)
                                       \setlength\textheight{16\Cvs}
              451 (10pt & tate)
                                       \setlength\textheight{26\Cvs}
              452 \langle 11pt \& tate \rangle
                                       \stingth\textheight{26\Cvs}
              453 (12pt & tate)
                                       \stingth\textheight{25\Cvs}
              454
                        \else
              455 \langle 10pt \& yoko \rangle
                                       \setlength\textheight{28\Cvs}
              456 \langle 11pt \& yoko \rangle
                                       \setlength\textheight{25\Cvs}
              457 (12pt & yoko)
                                       \setlength\textheight{24\Cvs}
```

```
458 (10pt & tate)
                        \setlength\textheight{16\Cvs}
459 (11pt & tate)
                        \setlength\textheight{16\Cvs}
460 (12pt & tate)
                        \setlength\textheight{15\Cvs}
461
          \fi
        \else\ifnum\c@@paper=3 % B4
462
463
          \if@landscape
464 (10pt & yoko)
                        \setlength\textheight{38\Cvs}
465 (11pt & yoko)
                        \stingth\textheight{36\Cvs}
466 (12pt & yoko)
                        \setlength\textheight{34\Cvs}
467 (10pt & tate)
                        \setlength\textheight{48\Cvs}
468 (11pt & tate)
                        \setlength\textheight{48\Cvs}
                        \stingth\textheight{45\Cvs}
469 (12pt & tate)
470
          \else
471 (10pt & yoko)
                        \setlength\textheight{57\Cvs}
472 (11pt & yoko)
                        \setlength\textheight{55\Cvs}
473 (12pt & yoko)
                        \stingth\textheight{52\Cvs}
474 (10pt & tate)
                        \setlength\textheight{33\Cvs}
475 (11pt & tate)
                        \setlength\textheight{33\Cvs}
476 (12pt & tate)
                        \stingth\textheight{31\Cvs}
477
          \fi
478
        \else\ifnum\c@@paper=4 % B5
          \if@landscape
480 (10pt & yoko)
                        \setlength\textheight{22\Cvs}
481 (11pt & yoko)
                        \setlength\textheight{21\Cvs}
482 (12pt & yoko)
                        \setlength\textheight{20\Cvs}
483 (10pt & tate)
                        \stingth\textheight{34\Cvs}
484 (11pt & tate)
                        \stingth\textheight{34\Cvs}
485 (12pt & tate)
                        \setlength\textheight{32\Cvs}
         \else
486
487 (10pt & yoko)
                        \setlength\textheight{35\Cvs}
488 (11pt & yoko)
                        \setlength\textheight{34\Cvs}
489 (12pt & yoko)
                        \setlength\textheight{32\Cvs}
490 (10pt & tate)
                        \setlength\textheight{21\Cvs}
491 (11pt & tate)
                        \setlength\textheight{21\Cvs}
492 (12pt & tate)
                        \setlength\textheight{20\Cvs}
493
          \fi
        \else % A4 and other
494
495
          \if@landscape
496 (10pt & yoko)
                        \stingth\textheight{27\Cvs}
497 (11pt & yoko)
                        \setlength\textheight{26\Cvs}
498 (12pt & yoko)
                        \setlength\textheight{25\Cvs}
499 (10pt & tate)
                        \setlength\textheight{41\Cvs}
500 (11pt & tate)
                        \setlength\textheight{41\Cvs}
501 (12pt & tate)
                        \setlength\textheight{38\Cvs}
502
          \else
503 (10pt & yoko)
                        \stingth\textheight{43\Cvs}
504 (11pt & yoko)
                        \stingth\textheight{42\Cvs}
505 (12pt & yoko)
                        \setlength\textheight{39\Cvs}
506 (10pt & tate)
                        \setlength\textheight{26\Cvs}
507 (11pt & tate)
                        \stingth\textheight{26\Cvs}
```

```
508 (12pt & tate)
                                                   \setlength\textheight{22\Cvs}
509
                     \fi
                \fi\fi\fi
511 (yoko)
                            \addtolength\textheight{\topskip}
                                      \addtolength\textheight{\baselineskip}
512 (bk & yoko)
                           \addtolength\textheight{\Cht}
513 (tate)
514 (tate)
                            \addtolength\textheight{\Cdp}
互換モード:デフォルト設定
         \else
516 (10pt&!bk & yoko)
                                               \setlength\textheight{578\p0}
518 \langle 11pt \& yoko \rangle \quad \text{setlength} \quad \text{$18$ (11pt & yoko)}
520~\begin{tabular}{ll} 10pt \& tate \end{tabular} $$ \align{tabular}{ll} $$ \align{tabula
523 \fi
2e モードの場合:
524 \else
2e モード: a4j や b5j のクラスオプションが指定された場合の設定: 縦組では用紙サイ
ズの 70%(book) か 78%(article,report)、横組では 70%(book) か 75%(article,report)
を版面の高さに設定します。
           \if@stysize
525
526 \langle \mathsf{tate} \& \mathsf{bk} \rangle
                                     \setlength\textheight{.75\paperwidth}
527 \langle tate \& !bk \rangle
                                     \setlength\textheight{.78\paperwidth}
528 \langle yoko \& bk \rangle
                                      \setlength\textheight{.70\paperheight}
529 (yoko&!bk)
                                      \setlength\textheight{.75\paperheight}
2e モード:デフォルト値
530 \else
531 \langle \mathsf{tate} \rangle
                            \setlength\@tempdima{\paperwidth}
532 \langle yoko \rangle
                            \setlength\@tempdima{\paperheight}
533
                \addtolength\@tempdima{-2in}
534 (yoko)
                            \addtolength\@tempdima{-1.5in}
                \divide\@tempdima\baselineskip
                \@tempcnta\@tempdima
537
                \setlength\textheight{\@tempcnta\baselineskip}
538 \fi
539 \fi
最後に、\textheightに \topskip の値を加えます。
540 \addtolength\textheight{\topskip}
541 \@settopoint\textheight
```

26.3.3 マージン

\topmargin \topmargin は、"印字可能領域"—用紙の上端から1インチ内側— の上端からヘッダ部分の上端までの距離です。

```
2.09 互換モードの場合:
542 \if@compatibility
543 \langle *yoko \rangle
544
     \if@stysize
       \setlength\topmargin{-.3in}
546
547 (!bk)
            \setlength\topmargin{27\p0}
                  \setlength\topmargin{.75in}
548 (10pt & bk)
549 (11pt & bk)
                  \setlength\topmargin{.73in}
550 (12pt & bk)
                  \setlength\topmargin{.73in}
551 \fi
552 \langle /\mathsf{yoko} \rangle
553 (*tate)
554
    \if@stysize
       \ifnum\c@@paper=2 % A5
555
          \setlength\topmargin{.8in}
556
       \else % A4, B4, B5 and other
558
         \setlength\topmargin{32mm}
559
       \fi
560
    \else
       \setlength\topmargin{32mm}
561
562
563
     \addtolength\topmargin{-1in}
     \addtolength\topmargin{-\headheight}
     \verb|\addtolength| topmargin{-|headsep|}
566 (/tate)
2e モードの場合:
567 \else
     \setlength\topmargin{\paperheight}
     \addtolength\topmargin{-\headheight}
     \addtolength\topmargin{-\headsep}
          \addtolength\topmargin{-\textwidth}
           \addtolength\topmargin{-\textheight}
     \addtolength\topmargin{-\footskip}
574
     \if@stysize
       \ifnum\c@@paper=2 % A5
575
576
          \addtolength\topmargin{-1.3in}
       \else
577
          \addtolength\topmargin{-2.0in}
578
       \fi
579
    \else
580
581 (yoko)
             \addtolength\topmargin{-2.0in}
582 (tate)
             \addtolength\topmargin{-2.8in}
```

```
583
                                                                                                                                                        \fi
                                                                                                                                                        \addtolength\topmargin{-.5\topmargin}
                                                                                                                     584
                                                                                                                     585 \fi
                                                                                                                     586 \@settopoint\topmargin
                                                                                                                     \marginparsep は、本文と傍注の間にあけるスペースの幅です。横組では本文の左
             \marginparsep
                                                                                                                     (右)端と傍注、縦組では本文の下(上)端と傍注の間になります。\marginparpush
      \marginparpush
                                                                                                                     は、傍注と傍注との間のスペースの幅です。
                                                                                                                     587 \if@twocolumn
                                                                                                                     588
                                                                                                                                                   \setlength\marginparsep{10\p0}
                                                                                                                     589 \ensuremath{\setminus} \texttt{else}
                                                                                                                     590 (tate)
                                                                                                                                                                                           \setlength\marginparsep{15\p0}
                                                                                                                                                                                            \setlength\marginparsep{10\p0}
                                                                                                                     591 (yoko)
                                                                                                                     592 \fi
                                                                                                                     593 (tate)\setlength\marginparpush{7\p0}
                                                                                                                     594 (*yoko)
                                                                                                                     595 \langle 10pt \rangle \setminus 10pt \setminus
                                                                                                                     596 \langle 11pt \rangle \setminus \{5 p@\}
                                                                                                                     597 \langle 12pt \rangle \setminus \{12pt\} \setminus \{12p
                                                                                                                     598 (/yoko)
                                                                                                                      まず、互換モードでの長さを示します。
      \oddsidemargin
                                                                                                                                     互換モード、縦組の場合:
\evensidemargin
                                                                                                                     599 \if@compatibility
\marginparwidth
                                                                                                                     600 (tate)
                                                                                                                                                                                                   \setlength\oddsidemargin{0\p0}
                                                                                                                     601 \langle tate \rangle
                                                                                                                                                                                                   \sting 10 p0
                                                                                                                     互換モード、横組、book クラスの場合:
                                                                                                                     602 (*yoko)
                                                                                                                     603 (*bk)
                                                                                                                     604 (10pt)
                                                                                                                                                                                                             \setlength\oddsidemargin
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       \{.5in\}
                                                                                                                     605 \langle 11pt \rangle
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      \{.25in\}
                                                                                                                                                                                                             \setlength\oddsidemargin
                                                                                                                     606 (12pt)
                                                                                                                                                                                                             \setlength\oddsidemargin
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    \{.25in\}
                                                                                                                     607 (10pt)
                                                                                                                                                                                                             \setlength\evensidemargin {1.5in}
                                                                                                                     608 (11pt)
                                                                                                                                                                                                             \setlength\evensidemargin {1.25in}
                                                                                                                     609 (12pt)
                                                                                                                                                                                                             \setlength\evensidemargin {1.25in}
                                                                                                                     610 (10pt)
                                                                                                                                                                                                             \setlength\marginparwidth {.75in}
                                                                                                                     611 (11pt)
                                                                                                                                                                                                             \setlength\marginparwidth {1in}
                                                                                                                     _{612}~\langle 12pt\rangle
                                                                                                                                                                                                            \setlength\marginparwidth {1in}
                                                                                                                     613 (/bk)
                                                                                                                     互換モード、横組、report と article クラスの場合:
                                                                                                                     614 (*!bk)
                                                                                                                                                                        \if@twoside
                                                                                                                     615
                                                                                                                     616 (10pt)
                                                                                                                                                                                                                         \setlength\oddsidemargin
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       {44\p@}
                                                                                                                     617 \langle 11pt \rangle
                                                                                                                                                                                                                          \setlength\oddsidemargin
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       {36\p@}
                                                                                                                     618 \langle 12pt \rangle
                                                                                                                                                                                                                         \setlength\oddsidemargin
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       {21\p@}
```

```
619 (10pt)
               \setlength\evensidemargin
                                           {82\p@}
620 (11pt)
               \setlength\evensidemargin
                                           \{74 \ p0\}
621 (12pt)
               \setlength\evensidemargin
622 (10pt)
               \setlength\marginparwidth {107\p0}
               \still
623 (11pt)
624 (12pt)
               \stingth \margin par width \{85\p0\}
       \else
625
626 (10pt)
              \setlength\oddsidemargin
                                           {60\p@}
627 (11pt)
              \setlength\oddsidemargin
                                           {54\p@}
628 \langle 12pt \rangle
              \setlength\oddsidemargin
                                           {39.5 p@}
629 (10pt)
              \setlength\evensidemargin
                                          {60\p@}
630 (11pt)
                                           {54\p@}
              \setlength\evensidemargin
631 (12pt)
              \setlength\evensidemargin
                                           {39.5 p@}
632 (10pt)
              \setlength\marginparwidth
                                           {90\p@}
633 (11pt)
              \setlength\marginparwidth
                                           {83\p@}
634 (12pt)
              \setlength\marginparwidth
                                           {68\p@}
    \fi
635
636 (/!bk)
互換モード、横組、二段組の場合:
     \if@twocolumn
638
         \setlength\oddsidemargin {30\p@}
         \setlength\evensidemargin {30\p0}
639
         \setlength\marginparwidth {48\p0}
640
     \fi
641
642 (/yoko)
縦組、横組にかかわらず、スタイルオプション設定ではゼロです。
     \if@stysize
       \if@twocolumn\else
644
         \setlength\oddsidemargin{0\p0}
645
         \setlength\evensidemargin{0\p0}
646
       \fi
647
     \fi
648
  互換モードでない場合:
649 \ensuremath{\setminus} else
     \setlength\@tempdima{\paperwidth}
          \addtolength\@tempdima{-\textheight}
651 (tate)
652 \langle \mathsf{yoko} \rangle
           \verb| | add to length | @tempdima{- | textwidth|} |
  \oddsidemargin を計算します。
     \if@twoside
653
654 (tate)
            \setlength\oddsidemargin{.6\@tempdima}
655 (yoko)
             \setlength\oddsidemargin{.4\@tempdima}
656
     \else
       \setlength\oddsidemargin{.5\@tempdima}
657
658
     \addtolength\oddsidemargin{-1in}
659
```

```
\evensidemargin を計算します。
    \setlength\evensidemargin{\paperwidth}
    \addtolength\evensidemargin{-2in}
662 (tate) \addtolength\evensidemargin{-\textheight}
663 (yoko)
         \addtolength\evensidemargin{-\textwidth}
    \addtolength\evensidemargin{-\oddsidemargin}
    \@settopoint\oddsidemargin % 1999.1.6
666
    \@settopoint\evensidemargin
                   を 計 算 し ま す。こ こ で 、\@tempdima
                                                              の値は、
\marginparwidth
\paperwidth - \textwidth です。
667 (*yoko)
     \if@twoside
       \setlength\marginparwidth{.6\@tempdima}
670
       \addtolength\marginparwidth{-.4in}
671
     \else
       \setlength\marginparwidth{.5\@tempdima}
672
       \addtolength\marginparwidth\{-.4in\}
673
     \fi
674
     675
      \setlength\marginparwidth{2in}
676
677
678 (/yoko)
  縦組の場合は、少し複雑です。
679 (*tate)
    \setlength\@tempdima{\paperheight}
     \addtolength\@tempdima{-\textwidth}
681
     \addtolength\@tempdima{-\topmargin}
682
     \addtolength\@tempdima{-\headheight}
683
     \addtolength\@tempdima{-\headsep}
     \addtolength\@tempdima{-\footskip}
     \setlength\marginparwidth{.5\@tempdima}
687 (/tate)
    \@settopoint\marginparwidth
688
689 \fi
```

脚注 26.4

\footnotesep は、それぞれの脚注の先頭に置かれる"支柱"の高さです。このクラ \footnotesep スでは、通常の \footnotesize の支柱と同じ長さですので、脚注間に余計な空白 は入りません。

```
690 \langle 10pt \rangle \setminus setlength \setminus footnotesep \{6.65 \setminus p0\}
691 \langle 11pt \rangle \setminus setlength \setminus footnotesep \{7.7 \setminus p0\}
692 \langle 12pt \rangle \setminus setlength \setminus footnotesep \{8.4 \setminus p0\}
```

\footins \skip\footins は、本文の最終行と最初の脚注との間の距離です。

```
693~\langle 10 pt \rangle \ \( 2\p0 \@plus 4\p0 \@minus 2\p0 \\ 2\p0 \quad 2\p0 \\ 2\p0 \p0 \\ 2\p0 \\ 
694 \langle 11pt \rangle \setminus \{10pc \setminus 0plus 4 \neq 0 \setminus 0plus 2 \neq 0\}
695 (12pt) \end{0.8p0 \end{0.8p0} \end{0.8p0} \end{0.8p0} \end{0.8p0} $$ (12pt) \end{0
```

26.5 フロート

すべてのフロートパラメータは、IATeX のカーネルでデフォルトが定義されていま す。そのため、カウンタ以外のパラメータは \renewcommand で設定する必要があ ります。

26.5.1 フロートパラメータ

\floatsep フロートオブジェクトが本文のあるページに置かれるとき、フロートとそのページ \textfloatsep にある別のオブジェクトの距離は、これらのパラメータで制御されます。これらの \intextsep パラメータは、一段組モードと二段組モードの段抜きでないフロートの両方で使わ れます。

> \floatsep は、ページ上部あるいは下部のフロート間の距離です。 \textfloatsep は、ページ上部あるいは下部のフロートと本文との距離です。 \intextsep は、本文の途中に出力されるフロートと本文との距離です。

```
696 (*10pt)
697 \setlength\floatsep
                           {12\p@ \ensuremath{\texttt{0}}\p@ \ensuremath{\texttt{0}}\p@ \ensuremath{\texttt{0}}\p@}
698 \setlength\textfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
700~\langle/10pt\rangle
701 (*11pt)
702 \setlength\floatsep \{12\p0\ \p0\ 2\p0\ \p0\ 2\p0\}
703 \setlength\textfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
704 \setlength\intextsep \{12\p0\ \p0\ 2\p0\ \p0\ 2\p0\}
705 (/11pt)
706 (*12pt)
                          {12\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
707 \setlength\floatsep
708 \setlength\textfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
709 \setlength\intextsep \{14\p0\ \p0\ 4\p0\ \p0\ 4\p0\ \p0\}
710 (/12pt)
```

\dblfloatsep

二段組モードで、\textwidth の幅を持つ、段抜きのフロートオブジェクトが本 \dbltextfloatsep 文と同じページに置かれるとき、本文とフロートとの距離は、\dblfloatsep と \dbltextfloatsep によって制御されます。

> \dblfloatsep は、ページ上部あるいは下部のフロートと本文との距離です。 \dbltextfloatsep は、ページ上部あるいは下部のフロート間の距離です。

```
711 (*10pt)
712 \setlength\dblfloatsep
                             {12\p@ \@plus 2\p@ \@minus 2\p@}
713 \setlength\dbltextfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
714 (/10pt)
```

```
715 (*11pt)
            716 \setlength\dblfloatsep
                                         {12\p@ \@plus 2\p@ \@minus 2\p@}
            717 \setlength\dbltextfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p0}
            718 (/11pt)
            719 (*12pt)
            720 \setlength\dblfloatsep
                                         {14\p@ \ensuremath{\texttt{0plus 2\p@ \ensuremath{\texttt{0minus 4\p@}}}}
            721 \setlength\dbltextfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
            722 (/12pt)
           フロートオブジェクトが、独立したページに置かれるとき、このページのレイアウ
            トは、次のパラメータで制御されます。これらのパラメータは、一段組モードか、
   \@fpsep
           二段組モードでの一段出力のフロートオブジェクトに対して使われます。
   \@fpbot
              ページ上部では、\@fptopの伸縮長が挿入されます。ページ下部では、\@fpbot
            の伸縮長が挿入されます。フロート間には \@fpsep が挿入されます。
              なお、そのページを空白で満たすために、\@fptopと\@fpbotの少なくともどち
            らか一方に、plus ...fil を含めてください。
            723 (*10pt)
            724 \setlength\@fptop{0\p@ \@plus 1fil}
            725 \setlength\Ofpsep{8\p0 \Oplus 2fil}
            726 \setlength\@fpbot{0\p@ \@plus 1fil}
           727 \langle/10pt\rangle
            728 (*11pt)
            729 \setlength\@fptop{0\p@ \@plus 1fil}
            730 \setlength\@fpsep{8\p@ \@plus 2fil}
            731 \setlength\@fpbot{0\p@ \@plus 1fil}
            732 (/11pt)
            733 (*12pt)
            734 \setlength\@fptop\{0\p0\p0\p0\ 1fil}
            735 \setlength\@fpsep{10\p@ \@plus 2fil}
            736 \setlength\@fpbot{0\p@ \@plus 1fil}
            737 (/12pt)
\@dblfptop 二段組モードでの二段抜きのフロートに対しては、これらのパラメータが使われ
\@dblfpsep ます。
\dot{0dblfpbot} 738 \dot{*10pt}
            739 \setlength\@dblfptop\{0\polimits plus 1fil\}
            740 \setlength\@dblfpsep{8\p0\ensuremath{0} \censuremath{plus} 2fil}
            741 \setlength\@dblfpbot\{0\p0\end{0p0} \@plus 1fil}
            742 (/10pt)
            743 (*11pt)
            744 \setlength\@dblfptop\{0\polimits plus 1fil\}
            745 \setlength\@dblfpsep{8\p@ \@plus 2fil}
            746 \setlength\@dblfpbot\{0\poldsymbol{0}\poldsymbol{0}\poldsymbol{0}\poldsymbol{0}\poldsymbol{0}
            747 (/11pt)
            748 (*12pt)
            749 \setlength\@dblfptop\{0\polenotemark \center(0\polenotemark) \center(0)\polenotemark
```

750 \setlength\@dblfpsep{10\p@ \@plus 2fil}

751 \setlength\@dblfpbot $\{0\polenote{0p0}\ \polenote{0p0}\ \p$

752 (/12pt)

753 (/10pt | 11pt | 12pt)

26.5.2 フロートオブジェクトの上限値

\c@topnumber topnumber は、本文ページの上部に出力できるフロートの最大数です。

754 (*article | report | book)

755 \setcounter{topnumber}{2}

\c@bottomnumber bottomnumber は、本文ページの下部に出力できるフロートの最大数です。

756 \setcounter{bottomnumber}{1}

\c@totalnumber totalnumber は、本文ページに出力できるフロートの最大数です。

757 \setcounter{totalnumber}{3}

\c@dbltopnumber dbltopnumber は、二段組時における、本文ページの上部に出力できる段抜きのフ

ロートの最大数です。

758 \setcounter{dbltopnumber}{2}

\topfraction これは、本文ページの上部に出力されるフロートが占有できる最大の割り合いです。

759 \renewcommand{\topfraction}{.7}

\bottomfraction これは、本文ページの下部に出力されるフロートが占有できる最大の割り合いです。

760 \renewcommand{\bottomfraction}{.3}

\textfraction これは、本文ページに最低限、入らなくてはならない本文の割り合いです。

761 \renewcommand{\textfraction}{.2}

\floatpagefraction これは、フロートだけのページで最低限、入らなくてはならないフロートの割り合

いです。

762 \renewcommand{\floatpagefraction} $\{.5\}$

\dbltopfraction これは、2段組時における本文ページに、2段抜きのフロートが占めることができ

る最大の割り合いです。

763 \renewcommand{\dbltopfraction}{.7}

\dblfloatpagefraction これは、2段組時におけるフロートだけのページに最低限、入らなくてはならない

2段抜きのフロートの割り合いです。

764 \renewcommand{\dblfloatpagefraction}{.5}

27 改ページ(日本語 TeX 開発コミュニティ版のみ)

\pltx@cleartorightpage
\pltx@cleartoleftpage
\pltx@cleartooddpage
\pltx@cleartoevenpage

\cleardoublepage 命令は、 $I^{L}T_{E}X$ カーネルでは「奇数ページになるまでページを繰る命令」として定義されています。しかし $pI^{L}T_{E}X$ カーネルでは、アスキーの方針により「横組では奇数ページになるまで、縦組では偶数ページになるまでページを繰る命令」に再定義されています。すなわち、 $pI^{L}T_{E}X$ では縦組でも横組でも右ページになるまでページを繰ることになります。

pIATEX 標準クラスの book は、横組も縦組も openright がデフォルトになっていて、これは従来 pIATEX カーネルで定義された \cleardoublepage を利用していました。しかし、縦組で奇数ページ始まりの文書を作りたい場合もあるでしょうから、コミュニティ版クラスでは以下の(非ユーザ向け)命令を追加します。

- 1. \pltx@cleartorightpage: 右ページになるまでページを繰る命令
- 2. \pltx@cleartoleftpage: 左ページになるまでページを繰る命令
- 3. \pltx@cleartooddpage: 奇数ページになるまでページを繰る命令
- 4. \pltx@cleartoevenpage:偶数ページになるまでページを繰る命令

```
765 \def\pltx@cleartorightpage{\clearpage\if@twoside
     \ifodd\c@page
       \iftdir
767
         \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
768
769
         \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
770
771
     \else
       \ifydir
         \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
773
774
         \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
775
       \fi
     \fi\fi}
776
777 \def\pltx@cleartoleftpage{\clearpage\if@twoside
     \ifodd\c@page
779
       \ifydir
         \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
780
781
         \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
       \fi
782
     \else
783
       \iftdir
784
         \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
785
786
         \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
787
       \fi
     \fi\fi}
788
```

\pltx@cleartooddpage は LATEX の \cleardoublepage に似ていますが、上の 2 つに合わせるため \thispagestyle{empty}を追加してあります。

```
789 \def\pltx@cleartooddpage{\clearpage\if@twoside
    \ifodd\c@page\else
       \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
792
       \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
793
    \fi\fi}
794 \def\pltx@cleartoevenpage{\clearpage\if@twoside
     \ifodd\c@page
795
796
       \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
       \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
797
     \fi\fi}
798
```

\cleardoublepage

そして report と book クラスの場合は、ユーザ向け命令である \cleardoublepage を、openright オプションが指定されている場合は \pltx@cleartorightpage に、openleft オプションが指定されている場合は \pltx@cleartoleftpage に、それ ぞれ \let します。openany の場合は pltxpx カーネルの定義のままです。

```
799 (*!article)
800 \if@openleft
801 \let\cleardoublepage\pltx@cleartoleftpage
802 \else\if@openright
803 \let\cleardoublepage\pltx@cleartorightpage
804 \fi\fi
805 (/!article)
```

28 ページスタイル

pl $m PT_EX \, 2_{\varepsilon}$ では、つぎの 6 種類のページスタイルを使用できます。empty は ltpage.dtx で定義されています。

```
empty ヘッダにもフッタにも出力しない plain フッタにページ番号のみを出力する headnombre ヘッダにページ番号のみを出力する footnombre フッタにページ番号のみを出力する headings ヘッダに見出しとページ番号を出力する bothstyle ヘッダに見出し、フッタにページ番号を出力するページスタイル foo は、\ps@foo コマンドとして定義されます。
```

\@evenhead これらは \ps@... から呼び出され、ヘッダとフッタを出力するマクロです。

```
\@oddhead\@oddhead奇数ページのヘッダを出力\@evenfoot\@oddfoot奇数ページのフッタを出力\@oddfoot(@evenhead偶数ページのヘッダを出力\@evenfoot偶数ページのフッタを出力
```

これらの内容は、横組の場合は \textwidth の幅を持つ \hbox に入れられ、縦組の場合は \textheight の幅を持つ \hbox に入れられます。

28.1 マークについて

ヘッダに入る章番号や章見出しは、見出しコマンドで実行されるマークコマンドで決定されます。ここでは、実行されるマークコマンドの定義を行なっています。これらのマークコマンドは、 $T_{\rm EX}$ の \mark 機能を用いて、'left' と 'right' の 2 種類のマークを生成するように定義しています。

\markboth{ $\langle LEFT \rangle$ }{ $\langle RIGHT \rangle$ }: 両方のマークに追加します。 \markright{ $\langle RIGHT \rangle$ }: '右' マークに追加します。

\leftmark: \@oddhead, \@oddfoot, \@evenhead, \@evenfoot マクロで使われ、現在の "左" マークを出力します。\leftmark は T_{EX} の \botmark コマンドのような働きをします。初期値は空でなくてはいけません。

\rightmark: \@oddhead, \@oddfoot, \@evenhead, \@evenfoot マクロで使われ、現在の "右" マークを出力します。\rightmark は T_{EX} の \firstmark コマンドのような働きをします。初期値は空でなくてはいけません。

マークコマンドの動作は、左マークの'範囲内の' 右マークのために合理的になっています。たとえば、左マークは \chapter コマンドによって変更されます。そして右マークは \section コマンドによって変更されます。しかし、同一ページに複数の \markboth コマンドが現れたとき、おかしな結果となることがあります。

\tableofcontents のようなコマンドは、\@mkboth コマンドを用いて、あるページスタイルの中でマークを設定しなくてはなりません。\@mkboth は、\ps@...コマンドによって、\markboth (ヘッダを設定する)か、\@gobbletwo (何もしない)に \let されます。

28.2 plain ページスタイル

\ps@plain jpl@in に \let するために、ここで定義をします。

 $806 \ensuremath{\tt 006 \ensuremath{\tt 006} \ensurem$

807 \let\ps@jpl@in\ps@plain

808 \let\@oddhead\@empty

809 \def\@oddfoot{\reset@font\hfil\thepage\hfil}%

810 \let\@evenhead\@empty

811 \let\@evenfoot\@oddfoot}

28.3 jpl@in ページスタイル

\ps@jpl@in *jpl@in* スタイルは、クラスファイル内部で使用するものです。IMT_EX では、book クラスを headings としています。しかし、\tableof contents コマンドの内部では plain として設定されるため、一つの文書でのページ番号の位置が上下に出力されることになります。

そこで、 $pIPTFX 2_{\varepsilon}$ では、\tableofcontents や \theindex のページスタイルを jpl@in にし、実際に出力される形式は、ほかのページスタイルで \let をしていま す。したがって、headingsのとき、目次ページのページ番号はヘッダ位置に出力さ れ、plainのときには、フッタ位置に出力されます。

ここで、定義をしているのは、その初期値です。

812 \let\ps@jpl@in\ps@plain

headnombre ページスタイル 28.4

\ps@headnombre headnombre スタイルは、ヘッダにページ番号のみを出力します。

```
813 \def\ps@headnombre{\let\@mkboth\@gobbletwo
```

```
\let\ps@jpl@in\ps@headnombre
```

815 (yoko) \def\@evenhead{\thepage\hfil}%

\def\@oddhead{\hfil\thepage}% 816 (yoko)

818 (tate) \def\@oddhead{\thepage\hfil}%

819 \let\@oddfoot\@empty\let\@evenfoot\@empty}

footnombre ページスタイル 28.5

\ps@footnombre

footnombre スタイルは、フッタにページ番号のみを出力します。

```
820 \def\ps@footnombre{\let\@mkboth\@gobbletwo
```

\let\ps@jpl@in\ps@footnombre 821

822 (yoko) \def\@evenfoot{\thepage\hfil}%

823 (yoko) \def\@oddfoot{\hfil\thepage}%

 $824 \langle \mathsf{tate} \rangle$ \def\@evenfoot{\hfil\thepage}%

\let\@oddhead\@empty\let\@evenhead\@empty}

headings スタイル

headings スタイルは、ヘッダに見出しとページ番号を出力します。

\ps@headings

このスタイルは、両面印刷と片面印刷とで形式が異なります。

 $827 \footnotemark$ 827 \if@twoside

横組の場合は、奇数ページが右に、偶数ページが左にきます。縦組の場合は、奇数 ページが左に、偶数ページが右にきます。

```
\def\ps@headings{\let\ps@jpl@in\ps@headnombre
```

\let\@oddfoot\@empty\let\@evenfoot\@empty 829

830 (yoko) \def\@evenhead{\thepage\hfil\leftmark}%

831 (yoko) \def\@oddhead{{\rightmark}\hfil\thepage}%

\def\@evenhead{{\leftmark}\hfil\thepage}% 832 (tate)

833 (tate) \def\@oddhead{\thepage\hfil\rightmark}%

\let\@mkboth\markboth 834

```
835 (*article)
        \def\sectionmark##1{\markboth{%
836
           \ifnum \c@secnumdepth >\z@ \thesection.\hskip1zw\fi
838
           ##1}{}}%
        \def\subsectionmark##1{\markright{%
839
           \ifnum \c@secnumdepth >\@ne \thesubsection.\hskip1zw\fi
840
           ##1}}%
841
842 (/article)
843 (*report | book)
     \def\chaptermark##1{\markboth{%
844
         \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
845
                 \if@mainmatter
846 (book)
847
             \@chapapp\thechapter\@chappos\hskip1zw
848 (book)
849
         \fi
         ##1}{}}%
850
      \def\sectionmark##1{\markright{%
851
         \ifnum \c@secnumdepth >\z@ \thesection.\hskip1zw\fi
852
         ##1}}%
853
854 (/report | book)
855
片面印刷の場合:
856 \ensuremath{\,\backslash\,} else \% if not twoside
     \def\ps@headings{\let\ps@jpl@in\ps@headnombre
       \let\@oddfoot\@empty
858
             \def\@oddhead{{\rightmark}\hfil\thepage}%
859 (yoko)
860 (tate)
             \let\@mkboth\markboth
862 (*article)
     \def\sectionmark##1{\markright{%
864
         \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne \thesection.\hskip1zw\fi
865
         ##1}}%
866 (/article)
867 (*report | book)
868 \def\chaptermark#1{\markright{%}}
      \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
870 \langle \mathsf{book} \rangle
               \if@mainmatter
           \@chapapp\thechapter\@chappos\hskip1zw
871
872 (book)
      \fi
      ##1}}%
875 (/report | book)
876
     }
877 \fi
```

28.7 bothstyle スタイル

\ps@bothstyle bothstyle スタイルは、ヘッダに見出しを、フッタにページ番号を出力します。

```
このスタイルは、両面印刷と片面印刷とで形式が異なります。
878 \if@twoside
     \def\ps@bothstyle{\let\ps@jpl@in\ps@footnombre
880 (*yoko)
881
       \def\@evenhead{\leftmark\hfil}% right page
882
       \def\@evenfoot{\thepage\hfil}% right page
       \def\@oddhead{\hfil\rightmark}% left page
883
       \def\@oddfoot{\hfil\thepage}% left page
884
885 \langle /yoko \rangle
886 (*tate)
       \def\@evenhead{\hfil\leftmark}% right page
887
       888
889
       \def\@oddhead{\rightmark\hfil}% left page
       890
891 (/tate)
892
     \let\@mkboth\markboth
893 (*article)
894
     \def\sectionmark##1{\markboth{%
        \verb|\| \verb|\| \verb|\| c@secnumdepth > \verb|\| \verb|\| \verb|\| thesection. \verb|\| hskip1zw \verb|\| fi
895
        ##1}{}}%
896
     \def\subsectionmark##1{\markright{%
897
898
        \ifnum \c@secnumdepth >\@ne \thesubsection.\hskip1zw\fi
899
        ##1}}%
900 (/article)
901 (*report | book)
902 \def\chaptermark##1{\markboth{%}
903
        \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
904 \langle \mathsf{book} \rangle
                \if@mainmatter
905
            \verb|\dchapapp| the chapter | @chappos | hskip1zw|
906 (book)
                \fi
907
        \fi
        ##1}{}}%
908
     \def\sectionmark##1{\markright{%
909
        \ifnum \c@secnumdepth >\z@ \thesection.\hskip1zw\fi
910
        ##1}}%
911
912 (/report | book)
914 \else % if one column
915 \def\ps@bothstyle{\let\ps@jpl@in\ps@footnombre
            \def\@oddhead{\hfil\rightmark}%
916 (yoko)
917 (yoko)
            \def\@oddfoot{\hfil\thepage}%
918 (tate)
            \def\@oddhead{\rightmark\hfil}%
            919 (tate)
       \let\@mkboth\markboth
921 (*article)
     \def\sectionmark##1{\markright{%
922
        923
924
        ##1}}%
925 (/article)
```

```
926 (*report | book)
       \def\chaptermark##1{\markright{%
           \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
929 (book)
                     \if@mainmatter
                \verb|\dchapapp| the chapter \verb|\dchappos| hskip1zw|
930
931 (book)
932
           \fi
           ##1}}%
933
934 \langle / \text{report} \mid \text{book} \rangle
935
      }
936 \fi
```

28.8 myheading スタイル

\ps@myheadings myheadings ページスタイルは簡潔に定義されています。ユーザがページスタイルを設計するときのヒナ型として使用することができます。

```
937 \def\ps@myheadings{\let\ps@jpl@in\ps@plain%
938 \let\@oddfoot\@empty\let\@evenfoot\@empty
939 \square\ps@\hfil\leftmark}%
940 \square\ps@\def\@oddhead{{\rightmark}\hfil\thepage}%
941 \tate\ \def\@ovenhead{{\leftmark}\hfil\thepage}%
942 \tate\ \def\@oddhead{\thepage\hfil\rightmark}%
943 \let\@mkboth\@gobbletwo
944 \let\end{\thepage\hfil\rightmark}%
\let\chaptermark\@gobble
945 \let\sectionmark\@gobble
946 \article\ \let\subsectionmark\@gobble
947 }
```

29 文書コマンド

29.1 表題

titlepage 通常の環境では、ページの最初と最後を除き、タイトルページ環境は何もしません。また、ページ番号の出力を抑制します。レポートスタイルでは、ページ番号を1にリセットし、そして最後で1に戻します。互換モードでは、ページ番号はゼロに設定されますが、右起こしページ用のページパラメータでは誤った結果になります。二段組スタイルでも一段組のページが作られます。

日本語 $T_E X$ 開発コミュニティによる変更:上にあるのはアスキー版の説明です。改めてアスキー版の挙動を整理すると、以下のようになります。

- 1. アスキー版では、タイトルページの番号を必ず1にリセットしていましたが、これは正しくありません。これは、タイトルページが奇数ページ目か偶数ページ目かにかかわらず、レイアウトだけ奇数ページ用が適用されてしまうからです。さらに、タイトルの次のページも偶数のページ番号を持ってしまうため、両面印刷で奇数ページと偶数ページが交互に出なくなるという問題もあります。
- 2. アスキー版 book クラスは、タイトルページを必ず \cleardoublepage で始めていました。pIFTEX カーネルでの \cleardoublepage の定義から、縦組の既定ではタイトルが偶数ページ目に出ることになります。これ自体が正しくないと断定することはできませんが、タイトルのページ番号を1にリセットすることと合わさって、偶数ページに送ったタイトルに奇数ページ用レイアウトが適用されてしまうという結果は正しくありません。

そこで、コミュニティ版ではタイトルのレイアウトが必ず奇数ページ用になるという挙動を支持し、book クラスではタイトルページを奇数ページ目に送ることにしました。これでタイトルページが表紙らしく見えるようになります。また、report クラスのようなタイトルが成り行きに従って出る場合には

- 奇数ページ目に出る場合、ページ番号を1(奇数)にリセット
- 偶数ページ目に出る場合、ページ番号を 0 (偶数) にリセット

としました。

一つめの例を考えます。

\documentclass{tbook}
\title{タイトル}\author{著者}
\begin{document}
\maketitle
\chapter{チャプター}
\end{document}

アスキー版 tbook クラスでの結果は

1ページ目:空白(ページ番号1は非表示)

2ページ目:タイトル(奇数レイアウト、ページ番号1は非表示)

3ページ目:チャプター(偶数レイアウト、ページ番号2)

ですが、仮に最初の空白ページさえなければ

1ページ目:タイトルすなわち表紙(奇数レイアウト、ページ番号1は非表示)

2ページ目:チャプター(偶数レイアウト、ページ番号 2)

```
とみなせるため、コミュニティ版では空白ページを発生させないようにしました。
二つめの例を考えます。
```

```
\documentclass{tbook}
\title{タイトル}\author{著者}
\begin{document}
テスト文章
\maketitle
\chapter{チャプター}
\end{document}
```

アスキー版 tbook クラスでの結果は

```
1ページ目:テスト文章(奇数レイアウト、ページ番号 1)
2ページ目:タイトル(奇数レイアウト、ページ番号 1 は非表示)
3ページ目:チャプター(偶数レイアウト、ページ番号 2)
```

ですが、これでは奇数と偶数のページ番号が交互になっていないので正しくありません。そこで、コミュニティ版では

```
1ページ目:テスト文章(奇数レイアウト、ページ番号 1)
2ページ目:空白ページ(ページ番号 2 は非表示)
3ページ目:タイトル(奇数レイアウト、ページ番号 1 は非表示)
4ページ目:チャプター(偶数レイアウト、ページ番号 2)
```

と直しました。

なお、pIATEX 2.09 互換モードはアスキー版のまま、すなわち「ページ番号をゼロに設定」としてあります。これは、横組の右起こしの挙動としては誤りですが、縦組の右起こしの挙動としては一応正しくなっているといえます。

最初に互換モードの定義を作ります。

```
952 \if@compatibility
953 \newenvironment{titlepage}
954
       {%
955 (book)
              \cleardoublepage
        \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn
956
        \else\@restonecolfalse\newpage\fi
957
        \thispagestyle{empty}%
958
        \setcounter{page}\z@
959
960
961
       {\if@restonecol\twocolumn\else\newpage\fi
  そして、IATeX ネイティブのための定義です。
963 \ensuremath{\setminus} else
964 \newenvironment{titlepage}
965
       {%
               \pltx@cleartooddpage %% 2017/02/15
966 (book)
         \if@twocolumn
967
968
           \@restonecoltrue\onecolumn
```

File h: jclasses.dtx

```
969
                  \else
          970
                   \@restonecolfalse\newpage
          971
          972
                 \thispagestyle{empty}%
                  \ifodd\c@page\setcounter{page}\@ne\else\setcounter{page}\z@\fi %% 2017/02/15
          973
          974
                {\if@restonecol\twocolumn \else \newpage \fi
          975
          両面モードでなければ、タイトルページの直後のページのページ番号も1にします。
                 \if@twoside\else
                   \setcounter{page}\@ne
          977
                \fi
          978
          979
                }
          980 \fi
         このコマンドは、表題を作成し、出力します。表題ページを独立させるかどうかに
\maketitle
          よって定義が異なります。report と book クラスのデフォルトは独立した表題です。
          article クラスはオプションで独立させることができます。
         縦組のときは、\thanks コマンドを \p@thanks に \let します。このコマンドは
\p@thanks
          \footnotetext を使わず、直接、文字を \@thanks に格納していきます。
           著者名の脇に表示される合印は直立した数字、注釈側は横に寝た数字となってい
          ましたが、不自然なので \hbox{\yoko ...}を追加し、両方とも直立するようにし
          ました。
          981 \def\p@thanks#1{\footnotemark
              \protected@xdef\@thanks{\@thanks
                \protect{\noindent\hbox{\yoko$\m@th^\thefootnote$}#1\protect\par}}}
          984 \if@titlepage
              \newcommand{\maketitle}{\begin{titlepage}%
              \let\footnotesize\small
              \let\footnoterule\relax
          \let\footnote\thanks
          990 (tate) \vbox to\textheight\bgroup\tate\hsize\textwidth
              \null\vfil
          992
              \vskip 60\p@
              \begin{center}%
          993
          994
                {\LARGE \@title \par}%
                \vskip 3em%
          995
                {\Large
          996
                \verb|\lineskip|.75em||
          997
                 \begin{tabular}[t]{c}%
          998
          999
                   \@author
                 \end{tabular}\par}%
         1000
                 \vskip 1.5em%
         1002
                {\large \@date \par}%
                                       % Set date in \large size.
```

```
1003
     \end{center}\par
          \vfil{\centering\@thanks}\vfil\null
1004 (tate)
1005 (tate)
          \egroup
1006 (yoko)
          \@thanks\vfil\null
     \end{titlepage}%
footnote カウンタをリセットし、\thanks と \maketitle コマンドを無効にし、い
 くつかの内部マクロを空にして格納領域を節約します。
     \setcounter{footnote}{0}%
1008
      \global\let\thanks\relax
1009
     \global\let\maketitle\relax
1010
      \global\let\p@thanks\relax
1011
     \global\let\@thanks\@empty
1012
1013
     \global\let\@author\@empty
     \global\let\@date\@empty
     \global\let\@title\@empty
タイトルが組版されたら、\title コマンドなどの宣言を無効にできます。\and の
定義は、\author の引数でのみ使用しますので、破棄します。
     \global\let\title\relax
1017
      \global\let\author\relax
1018
     \global\let\date\relax
     \global\let\and\relax
1019
1020
     }%
1021 \else
1022
     \newcommand{\maketitle}{\par
1023
     \begingroup
        \renewcommand{\thefootnote}{\fnsymbol{footnote}}%
1024
        \def\@makefnmark{\hbox{\ifydir $\m@th^{\@thefnmark}$
1025
          \end{area} $$ \operatorname{hbox}(\yoko\n@th^{\dthefnmark})_{i}}%
1026
1027 (*tate)
        \long\def\@makefntext##1{\parindent 1zw\noindent
1028
           \hb@xt@ 2zw{\hss\@makefnmark}##1}%
1029
1030 (/tate)
1031 (*yoko)
         \long\def\@makefntext##1{\parindent 1em\noindent
1032
1033
           \hb@xt@1.8em{\hss$\m@th^{\@thefnmark}$}##1}%
1034 (/yoko)
       \if@twocolumn
1035
         \ifnum \col@number=\@ne \@maketitle
1036
          \else \twocolumn[\@maketitle]%
1037
         \fi
1038
1039
       \else
1040
          \newpage
          \global\@topnum\z@
                              % Prevents figures from going at top of page.
1041
1042
          \@maketitle
1043
        \thispagestyle{jpl@in}\@thanks
1044
 ここでグループを閉じ、footnote カウンタをリセットし、\thanks, \maketitle,
```

\@maketitle を無効にし、いくつかの内部マクロを空にして格納領域を節約します。

```
1045
                 \endgroup
                 \setcounter{footnote}{0}%
           1046
           1047
                 \global\let\thanks\relax
                \global\let\maketitle\relax
           1048
                \global\let\@maketitle\relax
           1050
                \global\let\p@thanks\relax
           1051
                \global\let\@thanks\@empty
                \global\let\@author\@empty
           1052
                \global\let\@date\@empty
           1053
           1054
                \global\let\@title\@empty
           1055
                \global\let\title\relax
           1056
                \global\let\author\relax
           1057
                 \global\let\date\relax
           1058
                 \global\let\and\relax
           1059
           独立した表題ページを作らない場合の、表題の出力形式です。
\@maketitle
                \def\@maketitle{%
                 \newpage\null
           1061
                \vskip 2em%
           1062
                \begin{center}%
           1064 \langle yoko \rangle \ | let footnote thanks
           {\LARGE \@title \par}%
           1066
           1067
                  \vskip 1.5em%
                  {\large
           1068
                    \lineskip .5em%
           1069
           1070
                    \begin{tabular}[t]{c}%
           1071
                      \@author
           1072
                    \end{tabular}\par}%
           1073
                  \vskip 1em%
           1074
                   {\large \@date}%
                 \end{center}%
                \par\vskip 1.5em}
           1076
           1077 \fi
                   概要
            29.2
  abstract 要約文のための環境です。book クラスでは使えません。report スタイルと、titlepage
            オプションを指定した article スタイルでは、独立したページに出力されます。
           1078 (*article | report)
```

File h: jclasses.dtx

\newenvironment{abstract}{%

\@beginparpenalty\@lowpenalty

\titlepage

 $\null\vfil$

1079 \if@titlepage

1080 1081

1082

1083

```
1084
           \begin{center}%
             {\bfseries\abstractname}%
1085
             \@endparpenalty\@M
1086
1087
           \end{center}}%
           {\par\vfil\null\endtitlepage}
1088
1089 \else
      \newenvironment{abstract}{%
1090
         \if@t.wocolumn
1091
           \section*{\abstractname}%
1092
         \else
1093
1094
           \small
           \begin{center}%
1095
             {\bfseries\abstractname\vspace{-.5em}\vspace{\z0}}\%
1096
           \end{center}%
1097
1098
           \quotation
         \fi}{\if@twocolumn\else\endquotation\fi}
1099
1100 \fi
1101 (/article | report)
```

29.3 章見出し

29.3.1 マークコマンド

```
\chaptermark \...mark コマンドを初期化します。これらのコマンドはページスタイルの定義で \sectionmark 使われます(第 28 節参照)。これらのたいていのコマンドは ltsect.dtx ですでに \subsubsectionmark 定義されています。
\subsubsectionmark 1102 ⟨!article⟩ \newcommand*{\chaptermark}[1]{}
\paragraphmark 1103 %\newcommand*{\sectionmark}[1]{}
\paragraphmark 1104 %\newcommand*{\subsectionmark}[1]{}
\subparagraphmark 1105 %\newcommand*{\subsectionmark}[1]{}
\1106 %\newcommand*{\subsubsectionmark}[1]{}
\1107 %\newcommand*{\subparagraphmark}[1]{}
```

29.3.2 カウンタの定義

```
1114 (/book | report)
                1115 (article) \newcounter{section}
                1116 \newcounter{subsection} [section]
                1117 \newcounter{subsubsection} [subsection]
                1118 \newcounter{paragraph}[subsubsection]
                1119 \newcounter{subparagraph} [paragraph]
                \theCTR が実際に出力される形式の定義です。
       \thepart
                  \arabic{COUNTER}は、COUNTERの値を算用数字で出力します。
     \thechapter
                  \roman{COUNTER}は、COUNTERの値を小文字のローマ数字で出力します。
     \thesection
                  \Roman{COUNTER}は、COUNTERの値を大文字のローマ数字で出力します。
  \thesubsection
                  \alph{COUNTER}は、COUNTERの値を1 = a, 2 = bのようにして出力します。
\thesubsubsection
                  Alph\{COUNTER\}は、COUNTER の値を 1 = A, 2 = B のようにして出力し
   \theparagraph
\thesubparagraph
                ます。
                  \Kanji{COUNTER}は、COUNTERの値を漢数字で出力します。
                  \rensuji{\langle obj \rangle}は、\langle obj \rangle を横に並べて出力します。したがって、横組のときに
                は、何も影響しません。
                1120 (*tate)
                1121 \renewcommand{\thepart}{\rensuji{\QRoman\cQpart}}
                1123 (*report | book)
                1124 \renewcommand{\thechapter}{\rensuji{\@arabic\c@chapter}}
                1125 \ \texttt{\command{\thesection}{\thechapter \cdot \rensuji{\color:}}}
                1126 (/report | book)
                1127 \mbox{\thesubsection}{\thesection}\
                1128 \renewcommand{\thesubsubsection}{%
                      \thesubsection • \rensuji{\@arabic\c@subsubsection}}
                1130 \renewcommand{\theparagraph}{%
                      \thesubsubsection • \rensuji{\@arabic\c@paragraph}}
                1132 \renewcommand{\thesubparagraph}{%
                      \theparagraph • \rensuji{\@arabic\c@subparagraph}}
                1133
                1134 (/tate)
                1135 (*yoko)
                1136 \renewcommand{\thepart}{\@Roman\c@part}
                1137 (article) \renewcommand{\thesection}{\@arabic\c@section}
                1138 (*report | book)
                1139 \renewcommand{\thechapter}{\@arabic\c@chapter}
                1140 \mbox{ } \mbox{command{\thesection}{\thechapter.\c@section}}
                1141 (/report | book)
                1142 \mbox{ renewcommand{\thesubsection}{\thesection.\c@subsection}}
                1143 \renewcommand{\thesubsubsection}{%
                      \t \
                1144
                1145 \renewcommand{\theparagraph}{%
                      \thesubsubsection.\@arabic\c@paragraph}
                1146
                1147 \renewcommand{\thesubparagraph}{%
                      \theparagraph.\@arabic\c@subparagraph}
```

1149 (/yoko)

\@chapappの初期値は'\prechaptername'です。 \@chapapp

\@chappos

\@chappos の初期値は '\postchaptername' です。

\appendix コマンドは \@chapapp を '\appendixname' に、\@chappos を空に再 定義します。

- 1150 (*report | book)
- 1151 \newcommand{\@chapapp}{\prechaptername}
- 1152 \newcommand{\@chappos}{\postchaptername}
- 1153 (/report | book)

前付け、本文、後付け 29.3.3

\frontmatter \backmatter

一冊の本は論理的に3つに分割されます。表題や目次や「はじめに」あるいは権利 \mainmatter などの前付け、そして本文、それから用語集や索引や奥付けなどの後付けです。

> 日本語 T_{EX} 開発コミュニティによる補足: PT_{EX} の classes.dtx は、1996/05/26(v1.3r) と 1998/05/05 (v1.3y) の計 2 回、\frontmatter と \mainmatter の定義を 修正しています。一回目はこれらの命令を openany オプションに応じて切り替え、 二回目はそれを元に戻しています。アスキーによる jclasses.dtx は、1997/01/15 に 一回目の修正に追随しましたが、二回目の修正には追随していません。コミュニティ 版では、一旦はアスキーによる仕様を維持しようと考えました (2016/11/22) が、以 下の理由により二回目の修正にも追随することにしました (2017/03/05)。

アスキー版での \frontmatter と \mainmatter の改ページ挙動は

openright なら \cleardoublepage、openany なら \clearpage を実行

というものでした。しかし、\frontmatter 及び \mainmatter はノンブルを1にリ セットしますから、改ページの結果が偶数ページ目になる場合4にノンブルが偶奇逆 転してしまいました。このままでは openany の場合に両面印刷がうまくいかないた め、新しいコミュニティ版では

必ず \pltx@cleartooddpage を実行

としました。これは両面印刷 (twoside) の場合は奇数ページに送り、片面印刷 (oneside) の場合は単に改ページとなります。(参考:latex/2754)

- 1155 \newcommand{\frontmatter}{%
- \pltx@cleartooddpage
- \@mainmatterfalse\pagenumbering{roman}}
- 1158 \newcommand{\mainmatter}{%

 $^{^4}$ 縦 tbook のデフォルト (openright) が該当するほか、横 jbook と縦 tbook の openany のときに は成り行き次第で該当する可能性があります。

```
1159 \pltx@cleartooddpage
1160 \@mainmattertrue\pagenumbering{arabic}}
1161 \newcommand{\backmatter}{%}
1162 \if@openleft \cleardoublepage \else
1163 \if@openright \cleardoublepage \else \clearpage \fi \fi
1164 \@mainmatterfalse}
```

29.3.4 ボックスの組み立て

1165 (/book)

クラスファイル定義の、この部分では、\@startsection と \secdef の二つの内部 マクロを使います。これらの構文を次に示します。

\@startsection マクロは6つの引数と1つのオプション引数 '*' を取ります。 \@startsection $\langle name \rangle \langle level \rangle \langle indent \rangle \langle beforeskip \rangle \langle afterskip \rangle \langle style \rangle$ optional * $[\langle altheading \rangle] \langle heading \rangle$

それぞれの引数の意味は、次のとおりです。

(name) レベルコマンドの名前です (例:section)。

 $\langle level \rangle$ 見出しの深さを示す数値です(chapter=1, section=2, ...)。" $\langle level \rangle <=$ カウンタ secnumdepth の値"のとき、見出し番号が出力されます。

〈indent〉見出しに対する、左マージンからのインデント量です。

〈**beforeskip**〉見出しの上に置かれる空白の絶対値です。負の場合は、見出しに続く テキストのインデントを抑制します。

〈afterskip〉正のとき、見出しの後の垂直方向のスペースとなります。負の場合は、 見出しの後の水平方向のスペースとなります。

〈style〉見出しのスタイルを設定するコマンドです。

(*) 見出し番号を付けないとき、対応するカウンタは増加します。

〈**heading**〉新しい見出しの文字列です。

見出しコマンドは通常、\@startsection と 6 つの引数で定義されています。 \secdef マクロは、見出しコマンドを \@startsection を用いないで定義すると きに使います。このマクロは、2 つの引数を持ちます。

 $\scalebox{secdef}\langle unstarcmds\rangle\langle starcmds\rangle$

〈unstarcmds〉 見出しコマンドの普通の形式で使われます。

 $\langle starcmds \rangle *$ 形式の見出しコマンドで使われます。

\secdef は次のようにして使うことができます。

```
\def\chapter {... \secdef \CMDA \CMDB }
\def\CMDA [#1]#2{....} % \chapter[...] {...} の定義
\def\CMDB #1{....} % \chapter*{...} の定義
```

29.3.5 part レベル

\part このコマンドは、新しいパート(部)をはじめます。

article クラスの場合は、簡単です。

新しい段落を開始し、小さな空白を入れ、段落後のインデントを行い、\secdef で作成します。(アスキーによる元のドキュメントには「段落後のインデントをしな いようにし」と書かれていましたが、実際のコードでは段落後のインデントを行っ ていました。そこで日本語 T_EX 開発コミュニティは、ドキュメントをコードに合わ せて「段落後のインデントを行い」へと修正しました。)

```
1166 (*article)
1167 \newcommand{\part}{%
1168 \if@noskipsec \leavevmode \fi
1169 \par\addvspace{4ex}%
1170 \@afterindenttrue
1171 \secdef\@part\@spart}
1172 (/article)
```

report と book スタイルの場合は、少し複雑です。

まず、右ページからはじまるように改ページをします。そして、部扉のページスタイルを empty にします。 2 段組の場合でも、1 段組で作成しますが、後ほど 2 段組に戻すために、empty にします。 empty にします。 empt

\@part このマクロが実際に部レベルの見出しを作成します。このマクロも文書クラスによって定義が異なります。

article クラスの場合は、secnumdepth が -1 よりも大きいとき、見出し番号を付けます。このカウンタが -1 以下の場合には付けません。

```
1182 (*article)
1183 \def\@part[#1]#2{%
1184 \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
1185 \refstepcounter{part}%
```

```
\addcontentsline{toc}{part}{%
       1186
                   \prepartname\thepart\postpartname\hspace{1zw}#1}%
       1187
        1188
        1189
                \addcontentsline{toc}{part}{#1}%
              \fi
       1190
              \markboth{}{}%
       1191
              {\parindent\z@\raggedright
        1192
              \verb|\interline penalty|@M\\|\\normalfont|
       1193
              \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
        1194
                 \Large\bfseries\prepartname\thepart\postpartname
        1195
                 \par\nobreak
        1196
        1197
               \huge\bfseries#2\par}%
        1198
              \nobreak\vskip3ex\@afterheading}
        1200 (/article)
          report と book クラスの場合は、secnumdepth が -2 よりも大きいときに、見出し
        番号を付けます。-2以下では付けません。
        1201 (*report | book)
        1202 \def\@part[#1]#2{%
              1203
        1204
                \refstepcounter{part}%
        1205
                \addcontentsline{toc}{part}{%
        1206
                   \prepartname\thepart\postpartname\hspace{1em}#1}%
              \else
       1207
                \addcontentsline{toc}{part}{#1}%
       1208
       1209
              \fi
              \markboth{}{}%
       1210
       1211
              {\centering
              \verb|\interline penalty|@M\\|\\normalfont|
       1212
               1213
        1214
                 \huge\bfseries\prepartname\thepart\postpartname
       1215
                 \par\vskip20\p@
       1216
               \fi
               \Huge\bfseries#2\par}%
       1217
              \@endpart}
       1218
       1219 (/report | book)
\@spart このマクロは、番号を付けないときの体裁です。
       1220 (*article)
        1221 \def\@spart#1{{%
              \parindent\z@\raggedright
        1222
              \interlinepenalty\@M\normalfont
        1223
              \huge\bfseries#1\par}%
        1224
              \nobreak\vskip3ex\@afterheading}
        1226 (/article)
        1227 (*report | book)
        1228 \def\@spart#1{{%
```

```
1229
      \centering
     \interlinepenalty\@M\normalfont
1230
      \Huge\bfseries#1\par}%
1232
     \@endpart}
1233 (/report | book)
```

\@part と \@spart の最後で実行されるマクロです。両面印刷モードのときは、白 ページを追加します。二段組モードのときには、これ以降のページを二段組に戻し ます。2016年12月から、openanyのときに白ページを追加するのをやめました。 このバグは IAT_FX では classes.dtx v1.4b (2000/05/19) で修正されていました。(参 考:latex/3155、texjporg/jsclasses#48)

```
1234 (*report | book)
1235 \def\@endpart{\vfil\newpage
      \if@twoside
1237
       \if@openleft %% \if@openleft added (2017/02/15)
1238
        \null\thispagestyle{empty}\newpage
       \else\if@openright %% \if@openright added (2016/12/18)
1239
        \null\thispagestyle{empty}\newpage
1240
       \fi\fi \% added (2016/12/18, 2017/02/15)
1241
1242
二段組文書のとき、スイッチを二段組モードに戻す必要があります。
```

```
\if@tempswa\twocolumn\fi}
1244 (/report | book)
```

29.3.6 chapter レベル

章レベルは、必ずページの先頭から開始します。openright オプションが指定され ている場合は、右ページからはじまるように \cleardoublepage を呼び出します。 そうでなければ、\clearpage を呼び出します。なお、縦組の場合でも右ページから はじまるように、フォーマットファイルで\clerdoublepage が定義されています。

> 日本語 TrX 開発コミュニティによる補足:コミュニティ版の実装では、openright と openleft の場合に \cleardoublepage をクラスファイルの中で再々定義してい ます。27を参照してください。

> 章見出しが出力されるページのスタイルは、jpl@in になります。jpl@in は、headnomble か footnomble のいずれかです。詳細は、第28節を参照してください。

> また、\@topnum をゼロにして、章見出しの上にトップフロートが置かれないよ うにしています。

```
1245 (*report | book)
1246 \newcommand{\chapter}{%
      \if@openleft \cleardoublepage \else
     \if@openright \cleardoublepage \else \clearpage \fi \fi
     \thispagestyle{jpl@in}%
1250
    \global\@topnum\z@
```

```
1251 \@afterindenttrue
1252 \secdef\@chapter\@schapter}
```

\@chapter このマクロは、章見出しに番号を付けるときに呼び出されます。secnumdepthが −1 よりも大きく、\@mainmatterが真(book クラスの場合)のときに、番号を出力します。

```
1253 \def\@chapter[#1]#2{%
                       \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
                              \if@mainmatter
                 1256
                         \refstepcounter{chapter}%
                         \typeout{\@chapapp\space\thechapter\space\@chappos}%
                 1257
                         \addcontentsline{toc}{chapter}%
                 1258
                           {\protect\numberline{\@chapapp\thechapter\@chappos}#1}%
                 1259
                              \verb|\else| add contents line{toc}{chapter}{\#1} \\ | fi
                 1260 (book)
                 1261
                      \else
                 1262
                         \addcontentsline{toc}{chapter}{#1}%
                 1263
                 1264
                       \chaptermark{#1}%
                       \addtocontents{lof}{\protect\addvspace{10\p0}}%
                 1266
                       \addtocontents{lot}{\protect\addvspace{10\p0}}%
                       \@makechapterhead{#2}\@afterheading}
                 1267
                 このマクロが実際に章見出しを組み立てます。
\@makechapterhead
                 1268 \def\@makechapterhead#1{\hbox{}%
                       \vskip2\Cvs
                 1269
                 1270
                       {\parindent\z@
                 1271
                        \raggedright
                 1272
                        \normalfont\huge\bfseries
                 1273
                        \leavevmode
                 1274
                        \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
                 1275
                          \setlength\@tempdima{\linewidth}%
                 1276 (book)
                              \if@mainmatter
                          1277
                 1278
                          \addtolength\@tempdima{-\wd\z@}\%
                          1279
                 1280 (book)
                              \fi
                          \vtop{\hsize\@tempdima#1}%
                 1281
                 1282
                        \else
                          #1\relax
                        fi}\nobreak\vskip3\Cvs
```

\Oschapter このマクロは、章見出しに番号を付けないときに呼び出されます。

File h: jclasses.dtx

```
日本語 TrX 開発コミュニティによる補足:やはり二段組でチャプタータイトルよ
```

り高い位置に右カラムの始点が来るという挙動を維持してあります。

1285 \def\@schapter#1{%

1286 \@makeschapterhead{#1}\@afterheading

1287 }

\@makeschapterhead 番号を付けない場合の形式です。

1288 \def\@makeschapterhead#1{\hbox{}%

\vskip2\Cvs 1289

{\parindent\z@ 1290

1291 \raggedright

1292 \normalfont\huge\bfseries

1293 \leavevmode

\setlength\@tempdima{\linewidth}% 1294

 $\displaystyle \vert {\normalfont \normalfont \normal$ 1295

1296 (/report | book)

29.3.7 下位レベルの見出し

\section 見出しの前後に空白を付け、\Large\bfseries で出力をします。

1297 \newcommand{\section}{\@startsection{section}{1}{\z@}%

{1.5\Cvs \@plus.5\Cvs \@minus.2\Cvs}%

1299 {.5\Cvs \@plus.3\Cvs}%

1300 {\normalfont\Large\bfseries}}

\subsection 見出しの前後に空白を付け、\large\bfseries で出力をします。

1301 \newcommand{\subsection}{\Qstartsection{subsection}{2}{\zQ}%

 ${1.5\Cvs \ensuremath{\Cvs \ensuremath{\Cvs \ensuremath{\Cvs}}\%}$

1303 ${.5\Cvs \ensuremath{\column{c} \cline{0.5}\Cvs}}$

{\normalfont\large\bfseries}} 1304

\subsubsection 見出しの前後に空白を付け、\normalsize\bfseries で出力をします。

1305 \newcommand{\subsubsection}{\Qstartsection{subsubsection}{3}{\zQ}%

1306 ${1.5\Cvs \ensuremath{\Cvs \ensuremath{\Cvs \ensuremath{\Cvs}}\%}$

 ${.5\Cvs \ensuremath{\column{c} \cus}}\%$ 1307

{\normalfont\normalsize\bfseries}} 1308

\paragraph 見出しの前に空白を付け、\normalsize\bfseries で出力をします。見出しの後ろ で改行されません。

1309 \newcommand{\paragraph}{\Qstartsection{paragraph}{4}{\zQ}\%

 ${3.25ex \mathbb{Q}plus 1ex \mathbb{Q}minus .2ex}$ % 1310

1311 $\{-1em\}\%$

{\normalfont\normalsize\bfseries}} 1312

\subparagraph 見出しの前に空白を付け、\normalsize\bfseries で出力をします。見出しの後ろ で改行されません。

File h: jclasses.dtx

```
1313 \newcommand{\subparagraph}{\@startsection{subparagraph}{5}{\z@}%
1314      {3.25ex \@plus 1ex \@minus .2ex}%
1315      {-1em}%
1316      {\normalfont\normalsize\bfseries}}
```

29.3.8 付録

\appendix article クラスの場合、\appendix コマンドは次のことを行ないます。

- section と subsection カウンタをリセットする。
- \thesection を英小文字で出力するように再定義する。

report と book クラスの場合、\appendix コマンドは次のことを行ないます。

- chapter と section カウンタをリセットする。
- \@chapappを \appendixname に設定する。
- **\@chappos** を空にする。
- \thechapter を英小文字で出力するように再定義する。

29.4 リスト環境

ここではリスト環境について説明をしています。

リスト環境のデフォルトは次のように設定されます。

まず、\rigtmargin, \listparindent, \itemindent をゼロにします。そして、K番目のレベルのリストは \@listKで示されるマクロが呼び出されます。ここで

'K'は小文字のローマ数字で示されます。たとえば、3番目のレベルのリストとして \@listiii が呼び出されます。\@listK は \leftmarginを \leftmarginK に設定します。

\leftmargin 二段組モードのマージンは少しだけ小さく設定してあります。

```
\leftmargini 1333 \if@twocolumn
                1334
                    \setlength\leftmargini {2em}
   \leftmarginii
                1335 \else
  \leftmarginiii 1336
                     \setlength\leftmargini {2.5em}
   \leftmarginv 次の3つの値は、\labelsepとデフォルトラベル('(m)', 'vii.', 'M.') の幅の合計よ
   \leftmarginvi りも大きくしてあります。
                1338 \setlength\leftmarginii {2.2em}
                1339 \setlength\leftmarginiii {1.87em}
                1340 \setlength\leftmarginiv {1.7em}
                1341 \if@twocolumn
                     \setlength\leftmarginv {.5em}
                1342
                     \setlength\leftmarginvi{.5em}
                1343
                1344 \else
                1345 \setlength\leftmarginv {1em}
                1346 \setlength\leftmarginvi{1em}
                1347 \fi
       \labelsep \labelsep はラベルとテキストの項目の間の距離です。\labelwidth はラベルの幅
     \labelwidth です。
                1348 \setlength \labelsep {.5em}
                1349 \setlength \labelwidth{\leftmargini}
                1350 \addtolength\labelwidth{-\labelsep}
\@beginparpenalty これらのペナルティは、リストや段落環境の前後に挿入されます。
 \@endparpenalty
\@itempenalty
                このペナルティは、リスト項目の間に挿入されます。
                1351 \@beginparpenalty -\@lowpenalty
                1352 \@endparpenalty
                                   -\@lowpenalty
                1353 \@itempenalty
                                   -\@lowpenalty
                1354 (/article | report | book)
      \partopsep リスト環境の前に空行がある場合、\parskipと \topsepに \partopsepが加えら
                 れた値の縦方向の空白が取られます。
                1355 \langle 10pt \rangle \setlength\partopsep{2\p0 \@plus 1\p0 \@minus 1\p0}
                1356 \langle 11pt \rangle  \setlength\partopsep{3\p0 \@plus 1\p0 \@minus 1\p0}
                1357 \langle 12pt \rangle  \setlength\partopsep{3\p0 \@plus 2\p0 \@minus 2\p0}
         \@listi \@listi は、\leftmargin,\parsep,\topsep,\itemsep などのトップレベルの定
         \@listI 義をします。この定義は、フォントサイズコマンドによって変更されます(たとえ
                 ば、\small の中では "小さい" リストパラメータになります)。
```

```
\@listiのコピーを保存するように定義されています。
                      1358 (*10pt | 11pt | 12pt)
                      1359 \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
                      1360 (*10pt)
                                  \parsep 4\p@ \@plus2\p@ \@minus\p@
                                 \topsep 8\p@ \@plus2\p@ \@minus4\p@
                                 \itemsep4\p@ \@plus2\p@ \@minus\p@}
                     1364 (/10pt)
                     1365 (*11pt)
                                 \parsep 4.5\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
                     1366
                                  \topsep 9\p@ \@plus3\p@ \@minus5\p@
                      1367
                                 \itemsep4.5\p@ \@plus2\p@ \@minus\p@}
                      1368
                      1369 (/11pt)
                      1370 (*12pt)
                      1371
                                  \parsep 5\p0 \plus 2.5\p0 \pl
                                   \topsep 10\p@ \@plus4\p@ \@minus6\p@
                                  $\left(\frac{p}{2.5}p^{0}\right)^{0} \end{substitute} $$ \left(\frac{p}{2.5}p^{0}\right)^{0} \end{substitute} $$
                     1374 (/12pt)
                     1375 \let\@listI\@listi
                        ここで、パラメータを初期化しますが、厳密には必要ありません。
                      1376 \@listi
  \@listii 下位レベルのリスト環境のパラメータの設定です。これらは保存用のバージョンを
\@listiii 持たないことと、フォントサイズコマンドによって変更されないことに注意をして
  \@listiv ください。言い換えれば、このクラスは、本文サイズが \normalsize で現れるリス
    \@listv トの入れ子についてだけ考えています。
  \@listvi 1377 \def\@listii{\leftmargin\leftmarginii
                                    \labelwidth\leftmarginii \advance\labelwidth-\labelsep
                     1378
                     1379 (*10pt)
                                     \topsep 4\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
                      1380
                      1381
                                     \parsep 2\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
                      1382 (/10pt)
                     1383 (*11pt)
                                     \topsep 4.5\p0 \plus2\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
                                     \parsep 2\p0 \@plus\p0 \@minus\p0
                      1385
                     1386 (/11pt)
                     1387 (*12pt)
                     1388
                                     1389
                      1390 (/12pt)
                      1391
                                    \itemsep\parsep}
                      1392 \def\@listiii{\leftmargin\leftmarginiii
                                    \labelwidth\leftmarginiii \advance\labelwidth-\labelsep
                      1394 (10pt)
                                                 \topsep 2\p@ \@plus\p@\@minus\p@
                      1395 (11pt)
                                                 \topsep 2\p@ \@plus\p@\@minus\p@
                      1396 (12pt)
                                                \topsep 2.5\p@\@plus\p@\@minus\p@
```

このため、\normalsize がすべてのパラメータを戻せるように、\@listI は

```
1397
       \parsep\z@
       \partopsep \p@ \@plus\z@ \@minus\p@
1398
       \itemsep\topsep}
1399
1400 \def\@listiv {\leftmargin\leftmarginiv
1401
                   \labelwidth\leftmarginiv
                   \advance\labelwidth-\labelsep}
1402
1403 \def\@listv
                  {\leftmargin\leftmarginv
1404
                   \labelwidth\leftmarginv
                   \advance\labelwidth-\labelsep}
1405
1406 \def\@listvi {\leftmargin\leftmarginvi
                   \labelwidth\leftmarginvi
1407
                   \advance\labelwidth-\labelsep}
1408
1409 (/10pt | 11pt | 12pt)
```

29.4.1 enumerate 環境

enumerate 環境は、カウンタ enumi, enumii, enumii, enumiv を使います。 enumN は N 番目のレベルの番号を制御します。

```
\theenumi 出力する番号の書式を設定します。これらは、すでに1tlists.dtxで定義されてい
   \theenumii ます。
  \theenumiii 1410 \langle *article | report | book \rangle
  \theenumiv ^{1411} \*tate\
              1412 \renewcommand{\theenumi}{\rensuji{\@arabic\c@enumi}}
              1413 \renewcommand{\theenumii}{\rensuji{(\@alph\c@enumii)}}
              1414 \renewcommand{\theenumiii}{\rensuji{\Croman\cCenumiii}}
              1415 \renewcommand{\theenumiv}{\rensuji{\QAlph\cQenumiv}}
              1416 (/tate)
              1417 (*yoko)
              1418 \renewcommand{\theenumi}{\Qarabic\cQenumi}
              1419 \renewcommand{\theenumii}{\Qalph\cQenumii}
              1420 \renewcommand{\theenumiii}{\@roman\c@enumiii}
              1421 \renewcommand{\theenumiv}{\@Alph\c@enumiv}
              1422 (/yoko)
 \labelenumi enumerate 環境のそれぞれの項目のラベルは、\labelenumi ... \labelenumiv で
\labelenumii 生成されます。
\labelenumiii 1423 \langle *tate \rangle
\verb|\labelenumiv| 1424 \verb|\newcommand{\labelenumi}{\labelenumi} 
              1425 \newcommand{\labelenumii}{\theenumii}
              1426 \newcommand{\labelenumiii}{\theenumiii}
              1427 \newcommand{\labelenumiv}{\theenumiv}
              1428 (/tate)
              1429 (*yoko)
              1430 \newcommand{\labelenumi}{\theenumi.}
              1431 \newcommand{\labelenumii}{(\theenumii)}
              1432 \newcommand{\labelenumiii}{\theenumiii.}
```

```
1433 \newcommand{\labelenumiv}{\theenumiv.}
                             1434 (/yoko)
        \p@enumii \ref コマンドによって、enumerate 環境の N 番目のリスト項目が参照されるとき
      \p@enumiii の書式です。
        \p@enumiv 1435 \renewcommand{\p@enumii}{\theenumi}
                             1436 \renewcommand{\p@enumiii}{\theenumi(\theenumii)}
                             1437 \renewcommand{\p@enumiv}{\p@enumiii\theenumiii}
        enumerate トップレベルで使われたときに、最初と最後に半行分のスペースを開けるように、
                               変更します。この環境は、ltlists.dtxで定義されています。
                             1438 \renewenvironment{enumerate}
                                         {\ifnum \@enumdepth >\thr@@\@toodeep\else
                                            \advance\@enumdepth\@ne
                             1441
                                            \edef\@enumctr{enum\romannumeral\the\@enumdepth}%
                             1442
                                            \expandafter \list \csname label\@enumctr\endcsname{%
                             1443
                                                  \iftdir
                                                        \ifnum \@listdepth=\@ne \topsep.5\normalbaselineskip
                             1444
                                                             \else\topsep\z@\fi
                             1445
                                                        \parskip\z@ \itemsep\z@ \parsep\z@
                             1446
                                                        \labelwidth1zw \labelsep.3zw
                             1447
                                                        \ifnum \@enumdepth=\@ne \leftmargin1zw\relax
                             1448
                                                             \else\leftmargin\leftskip\fi
                             1449
                                                         \advance\leftmargin 1zw
                             1450
                                                  \fi
                             1451
                             1452
                                                         \usecounter{\@enumctr}%
                                                         \label{lap{#1}} $$ \end{makelabel} $$ \operatorname{lap{\#1}}}% $$
                             1453
                                            \fi}{\endlist}
                             1454
                               29.4.2 itemize 環境
   \labelitemi itemize 環境のそれぞれの項目のラベルは、\labelenumi ... \labelenumiv で生成
 \labelitemii されます。
\verb|\labelitemiii| 1455 \verb|\newcommand{\labelitemi}{\labelitemfont \textbullet}|
 1457
                                         \iftdir
                                                {\labelitemfont \textcircled{~}}
                             1460
                                                {\labelitemfont \bfseries\textendash}
                             1461
                                         \fi
                             1462 }
                             1463 \verb|\newcommand{\labelitemiii}{\labelitemfont \verb|\textasteriskcentered}|
                             1464 \mbox{ \labelitemiv}{\labelitemfont \textperiodcentered}
                             1465 \mbox{ } \mbox{newcommand} \mbox{labelitemfont} \mbox{ } \mbox{normalfont} \mbox{ } \m
            itemize トップレベルで使われたときに、最初と最後に半行分のスペースを開けるように、
                               変更します。この環境は、ltlists.dtxで定義されています。
```

```
1466 \renewenvironment{itemize}
      {\ifnum \@itemdepth >\thr@@\@toodeep\else
1467
       \advance\@itemdepth\@ne
1469
       \edef\@itemitem{labelitem\romannumeral\the\@itemdepth}%
       \expandafter \list \csname \@itemitem\endcsname{%
1470
1471
          \iftdir
             \ifnum \@listdepth=\@ne \topsep.5\normalbaselineskip
1472
                \else\topsep\z@\fi
1473
             \parskip\z@ \itemsep\z@ \parsep\z@
1474
             \labelwidth1zw \labelsep.3zw
1475
             \ifnum \@itemdepth =\@ne \leftmargin1zw\relax
1476
1477
                \else\leftmargin\leftskip\fi
             \advance\leftmargin 1zw
1478
1479
1480
              \def\makelabel##1{\hss\llap{##1}}}%
       \fi}{\endlist}
1481
```

29.4.3 description 環境

description description 環境を定義します。縦組時には、インデントが3字分だけ深くなります。

```
1482 \newenvironment{description}
      {\left\langle \right\rangle }_{\c }= {\left\langle \right\rangle }_{\c }
1483
       \iftdir
1484
          \leftmargin\leftskip \advance\leftmargin3\Cwd
1485
1486
          \rightmargin\rightskip
1487
          \labelsep=1zw \itemsep\z@
1488
          \listparindent\z@ \topskip\z@ \parskip\z@ \partopsep\z@
1489
       \fi
                 \let\makelabel\descriptionlabel}}{\endlist}
1490
```

\descriptionlabel ラベルの形式を変更する必要がある場合は、\descriptionlabelを再定義してください。

```
1491 \newcommand{\descriptionlabel}[1]{%
1492 \hspace\labelsep\normalfont\bfseries #1}
```

29.4.4 verse 環境

verse verse 環境は、リスト環境のパラメータを使って定義されています。改行をするには \\ を用います。\\ は \@centercr に \let されています。

```
1493 \newenvironment{verse}
1494 {\let\\\@centercr
1495 \list{}{\itemsep\z@ \itemindent -1.5em%
1496 \listparindent\itemindent
1497 \rightmargin\leftmargin \advance\leftmargin 1.5em}%
1498 \item\relax}{\endlist}
```

29.4.5 quotation 環境

quotation quotation 環境もまた、list 環境のパラメータを使用して定義されています。この環境の各行は、\textwidth よりも小さく設定されています。この環境における、段落の最初の行はインデントされます。

1499 \newenvironment{quotation}
1500 {\list{}{\listparindent 1.5em%}
1501 \itemindent\listparindent
1502 \rightmargin\leftmargin
1503 \parsep\z@ \@plus\p@}%
1504 \item\relax}{\endlist}

29.4.6 quote 環境

quote quote 環境は、段落がインデントされないことを除き、quotation 環境と同じです。

1505 \newenvironment{quote}

1506 {\list{}{\rightmargin\leftmargin}%

1507 \item\relax}{\endlist}

29.5 フロート

ltfloat.dtxでは、フロートオブジェクトを操作するためのツールしか定義していません。タイプが TYPE のフロートオブジェクトを扱うマクロを定義するには、次の変数が必要です。

\fps@TYPE タイプ TYPE のフロートを置くデフォルトの位置です。

\ftype@TYPE タイプ TYPE のフロートの番号です。各 TYPE には、一意な、2 の倍数の TYPE 番号を割り当てます。たとえば、図が番号 1 ならば、表は 2 です。次のタイプは 4 となります。

\ext@TYPE タイプ TYPE のフロートの目次を出力するファイルの拡張子です。たと えば、\ext@figure は 'lot' です。

\fnum@TYPE キャプション用の図番号を生成するマクロです。たとえば、\fnum@figure は '図 \thefigure' を作ります。

29.5.1 figure 環境

ここでは、figure 環境を実装しています。

\c@figure 図番号です。

\thefigure 1508 \article \newcounter{figure}

1509 (report | book) \newcounter{figure} [chapter]

File h: jclasses.dtx

```
1510 (*tate)
            1511 \langle article \rangle \renewcommand{ \the figure } {\rensuji{ \coefigure }}
            1512 (*report | book)
            1513 \renewcommand{\thefigure}{%
            1514 \ifnum\c@chapter>\z@\thechapter{} • \fi\rensuji{\@arabic\c@figure}}
            1515 (/report | book)
            1516 (/tate)
            1517 (*yoko)
            1518 (article)\renewcommand{\thefigure}{\@arabic\c@figure}
            1519 (*report | book)
            1520 \renewcommand{\thefigure}{%
            1521 \ifnum\c@chapter>\z@\thechapter.\fi\@arabic\c@figure}
            1522 (/report | book)
            1523 (/yoko)
 \fps@figure フロートオブジェクトタイプ "figure" のためのパラメータです。
\ftype@figure 1524 \def\fps@figure{tbp}
 1528 (yoko) \def\fnum@figure{\figurename~\thefigure}
     figure *形式は2段抜きのフロートとなります。
     figure* 1529 \newenvironment{figure}
            1530
                            {\@float{figure}}
                            {\end@float}
            1532 \newenvironment{figure*}
                            {\@dblfloat{figure}}
            1534
                            {\end@dblfloat}
             29.5.2 table 環境
             ここでは、table 環境を実装しています。
    \c@table 表番号です。
   \thetable 1535 \(\rangle\) \newcounter{table}
            1536 (report | book) \newcounter{table} [chapter]
            1537 (*tate)
            1539 (*report | book)
            1540 \renewcommand{\thetable}{%
                 \ifnum\c@chapter>\z@\thechapter{} · \fi\rensuji{\@arabic\c@table}}
            1541
            1542 (/report | book)
            1543 (/tate)
            1544 (*yoko)
            1546 (*report | book)
```

```
1547 \renewcommand{\thetable}{%
               1548 \quad \text{ifnum} \ cOchapter > \ zO \ the chapter. \ fi \ Carabic \ cOtable \}
               1549 (/report | book)
               1550 (/yoko)
      \fps@table フロートオブジェクトタイプ "table" のためのパラメータです。
    \ftype@table 1551 \def\fps@table{tbp}
               1552 \def\ftype@table{2}
      \ext@table
               1553 \def\ext@table{lot}
     1555 \langle yoko \rangle \def fnum@table{\tablename^{thetable}}
          table *形式は2段抜きのフロートとなります。
         table* 1556 \newenvironment{table}
               1557
                                {\@float{table}}
               1558
                                {\end@float}
               1559 \newenvironment{table*}
                                {\@dblfloat{table}}
               1561
                                {\end@dblfloat}
                29.6 キャプション
   \@makecaption \caption コマンドは、キャプションを組み立てるために \@mkcaption を呼出ます。
                このコマンドは二つの引数を取ります。一つは、〈number〉で、フロートオブジェク
                トの番号です。もう一つは、〈text〉でキャプション文字列です。〈number〉には通常、
                '図 3.2' のような文字列が入っています。このマクロは、\parbox の中で呼び出され
                ます。書体は\normalsizeです。
\abovecaptionskip これらの長さはキャプションの前後に挿入されるスペースです。
\verb|\belowcaptionskip| 1562 \verb|\newlength| above captionskip|
               1563 \newlength\belowcaptionskip
               1564 \setlength\abovecaptionskip{10\p@}
               1565 \setlength\belowcaptionskip{0\p@}
                  キャプション内で複数の段落を作成することができるように、このマクロは\long
                で定義をします。
               1566 \long\def\@makecaption#1#2{%
               1567
                    \vskip\abovecaptionskip
                    \iftdir\sbox\@tempboxa{#1\hskip1zw#2}%
               1568
                      \else\sbox\@tempboxa{#1: #2}%
               1569
               1570
                    \ifdim \wd\@tempboxa >\hsize
               1571
               1572
                      \iftdir #1\hskip1zw#2\relax\par
```

1573 1574 1575

\else #1: #2\relax\par\fi

\global \@minipagefalse

1576 \hb@xt@\hsize{\hfil\box\@tempboxa\hfil}%

1577 \fi

1578 \vskip\belowcaptionskip}

29.7 コマンドパラメータの設定

29.7.1 array と tabular 環境

\arraycolsep array 環境のカラムは 2\arraycolsep で分離されます。

1579 \setlength\arraycolsep{5\p0}

\tabcolsep tabular 環境のカラムは 2\tabcolsep で分離されます。

1580 \setlength\tabcolsep{6\p0}

\arrayrulewidth arrayとtabular環境内の罫線の幅です。

1581 \setlength\arrayrulewidth{.4\p0}

\doublerulesep array と tabular 環境内の罫線間を調整する空白です。

1582 \setlength\doublerulesep{2\p@}

29.7.2 tabbing 環境

\tabbingsep \',コマンドで置かれるスペースを制御します。

 $1583 \verb|\setlength\tabbingsep{\labelsep}|$

29.7.3 minipage 環境

(@mpfootins minipage にも脚注を付けることができます。\skip\@mpfootins は、通常の\skip\footins

と同じような動作をします。

 $1584 \ship\0mpfootins = \ship\footins$

29.7.4 framebox 環境

\fboxsep \fboxsep は、\fboxと\frameboxでの、テキストとボックスの間に入る空白です。

\fboxrule \fboxrule は \fbox と \framebox で作成される罫線の幅です。

 $1585 \text{ } \text{length} \text{ } 3\p0$

1586 \setlength\fboxrule{.4\p0}

29.7.5 equation と eqnarray 環境

\theequation equation カウンタは、新しい章の開始でリセットされます。また、equation 番号に は、章番号が付きます。

File h: jclasses.dtx

このコードは \chapter 定義の後、より正確には chapter カウンタの定義の後、でなくてはいけません。

30 フォントコマンド

disablejfam オプションが指定されていない場合には、以下の設定がなされます。まず、数式内に日本語を直接、記述するために数式記号用文字に "JY1/mc/m/n" を登録します。数式バージョンが bold の場合は、"JY1/gt/m/n" を用います。これらは、\mathmc, \mathgt として登録されます。また、日本語数式ファミリとして \symmincho がこの段階で設定されます。mathrmmc オプションが指定されていた場合には、これに引き続き \mathrm と \mathbf を和欧文両対応にするための作業がなされます。この際、他のマクロとの衝突を避けるため \AtBeginDocument を用いて展開順序を遅らせる必要があります。

disablejfam オプションが指定されていた場合には、\mathmc と \mathgt に対してエラーを出すだけのダミーの定義を与える設定のみが行われます。

変更

pIFT_EX 2.09 compatibility mode では和文数式フォント fam が 2 重定義されていたので、その部分を変更しました。

```
1593 \if@enablejfam
      \if@compatibility\else
1594
         \DeclareSymbolFont{mincho}{JY1}{mc}{m}{n}
1595
1596
         \DeclareSymbolFontAlphabet{\mathmc}{mincho}
         \SetSymbolFont{mincho}{bold}{JY1}{gt}{m}{n}
1597
         \jfam\symmincho
1598
         \DeclareMathAlphabet{\mathgt}{JY1}{gt}{m}{n}
1599
1600
      \fi
      \if@mathrmmc
1601
1602
        \AtBeginDocument{%
         \label{thm} $$\operatorname{\mathbf{Mathrm}}_{\mathbf{Mathrm}}_{\mathbf{Mathrm}} $$
1603
         \reDeclareMathAlphabet{\mathbf}{\mathbf}{\mathbf}{\mathbf}}
1604
      }%
1605
1606
      \fi
1607 \else
      \DeclareRobustCommand{\mathmc}{%
         \@latex@error{Command \noexpand\mathmc invalid with\space
            'disablejfam' class option.}\@eha
1610
      }
1611
```

```
1612 \DeclareRobustCommand{\mathgt}{%
1613 \QlatexQerror{Command \noexpand\mathgt invalid with\space
1614 'disablejfam' class option.}\Qeha
1615 }
1616 \fi
```

ここでは \LaTeX 2.09 で一般的に使われていたコマンドを定義しています。これらのコマンドはテキストモードと数式モードの**どちらでも**動作します。これらは互換性のために提供をしますが、できるだけ \text... と \math... を使うようにしてください。

- \mc これらのコマンドはフォントファミリを変更します。互換モードの同名コマンドと
- \gt 異なり、すべてのコマンドがデフォルトフォントにリセットしてから、対応する属
- \rm 性を変更することに注意してください。
- \sf 1617 \DeclareOldFontCommand{\mc}{\normalfont\mcfamily}{\mathmc}
- \tt \lambda \DeclareOldFontCommand{\gt}{\normalfont\gtfamily}{\mathgt}
 - 1619 \DeclareOldFontCommand{\rm}{\normalfont\rmfamily}{\mathrm}
 - $1620 \verb|\DeclareOldFontCommand{\sf}{\normalfont\sffamily}{\mbox|\mbox|}$
 - $1621 \end{\text{\command}\hspace{\command}$
- \bf このコマンドはボールド書体にします。ノーマル書体に変更するには、\mdseries と指定をします。
 - $1622 \verb|\DeclareOldFontCommand{\bf}{\normalfont\bfseries}{\mbox{\tt mathbf}}$
- \it これらのコマンドはフォントシェイプを切替えます。スラント体とスモールキャッ
- \sl プの数式アルファベットはありませんので、数式モードでは何もしませんが、警告
- \sc メッセージを出力します。\upshape コマンドで通常のシェイプにすることができます。
 - 1623 \DeclareOldFontCommand{\it}{\normalfont\itshape}{\mathit}

 - $1625 \verb|\DeclareOldFontCommand{\sc}{\normalfont\scshape}{\close{Command}\sc}|$
- \cal これらのコマンドは数式モードでだけ使うことができます。数式モード以外では何 \mit もしません。現在の NFSS は、これらのコマンドが警告を生成するように定義して いますので、'手ずから' 定義する必要があります。
 - 1626 \DeclareRobustCommand*{\cal}{\@fontswitch\relax\mathcal}
 1627 \DeclareRobustCommand*{\mit}{\@fontswitch\relax\mathnormal}

31 相互参照

31.1 目次

\section コマンドは、.toc ファイルに、次のような行を出力します。

\contentsline{section} $\{\langle title \rangle\}\{\langle page \rangle\}$

 $\langle title \rangle$ には項目が、 $\langle page \rangle$ にはページ番号が入ります。\section に見出し番号が付く場合は、 $\langle title \rangle$ は、\numberline{ $\langle num \rangle$ }{ $\langle heading \rangle$ }となります。 $\langle num \rangle$ は\thesection コマンドで生成された見出し番号です。 $\langle heading \rangle$ は見出し文字列です。この他の見出しコマンドも同様です。

figure 環境での \caption コマンドは、.lof ファイルに、次のような行を出力します。

\contentsline{figure}{\num\}{\langle (anum\)}{\langle (caption\)}}{\langle page\} \langle (num\) は、\thefigure コマンドで生成された図番号です。 $\langle caption \rangle$ は、キャプション文字列です。table 環境も同様です。

\contentsline $\{\langle name \rangle\}$ コマンドは、\ $10\langle name \rangle$ に展開されます。したがって、目次の体裁を記述するには、\10chapter,\10section などを定義します。図目次のためには \10figure です。これらの多くのコマンドは \100dottedtocline コマンドで定義されています。このコマンドは次のような書式となっています。

 $\verb|\dottedtocline|{\langle level\rangle}|{\langle indent\rangle}|{\langle numwidth\rangle}|{\langle title\rangle}|{\langle page\rangle}|$

 $\langle level \rangle$ " $\langle level \rangle$ <= tocdepth" のときにだけ、生成されます。\chapter はレベル 0 \section はレベル 1 、... です。

 $\langle indent \rangle$ 一番外側からの左マージンです。

 $\langle numwidth \rangle$ 見出し番号(\numberline コマンドの $\langle num \rangle$)が入るボックスの幅です。

\c@tocdepth tocdepth は、目次ページに出力をする見出しレベルです。

1628 \(\article\)\\setcounter\(\{\text{tocdepth}\}\{3\}\)
1629 \(\article\)\\\setcounter\(\{\text{tocdepth}\}\{2\}\)

また、目次を生成するために次のパラメータも使います。

\Opnumwidth ページ番号の入るボックスの幅です。

1630 \newcommand{\@pnumwidth}{1.55em}

\Otocrmarg 複数行にわたる場合の右マージンです。

1631 \newcommand{\@tocrmarg}{2.55em}

\@dotsep ドットの間隔 (mu 単位) です。2 や 1.7 のように指定をします。 1632 \newcommand{\@dotsep}{4.5}

\toclineskip この長さ変数は、目次項目の間に入るスペースの長さです。デフォルトはゼロとなっています。縦組のとき、スペースを少し広げます。

File h: jclasses.dtx

```
1635 (tate)\setlength\toclineskip{2\p0}
              \numberline マクロの定義を示します。オリジナルの定義では、ボックスの幅を
    \numberline
    \@lnumwidth \@tempdima にしていますが、この変数はいろいろな箇所で使われますので、期待
               した値が入らない場合があります。
                 フォント選択コマンドの後、あるいは \numberline マクロの中でフォントを切
               替えてもよいのですが、一時変数を意識したくないので、見出し番号の入るボック
               スを \@lnumwidth 変数を用いて組み立てるように \numberline マクロを再定義し
               ます。
              1636 \newdimen\@lnumwidth
              1637 \def\numberline#1{\hb@xt@\@lnumwidth{#1\hfil}}
\@dottedtocline 目次の各行間に\toclineskipを入れるように変更します。このマクロは1tsect.dtx
               で定義されています。
              1638 \def\@dottedtocline#1#2#3#4#5{%
                   \ifnum #1>\c@tocdepth \else
                     \vskip\toclineskip \@plus.2\p@
              1641
                     {\leftskip #2\relax \rightskip \@tocrmarg \parfillskip -\rightskip
              1642
                      \parindent #2\relax\@afterindenttrue
              1643
                      \interlinepenalty\@M
                      \leavevmode
              1644
                      \@lnumwidth #3\relax
              1645
                      \advance\leftskip \@lnumwidth \null\nobreak\hskip -\leftskip
              1646
              1647
                      {#4}\nobreak
              1648
                      \leaders\hbox{$\m@th \mkern \@dotsep mu.\mkern \@dotsep mu$}%
              1649
                      \hfill\nobreak
                      \hb@xt@\@pnumwidth{\hss\normalfont \normalcolor #5}%
              1651
                      \par}%
              1652
                   \fi}
\addcontentsline 縦組の場合にページ番号を \rensuji で囲むように変更します。
                 このマクロは ltsect.dtx で定義されています。
              1653 \providecommand*\protected@file@percent{}
              1654 \def\addcontentsline#1#2#3{%
              1655 \protected@write\@auxout
              1656
                     1657 (tate)
                          \@temptokena{\rensuji{\thepage}}%
              1658 (yoko)
                          \@temptokena{\thepage}%
                     }{\string\@writefile{#1}%
              1659
                        {\bf \{\protect\contentsline{\#2}{\#3}{\tt \che\contentsline{\#2}{\#3}}} \\
              1660
              1661
                        \protected@file@percent}}%
              1662 }
```

1633 \newdimen\toclineskip

1634 (yoko)\setlength\toclineskip{\z@}

31.1.1 本文目次

```
目次を生成します。
\tableofcontents
                 1663 \newcommand{\tableofcontents}{%
                 1664 (*report | book)
                       \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn
                       \else\@restonecolfalse\fi
                 1666
                 1667 (/report | book)
                 1668 (article)
                             \section*{\contentsname
                              \chapter*{\contentsname
                 1669 (!article)
                  \tableofcontents では、\@mkboth は heading の中に入れてあります。ほかの命
                  令 (\listoffigures など) については、\@mkboth は heading の外に出してありま
                  す。これは IATFX の classes.dtx に合わせています。
                         \@mkboth{\contentsname}{\contentsname}%
                       }\@starttoc{toc}%
                 1672 (report | book) \if@restonecol\twocolumn\fi
         \1@part part レベルの目次です。
                 1674 \newcommand*{\l@part}[2]{%
                      \ifnum \c@tocdepth >-2\relax
                 1676 (article)
                               \addpenalty{\@secpenalty}%
                 1677 (!article)
                                \addpenalty{-\@highpenalty}%
                 1678
                         \addvspace{2.25em \@plus\p@}%
                 1679
                         \begingroup
                 1680
                         \parindent\z@\rightskip\@pnumwidth
                 1681
                         \parfillskip-\@pnumwidth
                         {\leavevmode\large\bfseries
                 1682
                          \setlength\@lnumwidth{4zw}%
                 1683
                 1684
                          #1\hfil\nobreak
                          \hb@xt@\@pnumwidth{\hss#2}}\par
                 1685
                         \nobreak
                 1686
                 1687 (article)
                               \if@compatibility
                         \global\@nobreaktrue
                 1689
                         \everypar{\global\@nobreakfalse\everypar{}}%
                 1690 (article)
                               \fi
                 1691
                          \endgroup
                       fi
                 1692
      \1@chapter chapter レベルの目次です。
                 1693 (*report | book)
                 1694 \newcommand*{\l@chapter}[2]{%
                       \ifnum \c@tocdepth >\m@ne
                 1695
                         \addpenalty{-\@highpenalty}%
                 1696
                 1697
                         \addvspace{1.0em \@plus\p@}%
                 1698
                         \begingroup
                           \parindent\z@\rightskip\@pnumwidth\parfillskip-\rightskip
```

```
1700
                                                                  \leavevmode\bfseries
                                                                  \setlength\@lnumwidth{4zw}%
                                         1701
                                                                  \advance\leftskip\@lnumwidth \hskip-\leftskip
                                         1702
                                         1703
                                                                  $1\nobreak\hfil\nobreak\hb@xt@\pnumwidth{\hss#2}\par
                                         1704
                                                                  \penalty\@highpenalty
                                         1705
                                                              \endgroup
                                         1706
                                                        \{fi\}
                                         1707 \; \langle / \text{report} \mid \text{book} \rangle
              \l@section section レベルの目次です。
                                         1708 (*article)
                                         1709 \newcommand*{\l@section}[2]{%
                                                       \ifnum \c@tocdepth >\z@
                                         1710
                                         1711
                                                              \addpenalty{\@secpenalty}%
                                         1712
                                                              \addvspace{1.0em \@plus\p@}%
                                          1713
                                                              \begingroup
                                         1714
                                                                  \parindent\z@\rightskip\@pnumwidth\parfillskip-\rightskip
                                         1715
                                                                   \leavevmode\bfseries
                                                                  \setlength\@lnumwidth{1.5em}%
                                         1716
                                                                  \advance\leftskip\@lnumwidth \hskip-\leftskip
                                         1717
                                                                  1718
                                         1719
                                                             \endgroup
                                         1720
                                                        \{fi\}
                                         1721 (/article)
                                          1722 (*report | book)
                                         1723 \langle tate \rangle \newcommand*{\l@section}{\cdottedtocline{1}{1zw}{4zw}}
                                         1724 \langle yoko \rangle \newcommand*{\l@dottedtocline{1}{1.5em}{2.3em}}
                                         1725 (/report | book)
       \l@subsection 下位レベルの目次項目の体裁です。
\l0subsubsection 1726 \langle *tate \rangle
         \l@paragraph ^{1727} \langle *article \rangle
                                         1728 \newcommand*{\l@subsection}
                                                                                                                            {\@dottedtocline{2}{1zw}{4zw}}
  \verb|\label{loss-prop}| 1729 \verb|\label{loss-pr
                                         1730 \newcommand*{\l@paragraph}
                                                                                                                            {\@dottedtocline{4}{3zw}{8zw}}
                                         1731 \newcommand*{\l@subparagraph} {\@dottedtocline{5}{4zw}{9zw}}
                                         1732 (/article)
                                         1733 (*report | book)
                                         1734 \newcommand*{\l@subsection}
                                                                                                                            {\@dottedtocline{2}{2zw}{6zw}}
                                         1735 \newcommand*{\l@subsubsection}{\@dottedtocline{3}{3zw}{8zw}}}
                                         1736 \newcommand*{\l@paragraph}
                                                                                                                            {\dot{dottedtocline}{4}{4zw}{9zw}}
                                         1737 \newcommand*{\l@subparagraph} {\@dottedtocline{5}{5zw}{10zw}}
                                         1738 (/report | book)
                                         1739 (/tate)
                                         1740 (*yoko)
                                         1741 (*article)
                                         1742 \newcommand*{\l@subsection}
                                                                                                                            {\colored{0.3em}}{\colored{0.3em}}
                                         1743 \newcommand*{\l@subsubsection}{\@dottedtocline{3}{3.8em}{3.2em}}
```

```
1745 \newcommand*{\l@subparagraph} {\@dottedtocline{5}{10em}{5em}}
                                     1746 (/article)
                                     1747 (*report | book)
                                     1748 \newcommand*{\l@subsection}
                                                                                                                         {\cline{2}{3.8em}{3.2em}}
                                     1749 \enskip 174
                                     1750 \newcommand*{\l@paragraph}
                                                                                                                          1751 \newcommand*{\l@subparagraph} {\@dottedtocline{5}{12em}{6em}}
                                      1752 (/report | book)
                                      1753 (/yoko)
                                       31.1.2 図目次と表目次
\listoffigures 図の一覧を作成します。
                                     1754 \newcommand{\listoffigures}{%
                                     1755 (*report | book)
                                                   \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn
                                     1757
                                                    \else\@restonecolfalse\fi
                                     1758
                                                    \chapter*{\listfigurename}%
                                     1759 (/report | book)
                                                                         \section*{\listfigurename}%
                                     1760 (article)
                                     1761 \@mkboth{\listfigurename}{\listfigurename}%
                                     1762 \@starttoc{lof}%
                                     1763 \langle report \mid book \rangle \land if@restonecol \land twocolumn \land fi
                                     1764 }
            \l@figure 図目次の体裁です。
                                     1765 \langle tate \rangle \newcommand*{\l@figure}{\l@dottedtocline{1}{1zw}{4zw}}
                                     1766 \langle yoko \rangle \newcommand*{\l@figure}{\l@dottedtocline{1}{1.5em}{2.3em}}
  \listoftables 表の一覧を作成します。
                                     1767 \newcommand{\listoftables}{%
                                     1768 (*report | book)
                                                    \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn
                                     1769
                                     1770
                                                    \else\@restonecolfalse\fi
                                     1771 \chapter*{\listtablename}%
                                     1772 (/report | book)
                                     1773 (article)
                                                                         \section*{\listtablename}%
                                                   \@mkboth{\listtablename}{\listtablename}%
                                                   \@starttoc{lot}%
                                     1776 (report | book) \if@restonecol\twocolumn\fi
                                     1777 }
              \lotable 表目次の体裁は、図目次と同じにします。
                                     1778 \let\l@table\l@figure
```

1744 \newcommand*{\l@paragraph}

31.2 参考文献

```
オープンスタイルの参考文献で使うインデント幅です。
    \bibindent
             1779 \newdimen\bibindent
             1780 \setlength\bibindent{1.5em}
     \newblock \newblock のデフォルト定義は、小さなスペースを生成します。
             1781 \newcommand{\newblock}{\hskip .11em\@plus.33em\@minus.07em}
thebibliography 参考文献や関連図書のリストを作成します。
             1782 \newenvironment{thebibliography}[1]
             1785
                    \list{\@biblabel{\@arabic\c@enumiv}}%
             1786
                        {\settowidth\labelwidth{\@biblabel{#1}}%
                         \leftmargin\labelwidth
             1787
                         \advance\leftmargin\labelsep
             1788
                         \@openbib@code
             1789
             1790
                         \usecounter{enumiv}%
             1791
                         \let\p@enumiv\@empty
                         \renewcommand\theenumiv{\@arabic\c@enumiv}}%
             1792
             1793
                    \sloppy
                    \clubpenalty4000
             1794
             1795
                    \@clubpenalty\clubpenalty
             1796
                    \widowpenalty4000%
              1797
                    \sfcode '\.\@m}
              1798
                   {\def\@noitemerr
                    {\@latex@warning{Empty 'thebibliography' environment}}%
             1799
             1800
              \@openbib@code のデフォルト定義は何もしません。この定義は、openbib オプショ
\@openbib@code
              ンによって変更されます。
             1801 \let\@openbib@code\@empty
    \@biblabel The label for a \bibitem[...] command is produced by this macro. The default
              from latex.dtx is used.
              1802 % \renewcommand*{\@biblabel}[1]{[#1]\hfill}
       \@cite The output of the \cite command is produced by this macro. The default from
              ltbibl.dtx is used.
              1803 % \renewcommand*{\@cite}[1]{[#1]}
```

31.3 索引

```
theindex 2段組の索引を作成します。索引の先頭のページのスタイルは jpl@in とします。し
                                たがって、headings と bothstyle に適した位置に出力されます。
                               1804 \newenvironment{theindex}
                                           {\if@twocolumn\@restonecolfalse\else\@restonecoltrue\fi
                               1806 (article)
                                                           \twocolumn[\section*{\indexname}]%
                                                                      \twocolumn[\@makeschapterhead{\indexname}]%
                               1807 (report | book)
                                              \@mkboth{\indexname}{\indexname}%
                              1808
                                              \thispagestyle{jpl@in}\parindent\z@
                              1809
                                パラメータ \columnseprule と \columnsep の変更は、\twocolumn が実行された
                                後でなければなりません。そうしないと、索引の前のページにも影響してしまうた
                                めです。
                              1810
                                              \protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\protect\pro
                                              \columnseprule\z@ \columnsep 35\p@
                              1811
                              1812
                                             \let\item\@idxitem}
                                           {\if@restonecol\onecolumn\else\clearpage\fi}
        \@idxitem 索引項目の字下げ幅です。\@idxitem は \item の項目の字下げ幅です。
          \subitem 1814 \newcommand{\@idxitem}{\par\hangindent 40\p@}
                             1815 \newcommand{\subitem}{\@idxitem \hspace*{20\p@}}
                              1816 \newcommand{\subsubitem}{\@idxitem \hspace*\{30\p0\}}
    \indexspace 索引の"文字"見出しの前に入るスペースです。
                               1817 \newcommand{\indexspace}{\par \vskip 10\p@ \@plus5\p@ \@minus3\p@\relax}
                                                 脚注
                                31.4
\footnoterule 本文と脚注の間に引かれる罫線です。
                              1818 \renewcommand{\footnoterule}{%
                                           \mbox{kern-3}p@
                              1820
                                           \hrule\@width.4\columnwidth
                              1821
                                           \mbox{kern2.6}p0
    \c@footnote report と book クラスでは、chapter レベルでリセットされます。
                              1822 \langle !article \rangle \setminus @addtoreset{footnote}{chapter}
  \@makefntext このマクロにしたがって脚注が組まれます。
                                     \@makefnmark は脚注記号を組み立てるマクロです。
                              1823 (*tate)
                              1824 \newcommand\@makefntext[1]{\parindent 1zw
                              1825 \noindent\hb@xt@ 2zw{\hss\@makefnmark}#1}
                               1826 (/tate)
                               1827 (*yoko)
```

1828 \newcommand \@makefntext[1] {\parindent 1em

```
1829 \noindent\hb@xt@ 1.8em{\hss\@makefnmark}#1}
1830 (/yoko)
```

32 今日の日付

組版時における現在の日付を出力します。

\if 西暦 \today コマンドの '年' を、西暦か和暦のどちらで出力するかを指定するコマンド \ 西暦 です。2018 年 7 月以降の日本語 $T_{\rm E}X$ 開発コミュニティ版 (v1.8) では、デフォルト \ 和暦 を和暦ではなく西暦に設定しています。

```
1831 \newif\if 西曆 \ 西曆 true
1832 \def\ 西曆{\ 西曆 true}
1833 \def\ 和曆{\ 西曆 false}
```

\heisei \today コマンドを \rightmark で指定したとき、\rightmark を出力する部分で 和暦のための計算ができないので、クラスファイルを読み込む時点で計算しておきます。

1834 \newcount\heisei \heisei\year \advance\heisei-1988\relax

\today 縦組の場合は、漢数字で出力します pIFTEX 2018-12-01 以前では縦数式ディレクショ \pltx@today@year ン時でも漢数字で出力していましたが、pIFTEX 2019-04-06 以降からはそうしなくなりました。

```
1835 \def\pltx@today@year@#1{%
      \ifnum\numexpr\year-#1=1 元 \else
         \ifnum1=\iftdir\ifmdir0\else1\fi\else0\fi
1837
            \kansuji\number\numexpr\year-#1\relax
1838
         \else
1839
            \number\numexpr\year-#1\relax\nobreak
1840
         \fi
1841
      \fi 年
1842
1843 }
1844 \def\pltx@today@year{%
       \int \operatorname{numexpr} \operatorname{vear} 10000 + \operatorname{month} 100 + \operatorname{day} 19890108
1846
         昭和 \pltx@today@year@{1925}%
1847
       \ensuremath{\verb| linum| numexpr| year*10000+\month*100+\day<20190501}
1848
         平成 \pltx@today@year@{1988}%
1849
         令和 \pltx@today@year@{2018}%
1850
       fi\fi
1851
1852 \left( \frac{1}{8} \right)
       \if 西暦
1853
         \ifnum1=\iftdir\ifmdir0\else1\fi\else0\fi\kansuji\number\year
1854
         \else\number\year\nobreak\fi 年
1856
       \else
1857
         \pltx@today@year
```

```
1858 \fi
1859 \ifnum1=\iftdir\ifmdir0\else1\fi\else0\fi
1860 \kansuji\number\month 月
1861 \kansuji\number\day 日
1862 \else
1863 \number\month\nobreak 月
1864 \number\day\nobreak 日
1865 \fi}
```

33 初期設定

```
\prepartname
   \postpartname
                1866 \newcommand{\prepartname}{第}
                 1867 \newcommand{\postpartname}{部}
\prechaptername
                 1868 (report | book) \newcommand{\prechaptername}{第}
\postchaptername
                \contentsname
\listfigurename 1870 \newcommand{\contentsname}{目 次}
                1871 \newcommand{\listfigurename}{図 目 次}
 \listtablename
                 1872 \newcommand{\listtablename}{表 目 次}
       \refname
       \bibname
                1873 (article)\newcommand{\refname}{参考文献}
                1874 (report | book)\newcommand{\bibname}{関連図書}
      \indexname
                 1875 \newcommand{\indexname}{索 引}
    \figurename
     \tablename 1876 \newcommand{\figurename}{図}
                 1877 \newcommand{\tablename}{表}
  \appendixname
   \abstractname
                1878 \newcommand{\appendixname}{付 録}
                 1879 (article | report) \newcommand {\abstractname} {概要}
                 1880 \langle book \rangle \rangle 
                 1881 \langle !book \rangle \rangle 
                 1882 \pagenumbering{arabic}
                 1883 \raggedbottom
                 1884 \if@twocolumn
                 1885
                      \twocolumn
                 1886
                      \sloppy
                 1887 \else
                 1888 \onecolumn
                 1889 \fi
```

\@mparswitch は傍注を左右(縦組では上下)どちらのマージンに出力するかの指定です。偽の場合、傍注は一方の側にしか出力されません。このスイッチを真とすると、とくに縦組の場合、奇数ページでは本文の上に、偶数ページでは本文の下に傍注が出力されますので、おかしなことになります。

また、縦組のときには、傍注を本文の下に出すようにしています。\reversemarginparとすると本文の上側に出力されます。ただし、二段組の場合は、つねに隣接するテキスト側のマージンに出力されます。

```
1890 (*tate)
1891 \normalmarginpar
1892 \@mparswitchfalse
1893 \/tate\)
1894 \*yoko\)
1895 \if@twoside
1896 \@mparswitchtrue
1897 \else
1898 \@mparswitchfalse
1899 \fi
1900 \(/yoko\)
1901 \(/article | report | book\)
```

File i

jltxdoc.dtx

```
jltxdoc クラスは、ltxdoc をテンプレートにして、日本語用の修正を加えています。
            2 \DeclareOption*{\PassOptionsToClass{\CurrentOption}{ltxdoc}}
            3 \ProcessOptions
            4 \LoadClass{ltxdoc}
\normalsize ltxdoc からロードされる article クラスでの行間などの設定値で、日本語の文章
    \small を組版すると、行間が狭いように思われるので、多少広くするように再設定します。
\parindent また、段落先頭での字下げ量を全角一文字分とします。
            5 \renewcommand{\normalsize}{%
                \@setfontsize\normalsize\@xpt{15}%
            7
              \abovedisplayskip 10\p@ \@plus2\p@ \@minus5\p@
              \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
            9 \belowdisplayshortskip 6\p@ \@plus3\p@ \@minus3\p@
               \belowdisplayskip \abovedisplayskip
           10
               \let\@listi\@listI}
           11
           12 \renewcommand{\small}{%
           13 \@setfontsize\small\@ixpt{11}%
              \abovedisplayskip 8.5\p@ \@plus3\p@ \@minus4\p@
              \abovedisplayshortskip \z@ \@plus2\p@
               17
               \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
                         \topsep 4\p@ \@plus2\p@ \@minus2\p@
                         \parsep 2\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
           19
                         \itemsep \parsep}%
           20
           21 \belowdisplayskip \abovedisplayskip}
           22 \normalsize
           23 \setlength\parindent{1zw}
     \file \file マクロは、ファイル名を示すのに用います。
           24 \providecommand*{\file}[1]{\texttt{#1}}
   \pstyle \pstyle マクロは、ページスタイル名を示すのに用います。
           25 \providecommand*{\pstyle}[1]{\textsl{#1}}
   \Lcount \Lcount マクロは、カウンタ名を示すのに用います。
           26 \providecommand*{\Lcount}[1]{\textsl{\small#1}}
     \Lopt \Lopt マクロは、クラスオプションやパッケージオプションを示すのに用います。
           27 \providecommand*{\Lopt}[1]{\textsf{#1}}
```

```
\dst \dst マクロは、"DOCSTRIP" を出力する。
      28 \providecommand\dst{{\normalfont\scshape docstrip}}
```

\NFSS \NFSS マクロは、"NFSS"を出力します。

29 \providecommand\NFSS{\textsf{NFSS}}

\c@clineno \mlineplus マクロは、その時点でのマクロコードの行番号に、引数に指定された \mlineplus 行数だけを加えた数値を出力します。たとえば \mlineplus{3}とすれば、直前のマ クロコードの行番号 (29) に 3 を加えた数、"32" が出力されます。

- 30 \newcounter{@clineno}
- 31 \def\mlineplus#1{\setcounter{@clineno}{\arabic{CodelineNo}}%
- \addtocounter{@clineno}{#1}\arabic{@clineno}}

tsample tsample 環境は、環境内に指定された内容を罫線で囲って出力をします。第一引数 は、出力するボックスの高さです。plext.dtx の中で使用しています。このマクロ 内では縦組になることに注意してください。

- $33 \left| 4f\right|$
- \hbox to\linewidth\bgroup\vrule width.1pt\hss
- \vbox\bgroup\hrule height.1pt
- 36 \vskip.5\baselineskip
- \vbox to\linewidth\bgroup\tate\hsize=#1\relax\vss} 37
- 38 \def\endtsample{%
- \vss\egroup 39
- \vskip.5\baselineskip 40
- \hrule height.1pt\egroup 41
- \hss\vrule width.1pt\egroup}

\DisableCrossrefs jclasses.dtx を処理するときに、\if 西暦の部分でエラーになるため、一時的に \EnableCrossrefs クロスリファレンスの機能をオフにします。しかし、デフォルトの定義では完全に 制御できないので、ここで再定義をします。

- 43 \def\DisableCrossrefs{\@bsphack\scan@allowedfalse\@esphack}
- 44 \def\EnableCrossrefs{\@bsphack\scan@allowedtrue
- \def\DisableCrossrefs{\@bsphack\scan@allowedfalse\@esphack}\@esphack}

\verb plfTFX では、\verb コマンドを修正して直前に \xkanjiskip が入るようにしてい ます。しかし、ltxdoc.cls が読み込む doc.sty が上書きしてしまいますので、こ れを再々定義します。doc.sty での定義は

> \def\verb{\relax\ifmmode\hbox\else\leavevmode\null\fi \bgroup \let\do\do@noligs \verbatim@nolig@list \ttfamily \verb@eol@error \let\do\@makeother \dospecials \Oifstar{\Osverb}{\Ovobeyspaces \frenchspacing \Osverb}}

となっていますので、plcore.dtxと同様に\nullを外して\vadjust{}を入れます。

File i: jltxdoc.dtx

```
46 \ensuremath{\label{leavevmode} \fi} \\
```

- 47 \bgroup \let\do\do@noligs \verbatim@nolig@list
- $49 \qquad \verb{\colored{\co$

\xspcode コマンド名の\と 16 進数を示すための"の前にもスペースが入るよう、これらの \xspcode の値を変更します。

- 50 \xspcode"5C=3 %% \
- 51 \xspcode"22=3 %% "
- $52 \langle / \mathsf{class} \rangle$

File i: jltxdoc.dtx

240

1992/02/04 jclasses.dtx v1.1d	1995/08/11 plext.dtx v1.1c
General: disablejfam の判断を間違	\X@tabular: \tabarray のタイプミ
えてたのを修正 175	ス修正137
1995/02/05 plcore.dtx v1.1c	1995/08/22 plfonts.dtx v1.0c
\@outputpage:\oddsidemargin $ abla$	\@@kenc@update : 縦横用エンコード
\evensidemargin が逆だったの	の保存 44
を修正 110	\selectfont: 縦横両方のフォント
1995/03/28 plfonts.dtx v1.1b	を切り替えるようにした 34
\ktenc@list: リストの初期値を変更 13	1995/08/23 jclasses.dtx v1.0d
\notffam@list: リストの初期値を	\ps@bothstyle: 横組の evenfoot が
変更 13	中央揃えになっていたのを修正 200
1995/04/05 plcore.dtx v1.1b	\ps@myheadings: 横組モードの左右 が逆であったのを修正 201
\verb: 互換モードのときは、	が逆であったのを修正 201 1995/08/24 plfonts.dtx v1.1c
pl209.def の定義を使う 123	\strut: "\centerling \strut" \O
1995/04/07 plcore.dtx v1.0a	になってしまうのを修正 15
\@footnotetext : 組方向の判定を	1995/08/25 plcore.dtx v1.1c
ボックスの外でするようにした 119	\Qgnewline: 行頭禁則文字の直前で
1995/04/12 plcore.dtx v1.0a	の改行での不具合の修正 93
\@footnotemark : 脚注記号の出力位	1995/08/30 jclasses.dtx v1.0a
置の調整 121	General: 柱の書体がノンブルに影響
\@makefnmark: 縦組でも上付き数字	するバグの修正 197
を使うように修正 118	1995/08/30 plvers.dtx v1.0a
\thempfn: Removed \thempfn 117	General: LATEX <1995/06/01>版用
\thempfootnote: Removed	に修正1
\thempfootnote 117	1995/08/31 plfonts.dtx v1.0c
1995/04/12 plfonts.dtx v1.1b	\adjustbaseline: 欧文書体の基準
\textunderscore: 下線マクロを追	を 'M' から '/' に変更 41
加	1995/09/07 plcore.dtx v1.1c
1995/04/26 plfonts.dtx v1.1b	\@setref : change \null to \relax
\selectfont: ベースラインの調整	in \@setref 122
をサイズ変更時に行なうように	1995/09/11 plext.dtx v1.1c
1005 /05 /10 mlfomts dtm1 1h	\@iiiminipage: Add
1995/05/10 plfonts.dtx v1.1b	\adjustbaseline 148
\fontfamily: \notkfam@list に、 エンコードごとに登録されてし	\@iiiparbox: Add
まうのを修正した。欧文につい	\adjustbaseline
ても同様。 47	\p@array: Add \adjustbaseline. 138
\ktenc@list: リスト内の空白を削除 13	1995/09/12 plfonts.dtx v1.1c
\notffam@list: リスト内の空白を	General: \xkanjiskipのデフォルト
削除 13	値
1995/05/16 plvers.dtx v1.0	1995/09/26 jclasses.dtx v1.0a
General: pLATFX 2ε 用に	General: Change b4paper width/height 352x250 to
ltvers.dtx を修正 1	364x257 172

Change b5paper width/height	1996/01/12 plext.dtx v1.1g
250x176 to $257x182$ 172	\@iiiminipage:
1995/10/24 plext.dtx v1.1c	Grouping \@iiiminipage 147
\@iiiparbox:	\@iiiparbox:
typo \adjustbaesline 149	Grouping \@iiiparbox 149
1995/11/09 plfonts.dtx v1.2	1996/01/26 plcore.dtx v1.1b
\DeclareFixedFont:	\@makefnmark: 脚注マークの後ろに
\DeclareFixedFont の日本語化 27	余計なスペースが入るのを修正 118
1995/11/10 plcore.dtx v1.1a	1996/01/31 plvers.dtx v1.0b
\@outputpage: \topmargin が反映	General: LaTEX <1995/12/01>版用
されないバグを修正 110	に修正 1
1995/11/10 plext.dtx v1.1d	1996/02/17 plcore.dtx v1.1e
\p@array: \@array to \p@array . 138	General: \printglossary を追加 . 125
\p@tabarray: \@tabarray to	1996/02/29 jclasses.dtx v1.0d
\p@tabarray 138	General: article と report のデフォ
\p@tabular: \@tabular to	ルトを plain に修正 236
\p@tabular 138	\ps@jpl@in: jpl@in の初期値を定
\X@tabular: \@tabarray to	義
\p@tabarray 137	1996/03/05 jclasses.dtx v1.0d
\@tabular to \p@tabular 137	\ps@bothstyle: 横組で偶数ページ
1995/11/21 plext.dtx v1.1d	と奇数ページの設定が逆なのを
\prensuji: \Rensuji, \prensuji	修正 200
を作成 156	1996/03/06 plfonts.dtx v1.1c
1995/11/21 plfonts.dtx v1.2	\notffam@list: \notkfam@list と
\@notffam: \fontfamily コマンド	\notffam@list の初期値を変更 14
用のフラグ追加 45	1996/03/12 plcore.dtx v1.1d
\adjustbaseline: 縦組時のみ調整	\@stopfield: \= の後ろに和欧文間 スペースが入るのを修正 125
するようにした 41	
\fontfamily: 代用フォントが使わ	1996/03/13 plext.dtx v1.0h
れないバグを修正 45	\DeclareLayoutCaption: キャプ ション出力位置の初期値を設定 144
1995/11/22 plfonts.dtx v1.2	\kanji: \@Kanji を追加。英語版と
\selectfont: エラーフォントに対	「
応した34	1996/03/13 plext.dtx v1.1h
1995/11/24 jclasses.dtx v1.1d	\make@pcaptionbox: typo:
\marginparwidth:	\@latex@warning
typo: \marginmarwidth to	1996/03/14 jclasses.dtx v1.0e
\marginparwidth 191	description: \topskip ♦ \parkip
1995/11/24 plfonts.dtx v1.2	などの値を縦組時のみに設定す
General: it, sl, sc の宣言を外した . 88	るようにした 221
1995/12/25 jclasses.dtx v1.0c	itemize: 縦組時のみに設定するよう
General: Macro \if@openbib	にした 220
removed 171	1996/03/21 jclasses.dtx v1.0e
openbib オプションを再実装 175	General: \usepackage to
1995/12/25 jclasses.dtx v1.1c	\RequirePackage 176
\maxdepth: \@maxdepth の設定を除	1996/07/10 jclasses.dtx v1.0f
外した 182	General: 面付けオプションを追加 173
1995/12/28 jclasses.dtx v1.0c	1996/07/10 plcore.dtx v1.0f
\listoftables: fix the	\maketombowbox: トンボの横に DVI
\listoftable typo 232	ファイルの作成日を出力するよ

うにした。 105	1997/01/25 jclasses.dtx v1.1a
1996/09/03 jclasses.dtx v1.0g	\if@stysize: Add \if@stysize. 171
General: Add to \@bannertoken. 173	\textheight: Add paper option
1996/09/03 plcore.dtx v1.1f	with compatibility mode 185
\@bannerfont: Add	\textwidth: Add paper option
\@bannertoken 104	with compatibility mode 183
1996/12/17 jclasses.dtx v1.0h	1997/01/25 plfonts.dtx v1.1
\ 和暦: Typo: 和歴 to 和暦 235	\ktenc@list: Add TS1 encoding
1997/01/11 plvers.dtx v1.0c	to the starting member of
General: LaTEX <1996/06/01>版用	\fenc@list 13
に修正1	1997/01/28 jclasses.dtx v1.1a
1997/01/15 jclasses.dtx v1.1	\labelitemiv: Bug fix:
\backmatter: \frontmatter,	\labelitemii 220
\mainmatter, \backmatter &	1997/01/28 jclasses.dtx v1.1b
PT _E X の定義に修正 209	\if@enablejfam:
\part: \part を IATEX の定義に修	Add \if@enablejfam 171
正 211	1997/01/28 plfonts.dtx v1.3b
1997/01/16 plcore.dtx v1.1g	\textgt: \textmc, \textgt の動作
\verb: \verb コマンドを IATEX	修正 69
<1996/06/01>に合わせて修正 123	1997/01/29 pl209.dtx v1.0e
1997/01/23 jclasses.dtx v1.1a General: 日付出力オプション 173	General: 二文字書体変更コマンドの
	動作を旧版と同等にした。 160
thebibliography: LAT _F X <1996/12/01>に合わせて	1997/01/29 plfonts.dtx v1.3b
修正 233	General: フォント定義ファイルのサ
1997/01/23 jltxdoc.dtx v1.0a	イズ指定の調整 88
\parindent: \normalsize, \small	1997/01/30 plfonts.dtx v1.0
などの再定義 238	\reDeclareMathAlphabet:
1997/01/23 plcore.dtx v1.0g	\reDeclareMathAlphabet を追
\maketombowbox: 作成日の出力をす	加。ありがとう、ymt さん。 30
るかどうかをフラグで指定する	1997/01/30 plfonts.dtx v1.3b
ようにした。 105	General: 数式用フォントの宣言をク
1997/01/23 plvers.dtx v1.0d	ラスファイルに移動した 86
General: LATEX <1996/12/01>版用	
ェ に修正1	1997/02/05 jclasses.dtx v1.1d
1997/01/24 plfonts.dtx v1.3	General: 開始ページがおかしくなる のを修正
General: Rename font definition	
filename 86	\topmargin: \tompargin を半分に するのはアキ領域の計算後 189
Rename provided font definition	
filename 87	1997/02/12 jclasses.dtx v1.1d
1997/01/25 jclasses.dtx v1.0g	\maketitle: 縦組クラスの表紙を縦
General: Insert \hbox, to switch	書きにするようにした 204
tate-mode 174	1997/02/14 jclasses.dtx v1.1d
\columnseprule: \columnsep:	\thefigure: \ifnum 文の構文エ
10pt to 3\Cwd or 2\Cwd 180	ラーを訂正。 223
\marginparwidth:	1997/02/14 plcore.dtx v1.1g
\oddsidemargin,	\@footnotemark: 縦組時の位置調整
\evensidemagin: Opt if	を 2\cht から.9zh に変更 121
specified papersize at	\@makefnmark: 縦組時に脚注マーク
\documentstyle option 190	の書体が正しくないのを修正 . 118

1997/02/20 pl $209.dtx$ v $1.0e$	\ps@headings: 片面印刷のとき、
General: Typemiss:oldlfont from	section レベルが出力されないの
oldIfonts 159	を修正 199
1997/03/11 plfonts.dtx v1.3b	1997/09/03 jclasses.dtx v1.1f
General: すべてのサイズをロード可	\textheight: landscape での指定を
能にした 88	追加185
1997/04/08 jclasses.dtx v1.1e	1997/09/03 jclasses.dtx v1.1h
\topmargin: 横組クラスでの調整量	General: landscape オプションを互
を-2.4 インチから-2.0 インチに	換モードでも有効に 173
した。 188	オプションの処理時に縦横の値を
1997/04/08 plfonts.dtx v1.3c	交換 173
\DeclareTateKanjiEncoding@: 和	\textwidth: landscape での指定を
文エンコード宣言コマンドを縦組	追加183
用と横組用で分けるようにした。 19	1997/12/12 jclasses.dtx v1.1i
1997/04/09 plfonts.dtx v1.3c	\ps@bothstyle: report, book クラ
\DeclareFixedFont: 縦横エンコー	スで片面印刷時に、bothstyle ス
ド・リストの分離による拡張 27	タイルにすると、コンパイルエ
1997/04/24 plfonts.dtx v1.3c	ラーになるのを修正 200
\fontfamily: フォント定義ファイ	1998/02/03 jclasses.dtx v1.1j
ル名を小文字に変換してから探	\topmargin: 互換モード時の a5p の
すようにした。 46	トップマージンを 0.7in 増加 . 188
1997/06/25 pl $209.dtx$ v $1.0f$	1998/02/03 plcore.dtx v1.1g
\em:\emで和文を強調書体に 161	\@outputpage: \@shipoutsetup ₺
1997/06/25 plcore.dtx v1.1h	\@outputpage 内に入れた 110
\@gnewline: LATFX の改行マクロの	1998/02/03 plcore.dtx v1.1i
変更に対応。ありがとう、奥村	\@shipoutsetup: Command
さん。 93	removed 109
1997/06/25 plfonts.dtx v1.3d	1998/02/17 plvers.dtx v1.0f
\eminnershape: \em,\emph で和文	General: トム゙T _E X <1997/12/01>版用 に修正
を強調書体に 73	
1997/07/02 plvers.dtx v1.0e	1998/03/23 jclasses.dtx v1.1k
General: LAT _E X <1997/06/01>版用	\@spart : report と book クラスで番 号を付けない見出しのペナルティ
ェージ に修正 1	が \Moだったのを \@M に修正 212
1997/07/08 jclasses.dtx v1.1f	1998/04/07 jclasses.dtx v1.1m
General: 縦組時にベースラインがお	\heisei: \today の計算手順を変更 235
かしくなるのを修正 174	1998/08/10 plfonts.dtx v1.3f
1997/07/10 plfonts.dtx v1.3e	\DeclareFixedFont: \\ \TVT
\fontfamily: fd ファイル名の小文	ル・コマンドにしてしまってい
字化が効いていなかったのを修正 47	たのを解除 27
fd ファイル名の小文字化が効いて	1998/09/01 plvers.dtx v1.0g
いなかったのを修正。ありがと	General: LATEX <1998/06/01>版用
う、大岩さん 46	に修正1
1997/07/29 jltxdoc.dtx v1.0b	1998/10/13 jclasses.dtx v1.1n
\xspcode: \と"の\xspcode を変	General: 動作していなかったのを修
更 240	正。ありがとう、刀袮さん 173
1997/08/25 jclasses.dtx v1.1g	\thetable: report, book クラスで
\ps@bothstyle: 片面印刷のとき、	chapter カウンタを考慮していな
section レベルが出力されないの	かったのを修正。ありがとう、
を修正 200	平川@慶應大さん。 223

1998/12/24 jclasses.dtx v1.1o	が、縦組で中身が空のボックス
\@makechapterhead: secnumdepth	だけの場合も適正になるように
カウンタを ―1 以下にすると、	修正 98
見出し文字列も消えてしまうの	2001/05/10 plext.dtx v1.1i
を修正 214	\@iimakePbox: 縦組で z を指定する
1999/04/05 plcore.dtx v1.1j	とエラーになるのを修正。 153
\@gnewline: オプションを付けた場	2001/05/10 plfonts.dtx v1.3k
合に、余計な空白が入ってしま	\adjustbaseline: 欧文書体の基準
うのを修正。ありがとう、鈴木	を再び '/'から 'M' に変更 41
隆志@京都大学さん。 93	2001/09/04 jclasses.dtx v1.2
1999/04/05 plfonts.dtx v1.3g	\Qmakechapterhead: \chapter \mathcal{O}
\process@table: plpatch.ltx の内	出力位置がアスタリスク形式と
容を反映。ありがとう、山本さ	そうでないときと違うのを修正
λ ₀ 73	(ありがとう、鈴木@津さん) . 214
1999/04/05 plvers.dtx v1.0h	\@makeschapterhead: \chapter \O
General: トトチTEX <1998/12/01>版用	出力位置がアスタリスク形式と
に修正1	そうでないときと違うのを修正
1999/05/18 jclasses.dtx v1.1q	(ありがとう、鈴木@津さん) . 215
enumerate: 縦組時のみに設定するよ	2001/09/04 plcore.dtx v1.2
うにした 220	\@makespecialcolbox: 本文と
1999/08/09 jclasses.dtx v1.1r	\footnoteruleが重なってしま
\topmargin: \if@stysize フラグに	うのを修正 101
限らず半分にする 189	2001/09/04 plvers.dtx v1.0l
1999/08/09 plfonts.dtx v1.3h	General: 译T _E X <2001/06/01>版用
\strut: 縦組のとき、幅のあるボッ	に修正1
クスになってしまうのを修正 15	2001/09/26 plcore.dtx v1.2a
1999/08/09 plvers.dtx v1.0i	\@outputpage: LATEX
General: LATEX <1999/06/01>版用	(e00cputpage: 15 15人) <2001/06/01>に対応 109
に修正1	2001/10/04 jclasses.dtx v1.3
1999/1/6 jclasses.dtx v1.1p	\@dottedtocline: 第5引数の書体
\marginparwidth: \oddsidemargin	を \rmfamily から \normalfont
のポイントへの変換を後ろに . 190	に変更 229
2000/02/29 plvers.dtx v1.0j	2002/04/05 plfonts.dtx v1.3l
General: LATEX <1999/12/01>版用	\adjustbaseline:
に修正 1	\adjustbaseline. \adjustbaseline でフォントの
2000/07/13 plfonts.dtx v1.3i	基準値が縦書き以外では設定さ
\check@nocorr@: \text コマンド	れないのを修正 41
の左側に \xkanjiskip が入らな	2002/04/09 jclasses.dtx v1.4
いのを修正(ありがとう、乙部	General: 縦組スタイルで
@東大さん)	\flushbottom しないようにし
2000/10/24 plfonts.dtx v1.3j	た 236
\adjustbaseline: 文頭に鈎括弧な	2004/06/14 plfonts.dtx v1.3m
どがあるときに余計なアキがで	\@notffam: \fontfamily コマンド
る問題に対処 41	内部フラグ変更 45
2000/11/03 plvers.dtx v1.0k	
General: I⁴TEX <2000/06/01>版用	\fontfamily: \fontfamily コマン ド内部フラグ変更 45
に修正 1	
2001/05/10 plcore.dtx v1.1j	2004/08/10 plfonts.dtx v1.3n
\@makecol: \@makecol で組み立て	\@changed@kcmd: 和文エンコーディ
られる \@outputbox の大きさ	ングの切り替えを有効化 45

\KanjiEncodingPair: 和文エンコー	\plEndIncludeInRelease を新
ディングの切り替えを有効化 20	設。3
\selectfont: 和文エンコーディン	2016/02/28 plcore.dtx v1.2c
グの切り替えを有効化 34	∖@iiiparbox: 1.2b と同様の修正を
2004/08/10 plvers.dtx v1.0m	\parbox 命令にも行った 131
General: LATEX <2003/12/01>版対	\@tabular: 1.2b と同様の修正を
応確認 1	tabular 環境にも行った 130
2005/01/04 plfonts.dtx v1.3o	\underline: 1.2b と同様の修正を
\fontfamily: \fontfamily 中のフ	\underline 命令にも行った . 132
ラグ修正 45	2016/04/01 plcore.dtx v1.2d
2006/01/04 plfonts.dtx v1.3p	\@outputtombow: multicol パッケー
\DeclareFontEncoding@:	ジを使うとトンボの下端が縮む
\DeclareFontEncoding@中で	問題を修正 107
\LastDeclaredEncodeng の再定	2016/04/01 plfonts.dtx v1.6a
義が抜けていたので追加 17	\@text@composite: ベースライン補
2006/06/27 jclasses.dtx v1.6	正量が 0 でないときに \setminus AA など
General: フォントコマンドを修正。	一部の合成文字がおかしくなる
ありがとう、ymt さん。 226	ことに対応するため再定義 78
2006/06/27 plfonts.dtx v1.4	\c 0text0composite0x: ベースライン
\reDeclareMathAlphabet: \reDeclareMathAlphabet を修	補正量が 0 でないときに \AA な
正。ありがとう、ymt さん。 30	ど一部の合成文字がおかしくな
2006/11/10 plfonts.dtx v1.5	ることへの対応。 81
\reDeclareMathAlphabet:	2016/04/17 plvers.dtx v1.0u
\reDeclareMathAlphabet を修	General: LATEX <2016/03/31>版対
正。ありがとう、ymt さん。 30	応確認1
2016/01/26 plcore.dtx v1.2b	2016/04/30 plfonts.dtx v1.6b
\@makecol: \@outputbox の深さが	General: ptrace.sty の冒頭で
他のものの位置に影響を与えな	tracefnt.sty &
いようにする	\RequirePackageWithOptions
\vskip -\dimen@が縦組モード	するようにした 10
では無効になっていたので修正 98	2016/05/07 plvers.dtx v1.0v
@makefnmark: 2013年以降のpTEX	General: パッチファイルをロードす
(r28720) で脚注番号の前後の和	るのをやめた。2
文文字との間に xkanjiskip が	\everyjob: 起動時の文字列を最新の
入ってしまう問題に対応 118	
2016/02/01 plfonts.dtx v1.6	2016/05/12 plvers.dtx v1.0w
\eminnershape: LATEX	\everyjob: 起動時の文字列に入れる
<2015/01/01>での \em の定義変	IAT _E X のバージョンを元の
更に対応。\eminnershape を追	I ^A TEX のバナーから引き継ぐよ
加。	うに改良 2
2016/02/01 plvers.dtx v1.0s	起動時の文字列に入れる Babel の
General: IPT _E X <2015/01/01>版用	バージョンを元の IPT _E X のバ
に修正 1	ナーから取得するコードを
latexrelease 利用時に警告を出す	platex.ini から取り入れた 2
ようにした 4	2016/05/20 plcore.dtx v1.2e
2016/02/03 plvers.dtx v1.0t	General: fltrace パッケージの
\plIncludeInRelease:	pIPT _E X 版として pfltrace パッ
\plIncludeInRelease $arnothing$	ケージを新設 96

2016/06/06 plfonts.dtx v1.6c	\footnotetext: 閉じ括弧類の直後
\@text@composite: v1.6a での誤っ	に \footnotetext が続く場合に
た再定義を削除 (forum:1941) . 78	改行が起きることがある問題に
\@text@composite@x : $\mathrm{v}1.6\mathrm{a}$ での修	対処 119
正でéなど全てのアクセント付	\pltx@foot@penalty: カウンタ
き文字で周囲に \xkanjiskip が	\pltx@foot@penalty を追加 . 118
入らなくなっていたのを修正。. 81	2016/08/26 plvers.dtx v1.0z
\g@tlastchart@: マクロ追加 76	General: platex.cfg の読み込みを
\pltx@isletter: マクロ追加 76	plcore.ltxからplatex.ltxへ
2016/06/08 kinsoku.dtx v 1.0a	移動3
General: T1 などの 8 ビットフォン	2016/09/01 plcore.dtx v1.2h
トエンコーディングのために	\@makecol : 縦組で longtable パッ
128-256 の文字を \xspcode=3	ケージを使って表組の途中で改
に設定 166	ページするとき無限ループが起
2016/06/19 plfonts.dtx v1.6d	こる問題に対処 (Issue 21) 98
\pltx@isletter: アクセント付き文	2016/09/08 plcore.dtx v1.2i
字をさらに修正 (forum:1951) . 76	∖@footnotetext: v1.2g の修正で入
2016/06/19 plvers.dtx v1.0x	れた \null がまずかったので水
\ppatch@level: パッチレベルを	平モードのときだけ発行するこ
plvers.dtx で設定1	とにした (Issue 23) 120
2016/06/26 plfonts.dtx v1.6e	2016/09/14 plvers.dtx v1.1
\@text@composite@x: v1.6a 以降の	\everyjob: 起動時のバナーを取得す
修正で全てのアクセント付き文	るコードを改良 2
字でトラブルが相次いだため、	2016/11/07 plext.dtx v1.2b
いったんパッチを除去。 81	\@@rensuji: 横組で段落の頭に
2016/06/27 plvers.dtx v1.0y	\rensuji を使えるように
General: platex.cfg の読み込みを	\leavevmode を追加して修正 156
追加3	2016/11/09 plcore.dtx v1.2j
2016/06/30 plcore.dtx v1.2f	\e@alloc@top: FAM256 パッチ適用
\AtBeginDvi: \@begindvibox を常	e-pT _E X に対応 133
に横組に 114	\e@mathgroup@top: ${ m FAM}256$ パツ
2016/07/25 jltxdoc.dtx v1.0c	チ適用 e-pT _E X に対応 134
\verb: doc パッケージが上書きする	2016/11/12 jclasses.dtx v1.7
\verb を再々定義 239	\@makefntext: Replaced all \hbox
2016/08/20 plext.dtx v1.2a	to by \hb@xt@ (sync with
\@iiiparbox: \parbox 前後の余分	classes.dtx v1.3a) $\dots 234$
な \xkanjiskip を削除 149	\footnoterule: use \@width (sync
\endtabular: tabular 環境後の余分	with classes.dtx v1.3a) 234
な \xkanjiskip を削除 139	thebibliography: Moved
\p@array: 横組で <t>を指定した場</t>	\@mkboth out of heading arg
合に \@arstrutbox を余計に	(sync with classes.dtx v1.4c) 233
\hbox に入れていたのを修正 . 138	theindex: \columnsep \(\gamma \)
\p@tabular: tabular 環境前の余分	\columnseprule の変更を後ろ
な \xkanjiskip を削除 138	に移動 (sync with classes.dtx
2016/08/25 plcore.dtx v1.2g	v1.4f)
\@footnotetext: 脚注の合印直後で	\listoffigures: Moved \@mkboth
の改行が禁止されてしまう問題	out of heading arg (sync with
に対処 120	classes.dtx v1.4c) 232
\footnote: 合印の前の文字と合印の	\listoftables: Moved \@mkboth
間をベタ組に 118	out of heading arg (sync with

classes.dtx v1.4c) $\dots 232$	Changed \endgraf to \@@par	
\maketitle: ドキュメントに反して	(sync with ltboxes.dtx v1.0y)	149
∖@maketitle が空になっていな	Ensure \@parboxto holds the	
かったのを修正 206	value of \@tempdimb not the	
2016/11/16 jclasses.dtx v1.7a	register itself $(pr/3867)$ (sync	
\@dottedtocline: Added	with ltboxes.dtx v1.1g)	149
$\nonline \operatorname{latex}/2343 \text{ (sync)}$	\@iminipage: Changed \@empty to	
with ltsect.dtx v1.0z) 229	\relax as flag for natural	
\@makechapterhead: replace	width: $pr/2975$ (sync with	
\reset@font with \normalfont	ltboxes.dtx v1.1f)	147
(sync with classes.dtx v1.3c) 214	\@iparbox: Changed \@empty to	
\@makeschapterhead: replace	\relax as flag for natural	
\reset@font with \normalfont	width: $pr/2975$ (sync with	
(sync with classes.dtx v1.3c) 215	ltboxes.dtx v1.1f)	149
\@part: replace \reset@font with	\endminipage: put \global into	
\normalfont (sync with	definition of \@minipagefalse	
classes.dtx v1.3c) $\dots 211$	(sync with ltboxes v1.0z)	148
\@spart: replace \reset@font	\p@tabular: Use \setlength, so	
with \normalfont (sync with	that calc extensions apply	
classes.dtx v1.3c) $\dots 212$	(sync with lttab.dtx v1.1j)	138
enumerate: Use \expandafter	\X@minipage: Changed \@empty to	
(sync with ltlists.dtx v1.0j) . 220	\relax as flag for natural	
\paragraph: replace \reset@font	width: $pr/2975$ (sync with	
with \normalfont (sync with	ltboxes.dtx v1.1f)	147
classes.dtx v1.3c) $\dots 215$	\X@parbox: Changed \@empty to	
\part: Check @noskipsec switch	\relax as flag for natural	
and possibly force horizontal	width: $pr/2975$ (sync with	
mode (sync with classes.dtx	ltboxes.dtx v1.1f)	149
v1.4a)	2016/11/22 jclasses.dtx v1.7b	
\section: replace \reset@font	\backmatter: 補足ドキュメントを	
with \normalfont (sync with	追加	209
classes.dtx v1.3c) $\dots 215$	2016/12/18 jclasses.dtx v1.7c	
\subparagraph: replace	\@endpart: Only add empty page	
\reset@font with \normalfont	after part if twoside and	
(sync with classes.dtx v1.3c) 215	openright (sync with	
\subsection: replace \reset@font	classes.dtx v1.4b)	213
with \normalfont (sync with	\@schapter: 奇妙な article ガード	
classes.dtx v1.3c) $\dots 215$	とコードを削除してドキュメン	
\subsubsection: replace	トを追加	215
\reset@font with \normalfont	2017/02/04 plext.dtx v1.2d	
(sync with classes.dtx v1.3c) 215	\kanji: \Kanji の引数だけでなく後	2
itemize: Use \expandafter $(\mathrm{sync}$	に連続する数字も漢数字になっ	
with ltlists.dtx $v1.0j$) 220	てしまうバグを修正	156
2016/11/19 plext.dtx v1.2c	2017/02/15 jclasses.dtx v1.7d	
$\ensuremath{ ext{Qiiiminipage: Use $\ensuremath{ ext{Qsetminpage}}}}$	General: openleft オプション追加	174
(sync with ltboxes v1.1a) 148	\if@openleft:\if@openleft ${\mathcal Z}$	
\@iiiparbox: Changed \@empty to	イッチ追加	171
\relax as flag for natural	titlepage: book クラスで titlepage	9
width: $pr/2975$ (sync with	を必ず奇数ページに送るように	
ltboxes.dtx v1.1f) 149	変更	203

titlepage のページ番号を奇数なら	2017/03/19 plcore.dtx v1.2m
ば1に、偶数ならば0にリセッ	\@outputpage: \language をリセッ
トするように変更 203	\(\) (sync with ltoutput.dtx
\p@thanks: 縦組クラスの所属表示の	$2017/03/10 \text{ v}1.3c) \dots 110$
番号を直立にした 204	\verb: \verb の途中でハイフネー
\pltx@cleartoevenpage:	ションが起きないように
\cleardoublepage の代用とな	\language を設定 (sync with
る命令群を追加 195	ltmiscen.dtx 2017/03/09
2017/02/20 plcore.dtx v1.2k	v1.1m)
\@setref: 目次で\ref を使った場	2017/03/19 plvers.dtx v1.1b
合に後ろの空白が消える現象に	General:
対処するため、\relax のあとに	\document@default@language
{} を追加 122	の定義を保証 (sync with
	ltfinal.dtx 2017/03/09 v2.0t) 3
2017/02/20 plfonts.dtx v1.6f	\1@nohyphenation の定義を保証
\set@fontsize: \ystrutbox を組み	(sync with ltfinal.dtx
立てるように 39	$2017/03/09 \text{ v2.0t}) \dots 3$
\strut: \strutbox の代わりに	2017/03/28 plext.dtx v1.2f
\ystrutbox を使用 15	\fork@array@option: 表と周囲との
\strutbox: \strutbox を縦横両対	揃え位置を修正 140
応に 15	\fork@parbox@option: 段落の箱と
\ystrut: \ystrut を追加 16	周囲との揃え位置を修正 151
\ystrutbox: \ystrutbox を追加 . 14	2017/04/23 plcore.dtx v1.2n
2017/02/20 plvers.dtx v1.1a	\@gnewline: ドキュメントの追加 . 94
General: 卧TEX <2017/01/01>版対	2017/04/23 plvers.dtx v1.1c
	General: IATEX <2017-04-15>版対
2017/02/25 plcore.dtx v1.2l	応確認 1
\@makecol: 脚注とボトムフロートの	2017/05/03 plcore.dtx v1.2o
順序を入れ替えたことで版面全	\@no@lnbk: 行頭禁則文字の直前でも
体の垂直位置がずれていたのを	改行するようにした 94
修正 (Issue 32) 97	
\@makespecialcolbox: \@makecol	2017/05/04 plext.dtx v1.2g
を変更したのに	\@iimakePbox: Use \setlength, so
\@makespecialcolbox を変更し	that calc extensions apply 153
ない、という判断について明文	\pbox: Make \pbox Robust \dots 152
化 100	2017/07/21 plcore.dtx v1.2p
2017/03/02 plext.dtx v1.2e	\@classv: tabular 環境のセル内の
\parbox: Make \parbox Robust	JFM グル―を削除 129
(sync with ltboxes 2015/01/08	(@tabclassz: tabular 環境のセル内
v1.1h)	の JFM グルーを削除 126
2017/03/05 jclasses.dtx v1.7e	2017/07/21 plext.dtx v1.2h
	\fork@array@option: 表と周囲との
General: トンボに表示するジョブ情 報の書式を変更 173	揃え位置をさらに修正 140
	2017/08/05 kinsoku.dtx v1.0b
\backmatter: \frontmatter と	General: %、&、%、&の禁則ペナ
\mainmatter を奇数ページに送	ルティが誤っていたのを修正
るように変更 209	$(post \to pre) \dots \dots$
2017/03/07 plfonts.dtx v1.6g	2017/08/05 plfonts.dtx v1.6h
\textunderscore: ベースライン補	\adjustbaseline: trace のコード
正量を修正 74	の%忘れを修正 41

和文書体の基準を全角空白から	2017/11/09 plvers.dtx v1.1e
「漢」に変更41	\plIncludeInRelease:
2017/08/25 plcore.dtx v1.2q	latexrelease \mathcal{E}
\@no@lnbk: \nolinebreak の場合に	\platexrelease のエミュレー
\(x)kanjiskip が入らなくなっ	ト内部処理を分離 3
ていたのを修正 94	2017/11/11 plvers.dtx v1.1f
2017/08/31 jclasses.dtx v1.7f	General: IATEX のバナーを保存する
\Chs: 和文書体の基準を全角空白か	コードを platex.ltx から
ら「漢」に変更 178	plcore.ltx へ移動 2
2017/09/19 jclasses.dtx v1.7g	2017/12/04 plvers.dtx v1.1g
\Chs: 内部処理で使ったボックス 0	\everyjob: pIATEX のバナーの定義
を空にした 178	時に \pfmtname, \pfmtversion, \ppatch@level を展開しないよ
2017/09/24 jltxdoc.dtx v1.0d	うに 2
\verb: を追加 239	2017/12/05 plfonts.dtx v1.6k
2017/09/24 plfonts.dtx v1.6i	General: デフォルト設定ファイルの
\<: \<が段落頭でも効くようにした 84	読み込みを plcore.ltx から
\check@nocorr@: 2010 年の $\mathrm{pT}_{\mathrm{FX}}$	platex.ltx へ移動 84
本体の修正により、v1.3i で入れ	2018/01/10 plvers.dtx v1.1h
た対処が不要になっていたので	\plIncludeInRelease: Modify
削除 83	\plIncludeInRelease code to
2017/09/24 plvers.dtx v1.1d	check matching
\everyjob: パッチレベルが負の数の	$\verb \plEndIncluderelease (sync$
場合を pre-release 扱いへ 2	with ltvers.dtx $2018/01/08$
2017/09/26 plcore.dtx v1.2r	v1.1a) 3
∖@tabclassz: tabular 環境の右揃え	2018/01/27 plcore.dtx v1.2v
(r) で罫線がずれるようになって	\@no@lnbk: v1.2o と v1.2q の修正で
いたバグを修正 126	\nolinebreak が効かない場合
2017/09/27 plcore.dtx v1.2s	があったので、元に戻した 94
\@setref: 相互参照のスペースファ	2018/02/04 jclasses.dtx v1.7h
クターを補正 122	\Cjascale: 和文スケール値
\@startline: tabbing 環境の行冒頭	\Cjascale を定義 180
の JFM グル─を削除 125	2018/02/04 plfonts.dtx v1.6l General: 和文スケール値を明文化 88
\verb: \verb の冒頭の半角空白を保	2018/02/24 plcore.dtx v1.2w
持 123	\e@alloc@top: e-upTEX でも
2017/10/31 plcore.dtx v1.2t	\omathchardef を使用 133
\@setref: v1.2s の変更に伴い、	2018/03/01 plcore.dtx v1.2x
\ref が数式モードでエラーに	\@classv: セル最初の \par で空行
なっていたのを修正 122	が入らないようにした 129
2017/11/04 plcore.dtx v1.2u	\@tabclassz:\removejfmglue \mathcal{D}^{\S}
\@setref: emath ∅ \marusuuref	あれば利用するようにした 126
対策122	\pltx@next@inhibitglue:
2017/11/06 plfonts.dtx v1.6j	\everypar $arkappa$ \inhibitglue $lpha$
General: 縦横のエンコーディングの	仕込むマクロ追加 130
セット化を plcore から pldefs へ	\removejfmglue: JFM グルーノー
移動 85	ドを削除するマクロ追加 92
\ct@encoding: \cy@encoding \angle	2018/03/12 plcore.dtx v1.2y
\ct@encoding を具体的な値で	\pltx@next@inhibitglue:
はなく「空」で初期化 10	\inhibitglue $ alle$ \everypar o

末尾に移動 130	\@tombowreset@@paper: コマンド
2018/03/31 plfonts.dtx v1.6m	に分離、さらに bleed 幅を
\DeclareFontEncoding@: utf8.def	\@tombowbleed に切り出し 108
由来のコードを追加 18	\maketombowbox: bleed 幅を
2018/03/31 plvers.dtx v1.1i	\@tombowbleed に切り出し 105
General: I 4 TEX 2ε 2017-04-15 以降	2018/07/03 jclasses.dtx v1.8
必須1	\ 和暦: \today のデフォルトを和暦
2018/04/06 plfonts.dtx v1.6n	から西暦に変更 235
\DeclareFontEncoding@:	2018/07/03 plfonts.dtx v1.6q
\UseRawInputEncoding で使わ	General: シリーズ b が bx と等価に
れる \DeclareFontEncoding@の	なるように宣言 88
保存版(従来の定義)を準備	2018/07/25 plfonts.dtx v1.6r
(sync with ltfinal.dtx	\@text@composite@x:
$2018/04/06 \text{ v}2.1\text{b}) \dots 17$	$\[[no] fixcomposite accent \] $
2018/04/07 plvers.dtx v1.1j	クロ追加 81
General: L ^A T _E X <2018-04-01>版対	コード整理 81
応確認1	\pltx@isletter: PDF のしおりに
2018/04/08 pl fonts.dtx v1.6o	アクセント文字が含まれる場合
$\verb \DeclareFontEncoding@: Delay \\$	に対応 76
full UTF-8 handling to	\pltx@ltx@sh@ft: コード追加 76
\everyjob (sync with	\pltx@oalign: コード追加 75
ltfinal.dtx 2018/04/08 v2.1d) . 18	\pltx@saved@ltx@sh@ft: コード追
2018/04/08 plvers.dtx v1.1k	加 76
\everyjob: バナー調節のコードを最	\pltx@saved@oalign: コード追加 75
後 (plfinal) ではなく最初	\pltx@saved@text@composite@x:
(plcore) に早めた 2	コード整理 78
2018/04/09 plfonts.dtx v1.6p	\pltx@text@composite@x: コード
\DeclareFontEncoding@: v1.6o T	整理 78
加えた対策を削除。参考:	2018/09/02 plcore.dtx v1.3
plvers.dtx 2018/04/09 v1.11 Ø	\@outputtombow: platexrelease
\everyjob	バグ修正 107
2018/04/09 plvers.dtx v1.11	\removejfmglue:\removejfmglue
General: バナーの保存しかたを改良 2	の挙動を明文化 92
\everyjob: バナーの再構築のしかた	2018/09/09 plext.dtx v1.2i
を改良 2	\@@rensuji: 縦数式ディレクション
2018/05/13 plcore.dtx v1.2z	の連数字 156
\@outputpage:	\@pcaption: Made caption an
\@tombowreset@@paper コマン	error outside a float:
ドに分離 110	latex/2815 (sync with ltfloat
\@outputtombow: 色の付いたテキス トの途中で改ページするとトン	1999/04/19 v1.1u) 144
ボにも色が付く現象に対処、さ	\DeclareLayoutCaption: 安全のた
らにトンボの色を	め、\DeclareLayoutCaptionで 定義する内部命令を
\@tombowcolorへ・bleed 幅を	に載する内間間でで \@layoutcaption から
\@tombowcolor <	\@layoutcaption から \@layoutc@ption へ変更 . 144
\@tombowbleed:\@tombowbleed ♥	\p@array: Check for hmode to see
クロ追加 103	if something went wrong during
\@tombowcolor: \@tombowcolor ♥	parsing (pr/2884) (sync with
クロ追加 104	lttab.dtx 1998/11/13 v1.1m) 139
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	1000.001 1000/11/10 (1.1111)

Moved the code associated with	2019/04/02 jclasses.dtx v1.8b
\@mkpream into the group	\heisei: \heisei の値は
provided by the box, for	西暦 – 1988 で固定 235
robustness ($latex/2183$) (sync	\pltx@today@year: \today の計
with lttab.dtx 1996/10/21	算・出力方法を変更。 235
v1.1i)	2019/08/13 plfonts.dtx v1.6s
${ m Use} \$	General: Explicitly set some
(sync with lttab.dtx	defaults after
$1996/10/21 \text{ v1.1i}) \dots 138$	\DeclareErrorKanjiFont
2018/09/20 plext.dtx v1.2j	change (sync with ltfssini.dtx
\p@tabular: Change \@stabular	$2019/07/09 \text{ v}3.1c) \dots 85$
to \p@stabular, to avoid	\DeclareErrorKanjiFont:
conflict with stabular package 138	\DeclareErrorKanjiFont:
2018/09/24 plvers.dtx v1.1m	Don't set any \k@ macros
\everyjob: バナーの再構築を簡略化 2	(sync with ltfssbas.dtx
2018/10/07 plext.dtx v1.2k	2019/07/09 v3.2c) 23
\DeclareLayoutCaption: $++7$	2019/09/16 plcore.dtx v1.3c
ションのデフォルトの組方向を y	\AtBeginDvi: Make \AtBeginDvi
から n へ変更 (forum:2506,	robust (sync with ltoutput.dtx
issue 76)	2019/08/27 v1.4e) 114
$\mbox{\tt make@pcaptionbox:}\ \mbox{\tt ++} \mbox{\tt -} \mbox{\tt }$	\underline: Make \underline
の組み方向が基本組の組み方向	robust (sync with ltboxes.dtx
と直交する場合に、深さを忘れ	2019/08/27 v1.3b) 132
ていたバグ修正 (forum:2506,	2019/09/16 plfonts.dtx v1.6t
issue 76) 146	\strut: Make \strut, \tstrut
2018/10/25 jclasses.dtx v1.8a	etc. robust (sync with ltdefns.dtx 2019/08/27 v1.5f) 15
\addcontentsline: ファイル書き出	\usefont: Make \usefont etc.
し時の行末文字対策 (sync with	robust (sync with ltfssbas.dtx
ltsect.dtx 2018/09/26 v1.1c) 229	2019/08/27 v3.2d) 58
2018/10/31 plcore.dtx v1.3a	2019/09/16 plvers.dtx v1.1p
General: IATEX 2_{ε} \succeq pIATEX 2_{ε} \mathcal{O}	\plIncludeInRelease: エラーメッ
更新タイミングずれ対策を	セージを更新 (sync with
plvers.dtx (plfinal) から	ltvers.dtx 2019/07/01 v1.1c) 3
plcore.dtx へ移動、	2019/09/29 plext.dtx v1.2l
latexrelease 対策 (sync with	\bou: Make \bou robust 157
ltfinal.dtx $2018/08/24 \text{ v2.1f}$) 135	\kasen: Make \kasen robust 157
2018/10/31 plvers.dtx v1.1n	2019/09/29 plfonts.dtx v1.6u
General: $\LaTeX 2_{\varepsilon} \succeq p \LaTeX 2_{\varepsilon} \mathcal{O}$	\adjustbaseline: Make
更新タイミングずれ対策を	\adjustbaseline robust 41
plvers.dtx (plfinal) から	\userelfont: Make \userelfont
plcore.dtx へ移動3	robust 33
2018/12/01 plvers.dtx v1.1o	2019/10/01 plvers.dtx v1.1q
General: トトテT̄EX <2018-12-01>版対	General: PTEX <2019-10-01>版対
応確認 1	応確認 1
2019/02/08 plcore.dtx v1.3b	2019/10/17 jclasses.dtx v1.8c
\@tabclassz: 中央揃えのセルでの	\@normalsize: フォントサイズ変更
\unskip 対策 (sync with	命令を robust に (sync with
lttab.dtx 2018/12/30 v1.1p) 126	classes.dtx 2019/08/27 v1.4j) 178

\footnotesize: フォントサイズ変	ltfssbas.dtx 2019/12/17 v3.2e) 58
更命令を robust に (sync with	2020/02/01 plvers.dtx v1.1r
classes.dtx $2019/08/27 \text{ v}1.4\text{j})$ 179	General: LATEX <2020-02-02>版対
\Huge: フォントサイズ変更命令を	応確認 1
robust & (sync with classes.dtx	2020/02/03 plfonts.dtx v1.6w
$2019/08/27 \text{ v}1.4\text{j}) \dots 179$	\init@series@setup: 巻き戻しのバ
\small: フォントサイズ変更命令を	グ修正68
robust $\ensuremath{\mathcal{V}}$ (sync with classes.dtx	2020/02/24 plfonts.dtx v1.6y
$2019/08/27 \text{ v}1.4\text{j}) \dots 178$	\fontseriesforce: Switch
2019/10/19 plcore.dtx v1.3d	\if@forced@series added
\e@alloc@top: 判定順序を修正;	(sync with ltfssaxes.dtx
extended mode かつ FAM256	2020/02/18 v1.0c) 50
拡張ありの場合に限りレジスタ	\mdseries: Make the \ifx
数が 65536 個のため。 133	selection outside of
\float@count: コピー忘れ 134	\fontseries argument so that
2019/10/25 jclasses.dtx v1.8d	it is not done several times
\@normalsize: Don't use	(sync with ltfssini.dtx
\MakeRobust if in rollback	2020/02/18 v3.1i) 64
prior to 2015 (sync with	\update@series@target@value@kanji:
classes.dtx 2019/10/25 v1.4k) 178	No series auto-update when
2020/01/03 jclasses.dtx v1.8e	forced (sync with ltfssini.dtx
\labelitemiv: Normalize label	2020/02/18 v3.1i) 65
fonts (sync with classes.dtx	Recognize current family if it is
2019/12/20 v1.4l) 220	not a "meta" family and
2020/02/01 plfonts.dtx v1.6v	auto-update series using
General: Set \kanjishapedefault	\bfdefault (sync with
explicitly to "n" (sync with	ltfssini.dtx 2020/02/18 v3.1i) . 65
fontdef.dtx 2019/12/17 v3.0e) 85	2020/02/28 plfonts.dtx v1.6z
\<: 定義を pldefs から plcore へ移動 84	\pltx@latex@level:
\eminnershape: Support \emph	\series@maybe@drop@one@m ${\cal O}$
sequences (sync with	存在確認 48
ltfssini.dtx 2019/12/17 v3.1e) 73	\set@target@series@kanji: Drop
定義を pldefs から plcore へ移動 73 \fontseriesforce: New	"m" only in a specific set of
commands \fontseriesforce	values (sync with ltfssaxes.dtx
etc. (sync with ltfssaxes.dtx	2020/02/27 v1.0d) 50
2019/12/16 v1.0a) 50	\update@series@target@value@kanji:
\fontshapeforce: New commands	Drop surplus "m" from
\fontshapeforce etc. (sync	\target@series@value (sync
with ltfssaxes.dtx 2019/12/16	with ltfssini.dtx 2020/02/25
v1.0a)	v3.1j) 65
\mdseries@gt: LATEX が mweights	2020/03/05 plcore.dtx v1.3e
パッケージを基にしたシリーズ	\do@noligs: 合字処理を抑止しつつ
のカスタム設定を導入したので、	\xkanjiskip は挿入 124
これをサポート (sync with	2020/03/05 plfonts.dtx v1.7
ltfssini.dtx 2019/12/17 v3.1e) 62	\inlist@: 引数・リストとも
\textgt: 定義を pldefs から plcore	\detokenize によって文字列化 12
へ移動69	\pltx@do@subst@correction@tate:
\usefont: Don't call \fontseries	\do@subst@correctionの日本
or \fontshape (sync with	語化 28

\pltx@latex@level:	2020/09/26 plcore.dtx v1.3f
$\verb \series@maybe@drop@one@m@x $	\shipout_execute_cont::
の存在確認 48	$__$ shipout_execute_cont: $lpha$
2020/03/06 plfonts.dtx v1.7a	再定義 (checked ltshipout.dtx
\normalfont:	$2020/09/21 \text{ v}1.0c) \dots 115$
\@defaultfamilyhook を活用	\AtBeginDvi:\AtBeginDvi を再定
(sync with ltfssini.dtx	義しない (checked ltshipout.dtx
$2020/02/10 \text{ v}3.1\text{h}) \dots 60$	$2020/09/21 \text{ v}1.0c) \dots 114$
2020/03/14 plfonts.dtx v1.7b	2020/09/28 kinsoku.dtx v1.0c
General: 古い \LaTeX でもフォー	General: ! Ø \inhibitxspcode $lpha$
マット生成が通るように 69	設定 169
2020/03/14 plvers.dtx v1.1s	2020/09/28 plcore.dtx v1.3g
General: LaTeX <2020-02-02> PL5	\@vtryfc: 縦組で空のフロートだけ
版対応確認 1	のページのフッタ (Issue 78) . 102
2020/03/15 plfonts.dtx v1.7c	\shipout_execute_cont::
\if@shape@roman@kanji:	plexpl3 で定義した命令を使用 115
\fontshape/\fontshapeforce が和文シェイプ未定義の場合は	2020/09/28 plexpl3.dtx v1.0
\k@shape を更新しないように変	General: 初版:pTEX の条件文を定義 7
更 52	2020/09/28 plfonts.dtx v1.7h
2020/03/23 plfonts.dtx v1.7d	\expand@font@defaults: New
\pltx@do@subst@correction@tate:	hook management interface
ドキュメント改良 28	(sync with ltfssini.dtx
2020/03/25 plvers.dtx v1.1t	$2020/08/21 \text{ v3.2b}) \dots 62$
\everyjob: バナーの再構築を効率化 2	\init@series@setup: Handling
2020/03/26 plfonts.dtx v1.7e	\seriesdefault changes (sync
\DeclareKanjiSubstitution:	with ltfssini.dtx 2020/04/13
\default@k@を使用 22	v3.1n)
\ensure@KanjiEncodingPair: 縱横	\kanjiseriesdefault@kernel:
エンコーディングのセット化確認 20	Handling \seriesdefault
\selectfont: 縦横エンコーディン	changes (sync with ltfssini.dtx
グのセット化確認 34	2020/04/13 v3.1n) 68
\wrong@ja@fontshape:	\mdseries: New hook management
\wrong@fontshape の和文対応 24	interface (sync with ltfssini.dtx 2020/08/21 v3.2b) 65
2020/03/28 plvers.dtx v1.1u	2020/08/21 v3.2b) 65 \normalfont: New hook
General: latexrelease 利用時の警告	management interface (sync
を早めた 4	with ltfssini.dtx 2020/08/21
2020/04/07 plfonts.dtx v1.7f	v3.2b)
\mdseries: Support legacy use of	2020/09/28 plvers.dtx v1.1v
\bfdefault and \mddefault,	General: 新しいフックを活用 5
use	2020/09/30 jclasses.dtx v1.8f
\@setYYseriesdefaultshook	\addcontentsline: add a fourth
(sync with ltfssini.dtx 2020/03/19 v3.1k and	argument for better hyperref
2020/04/06 v3.1m	compability (sync with
2020/04/14 plfonts.dtx v1.7g	ltsect.dtx 2020/07/27 v1.1e) 229
\process@table: Small update for	2020/09/30 plvers.dtx v1.1w
speed. (sync with ltfssdcl.dtx	General: PTFX <2020-10-01>版対
2020/04/13 v3.0v) 73	応確認1

2020/10/07 plext.dtx v1.2m	(sync with ltfssaxes.dtx
\X@picture@dimens: Use	$2020/12/22 \text{ v}1.0\text{h}) \dots 52$
\d defaultunitsset $(\mathrm{gh}/372)$	\selectfont: Execute delayed
(sync with ltpictur.dtx	series and shape updates
$2020/08/14 \text{ v}1.2a) \dots 154$	(latex2e/444) (sync with
マクロ追加 154	ltfsstrc.dtx 2020/12/22 v3.0n) 35
2020/10/07 plfonts.dtx v1.7i	2021/03/04 kinsoku.dtx v1.0d
\expand@font@defaults: フックシ	General: :の \inhibitxspcode を
ステムの有無判定を改良 62	設定 169
\init@series@setup: フックシステ	: の \xspcode を設定 165
ムの有無判定を改良 68	2021/03/14 plcore.dtx v1.3h
\kanjiseriesdefault@kernel:	\@footnotetext:
フックシステムの有無判定を改良 68	FTFX $2arepsilon$ 2021-06-01 TV\$ \par
\mdseries: フックシステムの有無判	が入る (sync with ltfloat.dtx
定を改良65	
\normalfont: フックシステムの有	2021/02/10 v1.2e)
無判定を改良 60	_shipout_execute_nohooks_cont::
2020/10/07 plvers.dtx v1.1x	$ \mathbb{E} \mathbf{T}_{\mathbf{E}} \mathbf{X} 2arepsilon 2021-06-01 $ では
\pltx@newhook@avail: フックシス	\shipout_execute_nohooks_cont:
テムが利用可能かどうか判定 3	が追加された
2020/12/29 plfonts.dtx v1.7j	2021/03/25 plcore.dtx v1.3i
\usefont: Drop "m" for latex2e	\@makecol: 非横組時における
issue 453 (sync with	\@outputbox の寸法補正のコー
ltfssbas.dtx 2020/12/10 v3.2h) 58	ドを
2021/01/10 plfonts.dtx v1.7k	\pltx@adjust@wd@outputbox
General: Adjust start values for	として切り出した 98
series and shape (latex2e/444)	\@vtryfc : 非横組時における
(sync with ltfssini.dtx	\@outputbox の寸法補正のコー
2020/12/06 v3.2f) 85	ドを
\delayed@k@adjustment:	\pltx@adjust@wd@outputbox@vtryfc
Distangle series and shape	として切り出した 102
update (latex2e/444) (sync	2021/05/23 plfonts.dtx v1.7l
with ltfssaxes.dtx $2020/12/22$	\normalfont: Unconditionally
v1.0h)	switch to the requested font
\delayed@merge@kanji@series:	face (latex2e/444) (sync with
Distangle series and shape	ltfssini.dtx $2021/04/26 \text{ v}3.2\text{h}$) 60
update (latex2e/444) (sync	\selectfont: Unset the forced
with ltfssaxes.dtx $2020/12/22$	series boolean when reaching
v1.0h) 51	\selectfont $(latex2e/444)$
\delayed@merge@kanji@shape:	(sync with ltfsstrc.dtx
Distangle series and shape	$2021/04/26 \text{ v}3.00) \dots 35$
update (latex2e/444) (sync	\usefont: Unconditionally switch
with ltfssaxes.dtx $2020/12/22$	to the requested font face
v1.0h)	(latex2e/444) (sync with
\fontseries: Distangle series and	ltfssbas.dtx 2021/04/26 v3.2i) 58
shape update (latex2e/444)	2021/06/03 plcore.dtx v1.3j
(sync with ltfssaxes.dtx	\shipout_execute_cont:: 巻戻
$2020/12/22 \text{ v1.0h}) \dots 49$	しコードのエラー修正 115
\fontshape: Distangle series and	\shipout_execute_nohooks_cont::
shape update (latex2e/444)	巻戻しコードのエラー修正 116

2021/06/04 plfonts.dtx v1.7m	の forced@series フラグを分離 . 49
\fontshape: latex2e/444 対応:	\selectfont: 従属欧文のシリーズ
\@shape@roman@kanji フラグを	とシェープ更新を反映するよう
${\tt delayed@k@adjustment}$ の中で	に修正37
変更/復帰する 52	2021/06/27 plvers.dtx v1.1y
2021/06/27 plfonts.dtx v1.7n	General: トトffEX <2021-06-01>版ほ
\if@forced@series@kanji: 和欧文	ぼ対応1

イタリック体の数字は、その項目が説明されているページを示しています。下線の 引かれた数字は、定義されているページを示しています。その他の数字は、その項 目が使われているページを示しています。

Symbols	\@Alph h1321,
\ i50	h1322, h1330, h1331, h1415, h1421
\# g4	\@alph h1413, h1419
\\$ g5	\@ampacol
\% g6	d1273, d1297, d1328, d1357, d1386
\& g7	\@arabic h1122, h1124, h1125,
\ h1797	h1127, h1129, h1131, h1133,
\< <u>c2800</u>	h1137, h1139, h1140, h1142,
\@@enc@update c1199	h1144, h1146, h1148, h1412,
\@@end a14, a23, c2878	h1418, h1511, h1514, h1518,
\@@endpbox e48	h1521, h1538, h1541, h1545,
\@@if@newlist	h1548, h1587, h1591, h1785, h1792
d645, d695, d712, d766, d781, d835	\@arrayacol e3
$\colone{1}$ \@@kenc@update c1211, c1220	\@arrayclassiv e4
\c 00paperheight $d542, d569,$	\@arrayclassz e3
d591, <u>d609</u> , d621, d622, d734, d803	\@arraycr e5
\@@paperwidth	\@arstrut e47
\dots d545, d548, d550, d552,	\@arstrutbox e25
d554, d570, d573, d575, d577,	$\ensuremath{\texttt{Qauthor}}\ h949, h999, h1013, h1052, h1071$
d579, d592, d595, d597, d599,	\@auxout h1655
$d601, \underline{d609}, d619, d620, d733, d802$	\@badtab d1236, d1250
\@@par d1472, d1495, e54, e337, e340	\@bannerfont $\dots \underline{d433}, d445, d494$
\@@picture $e455, e456, e472$	$\verb \dasha d433, d445, d494, h70 $
\@@rensuji $\dots \dots \underline{e519}$	\@BC <u>d428</u> , d467, d515, d555, d580, d602
\@@startpbox e48	$\verb \@begin@alignbox e23, e64, e70, e76,$
\@@topmargin $\underline{d609}$, $d617$, $d623$, $d674$,	e81, e88, e95, e100, e103, e106,
d731, d735, d746, d800, d804, d815	e113, e116, e119, e124, e127, e130
\@@underline d1515,	\@begin@parbox
d1516, d1523, d1524, d1531, d1532	. e346, e355, e358, e361, e364,
\@acol d1281, d1305, d1336,	e369, e372, e375, e378, e383,
d1365, d1394, d1441, d1448, e3, e17	e386, e389, e392, e399, e402,
\@acolampacol d1271,	e405, e408, e413, e416, e419, e422
d1279, d1295, d1303, d1326,	\@begin@tempboxa
d1334, d1355, d1363, d1384, d1392	d1472, d1495, e336, e339
\@addamp	\@begindocumenthook a115, a116
d1277, d1301, d1332, d1361, d1390	\@begindvi d672, d744, d813
\@addtopreamble . d1409, d1415, d1420	\@begindvibox d860, d861,
\@addtoreset h1589, h1822	d870, d871, d876, d877, d883, d884 \Obeginparpenalty h1083, <u>h1351</u>
\\(@afterheading	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
h1199, h1225, h1267, h1286	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
\@afterindenttrue h1170, h1251, h1642	\@BL <u>d428</u> , d461, d509, d555, d580, d602

\@B1 <u>d428</u> , d464, d512, d552, d577, d599	\@defaultunits
\@bou e547, e548, e564	\dots c1034, c1036, c1072, c1074
\@BR <u>d428</u> , d471, d519, d555, d580, d602	\@defaultunitsset
\@Br $\underline{d428}$, d474, d522, d552, d577, d599	\dots e459, e466, e467, e468, e469
$\verb \color= i43, i44, i45 $	\@depth c1047, c1050, c1053,
\@captionbox	c1085, c1088, c1091, e29, e32,
e144, $e218$, $e222$, $e224$, $e226$, $e269$	e35, e40, e43, e529, e530, e531, e570
\c 0captype e199, e203,	\d Odotsep $\underline{h1632}$, $h1648$
e206, e232, e233, e237, e248, e264	\@dottedtocline
\@cclv d163, d204, d235, d266	. $\underline{h1638}$, $h1723$, $h1724$, $h1728$,
\@cclvi c2601, c2645, c2648, c2649, c2657	h1729, h1730, h1731, h1734,
\@centercr h1494	h1735, h1736, h1737, h1742,
$\verb \colored changed@cmd c174, c194, c224$	h1743, h1744, h1745, h1748,
$\verb \colored c261, c285, c1221, \underline{c1242}$	h1749, h1750, h1751, h1765, h1766
\c 0chapapp . h847, h871, h905, h930,	\@eha c340, c359, c382,
$\underline{\text{h}1150},\ \text{h}1257,\ \text{h}1259,\ \text{h}1277,\ \text{h}1328$	c407, c823, c905, c986, c1193,
\@chappos . h847, h871, h905, h930,	c1205, c1237, e213, h1610, h1614
$\underline{\text{h}1150}$, $\underline{\text{h}1257}$, $\underline{\text{h}1259}$, $\underline{\text{h}1277}$, $\underline{\text{h}1329}$	\@ehd d15, e200
\Qchapter $h1252$, $h1253$	\@elt c2039, c2041, c2042,
\@check@plIncludeInRelease	c2070, c2072, c2073, c2092,
$\dots \dots a100, a101, a102, a104$	c2100, c2277, c2279, c2280,
\@chnum	c2307, $c2309$, $c2310$, $c2328$,
d1285, d1309, d1340, d1369, d1398	c2336, d164, d373, d380, d389, d396
\@cite <u>h1803</u>	\@enablejfamfalse h113
\@CL $\underline{d431}$, d478, d525, d550, d575, d597	\@enablejfamtrue h16
\@classiv d1443, d1450, e4, e19	\@end@alignbox
\@classv <u>d1406</u>	e56, e57, e68, e74, e77,
\@classz d1442, d1449, e3, e18	e86, e93, e96, e101, e104, e107,
\@clubpenalty h1795	e114, e117, e120, e125, e128, e131
\@colht d186, d211, d242,	\@end@check@plIncludeInRelease .
d273, d307, d313, d317, d335,	a101, a103
d340, d375, d391, d696, d767, d836	\@end@parbox
\@combinefloats d167, d207, d238, d269	. e348, e356, e359, e362, e365,
\@CR \d431, \d481, \d528, \d550, \d575, \d597	e370, e373, e376, e379, e384,
\@curline d1241, d1255	e387, e390, e393, e400, e403,
\@current@cmd c1222	e406, e409, e414, e417, e420, e423
\@currentlabel	\@end@tempboxa d1485, d1508, e349
d1049, d1073, d1095, d1117	\(\text{Qendparpenalty} \text{h1086}, \frac{h1351}{h1218}, \frac{h1222}{h1224}
\@currname a76, a84	\\(\text{Qendpart} \\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
\Quartahman d1240, d1254	\Qendpbox d1410, d1416, d1421, e48 \Qenumctr h1441, h1442, h1452
\\ \text{0curtabmar} \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	
\@date h950, h1002, h1014, h1053, h1074 \@dblarg e206	\@enumdepth h1439, h1440, h1441, h1448 \@eqnnum <u>e573</u>
\@dblfloat h1533, h1560	\Qesphack i43, i45
\@dblfpbot <u>h738</u>	\\Qevenfoot \\delta 660,
\@dblfpsep h738	d727, d796, h806, h811, h819,
\@dblfptop <u>h738</u>	h822, h824, h829, h882, h888, h938
\@defaultfamilyhook c1788,	\\delta evenhead \\delta \\del
•	10070111000 0000, 0120, 0100,
C1791, C1606, C1610, C1620, C1641	
c1791, c1808, c1810, c1825, c1841 \@defaultsubs c505, c536, c581, c616	<u>h806</u> , h810, h815, h817, h826, h830, h832, h881, h887, h939, h941

$\ensuremath{\texttt{Qexpandfontdefaultshook}}\ \dots\ c1905$	\@gobbletwo
\@failedlist d381, d397	c507, c538, c583, c618, c723,
\@finalstrut d1054, d1078, d1100, d1122	c725, c726, h806, h813, h820, h943
\@firstampfalse	\@halignto e5, e7, e16, e46
d1281, d1305, d1336, d1365, d1394	\@height c1047, c1050, c1053,
\@firstofone e204	c1085, c1088, c1091, e28, e31,
\@firstoftwo c751,	e34, e39, e42, e529, e530, e531, e570
c2504, $c2508$, $c2515$, $c2524$,	\@highpenalty $\underline{h290}$, h1677, h1696, h1704
c2533, c2537, c2546, c2581, c2674	\@hightab . d1235, d1237, d1249, d1251
\@flfail d381, d397	\@idxitem h1812, <u>h1814</u>
\@float h1530, h1557	\@ifl@t@r a58, d23
\@floatbox e134, e162, e212, e223	\@ifnextchar d20, d1000,
\@flsucceed d374, d382, d390, d398	d1004, d1012, d1016, d1026,
\@font@info c178, c206,	d1034, e8, e10, e12, e20, e146,
c228, c266, c290, c304, c310,	e149, e185, e186, e187, e190,
c856, c1020, c1061, c1099, c1690	e191, e194, e273, e275, e277,
\@font@shape@subst@warning	e279, e323, e325, e327, e329,
c1436, c1439,	e426, e428, e430, e452, e454, e521
c1601, c1605, c1608, c1643,	\@ifstar d1184, d1196, d1206, e520, i49
c1646, c2223, c2226, c2244, c2247	\@ifundefined
$\colon=0$ of ont $\colon=0$ or $\colon=0$ of $\colon=0$	\\(\text{@iiiparbox} \cdots \c
c532, c537, c577, c582, c610, c617	<u>d1464</u> , e322, e326, e328, e330, <u>e331</u>
$\verb \color= c756, h1626, h1627 $	\@iilayoutcaption <u>e185</u>
\c 0footnotemark d1002,	\@iimakePbox e431, e432
d1007, $d1014$, $d1019$, $d1126$, $f11$	\\(\mathref{e}\)iminipage \(\) \(\ext{e}\)iminipage \(\) \(\ext{e}\)278, \(\ext{e}\)278
\c 0footnotetext d1002,	\@iiparbox e328, e329
$d1014, d1028, d1036, \underline{d1038}, e305$	\@ilayoutcaption <u>e183</u>
\@forced@series@kanjifalse	\@imakePbox e428, e430
$\dots \dots $ c886, c1362, c1376, c1382	\@imakepbox <u>e427</u>
\@forced@series@kanjitrue	\@iminipage e276, e277
c1363, c1394, c1400	\@inmathwarn c1244
$\verb \@forced@seriesfalse c952, c1375, c1379 $	\@input@ d1261
\@forced@seriestrue	\@iparbox e326, <u>e327</u>
\dots c1321, c1361, c1393, c1397	\@itemdepth h1467, h1468, h1469, h1476
$\verb Qfpbot d379, d395, h723 $	\@itemitem h1469, h1470
$\verb Qfpsep d377, d393, \underline{h723} $	\@itempenalty <u>h1351</u>
\@fptop d376, d392, <u>h723</u>	\@ixpt f68, h179, h221, i13
\@freelist	\@Kanji <u>e54</u> 3
d165, d205, d236, d267, d382, d398	\@kanji@shape@nochange@info $c1677$
\@getpen d93, d108, d124, d140	\@kludgeins d183,
\@gnewline <u>d77</u>	d208, d239, d270, d297, d298,
\@gobble c502, c533, c578,	d299, d308, d332, d336, d354, d365
c612, c720, c721, c722, c728,	\@knjcmdfalse c839, c921, c1002
c2100, c2336, d668, d669, d670,	\@knjcmdtrue c790, c795
d740, d741, d742, d809, d810,	\@landscapefalse h3
d811,e201,h944,h945,h946,h1656	\@landscapetrue h63
\@gobble@plIncludeInRelease	\@lastchclass
a80, a88, a98	d1270, d1294, d1325, d1354, d1383

 $\label{eq:File Key: a=plvers.dtx} \textbf{ b=plexpl3.dtx}, \textbf{ c=plfonts.dtx}, \textbf{ d=plcore.dtx}, \textbf{ e=plext.dtx}, \textbf{ f=pl209.dtx}, \textbf{ g=kinsoku.dtx}, \textbf{ h=jclasses.dtx}, \textbf{ i=jltxdoc.dtx}$

\@latex@error c326,	\@minipagefalse e318, h1575
c340, c359, c382, c407, c823,	\@minipagerestore e307
c905, c986, c1193, c1205, c1237,	\@mkboth h806, h813, h820, h834,
d10, $e200$, $e213$, $h1609$, $h1613$	h861, h892, h920, h943, h1670,
\c Qlatex@info e172	h1761, h1774, h1783, h1784, h1808
\@latex@warning c238,	\@mkpream e46
d1139, d1153, d1166, e233, h1799	\@MM d1047, d1071, d1093, d1115
$\c \c \$	\@mpargs e284, e322
$\verb \Qlayoutfloat \dots \dots \underline{e146}$	\@mparswitchfalse h1892, h1898
\@listdepth e306, h1444, h1472	\@mparswitchtrue h1896
\@listI h163, <u>h1358</u> , i11	\@mpfn d1000, d1012, e303
\@listi h163, h183, h193, h203,	\@mpfootins e312, e313, e316, <u>h1584</u>
h215, h225, h235, <u>h1358</u> , i11, i17	\@mpfootnotetext e305
\@listii <u>h1377</u>	\@mplistdepth e306
\@listiii $\underline{h1377}$	\@namedef c180, c181, c208,
\@listiv <u>h1377</u>	c209, c230, c231, c268, c269,
\@listv <u>h1377</u>	c292, c293, c317, c397, c422, e8
\@listvi <u>h1377</u>	\@nameuse d653, d720, d789
\@lnumwidth $h1636$, $h1645$, $h1646$,	\@needsformat d8
h1683, h1701, h1702, h1716, h1717	\@needsPf@rmat <u>d2</u>
\@lowpenalty	\@needsPformat d2
<u>h290</u> , h1083, h1351, h1352, h1353	\Onewlistfalse $d646$, $d713$, $d782$
\@M h1086,	\Onextchar d1409, d1415, d1420
h1193, h1212, h1223, h1230, h1643	\Onil a16, a77, a78, c454, c467, c1416,
\@m d1144, h1797	c1418, $c1459$, $c1461$, $c1577$,
\@mainmatterfalse h1157, h1164	c1579, $c1628$, $c1630$, $c1664$,
\@mainmattertrue h11, h1160	c1666, c2210, c2231, c2756, c2779
$\verb \Qmakecaption \dots \dots \underline{h1562}$	\@nnil c1034, c1036, c1072, c1074
$\mbox{\tt Qmakechapterhead}$ $h1267, \underline{h1268}$	\@no@lnbk <u>d85</u>
$\verb \Qmakecol \dots \dots \underline{d159}$	\@nobreakfalse h1689
$\verb \dashefnmark \underline{d970}, d1128, d1129,$	\@nobreaktrue h1688
$\underline{\mathbf{f}11}$, $\mathbf{h}1025$, $\mathbf{h}1029$, $\mathbf{h}1825$, $\mathbf{h}1829$	\@noitemerr h1798
\@makefntext d1053, d1077,	\@noligs d1182, d1194, d1205
$d1099, d1121, h1028, h1032, \underline{h1823}$	\@nolnerr . d79, d89, d104, d120, d136
$\c d1181, d1193, d1204, i48$	\@nomath c2383, c2387, c2403,
$\mbox{\tt Qmakeschapterhead}$ h1286, h1288, h1807	c2410, c2417, f58, h1624, h1625
\@makespecialcolbox	\@normalsize <u>h139</u>
\dots d184, d209, d240, d271, <u>d294</u>	\@notffam $\dots \dots \underline{c1260}$
\@maketitle	\Onotffamfalse c1268
$h1036, h1037, h1042, h1049, \underline{h1060}$	\Onotffamtrue c1297, c1309
\Omathrmmcfalse h17	\@notkfam $\dots \dots \underline{c1260}$
$\mbox{\tt Qmathrmmctrue}$ $h111, h114$	\Onotkfamfalse c1267
\@maxdepth d171, d187, d197,	\@notkfamtrue c1275, c1288
d212, d229, d243, d260, d274, d291	\@nxttabmar d1235,
$\verb \delta \texttt{0medpenalty} \dots \dots \underline{\texttt{h290}}$	d1237, d1239, d1249, d1251, d1253
$\verb \coloredge c2040, c2278$	\@obsoletefile f83, f87, f91, f95, f99, f103
\@meta@family@list@kanji	\@oddfoot
$\underline{c2024}, c2308, c2328$	$d656, d723, d792, \underline{h806}, h809,$
\@midlist d165, d166,	h811, h819, h823, h825, h829,
d205, d206, d236, d237, d267, d268	h858, h884, h890, h917, h919, h938

\@oddhead d656, d723,	\@ptsize <u>h4</u> , h57, h59,
d792, <u>h806</u> , h808, h816, h818,	h61, h62, h133, h134, h135, h136
h826, h831, h833, h859, h860,	\@reinserts <u>d360</u>
h883, h889, h916, h918, h940, h942	\@rensuji <u>e519</u>
$\verb \Qonlypreamble c296, c297, c298,$	\@reserveda c1323,
c299, c300, c316, c445, c478,	c2209, $c2211$, $c2212$, $c2217$,
c734, c2375, c2376, d28, d29, e180	c2218, c2232, c2233, c2238, c2239
$\verb \coopenbib@code \dots h103, h1789, \underline{h1801} $	\@resetactivechars $d644$, $d711$, $d780$
$\color=100$ \copenleftfalse h95, h97	\c 0restonecolfalse h957,
\@openlefttrue h96	h970, h1666, h1757, h1770, h1805
\@openrightfalse h96, h97	\@restonecoltrue h956,
\@openrighttrue h93, h95	h968, h1665, h1756, h1769, h1805
\@outputbox d163, d170,	\@Roman h1121, h1136
d172, d186, d189, d190, d204,	\@roman h1414, h1420
d211, d214, d215, d233, d235,	$\ensuremath{\texttt{Crotswfalse}}\ e60, e239, e285, e351, e433$
d242, d245, d246, d266, d273,	\@rotswtrue
d276, d277, d301, d303, d304,	e30, e79, e241, e288, e367, e436
d309, d312, d317, d319, d334,	\@schapter $h1252$, $\underline{h1285}$
d340, d342, d372, d375, d378,	\@secondoftwo
d388, d391, d394, d686, d758, d827	c2504, c2510, c2520, c2533,
\@outputpage <u>d633</u>	c2542, c2546, c2547, c2579, c2672
\@outputtombow $d534$, d673, d745, d814	\@secpenalty h1676, h1711
\@parboxrestore . d647, d714, d783,	\@setbfseriesdefaultshook c1933
d1048, d1072, d1094, d1116,	\@setfontsize h141, h142, h143,
d1472, d1495, e302, e337, e340	h144, h145, h146, h179, h189,
\@parboxto d1467, d1475, d1482,	h199, h211, h221, h231, h242,
d1490, d1498, d1505, e344, e346	h243, h244, h245, h246, h247,
\@parse@version a16, a77, a78	h248, h251, h252, h253, h254,
\@part h1171, h1180, <u>h1182</u>	h255, h256, h257, h260, h261,
\@pboxswfalse	h262, h263, h264, h265, i6, i13
d1470, d1493, e216, e253, e433	\@setmdseriesdefaultshook c1954
\@pboxswtrue	\@setminipage e308
d1480, d1503, e221, e259, e444	\\ \text{Qsetref} \\ \delta \text{d1131} \\ \delta \text{catheta} \\ \delta \text{d1142} \\ \delta \text{d1144} \\ \delta \text{d1158} \\ \delta \text{d1171} \\
\@pcaption <u>e198</u>	\@setref@ . d1142, d1144, d1158, d1171
\@picbox e488, e495, e496	\\ \(\text{Qsettopoint} \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\
\@picht e461, e467, e495	h443, h541, h586, h665, h666, h688
\@picwd e458, e461, e466, e488, e495	\QshapeQromanQkanjifalse c1494, c1506 \QshapeQromanQkanjitrue
\@plIncludeInRele@se a73, a74	c1473, c1492, c1505
\@plIncludeInRelease a71, a72, a73	\@sharp d1286, d1288,
\@plincludeinreleasefalse	d1290, d1311, d1314, d1317,
a62, a68, a93, a99	d1250, d1311, d1314, d1317, d1342, d1345, d1348, d1371,
\@plincludeinreleasetrue a83	d1374, d1377, d1399, d1401,
\@pnumwidth	d1403, d1410, d1416, d1421, e51
. h1630, h1650, h1680, h1681,	\@shipoutsetup \d633
h1685, h1699, h1703, h1714, h1718	\(\mathref{QSpart}\) \(\cdot\) \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
\@preamble d1283, d1284, d1307,	\\(\text{Qspecialpagefalse}\) . \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
d1308, d1338, d1339, d1367,	\(\mathref{Qspecialstyle}\) \(\delta 653\), \(\delta 720\), \(\delta 789\)
d1368, d1396, d1397, e46, e47, e55	\@startfield d1242, d1256
\@preamerr e54	\@startline \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
	, <u>q1200</u>

\@startpbox d1409, d1415, d1420, e48	d1498, e343, e344, e462, e469,
\@startsection	e490, h422, h423, h424, h425,
h1297, h1301, h1305, h1309, h1313	h426, h427, h429, h430, h435, h436
\@starttoc h1671, h1762, h1775	\@tempskipa
\@stopfield <u>d1260</u>	c1036, c1037, c1074, c1075,
\@stysizefalse h15	d91, d94, d95, d106, d110, d111,
\@stysizetrue h31,	d122, d126, d127, d138, d141, d142
h34, h37, h40, h44, h47, h50, h53	\@tempswafalse e239, h1178
\@sverb d1184, d1196, d1206, i49	\@tempswatrue e240, e243, h1178
\@tabacol d1441, d1448, e17	\@tempswzfalse c1277, c1298
\@tabarray d1443, d1450	\@tempswztrue c1282, c1303
\@tabclassiv d1443, d1450, e19	\@temptokena h1657, h1658, h1660
\@tabclassz <u>d1264</u> , d1442, d1449, e18	_
\@tabular d1438	\\delta text\(\text{\text{composite}} \\ \text
\@tabularcr d1443, d1450, e19	\@text@composite@x
	$c2556, c2565, c2571, \underline{c2695}, \underline{c2711}$
\circ \d425, \d450, \d499, \d546, \d571, \d593	$\cdot d168, d173, d181, d193,$
\@tempa c721, c724, c725, c730, d1042,	d196, d218, d249, d280, d321, d343
d1043, d1066, d1067, d1088,	\@textsuperscript
d1089, d1110, d1111, d1428, d1431	d975, d976, d982, d983
\@tempb c722, c726, c731	\@texttop d188, d213, d244, d275, d302
\@tempboxa d354, d676, d683,	\@thanks h982,
d684, d748, d755, d756, d817,	h1004, h1006, h1012, h1044, h1051
d824, d825, e217, e229, e296,	\@thecounter <u>e573</u>
e322, h1568, h1569, h1571, h1576	\@thefnmark d975,
\@tempc c723, c724	
\@tempcnta h13, h14, h536, h537	d976, d982, d983, d1001, d1006,
\@tempcntb c2597, c2598, c2601,	d1013, d1018, d1027, d1035,
c2602, c2603, c2610, c2611,	d1050, d1074, d1096, d1118,
c2631, c2632, c2635, c2645,	f17, f18, h1025, h1026, h1033
c2648, c2649, c2650, c2657, c2658	\@thefoot $d656$, $d660$, $d690$,
\@tempdima	d723, d727, d762, d792, d796, d831
c2636, c2646, c2661, c2662,	$\$ \Other thehead $d656$, $d659$, $d680$,
d307, d309, d310, d315, d320,	d723, d726, d752, d792, d795, d821
	\@themargin d623, d657,
d332, d337, d341, d1471, d1472,	d658, d661, d662, d675, d724,
d1494, d1495, e65, e66, e67, e71,	d725, d728, d729, d735, d747,
e72, e73, e82, e83, e84, e85,	d793, d794, d797, d798, d804, d816
e89, e90, e91, e92, e250, e251,	\@thmcounter <u>e577</u>
e252, e261, e262, e283, e297,	\@title h948, h994, h1015, h1054, h1066
e300, e333, e336, e340, e445,	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
e446, e447, e462, e468, e489,	
e528, e529, e530, e531, h64,	\@titlepagetrue h8, h90
h66, h418, h419, h420, h421,	\@TL \(\frac{d425}{d425}\), d441, d490, d546, d571, d593
h429, h432, h435, h438, h531,	\ $otenum{d}{d}$ 1 \delta \delta 425, d447, d496, d548, d573, d595
h532, h533, h534, h535, h536,	\@tocrmarg <u>h1631</u> , h1641
h650, h651, h652, h654, h655,	$\verb \dtombowbleed \dots \underline{d405}, d438, d442,$
h657, h669, h672, h680, h681,	d449, d456, d458, d462, d466,
h682, h683, h684, h685, h686,	d473, d475, d536, d540, d542,
h1275, h1278, h1281, h1294, h1295	d545, d546, d554, d555, d620, d622
\@tempdimb c1034, c1035, c1072,	\@tombowcolor <u>d415</u> , d536, d544
c1073, d1474, d1475, d1497,	$$\mathbb{Q}$$ \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
cioro, difiri, difio, difor,	(000mbow10b000espape1 <u>d012</u> , d000, d004

\@tombowwidth	c2746, c2747, c2748, c2749,
d403, d442, d443, d448, d449,	c2750, c2751, c2752, c2803,
d451, d452, d453, d455, d456,	d37, d38, d62, d412, d422,
d458, d459, d462, d463, d465,	d630, d864, d878, d885, d988,
d466, d468, d469, d470, d472,	d994, d1158, d1171, d1268,
d473, d475, d476, d479, d480,	d1436, d1525, d1533, d1538,
d482, d483, d491, d492, d497,	d1542, d1554, d1555, d1569,
d498, d500, d501, d502, d504,	d1570, d1578, d1589, d1599,
d505, d507, d508, d510, d511,	d1600, d1608, d1621, d1624,
d513, d514, d516, d517, d518,	d1631, d1638, e199, e459, h167
d520, d521, d523, d524, d526,	\@verb d1184, d1196, d1206
d527, d529, d530, h69, h76, h80	\@viiipt f67, h211, h242, h251, h260
\@toodeep h1439, h1467	\@viipt f66, h242, h252, h261
\@topnum h1041, h1250	\@vipt f65, h243, h252, h261
\@TR <u>d425</u> , d454, d503, d546, d571, d593	\@vobeyspaces i49
\@Tr \d425, d457, d506, d548, d573, d595	\@vpt f64, h243
\@twocolumnfalse h88	\@vtryfc <u>d368</u>
\@twocolumntrue h89	\@width c1046, c1049,
\@twosidefalse h86	c1052, c1084, c1087, c1090,
\@twosidetrue h87	c2429, c2437, e29, e32, e35, e40,
\c 0typeset0protect c1243	e43, e529, e530, e531, e570, h1820
\@undefined a11, a54, a124, a125, c76,	\@writefile h1659
c107, $c117$, $c134$, $c135$, $c148$,	\@wrong@font@char c503, c534, c579, c614
c152, c153, c185, c234, c335,	\@wtryfc d373, d389
c502, c533, c578, c590, c591,	\@x@sf d1127, d1130, f13, f16
c612, c625, c626, c713, c714,	\@xfootnote d1000, d1012
c715, c796, c803, c1161, c1188,	\@xfootnotemark d1004, d1016
c1318, c1321, c1328, c1331,	\@xfootnotenext d1026, d1034
c1354, $c1355$, $c1361$, $c1362$,	\@xiipt f71,
c1363, $c1369$, $c1374$, $c1388$,	h143, h146, h189, h231, h244, h253
c1389, c1390, c1392, c1406,	\@xipt f70, h142, h145, h199
c1407, $c1408$, $c1409$, $c1449$,	\@xivpt f72, h245, h254, h262
c1450, c1451, c1452, c1473,	\@xpt f69, h141, h144, h189, h231, i6
c1480, c1488, c1513, c1526,	\\(\text{cxviipt} \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
c1527, c1528, c1530, c1556,	\@xxpt f74, h247, h256, h264
c1557, c1558, c1568, c1569,	\@xxvpt f75, h248, h257, h265
c1570, c1619, c1620, c1621,	\\ d1443, d1450, e5, e19, e49, h1494
c1654, c1655, c1656, c1657,	\ b23, b29, d850, d853, d889,
c1697, c1698, c1703, c1715,	d894, d895, d896, d897, d902,
c1783, c1784, c1785, c1791,	d914, d917, d922, d932, d933,
c1818, c1887, c1888, c1889,	d934, d935, d937, d947, d952, d961
c1890, c1891, c1908, c1965,	_shipout_execute_cont: <u>d888</u>
c2024, c2025, c2026, c2027,	-
c2176, c2381, c2419, c2461,	\shipout_execute_nohooks_cont:
c2486, c2491, c2496, c2551,	
c2606, c2653, c2693, c2719,	\"\"\ c1344, c1345, c1346, d1217, d1226
c2720, c2721, c2722, c2723,	
c2724, c2725, c2726, c2733, c2734, c2735, c2736, c2737,	A
c2734, c2735, c2736, c2737, c2738, c2739, c2740, c2745,	\abovecaptionskip $h1562$, $h1567$
62190, 62199, 62140, 62149,	(abovecaptionskip <u>m1302</u> , 111307

\abovedisplayshortskip	\arabic e576, e577, i31, i32
h149, h154, h159, h181, h191,	\array <u>e3</u>
h201, h213, h223, h233, i8, i15	\arraycolsep $\underline{h1579}$
\abovedisplayskip	\arrayrulewidth $\underline{h1581}$
\dots h148, h153, h158, h162,	$\verb \arraystretch e28, e29, e31, e32,$
h180, h190, h200, h208, h212,	e34, e35, e39, e40, e42, e43, e85, e92
h222, h232, h240, i7, i10, i14, i21	\AtBeginDocument h83, h1602
abstract (environment) $\dots \underline{h1078}$	\AtBeginDvi <u>d842</u>
\abstractname	\AtEndOfPackage h102
h1085, h1092, h1096, <u>h1878</u>	\author <u>h948</u> , h1017, h1056
\active d1215, d1224	\autospacing c2880
\addcontentsline	\autoxspacing c2882
e210, h1186, h1189, h1205,	1 0
h1208, h1258, h1260, h1262, <u>h1653</u>	В
\addpenalty h1676, h1677, h1696, h1711	\backmatter <u>h1154</u>
$\verb addto@hook c390, c392, c415, c417 \\$	\baselineskip c1041,
\addtocontents $h1265, h1266$	c1042, c1043, c1047, c1050,
\addtocounter i32	c1053, c1079, c1080, c1081,
\AddToHook a120, c1827, c1843,	c1085, c1088, c1091, c2442,
c1916, c2000, c2004, c2011, c2015	c2450, c2454, d671, d687, d743,
\addvspace h1169,	d759, d812, d828, e53, e228,
h1265, h1266, h1678, h1697, h1712	h174, h512, h535, h537, i36, i40
\adjust@box	\baselinestretch
c1107, c1114, c1115, c1116,	c858, c859, c960, c961,
c1117, $c1122$, $c1123$, $c1124$,	
c1128, $c1139$, $c1140$, $c1141$,	c1023, c1024, c1039, c1077, <u>h282</u>
c1142, $c1147$, $c1148$, $c1149$,	\begin h985, h993,
c1153, $c1166$, $c1167$, $c1168$,	h998, h1063, h1070, h1084, h1095
c1169, c1174, c1175, c1176, c1180	\text{belowcaptionskip} \tag{1.562}, \text{h1562}, \text{h1578}
\adjust@dimen c1108,	\belowdisplayshortskip
c1123, $c1124$, $c1125$, $c1126$,	h150, h155, h160, h182, h192,
c1127, $c1128$, $c1129$, $c1148$,	h202, h214, h224, h234, i9, i16
c1149, $c1150$, $c1151$, $c1152$,	\belowdisplayskip
c1153, $c1154$, $c1175$, $c1176$,	h162, h208, h240, i10, i21
c1177, c1178, c1179, c1180, c1181	\bf f44, <u>h1622</u>
\adjustbaseline c1044, c1082,	\bfdef@ult c1902, c1930, c1931,
$\underline{c1107}$, $c1852$, $c1868$, $c1883$,	c1932, c2001, c2002, c2120, c2351
e24, e298, e337, e340, e346, h84	\bfdefault c1893, c1894,
\afont $\underline{c28}$,	c1902, c1926, c1927, c1928,
c631, c649, c653, c851, c954, c1014	c1929, c1939, c1974, c1979, c2008
\aftergroup	\bfdefault@previous $c1926, c1929$
c667, c676, c685, c711, c1063,	\bfseries $\underline{c1923}$,
c1101, c2599, c2633, c2758,	d1138, $d1152$, $d1165$, $f44$,
c2781, d638, d650, d651, d694,	h1085, h1096, h1195, h1198,
d705, d717, d718, d775, d786, d787	h1214, h1217, h1224, h1231,
\all@shape c758	h1272, h1292, h1300, h1304,
\alph d969	h1308, h1312, h1316, h1460,
\and h1019, h1058	h1492, h1622, h1682, h1700, h1715
\appendix <u>h1317</u>	\bfseries@gt $c1886$, c1978, c2002, c2007
\appendixname $h1328, \overline{h1878}$	\bfseries@mc $c1886$, c1977, c2001, c2006

\bfseries@rm c1887, c1930,	h864, h869, h895, h898, h903,
c1936, c1965, c1971, c2128, c2131	h910, h923, h928, <u>h1108</u> , h1184,
\bfseries@rm@kernel c2128	h1194, h1203, h1213, h1254, h1274
\bfseries@sf	\c@section $h1110$, $h1122$,
c1931, c1937, c1972, c2132, c2135	h1125, h1137, h1140, h1321, h1322
\bfseries@sf@kernel c2132	$\colone{1}$ \colone{1} c@subparagraph . $\underline{h1110}$, $h1133$, $h1148$
\bfseries@tt	\c@subsection $\frac{1}{h1110}$, h1127, h1142
c1932, c1938, c1973, c2136, c2139	\c@subsubsection $\frac{\overline{h1110}}{h1110}$, h1129, h1144
\bfseries@tt@kernel c2136	\c@table <u>h1535</u>
\bibindent h104, h105, <u>h1779</u>	\c@tocdepth
\bibname $h1784$, $\overline{h1873}$	<u>h1628</u> , h1639, h1675, h1695, h1710
\bigskipamount $h285$	\c@topnumber <u>h754</u>
\botmark d698, d769, d838	\c@totalnumber $\frac{1}{h757}$
\bottomfraction h760	\cal <u>h1626</u>
\bou	\caption@dir e139, e176,
\boutenchar e546	e183, e189, e234, e240, e241, e243
\box@dir	\caption@posa
e24, e62, e79, e98, e111, e122,	. e142, e178, e184, e197, e219,
e287, e288, e289, e292, e293,	e220, e235, e257, e258, e270, e272
e296, e336, e339, e346, e353,	\caption@posb e143,
e367, e381, e397, e411, e435,	e179, e184, e197, e218, e222,
e436, e437, e440, e441, e446,	e224, e226, e235, e255, e256, e267
e447, e476, e478, e482, e484, e488	\captiondir e140, e240,
\boxmaxdepth	e241, e242, e243, e244, e246, e262
d171, d187, d212, d243, d274,	\captionfloatsep
d318, d541, d564, d568, e552, e556	e138, e218, e222, e224, e226
\break d81	\captionfontsetup e145, e247, e263
(break dor	\captionrolitsetup e145, e247, e265
\mathbf{C}	e141, e177, e183, e193, e234, e252
\c@@paper <u>h1</u> , h298, h328, h344,	\Cdp
h360, h446, h462, h478, h555, h575	\cdp <u>c19</u> , c1116, c1120, c1127,
\c@bottomnumber $\dots \dots h756$	c1141, c1145, c1152, c1168,
\c@chapter <u>h1110</u> ,	c1172, c1179, e358, e372, e402
h1124, h1139, h1330, h1331,	
h1514, h1521, h1541, h1548, h1591	\cdp@elt c170, c171, c190, c191, c220,
\c@clineno <u>i30</u>	c221, c257, c258, c281, c282,
	c387, c390, c392, c412, c415, c417
\c@dbltopnumber	\cdp@list c171, c191, c221,
	c258, c282, c394, c395, c419, c420
\c@enumii h1413, h1419	\centering h1004, h1211, h1229
\c@enumiii h1414, h1420 \c@enumiv . h1415, h1421, h1785, h1792	\cf@encoding c1196, c1252
	\chapter <u>h1245</u> ,
\c@equation h1587, h1591	h1246, h1669, h1758, h1771, h1784
\c@figure <u>h1508</u>	\chaptermark h844, h868,
\c@footnote <u>h1822</u>	h902, h927, h944, <u>h1102</u> , h1264
\c@mpfootnote e304	\char c1114, c1139,
\c@page d66, h766, h778, h790, h795, h973	c1166, d46, d1218, d1227, e248,
\coparagraph <u>h1110</u> , h1131, h1146	e264, e546, e554, e558, e562, h170
\c@part h1121, h1136	\chardef . a57, a58, d47, d48, d846,
\c@secnumdepth	d851, d1540, d1557, d1572,
h837, h840, h845, h852,	d1582, d1583, d1591, d1609, d1617

\check@icl c2757,	\curr@fontshape
c2764, c2766, c2780, c2787, c2789	. c485, c491, c494, c503, c510,
\check@icr c2758,	c512, c516, c522, c525, c534,
c2767, c2772, c2781, c2790, c2795	c541, c543, c561, c567, c570,
\check@nocorr@ <u>c2754</u>	c579, c586, c588, c597, c603,
\Chs	c606, c614, c621, c623, c664,
\chs $c25$, c1119, c1144, c1171, e518	c673, c682, c708, c852, c955,
\Cht	c1015, c1436, c1439, c1601,
\cHT <u>c27</u> , c1120,	c1605, c1608, c1643, c1646,
c1125, c1145, c1150, c1172, c1177	c2223, c2226, c2244, c2247, c2392
\cht c17, c1115, c1120, c1140, c1145,	
c1167, c1172, e355, e369, e399, f15	\curr@kfontshape
\circle e499	$color = \frac{c15}{c}, c828, c833, c910, c915$
\Cjascale <u>b169</u>	c915, c991, c996, c1436, c1439,
\ck@encoding <u>c7</u> ,	c1601, c1605, c1608, c1643,
c1208, c1221, c1227, c1245, c1255	c1646, c2223, c2226, c2244, c2247
\cleardoublepage	$\CurrentOption i2$
<u>d64</u> , <u>h799</u> , h955, h1162,	\Cvs $\underline{c23}$, $\underline{h170}$, $h448$, $h449$,
h1163, h1175, h1176, h1247, h1248	h450, h451, h452, h453, h455,
\clearpage . d65, h765, h777, h789,	h456, h457, h458, h459, h460,
h794, h1163, h1176, h1248, h1813	h464, h465, h466, h467, h468,
\clubpenalty h1794, h1795	h469, h471, h472, h473, h474,
\code@after@pldefs c2171	h475, h476, h480, h481, h482,
\col@number h1036	h483, h484, h485, h487, h488,
\color@begingroup d175, d221,	h489, h490, h491, h492, h496,
d252, d283, d324, d346, d543,	h497, h498, h499, h500, h501,
d1052, d1076, d1098, d1120, e299	h503, h504, h505, h506, h507,
\color@endbox	h508, h520, h521, h522, h1269,
d681, d691, d753, d763, d822, d832	h1284, h1289, h1295, h1298,
$\verb \color@endgroup . d179, d225, d256,$	h1299, h1302, h1303, h1306, h1307
d287, d328, d350, d556, d1056,	\cvs <u>c23</u> , c1118, c1143, c1170
d1079, d1101, d1123, d1260, e319	\Cwd
\color@hbox	<u>h170,</u> h274, h275, h284, h330,
d678, d688, d750, d760, d819, d829	h331, h332, h333, h334, h335,
\columnsep $\underline{h272}$, $h1811$	h337, h338, h339, h340, h341,
\columnseprule $\underline{h272}$, $h1811$	h342, h346, h347, h348, h349,
\columnwidth $d1048$,	h350, h351, h353, h354, h355,
d1072, d1094, d1116, e301, h1820	h356, h357, h358, h362, h363,
\contentsline h1660	h364, h365, h366, h367, h369,
\contentsname	h370, h371, h372, h373, h374,
h1668, h1669, h1670, <u>h1870</u>	h378, h379, h380, h381, h382,
\cr e47	h383, h385, h386, h387, h388,
\crcr c2443, c2451,	h389, h390, h395, h403, h404,
c2455, d1455, d1461, e56, e57	h405, h425, h426, h427, h1485
\cs b23, b29,	\cwd c21, c1117,
b31, b32, b33, d894, d895, d896,	c1119, c1142, c1144, c1169, c1171
d899, d902, d932, d933, d934, d937	\cy@encoding
\ct@encoding	<u>c7</u> , c812, c821, c832, c894,
<u>c7</u> , c814, c819, c827, c896, c901, c909, c978, c983, c990, c1235	c903, c914, c977, c984, c995, c1231
0001, 0000, 0010, 0000, 0000, 01200	6000, 6011, 6011, 600 1 , 6000, 61201

D	c1370, c1371, c1372, c1375,
\dashbox <u>e499</u>	c1376, c1377, c1379, c1382,
\date h948, h1018, h1057	c1385, c1393, c1394, c1395,
\day h71, h1845, h1847, h1861, h1864	c1397, c1400, c1403, c1481,
\dblfloatpagefraction h764	c1482, c1483, c1489, c1490,
\dblfloatsep $\overline{h711}$	c1491, c1496, c1499, c1502,
\dbltextfloatsep $\dots \dots \underline{h711}$	c1514, c1515, c1516, c1518,
\dbltopfraction $\dots \dots \underline{h763}$	c1519, $c1520$, $c1531$, $c1532$,
\DeclareEmphSequence	c1533, $c1538$, $c1541$, $c1544$,
c2378, c2381, c2400, c2407, c2414	c1560, c1561, c1562, c1704,
\DeclareErrorKanjiFont $$ $\underline{c446},$ $c2820$	c1709, $c1716$, $c1721$, $c1727$,
\DeclareFixedFont $\dots \dots \underline{c629}$	c1734, $c1743$, $c1754$, $c1757$,
\DeclareFontEncoding $\dots \dots \underline{c156}$	c1760, c1792, c1803, c1819,
$\verb \DeclareFontEncoding@ \underline{c156}$	c1834, $c1858$, $c1873$, $c1923$,
$\DeclareFontEncoding@saved$ $c184, c234$	c1944, $c1967$, $c1983$, $c2177$,
\DeclareFontFamily $\underline{c338}$	c2180, c2184, c2187, c2201,
\DeclareFontShape	c2202, c2203, c2204, c2205,
c2894, c2898, c2899,	c2206, c2382, c2386, c2402,
c2905, c2909, c2910, c2915,	c2409, c2416, c2698, c2703,
c2919, c2920, c2925, c2929, c2930	d852, d859, d869, d1513, e323,
\DeclareKanjiEncoding c237	e426, e519, e547, e566, f32, f38,
\DeclareKanjiEncodingDefaults	f44, f45, f51, f52, f53, f54, f55,
	f56, f57, h177, h209, h242, h243, h244, h245, h246, h247, h248,
\DeclareKanjiFamily \cdots \text{c357}, c2891, c2902, c2913, c2923	h251, h252, h253, h254, h255,
\DeclareKanjiSubstitution	h256, h257, h260, h261, h262,
	h263, h264, h265, h948, h949,
\DeclareLayoutCaption <u>e169</u>	h950, h1608, h1612, h1626, h1627
\DeclareMathAlphabet h1599	\DeclareSymbolFont f26, f27, h1595
\DeclareOldFontCommand	\DeclareSymbolFontAlphabet
. h1617, h1618, h1619, h1620,	f28, f29, h1596
h1621, h1622, h1623, h1624, h1625	\DeclareTateKanjiEncoding c237, c2827
\DeclareOption h18,	\DeclareTateKanjiEncoding@ c237
h21, h24, h27, h31, h34, h37,	\DeclareTextCommandDefault
h40, h44, h47, h50, h53, h59,	
h61, h62, h63, h67, h74, h78,	\DeclareTextFontCommand c2193, c2194
h82, h86, h87, h88, h89, h90,	\DeclareYokoKanjiEncoding c237, c2825
h91, h95, h96, h97, h99, h100,	\DeclareYokoKanjiEncoding@ c237
h101, h113, h114, h116, h117, i2	\default@family
\DeclarePreloadSizes	c192, c222, c422, c495, c571, c607
c2844, c2845, c2846,	\default@k@family c259, c283,
c2847, $c2850$, $c2851$, $c2852$,	c378, c397, c455, c468, c471, c526
c2853, c2856, c2857, c2858,	\default@k@series c259,
c2859, c2862, c2864, c2866, c2868	c283, c398, c456, c469, c472, c523
\DeclareRelationFont . <u>c758</u> , c2892,	\default@k@shape c260,
c2893, c2903, c2904, c2914, c2924	c284, c399, c457, c470, c473, c521
\text{DeclareRobustCommand} \cdots \c	\default@KM c269, c293, c309, c312, c315
c865, c970, c1113, c1191, c1203,	\default@KT c303, c306, c314, c1223
c1215, c1263, c1264, c1265,	\default@M c181, c209, c231
01210, 01200, 01201, 01200,	,, 0101, 0200, 0201

\default@series c172,	\DualLang@Mfontsw
c192, c222, c423, c492, c568, c604	c738, c741, c744, c746, c751, c753
\default@shape	${f E}$
c193, c223, c424, c490, c566, c602	\e@alloc@chardef d1535
\delayed@f@adjustment c803, c934,	\e@alloc@top <u>d1535</u> , d1603
c938, c946, c950, c1354, c1374, c1380, c1381, c1392, c1398,	\e@mathgroup@top <u>d1605</u>
	\em
c1399, c1488, c1497, c1498,	\em@currfont
c1530, c1539, c1540, c1547, c1548, c1715, c1738, c1818, c1839	\emfontdeclare@clist c2388, c2393
\delayed@k@adjustment c867,	\eminnershape <u>c2378</u>
c871, c880, c884, <u>c1353</u> , c1383,	\emph
c1384, c1401, c1402, c1500,	\enablecjktoken d1578
c1504, c1401, c1402, c1500, c1501, c1504, c1505, c1542,	\EnableCrossrefs i43
c1543, c1545, c1546, c1731, c1848	\enc@elt
\delayed@merge@font@series	<u>c53</u> , c55, c56, c175, c176, c203,
c945, c948, c1381	c204, c225, c226, c262, c263,
\delayed@merge@font@shape	c264, c286, c287, c288, c1280, c1301
c944, c947, c1498	\enc@update c437,
\delayed@merge@kanji@series	c857, c959, c1022, c1197, c1199
c879, c882, c1384, <u>c1449</u>	\encodingdefault c1797, c1804,
\delayed@merge@kanji@shape	c1820, c1835, c1863, c1878, f46
c878, c881, c1501, c1506, <u>c1653</u>	\end e547, e549, h1000, h1003,
description (environment) $\underline{h1482}$	h1007, h1072, h1075, h1087, h1097
\descriptionlabel $h1490, h1491$	\end@dblfloat h1534, h1561
\detokenize c36, c38, c40	\end@float h1531, h1558
\dimen@ c2467,	\endarray <u>e56</u>
c2469, c2478, c2480, d189,	\endlist h1454, h1481,
d192, d214, d217, d245, d248,	h1490, h1498, h1504, h1507, h1800
d276, d279, d303, d305, e15, e16	\endminipage $\underline{e309}$
\dimexpr	\endpicture <u>e493</u>
d442, d449, d456, d458, d462,	\endquotation h1099
d466, d473, d475, d540, d620, d622	\endtabular <u>d1452</u> , <u>e56</u>
\DisableCrossrefs $\underline{i43}$	\endtabular* <u>d1452</u>
\DLMfontsw@oldlfont c744, c757	\endtitlepage h1088
\DLMfontsw@oldstyle c741, c756	\endtsample i38
\DLMfontsw@standard . c738, c746, c755	\ensure@KanjiEncodingPair
\do d1181, d1193, d1204, i47, i48	$\frac{\text{c318}}{\text{c813}}$, c820, c895, c902
\do@emfont@update c2393	enumerate (environment) <u>h1438</u> environments:
\do@noligs <u>d1210</u> , i47	abstract <u>h1078</u>
\do@subst@correction c656	description $\dots \dots \underline{h1482}$
\document@default@language	enumerate h1438
d643, d710, <u>d1628</u>	figure <u>h17430</u>
\documentclass d32	figure* h1529
\documentstyle <u>d30</u>	itemize h1466
\dospecials d1181, d1193, d1204, i48	quotation
\doublerulesep $\dots \dots h1582$	quote <u>h1505</u>
\dst i28	table h1556
\DualLang@mathalph@bet c729, c735	table* h1556
J 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	

the bibliography $\underline{h}1782$	c1987, $c1988$, $c1989$, $c2038$,
$\verb theindex $	c2082, c2215, c2236, c2276, c2319
$\mathtt{titlepage} \ \dots \dots \ \underline{\mathrm{h952}}$	\f@linespread
$\texttt{tsample} \dots \underline{\text{i33}}$	c858, c960, c1023, c1038,
$\mathtt{verse} \dots \underline{\mathbf{h}1493}$	c1039, $c1042$, $c1056$, $c1059$,
\errhelp a12, a17, c2873	c1076, c1077, c1080, c1094, c1097
\errmessage a13,	\fQseries $c16$, $c492$, $c523$, $c568$,
a21, c487, c518, c563, c599, c2876	c604, c937, c940, c943, c1370,
\error@fontshape c488, c519,	c1393, $c1399$, $c1711$, $c1799$,
c564, c600, c806, c807, c838,	c1806, $c1822$, $c1837$, $c1865$,
c888, c889, c920, c971, c972, c1001	c2031, $c2047$, $c2049$, $c2053$,
\error@kfontshape	c2054, $c2055$, $c2148$, $c2204$,
c451, c464, c807, c889, c972	c2269, c2285, c2287, c2291, c2292
\euc c1166,	\f@series@saved $c937$, $c943$
e248, e264, e546, e554, e558, e562	\f@shape c16,
\evensidemargin d657,	c490, c521, c566, c602, c936,
d662, d724, d729, d793, d798, <u>h599</u>	c940, c942, c1481, c1485, c1514,
\every@math@size c633	c1531, c1535, c1540, c1548,
\everyjob a40, a42	c1560, c1712, c1724, c1737,
\everypar d155,	c1800, c1807, c1823, c1838, c1866
d157, d1428, d1429, d1430, h1689	\f@shape@saved c936, c942
\ExecuteOptions	\f@size c474, c512, c543, c588, c623,
h121, h122, h125, h126, h129, h130	c664, c673, c682, c708, c828,
\expand@font@defaults c1898,	c833, c852, c859, c910, c915,
c1925, c1946, c1969, c1985,	c955, c961, c991, c996, c1015,
c2035, c2066, c2140, c2273, c2303	c1024, $c1035$, $c1062$, $c1073$,
\ExplSyntaxOff b12, d855, d957	c1100, c2392, f64, f65, f66, f67,
\ExplSyntaxOn	f68, f69, f70, f71, f72, f73, f74, f75
b7, b8, d848, d849, d892, d893	\fam@elt $\underline{c53}$,
\ext@figure <u>h1524</u>	c60, c61, c62, c345, c346, c364,
\ext@table	c365, c1278, c1289, c1299, c1310
(extetable <u>m1331</u>	\famdef@ult . c1904, c2141, c2142, c2143
F	\familydefault c1798, c1805, c1821,
\f@baselineskip	c1836, c1864, c1879, c1904, f47
_	\fboxrule <u>h1585</u>
c475, c859, c961, c1024, c1037,	\fboxsep \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
c1041, c1062, c1075, c1079, c1100	\fenc@list \(\frac{c55}{c}\), c176, c204, c226, c1304
\f@encoding c16,	\ffam@list $\underline{c60}$, $c343$, $c346$, $c1293$ figure (environment) $\underline{h1529}$
c439, c484, c515, c546, c560, c596, c688, c872, c940, c1195,	
c1196, c1427, c1592, c1635,	figure* (environment) <u>h1529</u>
c2082, c2215, c2236, c2319, c2507	\figurename h1527, h1528, <u>h1876</u>
	\file <u>i24</u> \firstmark <u>d698, d769, d838</u>
\f@family c16, c495, c526, c571, c607, c872, c940,	
	\fixcompositeaccent
c1427, c1592, c1635, c1710, c1722, c1735, c1798, c1805,	c2728, c2730, c2733, c2742, c2745
	\fl@trace d297, d312, d313, d314, d315,
c1821, c1836, c1864, c1936, c1937, c1938, c1957, c1958,	
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	d334, d335, d336, d337, d338, d356
c1959, $c1971$, $c1972$, $c1973$,	\float@count $d1602$

\float@pos e154, e217, e227	d349, d362, d363, d364, d1043,
\floatheight e136, e154,	$d1067, d1089, d1111, \underline{h693}, h1584$
$e158,\ e159,\ e162,\ e165,\ e166,\ e167$	\footnote $\underline{d996}$,
\floatingpenalty	d1064, d1086, h989, h1064, h1065
\dots d1047, d1071, d1093, d1115	\footnotemark $\underline{d996}$, h981
$\verb \floatpagefraction \dots \dots \underline{h762}$	\footnoterule $d177$, $d223$, $d254$,
\floatruletick e137,	$d285, d326, d348, e315, h987, \underline{h1818}$
e156, e160, e163, e165, e167, e168	\footnotesep
$\verb floatsep $. d1046, d1054, d1070, d1078,
\floatwidth e135, e154, e155,	d1092, d1100, d1114, d1122, <u>h690</u>
e156, e163, e164, e166, e168, e268	\footnotesize d1044,
\fmtname a2, d7	d1068, d1090, d1112, <u>h209</u> , h986
\fmtversion a3, a11, a16, a58	\footnotetext <u>d1021</u>
\fnsymbol $h1024$	\footskip
\fnum@figure $\underline{h1524}$	d687, d759, d828, <u>h314</u> , h573, h685
\fnum@table $\underline{h1551}$	\fork@array@option e23, e59
\font c28, c631, c640, c646, c649,	\fork@parbox@option e334, e350
c652, c653, c663, c665, c707,	\fps@figure <u>h1524</u>
c709, c826, c831, c851, c908,	\fps@table <u>h1551</u>
c913, c954, c989, c994, c1014,	\frenchspacing i49
c2383, c2389, c2403, c2410,	\frontmatter
c2417, c2469, c2480, d433, f59	\ftype@figure <u>h1524</u>
\font@name c511, c542, c587,	\ftype@table $h1551$
c622, c662, c671, c680, c706,	
c828, c830, c833, c835, c852,	G
c854, c856, c910, c912, c915,	\g@addto@macro
c917, c955, c957, c991, c993,	c1810, c1910, c2154, c2160
c996, c998, c1015, c1017, c1020	\G@refundefinedtrue
\fontdimen c2383, c2389, c2403,	d1137, d1151, d1164
c2410, c2417, c2469, c2480, f59	\g0tlastchart0 <u>c2488</u> , c2597, c2631
\fontencoding \cdots \cdot \frac{c1191}{c1804}, \cdot \frac{c1804}{c1825}, \cdot \frac{c2841}{c2842}, \frac{c2842}{c2842}, \fracc{c2842}{c2842}, c28	\GenericInfo a79, a82, a87, b25
c1820, c1835, c2841, c2842, f21	\glossary d670, d742, d811, h1656
\fontfamily c1263,	\gt f38, f59, <u>h1617</u>
c2032, c2043, c2270, c2281, f22	\gtdef@ult c1912, c1918,
\fontname c665, c674, c683, c709	c1978, c1994, c2007, c2018, c2156
\fontseries	\gtdefault c1912,
c1701, c1857, c1936, c1937, c1938, c1939, c1957, c1958,	c1918, c2182, c2189, c2831, f40
c1938, c1939, c1957, c1958, c1959, c1960, c1970, c1976,	\gtfam f65
c1986, c1992, c2005, c2016, c2203	\gtfamily c2156, c2176, c2194, c2384,
\fontseriesforce c1318, c1369,	c2390, c2404, c2411, c2418, h1618
<u>c1388</u> , c1406, c1568, c1619, c2206	Н
\fontshape <u>c1477</u> , c1701, c1857	
	\hangindent
\fontshapeforce c1480, c1513, c1523	\hb@xt@ d680, d690, d752, d762, d821, d831, e447, e488, h1029,
\fontsize c634, c2824, f23	
\footins d169, d174, d178, d219, d220, d224, d250,	h1033, h1576, h1637, h1650, h1685, h1703, h1718, h1825, h1829
d178, d219, d220, d224, d250, d251, d255, d281, d282, d286,	111000, 111100, 111110, 111020, 111028
	\headhaight d676
d322, d323, d327, d344, d345,	\headheight d676, d748, d817, <u>h294</u> , h564, h569, h683

100	
\headsep d685,	\if@tempswa e250, h1243
d757, d826, <u>h294</u> , h565, h570, h684	\if@tempswz c1262, c1285, c1306
\heisei $\underline{h}1834$	\if@titlepage $\underline{h6}$, $h984$, $h1079$
$\verb hour $	\if@twocolumn d69, d74, h394,
\hrule c2429,	h410, h428, h587, h637, h644,
c2437, e163, e168, h1820, i35, i41	h769, h774, h781, h786, h792,
\hspace	h797, h956, h967, h1035, h1091,
h1187, h1206, h1492, h1815, h1816	h1099, h1178, h1333, h1341,
\Huge <u>h241</u> , h1217, h1231	h1665, h1756, h1769, h1805, h1884
\huge <u>h241</u> ,	\if@twoside d65,
h1198, h1214, h1224, h1272, h1292	d655, d722, d791, h615, h653,
	h668, h765, h777, h789, h794,
I	h827, h878, h976, h1236, h1895
\ialign c2443, c2451, c2455, e46	\ifcsname c874, c940, c1431, c1434,
\IeC c185	
\if@compatibility	c1596, c1599, c1638, c1641,
d1178, d1190, d1201, h56,	c1682, c2218, c2221, c2239, c2242
h92, h110, h321, h326, h444,	\ifdefined b7, d41, d848, d892
h542, h599, h952, h1594, h1687	\IfFileExists c1281, c1302
\if@enablejfam $\dots \dots h16$, $h1593$	\ifin@ c344, c363, c549,
\if@forced@series c2030, c2268	c638, c644, c691, c695, c811,
\if@forced@series@kanji	c818, c893, c900, c976, c982,
	c1219, $c1231$, $c1235$, $c1271$,
\if@knjcmd <u>c785</u> , c839, c921, c1002	c1275, $c1294$, $c1297$, $c1747$,
\if@landscape $\underline{h3}$, $h329$, $h345$,	c1764, c1780, c2131, c2135, c2139
h361, h377, h447, h463, h479, h495	\ifmdir c2426, c2637,
\if@mainmatter <u>h11</u> , h846,	c2680, e524, h1837, h1854, h1859
h870, h904, h929, h1255, h1276	\ifnot@advanceline e516, e526
\if@mathrmmc h17, h1601	\ifodd c2603, c2650, d66, d656, d723,
\if@newlist	d792, h766, h778, h790, h795, h973
	\iftbox d363
d645, d695, d712, d766, d781, d835	\iftdir c81,
\if@noskipsec h1168	c92, c1121, c1146, c1173, c2426,
\if@notffam c1261, c1313	c2436, c2453, c2636, c2679, d67,
\if@notkfam	d216, d247, d278, d639, d657,
\if@openleft $\underline{h10}$,	d661, d706, d724, d728, d776,
h800, h1162, h1175, h1237, h1247	d793, d797, e26, e61, e240,
\if@openright $\underline{h9}$,	e286, e352, e434, e475, e524,
h802, h1163, h1176, h1239, h1248	e545, e551, e574, h767, h784,
\if@pboxsw d1484, d1507, e225, e265, e451	h1443, h1457, h1471, h1484,
\if@plincludeinrelease a61, a64, a92	h1568, h1572, h1837, h1854, h1859
\if@restonecol $\underline{h5}$, $h961$,	
h975, h1672, h1763, h1776, h1813	\iftombow <u>d400</u> ,
\if@rotsw $e1$, e246, e249, e254, e265,	d539, d566, d589, d618, d732, d801
e297, e320, e335, e444, e551, e568	\iftombowdate $d400$, $d444$, $d493$
\if@shape@roman@kanji	\ifvbox d183, d208, d239, d270, d365
$$ $\underline{c1472}$, $c1582$, $c1603$	\ifydir c102, c112, d72, d155, d157,
\if@specialpage $d652$, $d719$, $d788$	d967, d969, d975, d982, d1042,
\if@stysize	d1066, d1088, d1110, d1128,
. $\underline{\text{h15}}$, $\underline{\text{h273}}$, $\underline{\text{h297}}$, $\underline{\text{h327}}$, $\underline{\text{h409}}$,	e567, f14, f17, h772, h779, h1025
h445, h525, h544, h554, h574, h643	\if 西曆 <u>h1831</u>

\ignorespaces	h1193, h1212, h1223, h1230, h1643
c1708, c1713, c1720, c1725,	\intextsep $\dots \dots \underline{h696}$
c1733, $c1740$, $c1756$, $c1759$,	\it f55, f59, h1623
c1772, c1775, c1867, c1882,	\item $h1498, h1504, h1507, \overline{h1812}$
d82, d96, d112, d128, d143,	\itemindent h105,
d1054, d1078, d1100, d1122,	h106, h1483, h1495, h1496, h1501
d1286, d1288, d1290, d1311,	itemize (environment) $h1466$
d1314, d1317, d1342, d1345,	\itemsep h186, h196,
d1348, d1371, d1374, d1377,	h206, h218, h228, h238, h1363,
d1399, d1401, d1403, d1409,	h1368, h1373, h1391, h1399,
d1415, d1420, e211, e492, f50	h1446, h1474, h1487, h1495, i20
\in@	\itshape c2384, c2390,
c41, c49, c50, c2129, c2133, c2137	c2404, c2411, c2418, f55, h1623
\in@@ c35, c37, c41, c48, c50	\ixpt f68
\inofalse c37, c49	\1xpt 108
\in@true c37, c49	J
\index d669, d741, d810, h1656	\jcharwidowpenalty c2883
\indexname h1806, h1807, h1808, h1873	\jfam f31, f44, h1598
\indexspace <u>h1817</u>	\jfont c640, c672,
\inhibitglue	c674, c831, c913, c994, d42, d44
. c2801, c2804, c2806, c2812,	\jis c1114, c1139, d46, g32, g33, g34,
d997, d999, d1003, d1243,	g35, g36, g37, g38, g39, g40,
d1286, d1288, d1290, d1310,	g41, g42, g51, g52, g53, g54,
d1313, d1316, d1341, d1344,	g55, g56, g57, g58, g59, g60,
d1347, d1370, d1373, d1376,	g61, g62, g80, g90, g91, g92, h170
	go1, go2, go0, go0, go1, go2, n110
d1415 d1427 d1430 e247 e263	
d1415, d1427, d1430, e247, e263	K
$\verb \label{eq:code} 1.000000000000000000000000000000000000$	K
\inhibitxspcode g231, g232, g233, g234, g235, g236,	\k@encoding $\underline{c7}$, $c15$,
\inhibitxspcode g231, g232, g233, g234, g235, g236, g237, g238, g239, g240, g241,	\k@encoding $\underline{c7}$, $c15$, $c323$, $c327$, $c430$, $c433$, $c442$,
\inhibitxspcode g231, g232, g233, g234, g235, g236, g237, g238, g239, g240, g241, g242, g243, g244, g245, g246,	\k@encoding
\inhibitxspcode g231, g232, g233, g234, g235, g236, g237, g238, g239, g240, g241, g242, g243, g244, g245, g246, g247, g248, g249, g250, g251,	\k@encoding
\inhibitxspcode g231, g232, g233, g234, g235, g236, g237, g238, g239, g240, g241, g242, g243, g244, g245, g246, g247, g248, g249, g250, g251, g252, g253, g254, g255, g256,	\k@encoding
\inhibitxspcode	\k@encoding
\inhibitxspcode	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
$\begin{tabular}{lllllllllllllllllllllllllllllllllll$	$\begin{array}{c} \textbf{\coloreding} & \dots & \underline{c7}, c15, \\ c323, \ c327, \ c430, \ c433, \ c442, \\ c808, \ c812, \ c814, \ c819, \ c821, \\ c823, \ c827, \ c832, \ c836, \ c841, \\ c843, \ c845, \ c848, \ c872, \ c874, \\ c890, \ c894, \ c896, \ c901, \ c903, \\ c905, \ c909, \ c914, \ c918, \ c923, \\ c925, \ c927, \ c930, \ c973, \ c977, \\ \end{array}$
$\begin{tabular}{lllllllllllllllllllllllllllllllllll$	$\begin{array}{c} \text{k@encoding} \ \dots \dots \ \underline{c7}, c15, \\ c323, \ c327, \ c430, \ c433, \ c442, \\ c808, \ c812, \ c814, \ c819, \ c821, \\ c823, \ c827, \ c832, \ c836, \ c841, \\ c843, \ c845, \ c848, \ c872, \ c874, \\ c890, \ c894, \ c896, \ c901, \ c903, \\ c905, \ c909, \ c914, \ c918, \ c923, \\ c925, \ c927, \ c930, \ c973, \ c977, \\ c978, \ c983, \ c984, \ c986, \ c990, \\ \end{array}$
\inhibitxspcode \dots \dots g231, g232, g233, g234, g235, g236, g237, g238, g239, g240, g241, g242, g243, g244, g245, g246, g247, g248, g249, g250, g251, g252, g253, g254, g255, g256, g257, g258, g259, g260, g261, g262, g263, g264, g265, g266, g267 \init@series@setup \dots \dots c2127 \inlist@ \dots g29, c343, c362, c548, c637, c643, c690, c694, c810, c817,	\k@encoding
\inhibitxspcode \dots \dots g231, g232, g233, g234, g235, g236, g237, g238, g239, g240, g241, g242, g243, g244, g245, g246, g247, g248, g249, g250, g251, g252, g253, g254, g255, g256, g257, g258, g259, g260, g261, g262, g263, g264, g265, g266, g267 \init@series@setup \dots \dots c2127 \inlist@ \dots c29, c343, c362, c548, c637, c643, c690, c694, c810, c817, c892, c899, c975, c981, c1218,	\k@encoding
\inhibitxspcode \dots \dots g231, g232, g233, g234, g235, g236, g237, g238, g239, g240, g241, g242, g243, g244, g245, g246, g247, g248, g249, g250, g251, g252, g253, g254, g255, g256, g257, g258, g259, g260, g261, g262, g263, g264, g265, g266, g267 \init@series@setup \dots \dots c2127 \inlist@ \dots c29, c343, c362, c548, c637, c643, c690, c694, c810, c817, c892, c899, c975, c981, c1218, c1230, c1234, c1270, c1274,	\k@encoding
\inhibitxspcode \dots \dots g231, g232, g233, g234, g235, g236, g237, g238, g239, g240, g241, g242, g243, g244, g245, g246, g247, g248, g249, g250, g251, g252, g253, g254, g255, g256, g257, g258, g259, g260, g261, g262, g263, g264, g265, g266, g267 \init@series@setup \dots \dots c2127 \inlist@ \dots 29, c343, c362, c548, c637, c643, c690, c694, c810, c817, c892, c899, c975, c981, c1218, c1230, c1234, c1270, c1274, c1293, c1296, c1746, c1763, c1779	\k@encoding
\inhibitxspcode \dots \dots g231, g232, g233, g234, g235, g236, g237, g238, g239, g240, g241, g242, g244, g245, g246, g247, g248, g249, g250, g251, g252, g253, g254, g255, g256, g256, g260, g261, g262, g263, g264, g265, g266, g267 \text{init@series@setup} \dots \dots \dots c2127 \text{inlist@} c29, c343, c362, c548, c637, c643, c690, c694, c810, c817, c892, c899, c975, c981, c1218, c1230, c1234, c1270, c1274, c1293, c1296, c1746, c1763, c1779 \text{input} \dots \dots c2837, b10, c2837, c1263, c1263, c1274, c1276, c1274, c1276, c1274, c1276, c1274, c1276, c1274, c1276, c1276, c1274, c1276, c1276, \q	\k@encoding
\inhibitxspcode \dots \dots g231, g232, g233, g234, g235, g236, g237, g238, g239, g240, g241, g242, g243, g244, g245, g246, g247, g248, g249, g250, g251, g252, g253, g254, g255, g256, g257, g258, g259, g260, g261, g262, g263, g264, g265, g266, g267 \init@series@setup \dots \dots c2127 \inlist@ \dots 29, c343, c362, c548, c637, c643, c690, c694, c810, c817, c892, c899, c975, c981, c1218, c1230, c1234, c1270, c1274, c1293, c1296, c1746, c1763, c1779 \input \dots \dots 2838, c2839, c2840, d31, f3,	$ \begin{array}{c} \text{k@encoding} \ \dots \dots \ \underline{c7}, \ c15, \\ c323, \ c327, \ c430, \ c433, \ c442, \\ c808, \ c812, \ c814, \ c819, \ c821, \\ c823, \ c827, \ c832, \ c836, \ c841, \\ c843, \ c845, \ c848, \ c872, \ c874, \\ c890, \ c894, \ c896, \ c901, \ c903, \\ c905, \ c909, \ c914, \ c918, \ c923, \\ c925, \ c927, \ c930, \ c973, \ c977, \\ c978, \ c983, \ c984, \ c986, \ c990, \\ c995, \ c999, \ c1004, \ c1006, \ c1008, \\ c1011, \ c1207, \ c1208, \ c1222, \\ c1224, \ c1225, \ c1227, \ c1228, \\ c1231, \ c1235, \ c1237, \ c1427, \\ c1430, \ c1434, \ c1592, \ c1595, \\ c1599, \ c1635, \ c1637, \ c1641, \\ \end{array} $
\inhibitxspcode \ldots \ldots g231, g232, g233, g234, g235, g236, g237, g238, g239, g240, g241, g242, g243, g244, g245, g246, g247, g248, g249, g250, g251, g252, g253, g254, g255, g256, g257, g258, g259, g260, g261, g262, g263, g264, g265, g266, g267 \init@series@setup \ldots \ldo	$ \begin{array}{c} \text{k@encoding} \ \dots \dots \ \underline{c7}, c15, \\ c323, \ c327, \ c430, \ c433, \ c442, \\ c808, \ c812, \ c814, \ c819, \ c821, \\ c823, \ c827, \ c832, \ c836, \ c841, \\ c843, \ c845, \ c848, \ c872, \ c874, \\ c890, \ c894, \ c896, \ c901, \ c903, \\ c905, \ c909, \ c914, \ c918, \ c923, \\ c925, \ c927, \ c930, \ c973, \ c977, \\ c978, \ c983, \ c984, \ c986, \ c990, \\ c995, \ c999, \ c1004, \ c1006, \ c1008, \\ c1011, \ c1207, \ c1208, \ c1222, \\ c1224, \ c1225, \ c1227, \ c1228, \\ c1231, \ c1235, \ c1237, \ c1427, \\ c1430, \ c1434, \ c1592, \ c1595, \\ c1599, \ c1635, \ c1637, \ c1641, \\ c1681, \ c2082, \ c2215, \ c2217, \end{array} $
\inhibitxspcode	$ \begin{array}{c} \text{k@encoding} \ \dots \dots \ \underline{c7}, \ c15, \\ c323, \ c327, \ c430, \ c433, \ c442, \\ c808, \ c812, \ c814, \ c819, \ c821, \\ c823, \ c827, \ c832, \ c836, \ c841, \\ c843, \ c845, \ c848, \ c872, \ c874, \\ c890, \ c894, \ c896, \ c901, \ c903, \\ c905, \ c909, \ c914, \ c918, \ c923, \\ c925, \ c927, \ c930, \ c973, \ c977, \\ c978, \ c983, \ c984, \ c986, \ c990, \\ c995, \ c999, \ c1004, \ c1006, \ c1008, \\ c1011, \ c1207, \ c1208, \ c1222, \\ c1224, \ c1225, \ c1227, \ c1228, \\ c1231, \ c1235, \ c1237, \ c1427, \\ c1430, \ c1434, \ c1592, \ c1595, \\ c1599, \ c1635, \ c1637, \ c1641, \\ c1681, \ c2082, \ c2215, \ c2217, \\ c2221, \ c2236, \ c2238, \ c2242, \ c2319 \\ \end{array} $
\inhibitxspcode	$ \begin{array}{c} \text{k@encoding} \ \dots \dots \ \underline{c7}, \ c15, \\ c323, \ c327, \ c430, \ c433, \ c442, \\ c808, \ c812, \ c814, \ c819, \ c821, \\ c823, \ c827, \ c832, \ c836, \ c841, \\ c843, \ c845, \ c848, \ c872, \ c874, \\ c890, \ c894, \ c896, \ c901, \ c903, \\ c905, \ c909, \ c914, \ c918, \ c923, \\ c925, \ c927, \ c930, \ c973, \ c977, \\ c978, \ c983, \ c984, \ c986, \ c990, \\ c995, \ c999, \ c1004, \ c1006, \ c1008, \\ c1011, \ c1207, \ c1208, \ c1222, \\ c1224, \ c1225, \ c1227, \ c1228, \\ c1231, \ c1235, \ c1237, \ c1427, \\ c1430, \ c1434, \ c1592, \ c1595, \\ c1599, \ c1635, \ c1637, \ c1641, \\ c1681, \ c2082, \ c2215, \ c2217, \\ c2221, \ c2236, \ c2238, \ c2242, \ c2319 \\ \\ \textbf{k@family} \ \dots \ \underline{c12}, \ c15, \ c471, \\ \end{array} $
\inhibitxspcode	$ \begin{array}{c} \text{k@encoding} \ \dots \dots \ \underline{c7}, \ c15, \\ c323, \ c327, \ c430, \ c433, \ c442, \\ c808, \ c812, \ c814, \ c819, \ c821, \\ c823, \ c827, \ c832, \ c836, \ c841, \\ c843, \ c845, \ c848, \ c872, \ c874, \\ c890, \ c894, \ c896, \ c901, \ c903, \\ c905, \ c909, \ c914, \ c918, \ c923, \\ c925, \ c927, \ c930, \ c973, \ c977, \\ c978, \ c983, \ c984, \ c986, \ c990, \\ c995, \ c999, \ c1004, \ c1006, \ c1008, \\ c1011, \ c1207, \ c1208, \ c1222, \\ c1224, \ c1225, \ c1227, \ c1228, \\ c1231, \ c1235, \ c1237, \ c1427, \\ c1430, \ c1434, \ c1592, \ c1595, \\ c1599, \ c1635, \ c1637, \ c1641, \\ c1681, \ c2082, \ c2215, \ c2217, \\ c2221, \ c2236, \ c2238, \ c2242, \ c2319 \\ \\ \textbf{k@family} \ \dots \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ $
\inhibitxspcode	$ \begin{array}{c} \text{k@encoding} \ \dots \dots \ \underline{c7}, \ c15, \\ c323, \ c327, \ c430, \ c433, \ c442, \\ c808, \ c812, \ c814, \ c819, \ c821, \\ c823, \ c827, \ c832, \ c836, \ c841, \\ c843, \ c845, \ c848, \ c872, \ c874, \\ c890, \ c894, \ c896, \ c901, \ c903, \\ c905, \ c909, \ c914, \ c918, \ c923, \\ c925, \ c927, \ c930, \ c973, \ c977, \\ c978, \ c983, \ c984, \ c986, \ c990, \\ c995, \ c999, \ c1004, \ c1006, \ c1008, \\ c1011, \ c1207, \ c1208, \ c1222, \\ c1224, \ c1225, \ c1227, \ c1228, \\ c1231, \ c1235, \ c1237, \ c1427, \\ c1430, \ c1434, \ c1592, \ c1595, \\ c1599, \ c1635, \ c1637, \ c1641, \\ c1681, \ c2082, \ c2215, \ c2217, \\ c2221, \ c2236, \ c2238, \ c2242, \ c2319 \\ \\ \textbf{k@family} \ \dots \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ $
\inhibitxspcode	\k@encoding
\inhibitxspcode	$ \begin{array}{c} \text{k@encoding} \ \dots \dots \ \underline{c7}, \ c15, \\ c323, \ c327, \ c430, \ c433, \ c442, \\ c808, \ c812, \ c814, \ c819, \ c821, \\ c823, \ c827, \ c832, \ c836, \ c841, \\ c843, \ c845, \ c848, \ c872, \ c874, \\ c890, \ c894, \ c896, \ c901, \ c903, \\ c905, \ c909, \ c914, \ c918, \ c923, \\ c925, \ c927, \ c930, \ c973, \ c977, \\ c978, \ c983, \ c984, \ c986, \ c990, \\ c995, \ c999, \ c1004, \ c1006, \ c1008, \\ c1011, \ c1207, \ c1208, \ c1222, \\ c1224, \ c1225, \ c1227, \ c1228, \\ c1231, \ c1235, \ c1237, \ c1427, \\ c1430, \ c1434, \ c1592, \ c1595, \\ c1599, \ c1635, \ c1637, \ c1641, \\ c1681, \ c2082, \ c2215, \ c2217, \\ c2221, \ c2236, \ c2238, \ c2242, \ c2319 \\ \\ \textbf{k@family} \ \dots \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ $

c1595, c1599, c1635, c1637,	\KanjiEncodingPair
c1641, c1681, c1705, c1717,	<u>c317</u> , c320, c328, c801, c2829
c1728, c1794, c1812, c1829,	\kanjifamily <u>c1263</u> , c1755, c1771,
c1845, c1860, c1977, c1978,	$c1875$, $c20\overline{63}$, $c2074$, $c2179$,
c1993, c1994, c2006, c2007,	c2182, c2300, c2311, c2821, f34, f40
c2017, c2018, c2069, c2082,	\kanjifamilydefault c1794,
c2098, c2099, c2215, c2217,	c1812, c1829, c1845, c1860,
c2221, c2236, c2238, c2242,	c1875, c1913, c1919, c2367, c2833
c2306, c2319, c2334, c2335, c2367	\kanjiprocess@table <u>c2363</u>
	\kanjiseries <u>c1368</u> , c1755, c1771,
\k@series	
<u>c13</u> , c15, c472, c841, c843, c845,	c1876, c1976, c1977, c1978,
c848, c870, c874, c877, c923,	c1979, c1992, c1993, c1994,
c925, c927, c930, c1004, c1006,	c1995, c2005, c2006, c2007,
c1008, c1011, c1371, c1394,	c2008, c2016, c2017, c2018,
c1402, $c1414$, $c1445$, $c1446$,	c2019, c2202, c2203, c2822, f35, f41
c1457, $c1595$, $c1599$, $c1637$,	\kanjiseriesdefault
c1641, c1681, c1706, c1795,	c1795, c1813, c1830,
c1813, $c1830$, $c1846$, $c1861$,	c1846, $c1861$, $c1876$, $c2162$,
c2062, $c2078$, $c2080$, $c2085$,	c2164, <u>c2170</u> , c2368, c2834, f35, f41
c2086, $c2087$, $c2109$, $c2115$,	\kanjiseriesdefault@kernel
c2118, $c2120$, $c2164$, $c2205$,	$c2162, \underline{c2170}$
c2238, $c2242$, $c2256$, $c2257$,	\kanjiseriesforce $c1388$, $c2205$, $c2206$
c2261, $c2262$, $c2299$, $c2315$,	\kanjishape <u>c1477</u> ,
c2317, $c2322$, $c2323$, $c2343$,	c1755, c1771, c1877, c2823, f36, f42
c2346, c2349, c2351, c2368, c2822	\kanjishapedefault
\k@series@saved c870, c877	c1796, c1814, c1831, c1847,
\k@series@saved c870, c877 \k@shape c14, c15.	c1796, c1814, c1831, c1847, c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42
\k@shape $\dots \underline{c14}, c15,$	c1862,c1877,c2369,c2835,f36,f42
\k@shape	$\begin{array}{c} c1862,c1877,c2369,c2835,f36,f42 \\ \texttt{\kanjishapeforce} & \dots & \underline{c1523} \end{array}$
\k@shape <u>c14</u> , c15, c473, c841, c848, c869, c874, c876, c923, c930, c1004, c1011,	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
\k@shape	c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42 \kanjishapeforce
\k@shape	c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42 \kanjishapeforce
\k@shape	c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42 \kanjishapeforce
\k@shape	c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42 \kanjishapeforce
\k@shape	c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42 \kanjishapeforce
\k@shape	c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42 \kanjishapeforce
\k@shape	c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42 \kanjishapeforce
\k@shape	c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42 \kanjishapeforce
\k@shape	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
\k@shape	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
\k@shape	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
\k@shape	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
\k@shape	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
\k@shape	c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42 \kanjishapeforce
\k@shape	c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42 \kanjishapeforce
\k@shape	c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42 \kanjishapeforce
\k@shape	c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42 \kanjishapeforce
\k@shape	c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42 \kanjishapeforce
\k@shape	c1862, c1877, c2369, c2835, f36, f42 \kanjishapeforce

\l@paragraph <u>h1726</u>	d1492, $d1516$, $d1524$, $e17$,
\logart h1674	e282, e332, e426, e523, e547,
\l@section h1708	e569, f12, h1168, h1273, h1293,
\lambda \lambda \text{l0subparagraph}	h1644, h1682, h1700, h1715, i46
\left(\text{1@subsection} \cdots \cdots \frac{\hbar{h}1726}{2}\)	\leftmargin h104, h183,
\lambda \lambda subsection \ldots \ldots \frac{\hbar h1726}{\ldots}	h193, h203, h215, h225, h235,
\ldable <u>h1778</u>	<u>h1333</u> , h1359, h1377, h1392,
\label d668, d740, d809, h1656	h1400, h1403, h1406, h1448,
$\label{labelenumi} \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \$	h1449, h1450, h1476, h1477,
\labelenumii \frac{h1423}{h223}	h1478, h1483, h1485, h1497,
\labelenumiii $\overline{h1423}$	h1502, h1506, h1787, h1788, i17
\labelenumiv h1423	\leftmargini
\labelitemfont h1455,	
h1458, h1460, h1463, h1464, h1465	h183, h193, h203, h215, h225,
	$h235, \underline{h1333}, h1349, h1359, i17$
\labelitemi	$\verb leftmarginii h1333, h1377, h1378 h1378 $
\labelitemii	\leftmarginiii <u>h1333</u> , h1392, h1393
\labelitemiii $\underline{h1455}$	\leftmarginiv <u>h1333</u> , h1400, h1401
\labelitemiv $\underline{h}1455$	\leftmarginv <u>h1333</u> , h1403, h1404
\labelsep $h1348$, $h1378$, $h1393$,	\leftmarginvi <u>h1333</u> , h1406, h1407
h1402, h1405, h1408, h1447,	
h1475, h1487, h1492, h1583, h1788	\leftmark
\labelwidth $\dots \dots h1348$,	h830, h832, h881, h887, h939, h941
h1378, h1393, h1401, h1402,	\leftskip h1449, h1477,
h1404, h1405, h1407, h1408,	h1485, h1641, h1646, h1702, h1717
h1447, h1475, h1483, h1786, h1787	\line $\underline{e499}$
\language d643, d710, d1183, d1195	\lineskip c2442, c2450, c2454, d671,
\LARGE <u>h241</u> , h994, h1066	d743, d812, e53, <u>h280</u> , h997, h1069
\Large <u>h241</u> , h996, h1195, h1300	\lineskiplimit d671, d743, d812
\large <u>h241</u> ,	\linewidth
h1002, h1068, h1074, h1304, h1682	•
	e181, e182, h1275, h1294, i34, i37
\last@fontshape c486, c504,	\list h1442, h1470,
c517, c535, c562, c580, c598, c615	h1483, h1495, h1500, h1506, h1785
\lastbox d46	\listfigurename
$\LastDeclaredEncoding c182, c210, c232$	h1758, h1760, h1761, <u>h1870</u>
\lastnodechar c2491	\listoffigures h1754
\lastnodesubtype $d37$, $d48$, $d53$	\listoftables $\underline{h1767}$
\lastnodetype $d47, d52$	\listparindent
\lastpenalty d1025	-
\lastskip d91, d106, d122, d138	h106, h1488, h1496, h1500, h1501
\latexreleaseversion a5, a124	\listtablename
\layoutcaption <u>e183</u>	\dots h1771, h1773, h1774, <u>h1870</u>
\layoutfloat <u>e146</u> , e213	\lap h1453, h1480
\lccode d1217, d1226	\LoadClass
\Lcount <u>i26</u>	f84, f88, f92, f96, f100, f104, i4
	\Lopt <u>i27</u>
\leaders h1648	\lower
\leavevmode c2425, c2435,	
c2442, $c2450$, $c2603$, $c2650$,	c2678, e358, e372, e402, e490
c2662, $c2677$, $c2806$, $d1126$,	\lowercase
d1179, d1191, d1202, d1218,	. $c197$, $c1281$, $c1302$, $d1218$, $d1227$
d1227, $d1441$, $d1448$, $d1469$,	$\verb \label{condition} \textbf{ltx@sh@ft} \dots c2700, \ c2705, \ c2732$

\mathbf{M}	c1589, c1593, c1636, c2051,
\m@th c2454,	c2083, c2216, c2237, c2289, c2320
c2605, d1484, d1507, d1516,	\mbox d1286, d1288, d1290,
d1524, d1532, e20, e225, e249,	d1341, d1344, d1347, d1415, e496
e265, e320, e337, e365, e379,	\mc f32, f59, f64, f65, f66, f67, f68,
e393, e409, e423, e451, f17, f18,	$f69, f70, f71, f72, f73, f74, f75, \underline{h1617}$
h983, h1025, h1026, h1033, h1648	\mcdef@ult c1911, c1917,
$\verb \mainmatter \underline{h1154} $	c1977, c1993, c2006, c2017, c2155
$\verb \makeQpcaptionbox \dots \dots e215, \underline{e230}$	\mcdefault c1911, c1917,
$\mbox{\mbox{$\backslash$}}$ makeatletter d31	c2179, c2186, c2830, c2833, f34
\makeatother d31	\mcfam f62
\makelabel h1453, h1480, h1490	\mcfamily c2155, c2176, c2193,
\MakeRobust h167, h168	c2397, c2405, c2411, c2418, h1617
\maketitle $\dots \dots \underline{h981}$	\mddef@ult c1903, c1951, c1952,
\maketombowbox $\underline{d436}$, h73, h77, h81	c1953, c2012, c2013, c2118, c2349
\marginparpush $\underline{h587}$	\mddefault c1895, c1896, c1903,
\marginparsep $\underline{h587}$	c1947, c1948, c1949, c1950, c1960, c1990, c1995, c2019, c2834
\marginparwidth $\underline{\text{h}599}$	\mddefault@previous c1947, c1950
\markboth	\mdseries <u>c1923</u> , c2147, c1930
h834, h836, h844, h861, h892,	\mdseries@gt <u>c1886</u> , c1994, c2013, c2018
h894, h902, h920, h1191, h1210	\mdseries@mc \(\cdot \cdot \cd
\markright h839, h851,	\mdseries@rm c1951, c1957, c1987
h863, h868, h897, h909, h922, h927	\mdseries@sf c1952, c1958, c1988
\math@bgroup c737, c740, c743	\mdseries@tt c1953, c1959, c1989
\math@fontsfalse c632	\medskipamount $\underline{h285}$
\mathbf c1924, c1968, h1604, h1622	\merge@font@series . $c945$, $c1375$, $c\overline{2201}$
\mathcal h1626	\merge@font@series@without@substitution
\mathchardef	c948, c1449
. d1539, d1543, d1544, d1556,	$\verb \merge@font@shape . c944, c1489, c1518$
d1559, d1560, d1571, d1574, d1575, d1590, d1593, d1594, d1611	$\verb \merge@font@shape@without@substitution $
\mathgroup f37,	c947, c1654
f43, f44, f51, f52, f53, f54, f55, f56	\merge@kanji@series
\mathgt c2181, c2188, f29,	$c879, c1376, \underline{c1406}, c2202$
h1599, h1604, h1612, h1613, h1618	\merge@kanji@series@ <u>c1406</u> , c2210
\mathit h1623	\merge@kanji@series@without@substitution
\mathmc c2178, c2185, f28,	
h1596, h1603, h1608, h1609, h1617	\merge@kanji@series@without@substitution@
\mathnormal h1627	
\mathrm . c737, c740, c743, h1603, h1619	\merge@kanji@shape c878, c1490, c1519, c1565
\mathsf h1620	
\mathsurround c2652	\merge@kanji@shape@ c1565, c2231 \merge@kanji@shape@without@substitution
\mathtt h1621	
\maxdepth	\merge@kanji@shape@without@substitution@
d197, d229, d260, d291, d318, <u>h321</u>	
\maxdimen d541, d568, e552, e556	\MessageBreak a127, a128, a129, c240,
\maybe@ic c2757, c2758, c2780, c2781	c242, c244, c502, c533, c578,
\maybe@load@fontshape	c613, c1690, d11, d13, d15, d25
c873, c939, c1424, c1428,	\minipage <u>e273</u>

\minute $\underline{d1262}$, $\underline{h12}$, $h72$	h1649, h1684, h1686, h1703,
\mit $\underline{h1626}$	h1718, h1840, h1855, h1863, h1864
\mkern h1648	\nocorr c2756, c2759, c2779, c2782
\mlineplus $i30$	\nofixcompositeaccent $\underline{c2695}$, $c2713$,
\month h71, h1845, h1847, h1860, h1863	c2718, c2720, c2734, c2744, c2746
\moveleft	\noindent
d542, d569, d591, e553, e557, e561	h983, h1028, h1032, h1825, h1829
\moveright d675, d747, d816	\nointerlineskip e553, e557, e561
(marria-8-11	\normalbaselineskip . c1043, c1081,
${f N}$	c1118, c1143, c1170, h1444, h1472
\NeedsTeXFormat . b2, c2, $\underline{d2}$, d148, f80	\normalcolor
\newblock h109, h1781	d176, d222, d253, d284, d325,
\newbox c65, c66, c71, c86,	d347, d418, d679, d689, d751,
c1107, d425, d426, d427, d428,	d761, d820, d830, e314, e573, h1650
	\normalfont
d429, d430, d431, d432, e134, e144	<u>c1787</u> , d975, d976, d982, d983,
\newcount d988, d1262, d1263, h1834	e145, f44, h1193, h1212, h1223,
\newcounter h2, h1110, h1112, h1113, h1115,	h1230, h1272, h1292, h1300,
	h1304, h1308, h1312, h1316,
h1116, h1117, h1118, h1119, h1508, h1509, h1535, h1536, i30	h1465, h1492, h1617, h1618,
	h1619, h1620, h1621, h1622,
\newdimen c17, c18, c19, c20, c21, c22,	h1623, h1624, h1625, h1650, i28
c23, c24, c25, c26, c27, c1108,	\normallineskip $\underline{h}280$
d403, d609, d610, d611, e135,	\normalmarginpar h1891
e136, e137, e138, e141, e456,	\normalsfcodes d667, d739, d808
e457, e458, h1633, h1636, h1779	\normalsize d666, d738, d807, e145,
\newenvironment h953,	h139, h1308, h1312, h1316, i5
h964, h1080, h1090, h1482,	$\underline{\text{miss}}$, $\underline{\text{misso}}$, $\underline{\text{misso}}$, $\underline{\text{misso}}$, $\underline{\text{misso}}$, $\underline{\text{misso}}$
h1493, h1499, h1505, h1529, h1532, h1556, h1559, h1782, h1804	\not@advancelinetrue e520
\newif a61, c785,	\not@math@alphabet
c1260, c1261, c1262, c1365,	c1924, c1945, c1968,
c1474, d401, d402, e2, e516, h3,	c1984, c2178, c2181, c2185, c2188
h5, h6, h9, h10, h11, h15, h16, h17	\notffam@list <u>c60</u> , c1296, c1310
\newlanguage d1625	\notkfam@list \(\frac{c60}{c60}\), c1274, c1289
\newlength h1562, h1563	\null c2603, c2611, d46, d81, d1056,
\newpage . d68, d69, d73, d74, h768,	d1079, d1101, d1142, d1156,
h769, h773, h774, h780, h781,	d1169, d1260, d1441, d1455,
h785, h786, h791, h792, h796,	d1480, d1484, d1516, d1524,
h797, h957, h961, h970, h975,	e17, e57, e332, e349, h991,
h1040, h1061, h1235, h1238, h1240	h1004, h1006, h1061, h1082,
\newskip e517	h1004, h1000, h1001, h1032, h1088, h1179, h1238, h1240, h1646
\newtoks d434	\number . h71, h1838, h1840, h1854,
\next e549, e564, e565	h1855, h1860, h1861, h1863, h1864
\nfss@catcodes c158, c250, c274	\numberline e211, h1259, <u>h1636</u>
	\numexpr
\nfss@text d1138, d1152, d1165	11050, 111050, 111040, 111040, 111041
\nobreak d81, d1127, e554, e558, e562, h1196, h1199, h1225,	O
6562, fil196, fil199, fil225, h1279, h1284, h1646, h1647,	
111213, 111204, 111040, 111041,	\oalign c2699, c2704, c2731

\oddsidemargin	h1169, h1196, h1198, h1215, h1217, h1224, h1231, h1318, h1325, h1572, h1573, h1651, h1685, h1703, h1718, h1814, h1817 \paragraph
(Overlatifiate	\parskip
P \p@array	h283, h1446, h1474, h1488, h1810 \part

c797, c967, c1027, c1068, c1105, c1135, c1162, c1189, c1510,	c2568, c2574, c2586, c2621, c2668, c2691, c2695, c2711,
c1522, c1553, c1564, c1616,	c2716, c2728, c2742, c2754,
c1652, c1694, c1699, c1751,	c2777, c2800, c2810, d34, d60,
c1767, c1786, c1855, c1870,	d85, d100, d116, d132, d159,
c1885, c2399, c2406, c2413,	d201, d232, d263, d368, d385,
c2420, c2431, c2438, c2445,	d406, d411, d416, d421, d437,
c2458, c2462, c2472, c2483,	d487, d535, d563, d586, d613,
c2487, $c2493$, $c2497$, $c2527$,	d628, d634, d702, d772, d843,
c2548, c2552, c2558, c2567,	d867, d873, d880, d889, d961,
c2573, $c2585$, $c2620$, $c2667$,	d971, d979, d985, d992, d996,
c2690, c2694, c2710, c2715,	d1010, d1021, d1031, d1038,
c2727, $c2741$, $c2753$, $c2776$,	d1063, d1085, d1107, d1132,
c2799, c2809, c2813, d59, d63,	d1147, d1160, d1175, d1188,
d99, d115, d131, d146, d200,	d1199, d1211, d1221, d1231,
d231, d262, d293, d384, d399,	d1246, d1265, d1322, d1351,
d410, d413, d420, d423, d486,	d1380, d1406, d1413, d1418,
d532, d562, d585, d607, d627,	d1423, d1434, d1438, d1446,
d631, d701, d771, d840, d866,	d1452, d1459, d1464, d1488,
d872, d879, d886, d960, d964,	d1510, d1519, d1527, d1535,
d978, d984, d991, d995, d1009,	d1552, d1567, d1587, d1597,
d1020, d1030, d1037, d1062,	d1605, d1615, d1619, d1628, d1636
d1084, d1106, d1124, d1146,	\pltx@adjust@wd@outputbox <u>d153</u> , d191
d1159, d1172, d1187, d1198,	\pltx@adjust@wd@outputbox@vtryfc
d1208, d1220, d1228, d1245,	
d1258, d1321, d1350, d1379,	\pltx@AtBeginDvi@untouched
d1405, $d1412$, $d1417$, $d1422$,	d846, d851, d858, d864
d1433, d1437, d1445, d1451,	\pltx@cleartoevenpage $h765$
d1458, d1463, d1487, d1509,	\pltx@cleartoleftpage <u>h765</u> , h801
d1518, d1526, d1534, d1551,	\pltx@cleartooddpage
d1566, $d1586$, $d1596$, $d1601$,	<u>h765</u> , h966, h1156, h1159
d1614, d1618, d1622, d1635, d1639	\pltx@cleartorightpage $h765$, $h803$
\plEndIncludeRelease a67	\pltx@composite@chkenc
\plIncludeInRelease	c2506, c2524, c2525
$\underline{a60}$, b14, b18, c30,	\pltx@composite@temp
c45, c68, c74, c78, c84, c88, c99,	c2598, c2599, c2632, c2633
c109, c119, c128, c137, c144,	\pltx@cond
c150, c162, c215, c319, c333,	c2515, c2518, c2522, c2523,
c377, $c403$, $c447$, $c461$, $c480$,	c2532, c2537, c2540, c2544, c2545
c557, c593, c657, c702, c787,	\pltx@do@subst@correction@al c656
c793, c800, c968, c1030, c1069,	-
c1110, c1136, c1163, c1477,	\pltx@do@subst@correction@tate \(\frac{c656}{2}\)
c1511, c1523, c1554, c1565,	\pltx@do@subst@correction@yoko c656
c1617, $c1677$, $c1695$, $c1700$,	\pltx@foot@penalty \(\delta \) \(\delt
c1752, $c1768$, $c1787$, $c1856$,	d1057, d1058, d1059, d1080,
c1871, c2378, c2400, c2407,	d1081, d1082, d1102, d1103, d1104
c2414, c2421, c2432, c2439,	\pltx@gluetype d47, d52
c2446, c2459, c2463, c2473,	\pltx@isletter <u>c2498</u> , c2592, c2626
c2484, c2488, c2494, c2498,	\pltx@isletter@i
c2528, c2549, c2553, c2559,	c2513, c2514, c2535, c2536

\pltx@isletter@ii	\prebreakpenalty g2, g3, g6,
c2516, c2517, c2538, c2539	g7, g9, g10, g12, g13, g14, g15,
\pltx@isletter@iii	g16, g17, g18, g19, g20, g21,
c2519, c2520, c2541, c2542	g23, g24, g25, g26, g27, g28,
\pltx@isletter@iv	g29, g30, g31, g32, g33, g34,
c2519, c2521, c2541, c2543	g36, g37, g38, g40, g42, g43,
$\verb \pltx@jfmgluesubtype d48, d53 $	g45, g47, g50, g52, g54, g56,
\pltx@latex@level <u>c1317</u> , c2198,	g58, g60, g62, g63, g64, g65,
c2200, c2209, c2254, c2259, c2266	g66, g69, g70, g71, g72, g73,
\pltx@ltx@sh@ft	g74, g75, g76, g77, g78, g79,
<u>c2473</u> , c2700, c2724, c2738, c2750	g80, g81, g82, g83, g84, g85,
\pltx@mark c2501,	g86, g87, g88, g89, g90, g91, g92
c2515, c2516, c2518, c2520,	\prechaptername $h1151$, $h1860$
c2521, c2522, c2530, c2537,	\prensuji $\underline{e541}$, \underline{f}
c2538, c2540, c2542, c2543, c2544	\prepare@family@series@update
\pltx@mark@	c2024, c2029, c226
\pltx@newhook@avail <u>a56</u> , a110,	\prepare@family@series@update@kanji
c1790, c1909, c1966, c2153, c2170	$\underline{c2024}$, $c2176$, $c2186$, $c2189$, $c229$
\pltx@next@inhibitglue $d1409, \underline{d1423}$	\prepartname
\pltx@oalign	h1187, h1195, h1206, h1214, <u>h1866</u>
<u>c2446</u> , c2699, c2722, c2736, c2748	\prg b35, b36, b37, b38, b39,
$\verb \pltx@pdfencA c2505, c2507 $	b40, b42, b43, b44, b45, b46, b4'
\pltx@reset@catcode@trick c1344, c2361	\printglossary <u>d126</u>
\pltx@saved@ltx@sh@ft c2463,	\process@table a112, a113, c236:
c2705, c2723, c2732, c2737, c2749	\ProcessOptions h132, is
$\protect\$ \pltx@saved@oalign $c2439$,	\protect
c2704, c2721, c2731, c2735, c2747	c1243, d642, d709, d779, d1137,
\pltx@saved@text@composite@x	d1142, d1151, d1164, e211,
<u>c2574</u> , c2706, c2725, c2739, c2751	h983, h1259, h1265, h1266, h1660
\pltx@scanstop c2502,	\protected c2803, c2806, d51, d1426
c2513, c2514, c2516, c2517,	\protected@edef
c2531, c2535, c2536, c2538, c2539	d1049, d1073, d1095, d1117 \protected@file@percent h1653, h166
$\verb \pltx@temp@catcode@ix c1345, c1350 $	\protected@write \ldots h1655
\pltx@temp@catcode@xiv . c1346, c1348	\protected@xdef d1001, d1006,
\pltx@tempa c430, c433	d1013, d1018, d1027, d1035, h982
\pltx@text@composite@x	\providecommand
$\underline{\text{c2586}}, \text{c2701}, \text{c2726}, \text{c2740}, \text{c2752}$. h1653, i24, i25, i26, i27, i28, i29
\pltx@textbottom d168, d196	\ProvidesExplPackage b
\pltx@today@year <u>h1835</u>	\ProvidesFile
\pltx@today@year@	c2815, c2885, c2886, c2887, c2888
h1835, h1846, h1848, h1850	\ProvidesPackage c3, d149
\postbreakpenalty	\ps@bothstyle <u>h878</u>
g4, g5, g8, g11, g22, g35, g39,	\ps@footnombre <u>h820</u> , h879, h919
g41, g44, g46, g48, g49, g51,	\ps@headings <u>h82'</u>
g53, g55, g57, g59, g61, g67, g68	\ps@headnombre <u>h813</u> , h828, h85'
\postchaptername $h1152, \underline{h1866}$	\ps@jpl@in h807, <u>h812</u> , h814,
\postpartname	h821, h828, h857, h879, h915, h93
h1187, h1195, h1206, h1214, <u>h1866</u>	\ps@myheadings $\underline{h93}$
\ppatch@level . <u>a27</u> , a43, a45, a46, a48	\ps@plain <u>h806</u> , h812, h93'

$\label{eq:pstyle} $$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccc$	c2095, c2330, c2331, c2759, c2762, c2782, c2785, d3, d4, d7, d10
	\reserved@b . c324, c328, c329, c388,
Q	c389, c413, c414, c1681, c1682,
\quotation h1098	c1686, c2101, c2106, c2110,
quotation (environment) $\underline{h1499}$	c2111, c2118, c2119, c2337, c2342, c2344, c2345, c2349,
quote (environment) <u>h1505</u>	$c2350,\ c2760,\ c2762,\ c2783,\ c2785$
\mathbf{R}	\reserved@c c2103,
\raggedbottom h1883	c2106, c2116, c2117, c2120,
\raggedright h1192, h1222, h1271, h1291	c2121, c2339, c2342, c2347,
\raise c2426, c2436, d445,	c2348, c2351, c2352, c2761,
d494, d1129, e67, e73, e85, e92,	c2763, c2770, c2784, c2786, c2793
e355, e369, e399, e569, e574, f15	\reserved@d . c2108, c2109, c2114, c2115 \reserved@e
\reDeclareMathAlphabet	\reserved@f
$$ $\underline{c718}$, h1603, h1604	\reset@font c1853, c1869,
\ref d1133, d1148	c1884, c2145, d665, d737, d806,
\refname h1783, <u>h1873</u>	d1044, d1068, d1090, d1112,
\refstepcounter	d1138, d1152, d1165, e573, h809
e203, h1185, h1204, h1256	\rightmargin h1486, h1497, h1502, h1506
\rel@fontshape	\rightmark h831, h833, h859, h860,
\rel@shape c760, c761, c774, c775	h883, h889, h916, h918, h940, h942
\removejfmglue	\rightskip
. <u>d34</u> , d1268, d1311, d1314, d1317	h1486, h1641, h1680, h1699, h1714
\renewenvironment h1438, h1466	\rm c740, f51, f59, f64, f65, f66, f67, f68,
\Rensuji <u>e541</u> , <u>f7</u>	f69, f70, f71, f72, f73, f74, f75, <u>h1617</u>
\rensuji <u>e519</u> , e541, e542, e576, e577, f8, f9, h1121, h1122,	\rmdef@ult
h1124, h1125, h1127, h1129,	c1936, c1957, c1971, c1987, c2141 \rmdefault c1899, c2129
h1131, h1133, h1321, h1330,	\rmfamily c2141, e573, f51, h1619
h1412, h1413, h1414, h1415,	\roman@normal
h1511, h1514, h1538, h1541, h1657	f45, f51, f52, f53, f54, f55, f56
\rensujiskip e517, e518, e525, e538	\romanencoding
\RequirePackage . b3, b16, f5, f6, h137	c764, c769, c777, c781, <u>c1191</u> ,
$\verb \RequirePackageWithOptions . c5, d151 $	c1709, $c1721$, $c1734$, $c1758$,
\reserved@a c34, c42, c323,	c1774, c1797, c1863, c1878, f46
$c325, \ c329, \ c348, \ c351, \ c353,$	$\color=0.00000000000000000000000000000000000$
c367, c370, c372, c385, c389,	$\underline{c1263}$, $c1758$, $c1774$, $c1879$,
c410, c414, c485, c486, c501,	c2032, c2043, c2270, c2281, f47
c504, c509, c516, c517, c532,	\romannumeral h1441, h1469
c535, c540, c561, c562, c577,	\romanprocess@table c2363
c580, c585, c597, c598, c611,	\romanseries c765, c770, c778, c782,
c615, c620, c1057, c1059, c1062, c1095, c1097, c1100, c1281,	<u>c1368</u> , c1758, c1774, c1880, c1970, c1971, c1972, c1973,
c1282, c1302, c1303, c1419,	c1976, c1971, c1972, c1973, c1974, c1986, c1987, c1988,
c1420, c1430, c1431, c1462,	c1989, c1990, c2201, c2203, f48
c1426, c1436, c1431, c1402, c1463, c1580, c1581, c1595,	\romanseriesforce <u>c1388</u> , c2204, c2206
c1596, c1631, c1632, c1637,	\romanshape c770, c782,
c1638, c1667, c1668, c2094,	<u>c1477</u> , c1758, c1774, c1881, f49
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	

\romanshapeforce $\dots \dots \underline{c1523}$	\set@target@series@kanji
\rule d1054, d1078, d1100, d1122	$c1406$, $c1464$,
	c1466, $c1718$, $c1729$, $c2213$,
${f S}$	c2219, c2222, c2225, c2255, c2260
\save@tbaselineshift e457, e474, e498	$\st @typeset @protect d649,$
\save@ybaselineshift e456, e473, e497	d651, d716, d718, d785, d787, e52
\sbox h1568, h1569	\setcounter h18, h21, h24, h27, h31,
\sc f54, <u>h1623</u>	h34, h37, h40, h44, h47, h50,
\scan@allowedfalse i43, i45	h53, h755, h756, h757, h758,
\scan@allowedtrue i44	h959, h973, h977, h1008, h1046,
\scriptsize <u>h241</u>	h1108, h1109, h1319, h1320,
\scshape f54, h1625, i28	h1326, h1327, h1628, h1629, i31
\secdef h1171, h1180, h1252	\SetRelationFont $$ $c758$
\section h1092, h1297,	\SetSymbolFont f30, h1597
h1668, h1760, h1773, h1783, h1806	\settowidth h1786
\sectionmark h836, h851, h863,	\sf f52, <u>h1617</u>
h894, h909, h922, h945, h1102	\sfcode h179
	\sfdef@ult c1900,
\selectfont c437, c440, <u>c799</u> , c1425, c1590, c1707, c1712, c1719,	c1937, c1958, c1972, c1988, c2142
c1724, c1732, c1739, c1756,	\sfdefault c1900, c2133
c1759, c1772, c1775, c1801,	\sffamily c2142, f52, h1620
c1809, c1826, c1842, c1867,	\shapedefault $c1800$, $c1807$,
c1882, c1942, c1963, c1981,	c1823, c1838, c1866, c1881, f49
c1997, c2179, c2182, c2186,	\shipout d648, d715, d784
c2189, c2841, c2842, f37, f43, f50	\size@update c861, c963,
\series@change@debug	c1026, c1040, c1066, c1078, c1104
c2031, c2034, c2045,	\skip . d174, d220, d251, d282, d323,
c2048, c2052, c2062, c2065,	d345, e313, h693, h694, h695, h1584
c2076, c2079, c2084, c2097,	\sl f53, <u>h1623</u>
c2105, c2110, c2116, c2119,	\sloppy h1793, h1886
c2121, c2269, c2272, c2283,	\slshape f53, h1624
c2286, c2290, c2299, c2302,	\small <u>h177</u> , h986, h1094, <u>i5</u> , i20
c2313, c2316, c2321, c2333,	\smallskipamount $h28!$
c2341, c2344, c2347, c2350, c2352	\spacefactor
$\verb \series@drop@one@m \dots \dots$	d1127, d1130, d1144, f13, f10
\series@maybe@drop@one@m	\split@name c452, c465
c1328, c1335,	\splitmaxdepth
c1336, c1446, c1902, c1903,	d1047, d1071, d1093, d1118
c2055, c2087, c2107, c2113, c2262	\splittopskip
\series@maybe@drop@one@m@x	d1046, d1070, d1092, d1114
c1331, c1335, c1337	\stepcounter d697, d768,
\seriesdefault	d837, d1000, d1005, d1012, d1017
c1799, c1806, c1822, c1837,	\strip@pt c1035, c1073, c2468, c2479 \strut <u>c88</u> , d1243, d1257
c1865, c1880, c2146, c2148, f48	\strutbox <u>coo</u> , d1245, d1256
\seriesdefault@kernel c2146	
\set@fontsize c859, c961, c1024, c1029	<u>c78</u> , c113, c1083, d1047, d1054,
\set@safe@kanji@shape c1484,	d1071, d1078, d1093, d1100, d1115, d1122, e28, e29, e42, e43
c1534, c1546, c1583, c1604, <u>c1677</u>	\subitem h1814
	\subparagraph <u>h1313</u>
\set@target@series c1703, c1723, c1736	/annharagrahm intole

$\begin{tabular}{lllllllllllllllllllllllllllllllllll$	c2427, c2436, c2453, c2564, c2595, c2614, c2629, c2638, c2640, c2661, c2681, c2683, e65, e71, e82, e89, e474, e491, e498, e500, e503, e506, e509, e512, e515 \tenmin
\symitalic	\textbaselineshiftfactor
\symmincho f31, f37, f62, h1598	c2606, c2607, c2653, c2654
\symoperators f51	\textbullet h1455 \textcircled h1458
\symsans f52	\textcircled
\symslanted	
\symsmallcaps f54	\textfloatsep $\frac{h696}{h761}$
\symtypewriter f56	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
(-JJF	\text{text} \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
${f T}$	d640, d696, d707, d767, d777,
$\verb \tabbingsep \underline{h1583} $	d836, <u>h444</u> , h572, h651, h662, h990
$\verb \tabcolsep \dots \dots \underline{h1580} $	\textmc <u>c2192</u>
table (environment) $\dots \underline{h1556}$	\textperiodcentered h1464
$table* (environment) \dots \underline{h1556}$	\textsf i27, i29
\tablename h1554, h1555, <u>h1876</u>	\textsl i25, i26
\tableofcontents $\underline{h1663}$	\TextSymbolUnavailable c1248
\tabskip e47	\textt c2755
\tabular	\texttt i24
\tabular* <u>e3</u> \tabularnewline <u>e49</u>	\textunderscore $\underline{c2421}$
\target@meta@family@value . c2037,	\textwidth
c2068, c2095, c2102, c2104,	d640, d680, d690, d707, d752,
c2275, c2305, c2331, c2338, c2340	d762, d777, d821, d831, e301,
\target@series@value c2036,	<u>h326</u> , h571, h652, h663, h681, h990
c2044, c2047, c2049, c2053,	\tfont c646, c681, c683, c826, c908, c989
c2054, $c2055$, $c2067$, $c2075$,	\thanks h988, h989, h1009, h1047, h1064
c2078, $c2080$, $c2085$, $c2086$,	the bibliography (environment) . $\underline{h1782}$
c2087, $c2111$, $c2117$, $c2118$,	\thechapter h847,
c2120, c2274, c2282, c2285,	h871, h905, h930, <u>h1120</u> , h1257,
c2287, c2291, c2292, c2304,	h1259, h1277, h1330, h1331,
c2312, c2315, c2317, c2322,	h1514, h1521, h1541, h1548, h1591
c2323, c2345, c2348, c2349, c2351	\theenumi
\tate . c122, c124, c130, c132, c1048,	\theenumii <u>h1410</u> , h1425, h1431, h1436
c1051, c1086, c1089, d363, d1042, d1066, d1088, d1110,	\theenumiii h1410, h1426, h1432, h1437
e38, e98, e111, e242, e243,	\theenumiv $\frac{\text{h}1410}{\text{h}1427}$, h1433, h1792
e289, e292, e381, e397, e437,	\theequation $e574$, $e575$, $h1587$
e440, e478, e482, h83, h990, i37	\thefigure <u>h1508</u> , h1527, h1528
\tbaselineshift c1122,	\thefootnote
c1129, c1131, c1147, c1154,	. d967, d1006, d1018, h983, h1024
c1157, c1174, c1181, c1184,	theindex (environment) $\underline{h1804}$

\thempfn $\underline{d966}$,	\tombowtrue h68, h75, h79
d1001, d1013, d1027, d1035, e303	\topfraction <u>h759</u>
\thempfootnote $\underline{d968}$, e303	\topmargin d617, d731, d800, <u>h542</u> , h682
\thepage d1139,	\topsep h184, h194, h204,
d1153, $d1166$, $h809$, $h815$,	h216, h226, h236, h1362, h1367,
h816, h817, h818, h822, h823,	h1372, h1380, h1384, h1388,
h824, h825, h830, h831, h832,	h1394, h1395, h1396, h1399,
h833, h859, h860, h882, h884,	h1444, h1445, h1472, h1473, i18
h888, h890, h917, h919, h939,	\topskip <u>h294</u> , h324, h511, h540, h1488
h940, h941, h942, h1657, h1658	\tracingfonts $c855$, $c1019$,
\theparagraph $\underline{h1120}$	c1055, c1093, c1130, c1156, c1183
\thepart	\try@load@fontshape . $c497, c528, c573$
<u>h1120</u> , h1187, h1195, h1206, h1214	\tsample i33
\thesection h837, h852, h864, h895,	tsample (environment) <u>i35</u>
h910, h923, <u>h1120</u> , h1321, h1322	\tstrut c119
\thesubparagraph $\dots \dots \dots h1120$	\tstrutbox
\thesubsection h840, h898, $\overline{\text{h}1120}$	c105, c115, c123, c131, c1048,
\thesubsubsection $\dots \dots h1120$	c1086, e34, e35, e39, e40, e84, e91
\thetable h1535, h1554, h1555	\tt f56, <u>h1617</u>
\thispagestyle d68,	\ttdef@ult
d73, h768, h773, h780, h785,	c1938, c1959, c1973, c1989, c2143
h791, h796, h958, h972, h1044,	\ttdefault c1901, c2137
h1177, h1238, h1240, h1249, h1809	\ttfamily c2143, f56, h1621, i48
\thr@@ h1439, h1467	\two@digits h71, h72
\time h12, h14	\twocolumn h961,
\tiny h241	h975, h1037, h1243, h1672,
\title <u>h948</u> , h1016, h1055	h1763, h1776, h1806, h1807, h1885
\titlepage h1081	\type@restoreinfo c1063, c1101
titlepage (environment) $\underline{h952}$	\typeout a50,
\tmp@error@fontshape	a51, c1131, c1157, c1184, f2, h1257
c806, c838, c888, c920, c971, c1001	,
\tmp@item c341, c343,	${f U}$
c360, c362, c546, c548, c635,	\ucs d41
c637, c643, c688, c690, c694,	\underline <u>d1510</u> , e567, e568
c808, c810, c817, c836, c890,	\unexpanded
c892, c899, c918, c973, c975,	. c35, c37, c39, c41, d1429, d1430
c981, c999, c1216, c1218, c1228,	\unhcopy
c1230, c1234, c1266, c1270,	c93, c95, c103, c105, c113, c115,
c1274, c1293, c1296, c1744,	c123, c125, c131, c133, c141, c147
c1746, c1761, c1763, c1777, c1779	\unitlength
to@captionboxwidth . $e266$, $e268$, $e269$	e461, e462, e466, e467, e468, e469
\toclineskip <u>h1633</u> , h1640	\unpenalty d1025
\today h951, h1835	\update@series@target@value
\toks	c2039, c2277
\toks@ a75, a79,	\update@series@target@value@kanji
a82, a87, a115, a116, c386, c390,	<u>c2024</u> , c2307, c2329
c392, c395, c411, c415, c417, c420	\updefault c2835
\tombowdatefalse h75, h79	\upshape
\tombowdatetrue d402, h68	c2397, c2405, c2411, c2412, c2418
\tombowfalse d401	\usecounter h1452, h1790

\usefont c1700	\X@layoutfloat <u>e146</u>
\UseHook c958, c1824, c1840,	\X@makePbox e426, e427
	,
c1906, c1934, c1941, c1955, c1962	\X@makepbox <u>e427</u>
\usekanji c639, c645, <u>c1700</u>	\X@minipage e274, e275
\userelfont <u>c786</u>	\X@parbox e324, e325
\useroman $c648, c1700$	\X@picture e453, <u>e454</u>
\mathbf{v}	\XOpictureOdimens e459
\vadjust d1179, d1218, i46	\X@tabarray e5, <u>e10</u>
, ,	\X@tabular e7, <u>e10</u>
\vector	\xiipt f71
\verb \d1174, \idealde{146} \verb@eol@error \d1	\xipt f70
	\xivpt f72
d1181, d1193, d1204, i48	\xkanjiskip c2881, d972,
\verbatim@font d1182, d1194, d1205	d1212, d1439, d1453, d1465, d1520
\verbatim@nolig@list i47	\xpt f69
verse (environment) $\dots \underline{h1493}$	\xspcode c2603,
\vfil d677, d749, d818, h991, h1004,	c2611, c2650, c2658, g93, g94,
h1006, h1082, h1088, h1179, h1235	g95, g96, g97, g98, g99, g100,
\vfill d549, d551, d574, d576, d596, d598	g101, g102, g103, g104, g105,
\viiipt f67	g106, g107, g108, g109, g110,
\viipt f66	g111, g112, g113, g114, g115,
\vipt f65	g116, g117, g118, g119, g120,
\voidb@x d50, h176	g121, g122, g123, g124, g125,
\vpt f64	g126, g127, g128, g129, g130,
\vrule c1046, c1049, c1052, c1084,	g131, g132, g133, g134, g135,
c1087, c1090, d442, d443, d448,	g136, g137, g138, g139, g140,
d449, d451, d452, d453, d455,	g141, g142, g143, g144, g145,
d456, d458, d459, d462, d463,	g146, g147, g148, g149, g150,
d465, d466, d468, d469, d470,	g151, g152, g153, g154, g155,
d472, $d473$, $d475$, $d476$, $d479$,	g156, g157, g158, g159, g160,
d480, d482, d483, d491, d492,	g161, g162, g163, g164, g165,
d497, $d498$, $d500$, $d501$, $d502$,	g166, g167, g168, g169, g170,
d504, $d505$, $d507$, $d508$, $d510$,	g100, g107, g100, g103, g170, g171, g172, g173, g174, g175,
d511, d513, d514, d516, d517,	g176, g177, g178, g179, g180,
d518, d520, d521, d523, d524,	g181, g182, g183, g184, g185,
d526, d527, d529, d530, e28,	g186, g187, g188, g189, g190,
e31, e34, e39, e42, e165, e167,	
e529, e530, e531, e570, i34, i42	g191, g192, g193, g194, g195,
\vspace h1096	g196, g197, g198, g199, g200,
•	g201, g202, g203, g204, g205,
\mathbf{W}	g206, g207, g208, g209, g210,
\widowpenalties	g211, g212, g213, g214, g215,
\dots d1538, d1555, d1570, d1589	g216, g217, g218, g219, g220,
$\widowpenalty \dots h1796$	g221, g222, g223, g224, g225,
\wlog c196, c199, c201	g226, g227, g228, g229, g230, <u>i50</u>
\wrong@al@fontshape $\underline{c479}$	\xviipt f73
\wrong@fontshape $\dots \dots \underline{c479}$	\xxpt f74
$\wordsymbol{wrong@ja@fontshape}$ $\underline{c479}$	\xxvpt f75
X	Y
\X@layoutcaption $\dots \dots \underline{e183}$	\ybaselineshift c2426,

\year	c2428, c2453, c2477, c2564, c2595, c2614, c2629, c2638, c2643, c2661, c2681, c2686, e66, e72, e83, e90, e473, e491, e497, e500, e503, e506, e509, e512, e515 h71, h1834, h1836, h1838, h1840, h1845, h1847, h1854, h1855	$\begin{array}{c} e122,\ e240,\ e244,\ e287,\ e293,\\ e353,\ e411,\ e435,\ e441,\ e476,\\ e484,\ e527,\ e534,\ e535,\ e536,\\ e557,\ e561,\ e574,\ f18,\ h983,\ h1026\\ \\ \verb vstrut \dots \dots$
\yoko	c140, c146, c1045, c1083, d363, d441, d447, d450, d454, d457, d461, d464, d467, d471, d474, d478, d481, d490, d496, d499, d503, d506, d509, d512,	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
	d515, d519, d522, d525, d528, d648, d715, d784, d861, d871, d877, d904, d905, d913, d915, d967, d969, d976, d983, d1042, d1066, d1088, d1110, e27, e62,	セ ・ 西暦 ·